京都府遺跡調査報告集

第148冊

１．京都第二外環状道路関係遺跡
　　長岡京跡右京第984・988次・伊賀寺遺跡
２．美濃山廃寺下層遺跡第８次

２０１２

公益財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

巻頭図版　京都第二外環状道路関係遺跡

(1)崖ＳＸ199出土縄文土器

(2)竪穴式住居跡ＳＨ16 6 出土玉類

序

財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターは昭和56 年４月に設立され、昨年度で創立30年を迎えました。また、平成23年４月１日に京都府から公益財団法人として認定をいただき、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターと法人名を変更いたしました。この間、当調査研究センターでは京都府内の公共事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を行ってまいりました。当センターの業務の遂行にあたりましては、皆様方のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本書は『京都府遺跡調査報告集』として、平成21・22年度に国土交通省近畿地方整備局、西日本高速道路株式会社関西支社の依頼を受けて実施した、長岡京跡・伊賀寺遺跡、美濃山廃寺下層遺跡の発掘調査報告を収録したものです。本書が学術研究の資料として、また、地域の埋蔵文化財への関心と理解を深めるうえで、ご活用いただければ幸いです。

発掘調査を依頼された各機関をはじめ、京都府教育委員会・長岡京市教育委員会・八幡市教育委員会などの各関係機関、ならびに調査にご参加、ご協力いただきました多くの方々に厚く御礼申し上げます。

平成24年３月

公益財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター
理　事　長　　上　田　正　昭

例　　言

１．本書に収めた報告は下記のとおりである。

１）京都第二外環状道路関係遺跡

長岡京跡右京第984・988次・伊賀寺遺跡

２）美濃山廃寺下層遺跡第８次

２．遺跡の所在地、調査期間、経費負担者および報告の執筆者は下表のとおりである。

	遺　跡　名	所　在　地	調査期間	経費負担者	執筆者
１．	京都第二外環状道路関係遺跡　長岡京跡右京第984・988次・伊賀寺遺跡	長岡京市下海印寺伊賀寺	平成21年９月８日～10月13日・平成21年10月22日～平成22年１月22日	国土交通省近畿地方整備局	中川和哉
２．	美濃山廃寺下層遺跡第８次	八幡市美濃山古寺	平成22年12月６日～平成23年３月４日	西日本高速道路株式会社関西支社	古川　匠

３．本書で使用している座標は、日本測地系国土座標第Ⅵ座標系によっており、方位は座標の北をさす。また、国土地理院発行地形図の方位は経度の北をさす。

４．本書の編集は、調査第２課調査担当者の編集原案をもとに、調査第１課資料係が行った。

５．現場写真は主として調査担当者が撮影し、遺物撮影は、調査第１課資料係主任調査員田中彰が行った。

本 文 目 次

１．京都第二外環状道路関係遺跡平成21年度発掘調査報告 ---------- 1
２．美濃山廃寺下層遺跡第８次発掘調査報告 ----------113

挿 図 目 次

京都第二外環状道路関係遺跡

第１図　調査地位置図及び周辺主要遺跡 ---------- 3
第２図　長岡京跡右京第927・984・988次調査トレンチ配置図 ---------- 5
第３図　長岡京跡右京第984次調査　遺構平・断面図及び土層断面図---------- 7
第４図　長岡京跡右京第988次調査　２・３・４トレンチ土層断面図----------10
第５図　長岡京跡右京第988次調査　１トレンチ北半部遺構平面図----------12
第６図　長岡京跡右京第988次調査　１トレンチ南半部遺構平面図----------13
第７図　長岡京跡右京第988次調査　２・３トレンチ遺構平面図 ----------14
第８図　長岡京跡右京第988次調査　４トレンチ遺構平面図 ----------15
第９図　長岡京跡右京第988次調査　長岡京期及び古墳時代遺構断面図----------16
第10図　長岡京跡右京第988次調査
　　１トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ89・４トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ16 6 実測図----------17
第11図　長岡京跡右京第988次調査　１トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ78・85実測図----------18
第12図　長岡京跡右京第988次調査　１トレンチ崖ＳＸ199実測図----------19
第13図　長岡京跡右京第988次調査　１トレンチ検出遺構実測図 ----------22
第14図　長岡京跡右京第988次調査　１トレンチ検出遺構断面図 ----------23
第15図　長岡京跡右京第984次調査　大型落ち込み状遺構ＳＸ08出土縄文土器（１）----------27
第16 図　長岡京跡右京第984次調査　大型落ち込み状遺構ＳＸ08出土縄文土器２）----------28
第17図　長岡京跡右京第984次調査　大型落ち込み状遺構ＳＸ08出土縄文土器（３）----------29
第18図　長岡京跡右京第984次調査　遺構出土縄文土器----------30
第19図　長岡京跡右京第984次調査　溝ＳＤ01・02出土遺物 ----------31
第20図　長岡京跡右京第988次調査　古墳時代遺構出土遺物 ----------32
第21図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（１）----------33
第22図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（２）----------34
第23図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（３）----------35

第24図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（４）----------36
第25図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（５）----------37
第26 図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器６）----------38
第27図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（７）----------39
第28図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（８）----------40
第29図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（９）----------41
第30図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(10)----------42
第31図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(11)----------43
第32図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(12)----------44
第33図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ78・85・107・16 6 出土縄文土器---------45
第34図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（１）----------46
第35図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（２）----------47
第36 図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器３）----------48
第37図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（４）----------49
第38図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（５）----------50
第39図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（６）----------51
第40図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（７）----------52
第41図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（８）----------53
第42図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（９）----------54
第43図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器(10)----------55
第44図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器(11)----------56
第45図　長岡京跡右京第988次調査　土坑出土縄文土器（１）----------57
第46 図　長岡京跡右京第988次調査　土坑出土縄文土器２）----------59
第47図　長岡京跡右京第988次調査　土坑出土縄文土器（３）----------6 0
第48図　長岡京跡右京第988次調査　土坑出土縄文土器（４）----------6 1
第49図　長岡京跡右京第988次調査　土坑出土縄文土器（５）----------6 2
第50図　長岡京跡右京第988次調査　柱穴出土縄文土器----------6 3
第51図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ16 6 出土玉類----------6 4
第52図　長岡京跡右京第984・988次調査　打製石器----------6 5
第53図　長岡京跡右京第984・988次調査　石斧及び礫石器----------6 6
第54図　長岡京跡右京第988次調査　礫石器----------6 7
第55図　小泉川流域の縄文時代遺跡分布図----------6 8
第56 図　伊賀寺縄文遺跡における主要遺構----------71
第57図　小泉川流域の縄文時代遺跡考察関連図面----------75
第58図　下内田地区周辺の長岡京期の遺構----------77

美濃山廃寺下層遺跡第８次

第１図　調査区位置図----------113
第２図　調査トレンチ位置図----------116
第３図　調査対象範囲地形図----------117
第４図　第１・２トレンチ平・断面図----------119
第５図　第３・４トレンチ平・断面図----------120
第６図　第５・６トレンチ平面図・西壁断面図----------121
第７図　第７・８トレンチ平面図----------122
第８図　第７トレンチ南壁・第８トレンチ西壁断面図----------123
第９図　遺物実測図----------125

付 表 目 次

京都第二外環状道路関係遺跡

付表１　伊賀寺遺跡調査地点一覧----------70
付表２　伊賀寺遺跡検出の竪穴式住居跡----------80
付表３　伊賀寺遺跡地点別石器出土状況----------81
付表４　骨が出土した遺構----------81
付表５　伊賀寺遺跡出土の縄文土器----------82
付表６　縄文土器観察表----------83

美濃山廃寺下層遺跡第８次

付表１　美濃山廃寺・同下層遺跡発掘調査一覧----------115
付表２　遺物観察表----------126

図 版 目 次

京都第二外環状道路関係遺跡

図版第１　(1)トレンチ全景(南東から)
(2)大型落ち込み状遺構ＳＸ08(北から)
(3)大型落ち込み状遺構ＳＸ08(東から)
図版第２　(1)１トレンチ遺構集中部(南東から)
(2)４トレンチ全景(西から)

図版第３　(1) １トレンチ全景(南東から)
(2) １トレンチ北部(南から)
(3) ２・３トレンチ(南東から)
図版第４　(1) ３トレンチ全景(北西から)
(2) ２トレンチ(北西から)
(3) ４トレンチ(南西から)
図版第５　(1) １トレンチ溝ＳＤ01(西から)
(2) １トレンチ溝ＳＤ01内柱穴ＳＰ153(東から)
(3) １トレンチ溝ＳＤ02(西から)
図版第６　(1) １トレンチ柱穴ＳＰ81(南から)
(2) １トレンチ柱穴ＳＰ175(南から)
(3) １トレンチ柱穴ＳＰ176(南から)
図版第７　(1) １トレンチ柱穴ＳＰ177(西から)
(2) ４トレンチ溝ＳＤ16 0上層南から)
(3) ４トレンチ溝ＳＤ16 0下層東から)
図版第８　(1) １トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ89(東から)
(2) １トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ89内炉跡ＳＸ148(東から)
(3) １トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ89内炉跡ＳＸ148断ち割り(北から)
図版第９　(1) １トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ85(東から)
(2) １トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ85(北から)
(3) １トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ85焼土(東から)
図版第10　(1) １トレンチ溝ＳＤ79・竪穴式住居跡ＳＨ78上面(東から)
(2) １トレンチ・竪穴式住居跡ＳＨ78(東から)
(3) １トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ16 6東から)
図版第11　(1) １トレンチ縄文時代の崖ＳＸ199(西から)
(2) １トレンチ縄文時代の崖ＳＸ199断面１(西から)
(3) １トレンチ縄文時代の崖ＳＸ199断面２(西から)
図版第12　(1) １トレンチ縄文時代の崖ＳＸ199遺物出土状況(西から)
(2) １トレンチ土坑ＳＫ73上層(西から)
(3) １トレンチ土坑ＳＫ73下層(南から)
図版第13　(1) １トレンチ土坑ＳＫ136(東から)
(2) １トレンチ土坑ＳＫ144(西から)
(3) １トレンチ土坑ＳＫ181(西から)
図版第14　(1) １トレンチ土坑ＳＫ203(西から)
(2) １トレンチ土坑ＳＫ207(西から)

(3) 1トレンチ土坑ＳＫ208(北から)
図版第15　大型落ち込み状遺構ＳＸ08出土縄文土器(１)
図版第16　大型落ち込み状遺構ＳＸ08出土縄文土器(２)
図版第17　大型落ち込み状遺構ＳＸ08出土縄文土器(３)
図版第18　土坑及び柱穴出土縄文土器
図版第19　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(１)
図版第20　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(２)
図版第21　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(３)
図版第22　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(４)
図版第23　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(５)
図版第24　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(６)
図版第25　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(７)
図版第26　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(８)
図版第27　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(９)
図版第28　竪穴式住居跡ＳＨ78・85・89出土縄文土器
図版第29　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器底部(１)
図版第30　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器底部(２)
図版第31　竪穴式住居跡ＳＨ85及び土坑出土縄文土器
図版第32　縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器(１)
図版第33　縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器(２)
図版第34　縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器(３)
図版第35　縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器(４)
図版第36　縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器(５)
図版第37　縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器(６)
図版第38　縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器(７)
図版第39　縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器(８)
図版第40　縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器(９)
図版第41　縄文時代の崖ＳＸ199及び柱跡出土縄文土器
図版第42　土坑出土縄文土器(１)
図版第43　土坑出土縄文土器(２)
図版第44　(1)打製石器
(2)石斧及び礫石器

美濃山廃寺下層遺跡第８次

図版第１　(1)美濃山廃寺下層遺跡第８次調査地全景(上が北)

(2)美濃山廃寺下層遺跡第８次調査地全景(上が東)
図版第２　(1)第１トレンチ検出状況(南から)
(2)第２トレンチ西壁
(3)第３トレンチ西壁
図版第３　(1)第７トレンチ第Ⅱ層染付碗出土状況
(2)第７トレンチ落ち込み掘削状況(南から)
(3)第８トレンチ溝状遺構検出状況(西から)
図版第４　(1)出土遺物１
(2)出土遺物２

１．京都第二外環状道路関係遺跡
平成21年度発掘調査報告

１．はじめに

今回の発掘調査は、京都第二外環状道路敷設に先立ち、国土交通省近畿地方整備局の依頼によって実施したものである。道路は長岡京市域では長岡京市南部を東西に流れる小泉川にそって山間部に至るルートが予定されている。

このルートは桓武天皇によって造営された長岡京域南部に当たる地域を横切ることから、ほぼ全域にわたり発掘調査が必要であると考えられた。同時に小泉川は現在、河川改修によって直線状に流路が変更されているが、本来は大きく蛇行しながら流れていた。そのため河川の氾濫によってすでに遺構面が削平されている可能性も予想されたが、多くの調査成果が得られた。本事業にかかわる発掘調査は、平成15年度から実施されている（岩松ほか2005、岩松ほか2006、岩松ほか2007、戸原・岩松・竹井2008、中川・大本2009、中川・戸原・岡﨑ほか2009、岡﨑ほか2010）。

今回報告する発掘調査地は、長岡京市下海印寺に所在する。調査対象地は、調査前には水田として利用されていた。調査地周辺は平成19年度調査（岩松2009・中川ほか2010・増田2010）によって縄文時代中期及び後期の集落が存在することが確認されていた。そのため今回の調査地でも同様な遺構・遺物が確認できるものと期待されていた。

長岡京跡右京第984次調査のトレンチは、右京第927次調査と第943次調査（第３トレンチ）に挟まれた地域で、一部岸ノ下地区を含めた調査区となる。

右京第988次調査は、右京第927次調査地の南側に沿った里道及び農業用水路の部分である。今回の調査地南側は河川氾濫原の崖面になっており、Ｈ鋼と松の板で護岸された上が里道となっていた。こうしたことから良好な遺構面が残されているか危惧されたが、発掘調査の結果、全面にわたり縄文時代以降の遺構・遺物が残されていることが明らかになった。

本報告書は、平成21年度に実施した発掘調査の成果及び22年度の遺物整理を報告するものであり、中川が執筆した。また、遺物写真については当センター調査第１課資料係田中彰が撮影した。国土座標は、現地記録も含め日本測地系第Ⅵ系を使用した。土層および遺物の色調は農林水産技術会議監修の『新版標準土色帖』を用いた。

現地調査、報告に当たっては、長岡京市教育委員会、（財）長岡京市埋蔵文化財センターのほか、京都大学文化財総合研究センター千葉豊氏・冨井眞氏からご指導とご助言をいただいた。また、現地調査については、地元下海印寺地区自治会、下海印寺地区農業組合、下海印寺地区まちづくり協議会の皆様にご支援をいただいた。記してお礼申し上げます。

なお、調査に係る経費については全額、国土交通省が負担した。

〔調査体制等〕

長岡京跡右京第984次調査（7ANOOD-9：長岡京右京八条三坊十六町）・伊賀寺遺跡

現地調査責任者　調査第２課長　肥後弘幸

調 査 担 当 者　調査第２課調査第２係長　森　正

同　主任調査員　中川和哉

同　調査員　高野陽子

調　査　場　所　長岡京市下海印寺伊賀寺

現地調査期間　平成21年９月８日～10月13日

調　査　面　積　70㎡

長岡京跡右京第988次調査（7ANOOD-10：長岡京右京八条三坊十六町）・伊賀寺遺跡

現地調査責任者　調査第２課長　肥後弘幸

調 査 担 当 者　調査第２課調査第２係長　森　正

同　主任調査員　中川和哉

調　査　場　所　長岡京市下海印寺伊賀寺

現地調査期間　平成21年10月22日～平成22年１月22日

調　査　面　積　800㎡

２．自然と歴史

今回の調査地は、京都盆地南西部に位置する長岡京市の南部にあたる地域にある。西側には、京都盆地を形成する山が迫り、この山は丹波方面へと連なる。この山塊は丹波帯と呼ばれる古生層からなりたっており、チャートや粘板岩などが分布している。遺跡は、この山塊に源を発する小泉川左岸にある。現在は河川改修によって直線状に改修されているが、本来は大きく蛇行しており、それに対応するように川の両側に氾濫原も大きく広がっている。川は長岡京市域から大山崎町を経て、大阪湾に注ぐ淀川と合流する。

今回の調査区は小泉川左岸の沖積段丘面上に位置しており、河川の浸食により複雑な地形を示している。遺跡の基盤層は礫層であるが、その下には密度のある大阪層群の粘土層が存在している。現在の河床面にも大阪層群が現れているところが存在し、化石なども採集できる。氾濫原と考えられる調査地より一段下の水田面を掘削すると地表下２～３ｍ程度で粘土層が確認できる。そのレベルは河床面と大差がない。小泉川は非常に固い大阪層群粘土層を大きく下刻できていないことがわかり、このことが周辺の段丘面を容易に削り、再堆積する要因となっていることが考えられる。

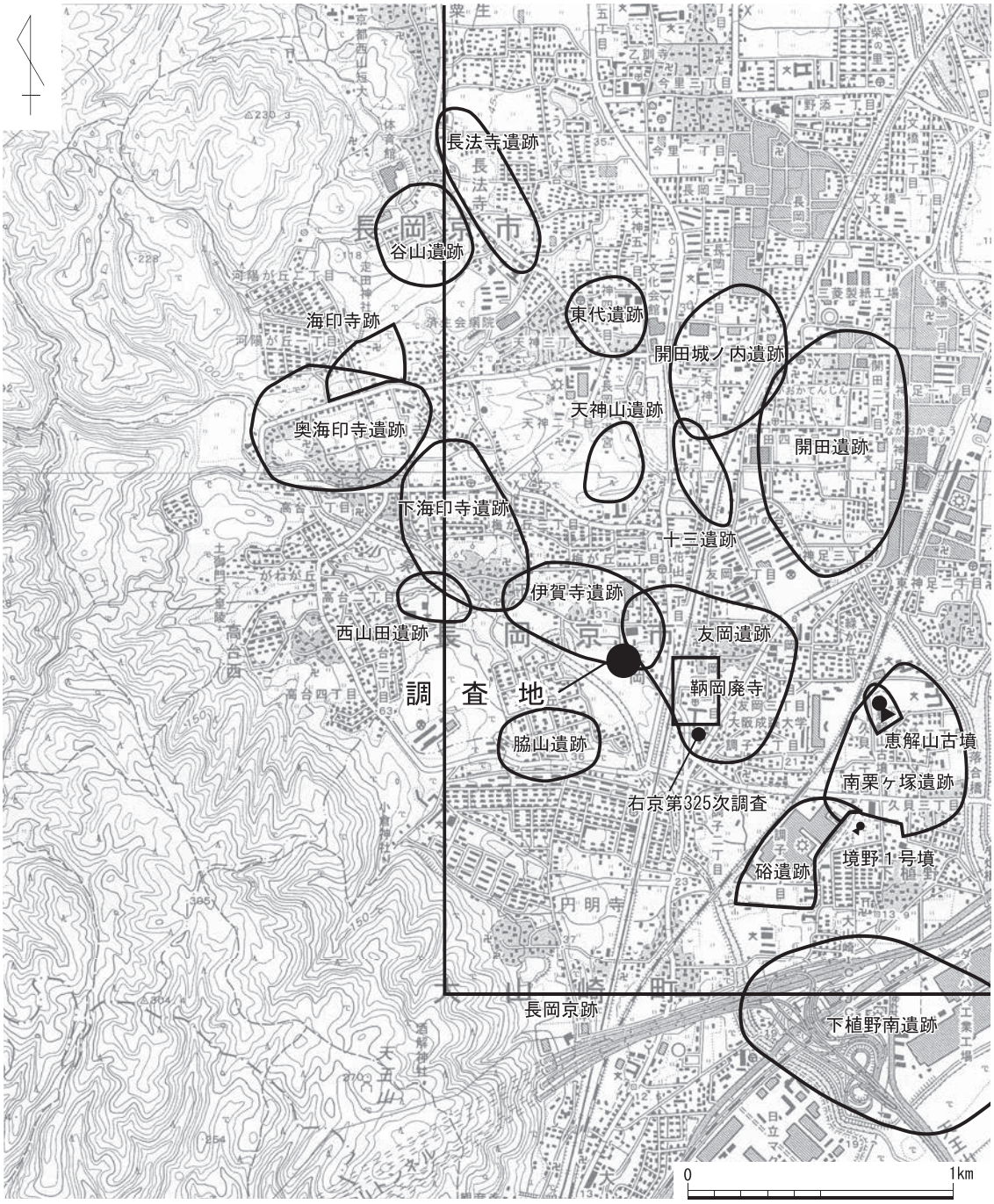
小泉川流域では後期旧石器時代から遺跡が認められる。南栗ヶ塚遺跡では、旧石器時代後期に属するサヌカイト製のナイフ形石器を含む石器群が検出された。この石器には、接合資料も認められ、この地域では珍しく本来の包含層が残されていた。

縄文時代には小泉川流域で多くの遺跡が発見されている。最も古い時期の土器は、下海印寺遺

跡から発見された早期のポジティブな押型文土器片である。早期に属するチャート製、いわゆるトロトロ石器が硲遺跡から出土している。前期には南栗ヶ塚遺跡から北白川下層式の縄文土器が住居跡に伴って検出されている。

中期には伊賀寺遺跡より400m離れた友岡遺跡(右京第325次調査地点)から、段丘斜面に投棄された状態で、船元式土器が大量に出土した。中期末の北白川C 式の時期には、伊賀寺遺跡で竪穴式住居跡および遺物が検出されている。また、大山崎町脇山遺跡(高野1997)でも北白川C式土器を含む土坑が検出されている。

後期初頭の中津式土器は伊賀寺遺跡で、後期縁帯文期は伊賀寺遺跡・下海印寺遺跡で遺構・遺



第１図　調査地位置図及び周辺主要遺跡

物が発見されている。元住吉山式土器を伴う竪穴式住居跡は、伊賀寺遺跡で確認されている。また、同時期の墓壙も発見された。そのうち２か所からは多量の焼骨が発見され、供献土器と考えられる注口土器や玉作り関連遺物が出土している。

縄文時代晩期に入ると、小泉川下流の大山崎町下植野南遺跡において突帯文の甕棺が検出されている。

弥生時代前期の遺構は小泉川流域では発見されていないが、硲遺跡で土器が出土している。

弥生時代中期前葉には南栗ヶ塚遺跡や下植野南遺跡で方形周溝墓群が発見されている。両遺跡とも石製武器が出土した埋葬施設が確認された。

中期後葉の土器は硲遺跡から出土している。弥生時代末の竪穴式住居跡は伊賀寺遺跡や下海印寺遺跡で検出されている。右京第902次調査のものはベット状遺構を持つ多角形の竪穴式住居跡である。

古墳時代には下流に境野１号墳と呼ばれる全長約6 2mの前方後円墳が存在している。古墳時代前期に築造され、段築と埴輪列が確認されている。古墳時代後期に入ると多くの竪穴式住居跡が伊賀寺遺跡内の随所で確認されている。同じように下植野南遺跡においても５世紀後半から６世紀にかけての竪穴式住居跡が多数検出されている。

飛鳥時代については、鞆岡廃寺の存在が古くから知られていた。正確な位置は確認されていないが、飛鳥時代から長岡京期に至る瓦が発見されている。出土瓦には「田辺史牟也毛」と線刻されたものがあり、渡来系氏族である田辺氏との関係が注目されている。

奈良時代の遺構としては、掘立柱建物跡などが伊賀寺遺跡や下海印寺遺跡、下植野南遺跡などで検出されている。

長岡京市平野部の大部分を占める長岡京は、延暦３(784)年、桓武天皇によって平城京から遷都され、延暦13(794)年に平安京に遷るまで都として機能していた。長岡京の造営は10年と短く、これまでの発掘調査例では七条より南の地域で明確な条坊は発見されていない。ところが今回の長岡京跡右京八条三坊十六町の発掘地域で、長岡京期と考えられる建物跡･溝を新たに検出した。

中世に入ると今回の調査地南側の低位段丘面上には掘立柱建物跡による集落が営まれるようになるが、今回の調査区では中世関連の遺構は発見できなかった。

明智光秀が主君織田信長に対して京都本能寺において謀反を起こした、世に言う天正10(1582)年６月13日の山崎合戦では、明智側の陣が敷かれた最西端部にあたる可能性がある。

３．調査の概要及び検出遺構

１）長岡京跡右京第984次（7ANOOD-9）調査・伊賀寺遺跡（下内田地区）

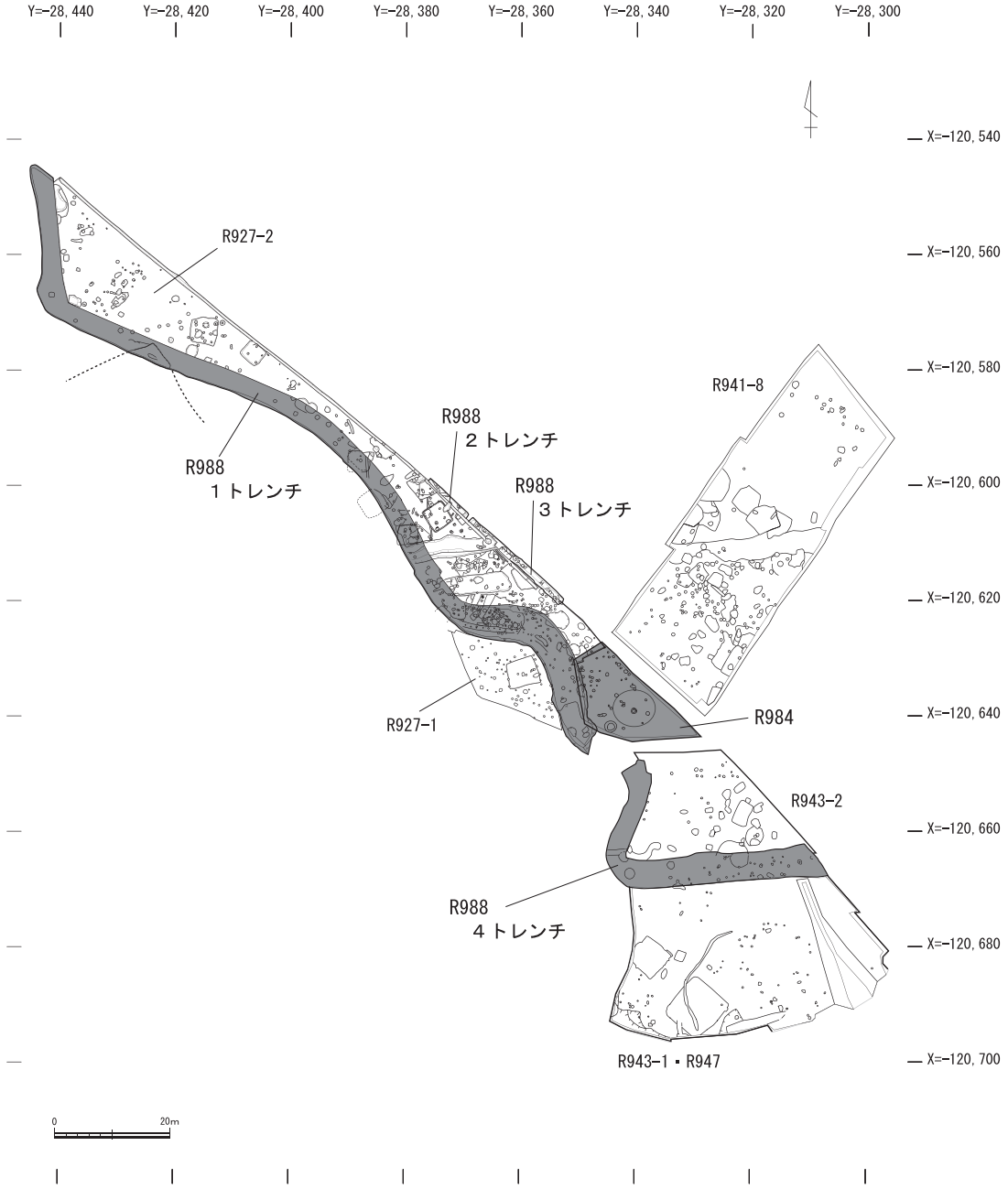
(1)調査概要

右京第927次調査１・２トレンチと第943次調査３トレンチに挟まれた地域である。右京第927次調査１トレンチでは遺構の大半が削平されていたようで、柱穴と土坑だけが検出されていた。また、２トレンチ南東部では今回の調査地に続く遺構の一部が検出されていた。右京第943次調

査３トレンチでは、炉跡を持つ北白川Ｃ式の竪穴式住居跡が１基検出されたが、床面のみが残存し、上部は大きく削平されていた。近世の井戸なども検出されているが、遺構の中で遺物が出土したのは縄文時代のものが中心で、中期の北白川Ｃ２式のものと後期の元住吉山ないし宮滝式の大きく２時期の遺構に分かれる。

(2)層位（第３・４図）

調査前の地形は土層断面図（第３図北壁断面図）に見られるように高低差のある水田２枚から成り立っていた。溝を挟んで南側が80cm水田面が低い。溝を境に耕作土と遺構検出面である黄 灰色砂礫層（第６・12層）の共通点を除きその間の堆積物が異なっている。これらの堆積物は水平堆



第２図　長岡京跡右京第927・984・988次調査トレンチ配置図

積である。こうした堆積は、溝を境に堆積環境が異なっていたことを示しており、調査前の地割が、遺構検出面より上の層が堆積する頃から継続していたことを示している。また、本来水成の堆積物である砂礫層の上面が水平であることから、水田造成によって本来の上部層が削平されているものと考えられる。遺構埋土は黒色であることが多く、こうした傾向は砂礫層上に堆積する黄色系の堆積物上面において発見できる縄文時代遺構にも一般的に認められる傾向である。また礫層が遺構検出面になる地域では、相対的に遺構の深度が浅い傾向が認められ、平安時代以降の土地改変によって本来の遺構掘り込み面は削平されていると考えることが妥当である。

上記した遺構検出面と水田耕作に関連したと考えられる薄い水平層の下部では、マンガンが集積し硬化している。そのため、そのマンガン層を少し削りこまないと遺構は検出することが困難である。

(3)検出遺構（第３図）

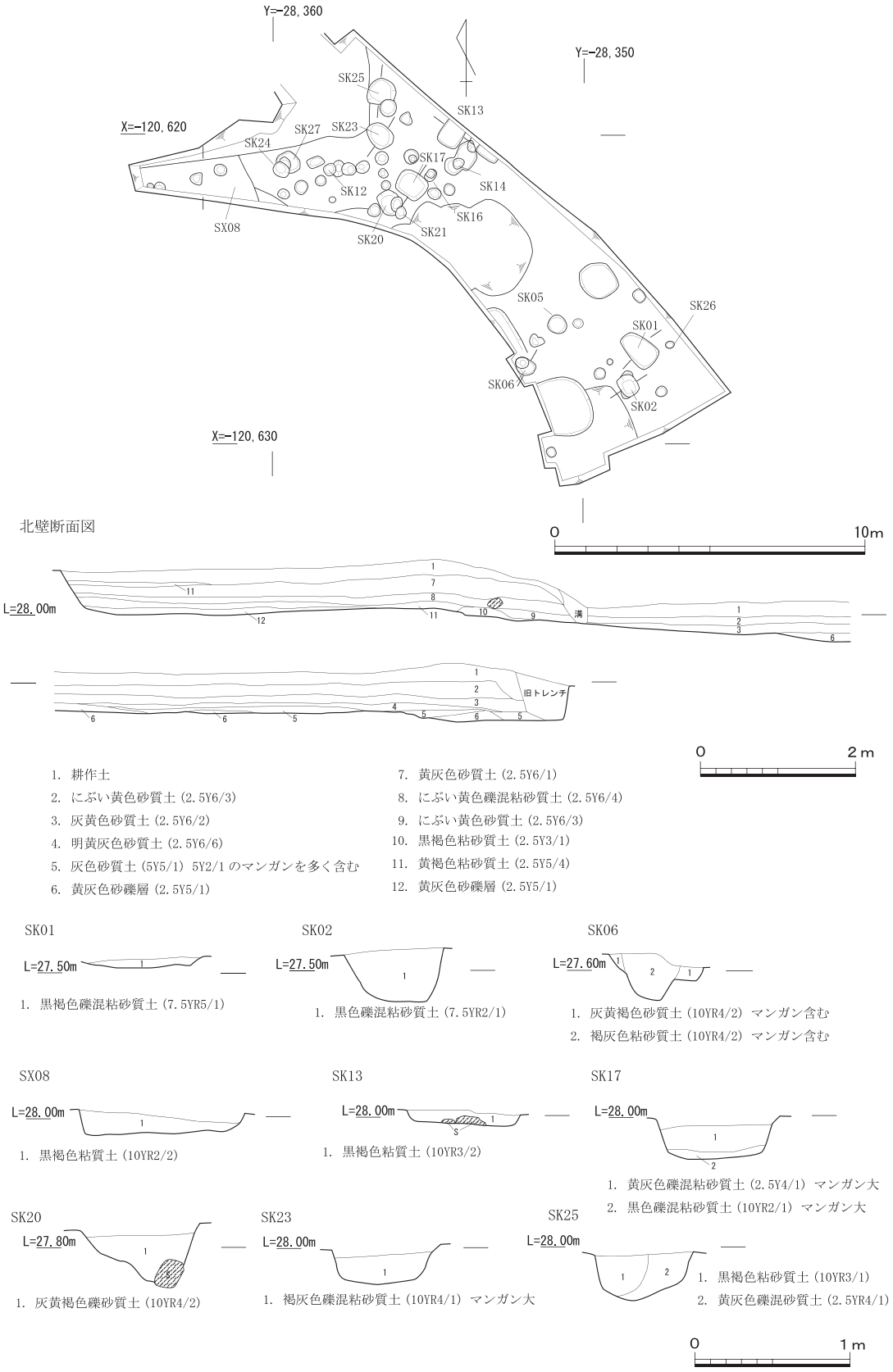
大型落ち込み状遺構ＳＸ08　右京第927次調査２トレンチ南東部で検出していた落ち込み状遺構ＳＸ104の延長部分である。第927次調査当時、遺構の立ち上がりが緩く、縁辺が不整形であることから、調査前の地形に見られた落ち込み部分に包含層が堆積したものあるいは複数の遺構が重複したものとして認識していた。埋土は黒褐色ないしは黒色であったため遺構を分離することが困難であった。今回の調査で遺構延長部分の底面が平坦であることから竪穴式住居跡が複数の遺構と重複していたことが明らかになった。

本報告書で別記する第988次調査で検出した竪穴式住居跡ＳＨ89の北端部にあたり、同一の遺構である。埋土は黒褐色の粘質土で遺構の輪郭等から重複があることは確認できるが、平面及び断面から検証することができなかった。出土遺物は小面積ながら非常に多く、ほとんどすべてが北白川Ｃ２式であるが、若干後期の遺物も混入している。床面で検出できた小土坑及び柱穴は掘削面を確認することが困難であったため前後関係は不明と言わざるをえない。そのため後期の土器が混入したものと考えられる。土器は大型の破片も含まれるが、接合率が低く個体数も多い。また床面に接して出土するといった特徴もないことから、竪穴式住居跡のくぼみに投棄されたものと考えられる。検出面からの深さは20cmを測る。

土坑ＳＫ01　調査トレンチ南東部で発見した隅丸長方形の土坑である。平面形態から土壙墓の可能性が考えられたことから丁寧に掘り下げを行ったが、遺物は縄文土器と考えられる破片以外検出できなかった。棺痕跡や骨などが検出できなかったことから土坑と位置づけた。短辺である南東辺が80cm、北西辺が6 0cm、長さが1.3m、検出面からの深さ５cmを測る。

土坑ＳＫ02　調査トレンチ南東部で検出した長方形の土坑である。土坑内からは元住吉山あるいは宮滝式の土器片と北白川Ｃ式土器が出土している。埋土は黒色礫混粘砂質土で単一の層で充填されていた。短辺55cm、長辺70cm、検出面からの深さ35cmを測る。

土坑ＳＫ05　平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川Ｃ２式の土器片が出土している。埋土は他の縄文時代の遺構と同様、黒色を呈していた。直径60cm、検出面からの深さ８cmを測る。



第３図　長岡京跡右京第984次調査　遺構平・断面図及び土層断面図

土坑ＳＫ06　平面形が楕円の土坑である。柱痕跡らしい部分を検出したが、遺構の基盤になっている地層が礫層で硬いことから、柱当りが沈んだと考えることが難しいため、別の遺構と考えるほうが妥当である。断面図で見る１層の灰黄褐色砂質土部分がＳＫ06 、２層の褐灰色粘砂質土部分がＳＫ06 掘削以後の遺構と位置づけられる。遺物は主に１層の埋土内から出土し、比較的多くの縄文土器底部が出土した。周辺の状況と胎土等から縄文時代中期の遺物と考えられる。長軸70cm、短軸50cm、検出面からの深さ10cmを測る。

土坑ＳＫ12　平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代後期の元住吉山式あるいは宮滝式土器片が出土している。直径40cm、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑ＳＫ13　一部が調査地外に出るため形状ははっきりしないが、平面形が長方形に復元できる土坑である。ＳＫ01と同様、底部が平らで検出面からの深さが浅い。土坑内には他の縄文時代の遺構と同様、黒褐色土が充填されており、縄文土器片が出土した。長辺75cm以上、短辺75cm、検出面からの深さ５cmを測る。

土坑ＳＫ14　平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川Ｃ式の土器片が出土している。直径35cm、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑ＳＫ16　平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川Ｃ式の土器片が出土している。直径30cm、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑ＳＫ17　平面形が隅丸長方形を呈する土坑で、土坑内からは縄文土器細片が出土している。埋土は２層に分かれ、底部付近には有機物の影響の可能性がある黒色の土が堆積していた。長辺１ｍ、短辺80cm、検出面からの深さ25cmを測る。

土坑ＳＫ20　平面形が隅丸長方形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川Ｃ式の土器片が出土している。埋土は灰黄褐色礫砂質土である。長辺80cm、短辺70cm、検出面からの深さ40cmを測る。

土坑ＳＫ21　平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代後期の元住吉山式あるいは宮滝式土器片が出土している。直径30cm、検出面からの深さ10cmを測る。

土坑ＳＫ23　平面形が楕円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文土器細片が出土している。長軸90cm、短軸6 5cm、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑ＳＫ24　平面形が楕円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川Ｃ式の土器片が出土している。長軸50cm、短軸40cm、検出面からの深さ30cmを測る。

土坑ＳＫ25　平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文土器細片が出土している。埋土は２層に分かれ、１層の黒褐色粘砂質土部分が柱痕跡状に断面図では見えるが、平面的に円形を呈することはなかった。直径90cm、検出面からの深さ30cmを測る。

土坑ＳＫ26　平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川Ｃ式の土器片が出土している。直径30cm、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑ＳＫ27　平面形が円形を呈する土坑で、土坑内からは縄文時代中期の北白川Ｃ式の土器片が出土している。直径70cm、検出面からの深さ５cmを測る。

２）長岡京跡右京第988次（7ANOOD-10）調査・伊賀寺遺跡（下内田地区）

(1)調査概要

右京第984次調査に引き続き実施した発掘調査で、発掘調査時の工事用道路部分を挟み西側を１トレンチ、東側を４トレンチと名付けた。京都第二外環状道路側道側溝によって深く掘り込まれる部分を２・３トレンチとした。遺構番号は調査トレンチに関係なく通番で番号をふった。

１トレンチは第927次調査の２トレンチに接し並行するように曲がりくねった幅の狭い調査区となった。これは里道とそれに並行する農業用水路部分が調査区であるためである。１トレンチからは従来の調査と同様、縄文時代中期の北白川Ｃ式、元住吉山Ⅱ式の竪穴式住居跡、土坑を検出することができた。その中でも竪穴式住居跡ＳＨ89からは多量の北白川Ｃ２式の土器が出土した。また、ＳＸ199の縄文時代後期の北白川上層式３期の良好な資料を検出することができた。

長岡京期の遺構として、これまでの調査で検出されていた溝ＳＤ01･02の延長部分を検出した。ＳＤ02は西端の部分に木樋が設定されていたと考えられる状況が認められ、この部分に土橋が想定できる。

２・３トレンチは側溝部分という狭長なトレンチであったが、１トレンチで検出できたＳＤ01・02を検出し、927次調査で検出していた縄文時代中期の竪穴式住居跡ＳＨ65の北東部を検出することができ、その規模が確定できた。その他、縄文時代の土坑も多く検出することができた。

４トレンチは右京第943次調査の１トレンチ、２トレンチの間に存在した里道、水路の部分である。第943次調査２トレンチでは縄文時代後期の竪穴式住居跡、焼骨を含む土壙墓が検出されている。今回の調査地では第943次調査で検出している竪穴式住居跡ＳＨ01の延長部を検出した。また第943次調査の１トレンチ、２トレンチに見られる地層の不整合面を検出することができた。

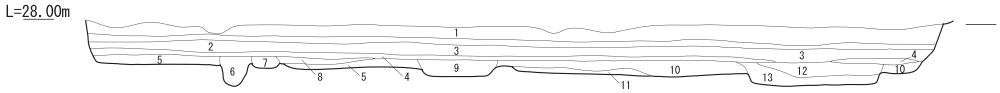
(2)層位（第４図）

１トレンチの土層断面は右京第927次調査の２地区を一部取り込む形で観察し、その反対側については氾濫原との段丘崖となるため観察･計測することができなかった。遺構検出面は１面で、第984次調査の地層の説明で述べたように水平の水田関連の堆積層があり、遺構検出面の上面は平坦で、水田開墾によって平らにされたと考えられる。遺構検出面上面にはマンガンの沈着が確認できた。遺構検出面を構成する地層は、この調査地の地形を形成した基盤層である砂礫層と灰黄褐色または黄褐色を呈した粘砂質土になる。この粘砂質土を掘り下げると、遺構検出面で部分的に現れる基盤層の砂礫層にあたる。調査トレンチ中央部付近は砂礫層が遺構検出面になっていた。詳細は第927次調査の土層断面図（中川ほか2010）を参照していただきたい。

２･３トレンチでも遺構検出面の上面は平坦で、水田開墾によって平らにされたと考えられる。遺構検出面上面にはマンガンの沈着が確認できた。２トレンチの遺構検出面は５層の灰黄褐色砂質土及び10層の黒褐色礫混砂質土であった。10層が遺構検出面になる部分では、遺構埋土と類似しており判別が困難であった。

３トレンチでは、12の黄灰色砂質土と19のにぶい黄褐色土が検出面になっている。16 ～ 18は長岡京期の溝ＳＤ01 、26・27は長岡京期の溝ＳＤ02の埋土である。長岡京期の遺構も縄文時代

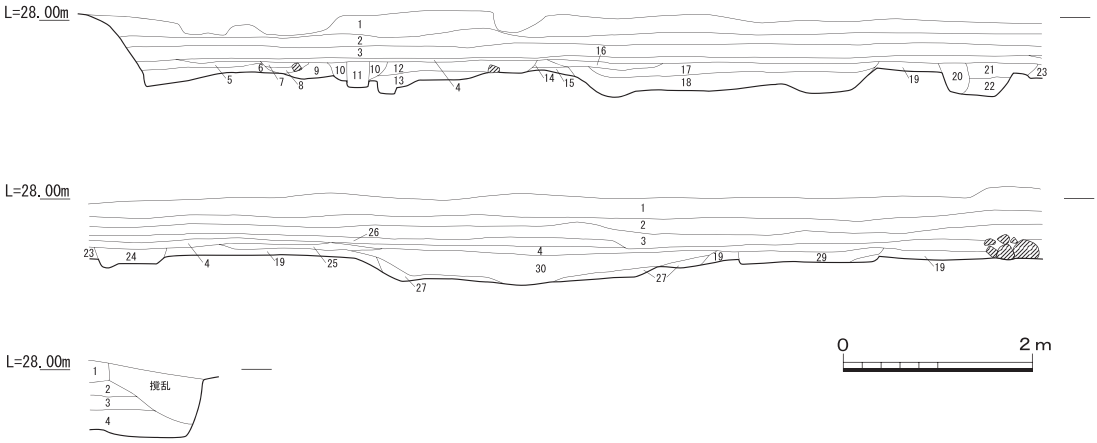
２トレンチ北東壁断面図



1. 耕作土
2. 明黄褐色砂質土(10YR6/6)
3. にぶい黄褐色砂質土(10YR6/4)
4. 黄褐色粘砂質土(10YR5/6)
5. 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 上面にマンガン濃集
6. 黄灰色粘質土(2.5Y4/1)　Pit埋土
7. 黄灰色粘砂(2.5Y5/1)
8. 黄褐色礫混砂質土(2.5Y5/3)
9. 黄灰色礫混砂質土(2.5Y5/1)
10. 黒褐色礫混砂質土(10YR3/2)
11. 褐灰色礫混砂質土(10YR4/1)
12. 黄灰色礫混砂質土(2.5Y4/1)
13. 灰オリーブ礫混砂質土(5Y5/2)

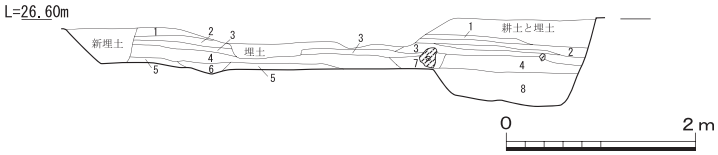
0　2m

３トレンチ北東断面図



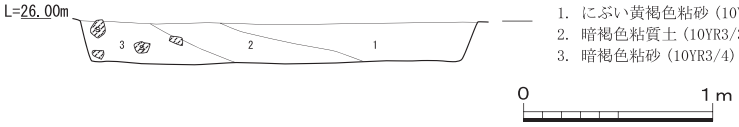
1. 耕作土
2. 明黄褐色砂質土 (10YR6/6)
3. にぶい黄橙色砂質土 (10YR6/4)
4. 黄褐色粘砂質土 (10YR5/6)
5. 褐灰色礫混砂質土 (10YR4/1)
6. 褐灰色粘砂質土 (7.5YR4/1)
7. 褐灰色礫混粘質土 (10YR4/1)
8. 褐灰色礫混砂質土 (10YR4/1)
9. 黄灰色砂質土 (2.5Y4/1)
10. 褐色礫混粘質土 (10YR4/1)
11. 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)
12. 黄灰色砂質土 (2.5Y4/1)
13. 灰色礫混粘質土 (5Y4/1)
14. 灰褐色礫混砂質土 (7.5YR4/2)
15. 暗オリーブ褐色礫混砂質土 (2.5YR3/1)
16. 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)
17. 黒褐色礫混砂質土 (10YR3/2)
18. 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1)
19. にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3)
20. 黒褐色粘質土 (10YR3/2)
21. 暗褐色粘質土 (10YR3/3)
22. 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2)
23. にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3)
24. 褐灰色粘砂質土 (10YR4/1)
25. 黒褐色礫混砂質土 (10YR3/2)
26. 黒褐色礫砂質土 (10YR3/1) 拳大
27. 褐灰色粘砂質土 (10YR4/1)
28. 褐灰色粘質土 (10YR4/1)
29. 黒褐色砂質土 (7.5YR3/1)
30. 黒褐色礫砂質土 (10YR3/1)

４トレンチ東壁断面図



1. 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2)
2. にぶい黄色粘砂質土 (2.5Y6/4)
3. 黒色礫混粘砂 (10YR2/1)
4. 黒褐色礫混粘砂 (7.5YR3/1)
5. にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/3)
6. 褐灰色粘砂質土 (10YR4/1)
7. 褐灰色粘砂質土 (10YR4/1)
8. 砂礫

４トレンチ断ち割り断面図



1. にぶい黄褐色粘砂 (10YR5/4)
2. 暗褐色粘質土 (10YR3/3)
3. 暗褐色粘砂 (10YR3/4) 粘～砂がマトリックス小児人頭大礫を多く含む

第４図　長岡京跡右京第988次調査　２・３・４トレンチ土層断面図

の遺構も同じく４層を取り除いた後に検出できる。

４トレンチは、かつての調査地点に重複して設定したため、南壁及び北壁の土層堆積状況が観察できず、東壁のみを観察できた。他のトレンチ同様、客土の下に１～３層の薄い水平層が堆積しており、遺構検出面である４層上面は水平である。７層は縄文時代の遺構埋土である。トレンチは大きく「L」字の形状をしているが、東西方向部分では調査区を斜めに大型の礫が見られる部分と、それ以外のか所に分かれ地形形成面が異なる。礫層は東壁の８層であり、この現象を明らかにするため設定した地層確認用の断割りの断面図の３層に当たり、段丘礫と考えられる。北側で隣接する右京第943次調査１トレンチ・第947次調査では、右京第943次調査２トレンチで密集していた縄文時代の遺構がまったく検出できなかったが、今回の調査でも右京第943次調査１トレンチに接した部分では縄文時代の遺構は検出できなかった。右京第947次調査で段丘崖から氾濫原に及ぶ調査を実施した結果、縄文時代の遺構面の基盤となる礫層とは異なる時期の礫が基盤となっていることが判明した。礫層から縄文時代後期の土器が出土している。右京第947次調査地では、庄内期の竪穴式住居跡が発見されていることから、縄文時代後期から庄内期までに堆積し地盤が安定したことになる。よって断ち割りで確認できた１・２層と３層とは不整合の関係であると判断される。

(3)検出遺構（第５～14図）

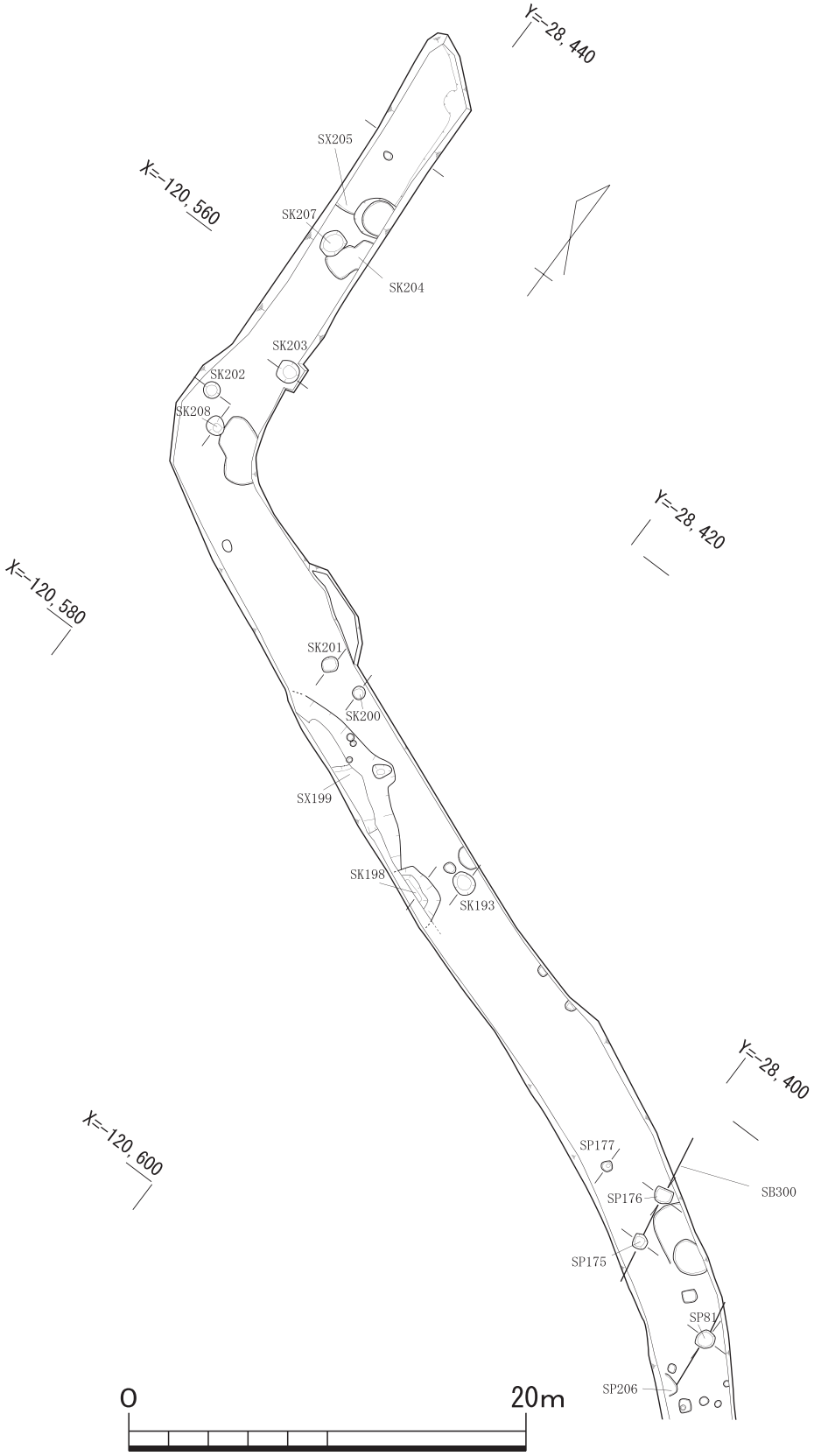
①長岡京期（第５・６・９図）

溝ＳＤ01　右京第947次調査地内で検出したＳＤ02と並行する長岡京期の溝である。ＳＤ02の土橋部分に対応する地点では、溝底で検出した柱穴（ＳＰ153）があり、その中に直径20cmの花崗岩製の礫が平らな面を上にして据えられていた。花崗岩は在地の石材ではないことから、土橋に対応してこの部分に木橋が架けられており、その桁を支える柱穴と考えられる。右京第927次調査では多くの瓦が出土したが、今回の調査では数点の出土が確認できた。これら溝の主軸は東で北に７°振っており、長岡京の計画軸がほぼ真南北であることと異なる特徴を持つ。検出長３m、幅３m、検出面からの深さ30cmを測る。

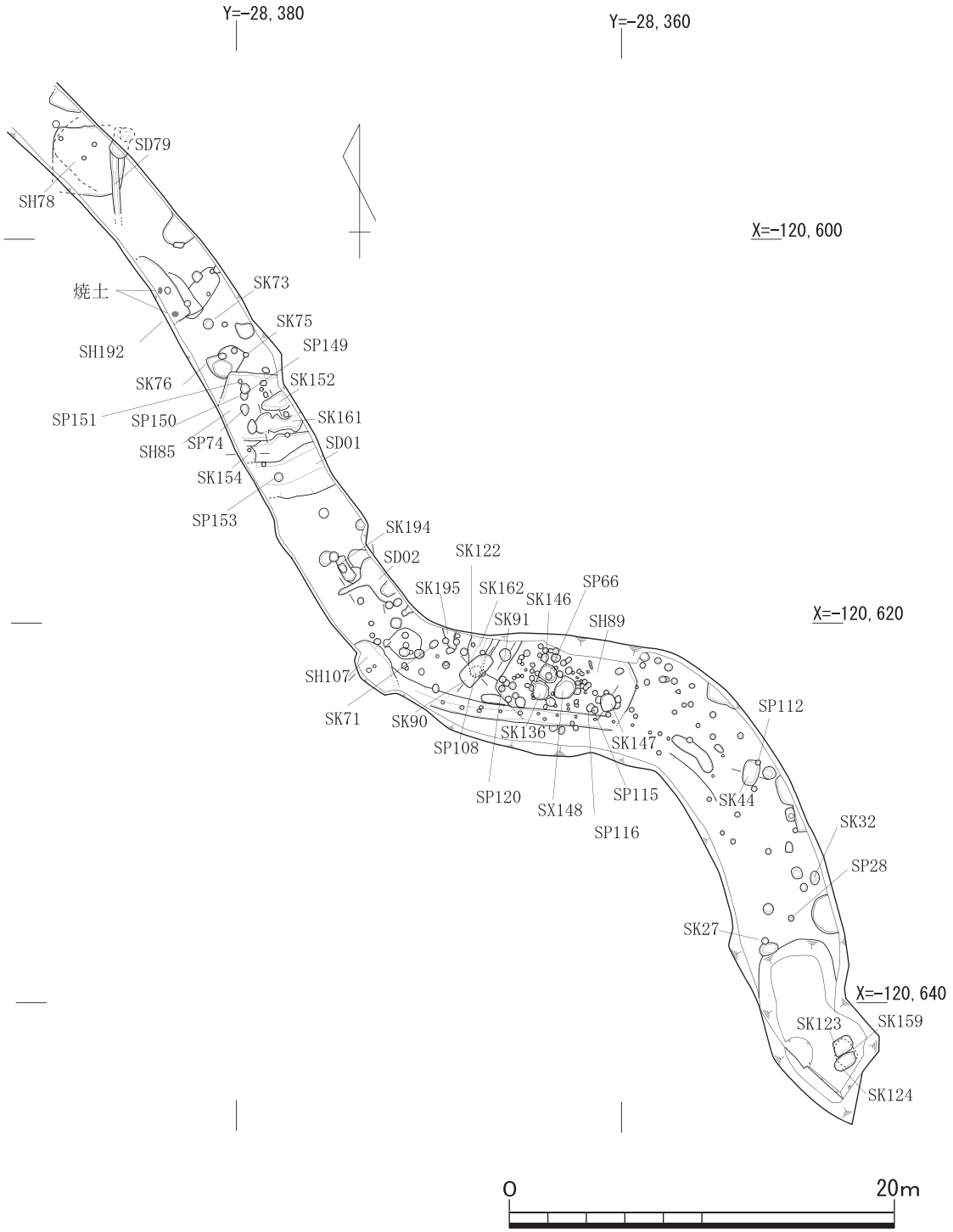
溝ＳＤ02　ＳＤ01に並行する溝である。これまでの調査で約70m分を検出している。溝の西部では急に幅約30cmと狭くなる。この部分に暗渠が想定でき、土橋の可能性が指摘できる。検出長2.5m、幅2.5m、検出面からの深さ15cmを測る。

溝ＳＤ79　ＳＨ78と重複する南北方向の溝で、ＳＨ78より新しい。ＳＨ78の埋土に長岡京期の遺物が含まれることから、溝は長岡京期より新しいことが確認できた。右京第927次調査ではこの溝と並行する溝を約９m東で検出している。溝の主軸は北で６°西に振る。この振り角は、周辺の同時期の遺構と同じである。

掘立柱建物跡ＳＢ300　ＳＰ181・175・176・206が柱穴となる掘立柱建物跡である。柱掘形は方形である。右京第927次のＳＰ37・59がＳＢ300の柱掘形となる。右京第927次調査では柱抜き取り痕から瓦が出土していた。建物は両調査の結果、南北４間以上、東西２間の南北棟に復元でき、建物の主軸は北で７°西に振る。この振り角は周辺の長岡京期の遺構と同じである。



第５図　長岡京跡右京第988次調査　１トレンチ北半部遺構平面図

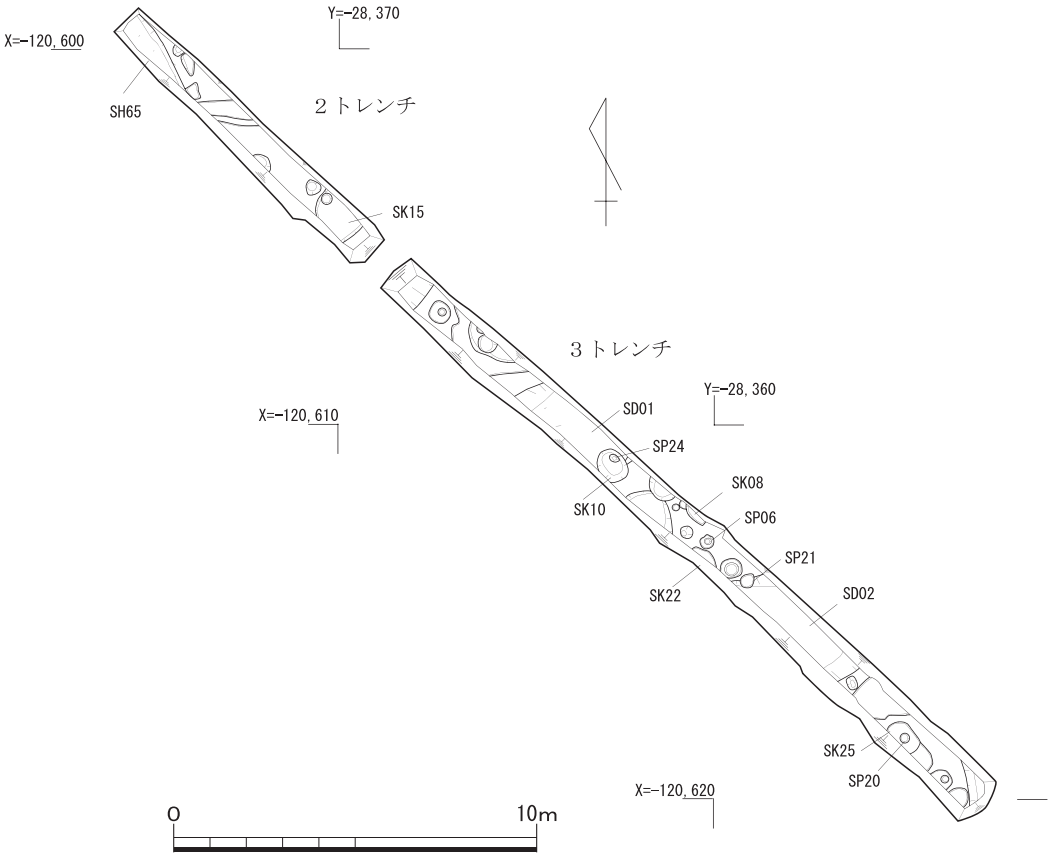


第６図　長岡京跡右京第988次調査　１トレンチ南半部遺構平面図

②**古墳時代**（第５・８・９図）

溝ＳＤ160　東西方向の古墳時代後期の溝である。最終的に洪水堆積と考えられる砂礫で埋まっていた。右京第943次調査２トレンチのＳＤ05に続く遺構である。今回の調査地では直線状に掘削されているが前回の調査部分では蛇行している。検出長3.5m、幅１m、検出面からの深さ18cmである。

落ち込み状遺構ＳＸ205　１トレンチ西端部で検出した落ち込み状の大形の遺構で、右京第

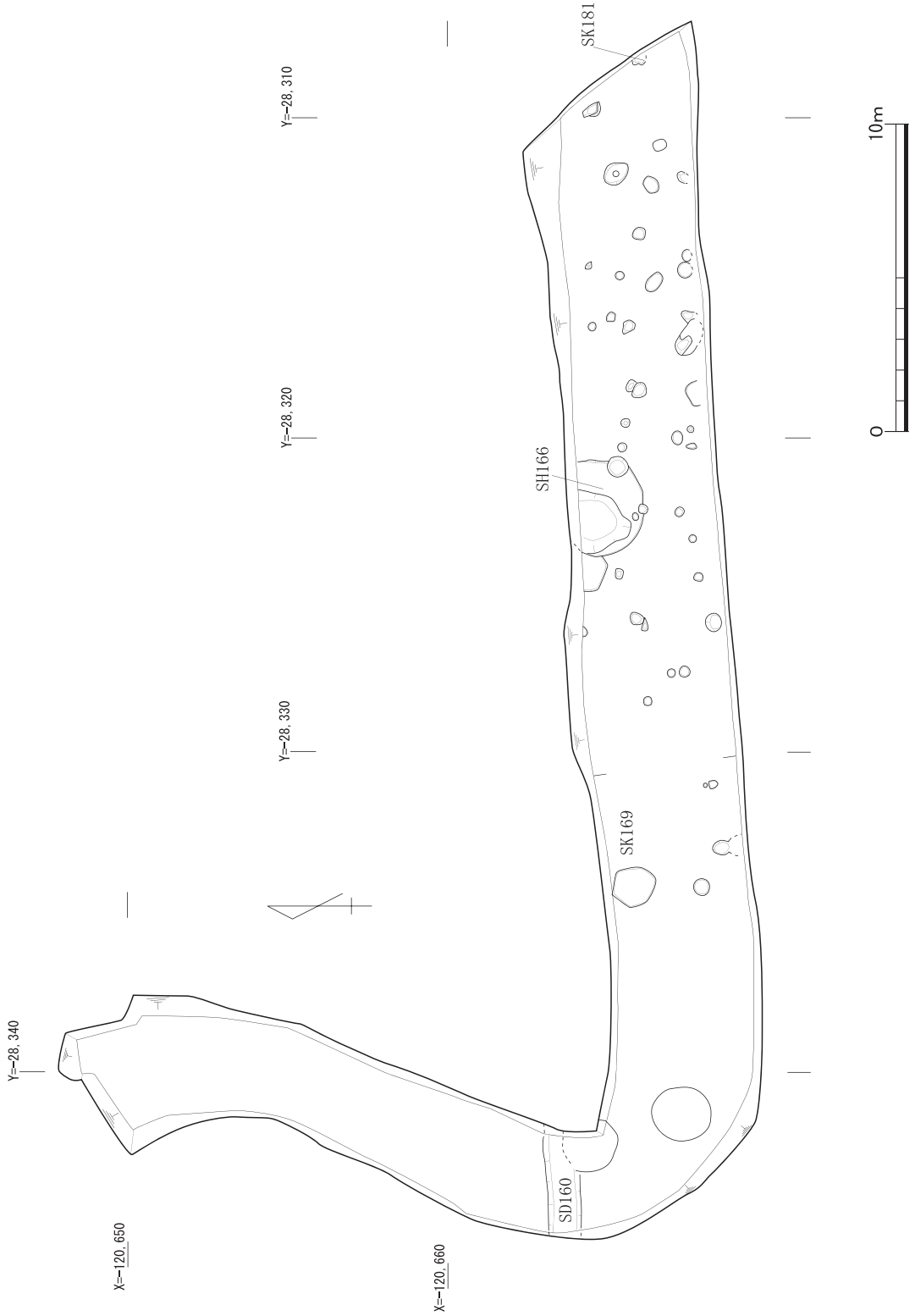


第７図　長岡京跡右京第988次調査　２・３トレンチ遺構平面図

927次調査のＳＸ95につながる遺構である。出土遺物には縄文土器のほか、庄内期の土師器、古墳時代後期の須恵器がある。検出面からの深さは25cmである。

③縄文時代

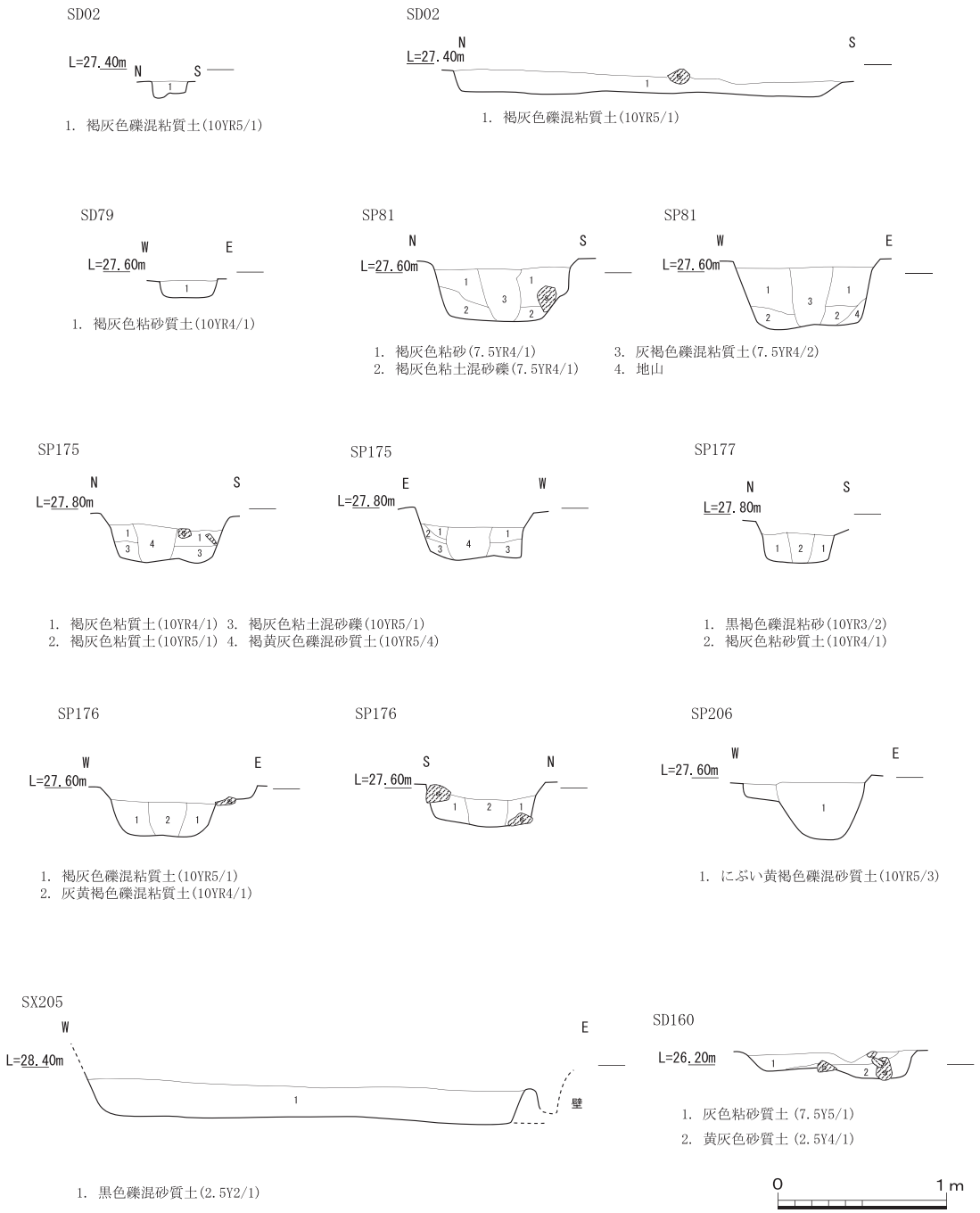
竪穴式住居跡ＳＨ89（第６・10図）　右京第927次調査では落ち込み状遺構ＳＸ104、右京第984次調査ではＳＸ08として扱った竪穴式住居跡である。竪穴式住居跡南辺部分は近世の溝によって壊されている。また、溝の南側は削平されて低いため、南隅部は検出できなかった。住居床面で多くの柱穴・土坑を検出したが、多くの遺構が住居跡と同様の黒色の埋土であったため、住居に伴うものかどうかの判別はできなかった。床面中央部には炉跡であるＳＸ148 が存在する。平面形が長楕円形を呈する浅い皿状の土坑で、土坑南西部に焼土層が厚く堆積していた。北東部は、土坑の掘形底部まで焼土がない部分が、南北方向に直線的に確認できる。焼土端もこの部分で切れていることから何らかの構造物があったものと想定できる。右京第927次調査のＳＨ08や第943次調査３トレンチＳＨ20の炉は、住居内のおおむね北側に東西方向に大きな自然礫を据えている構造が確認できた。この住居の炉跡も本来南北方向に大きな石が据えられていたものと想定できる。また、石を抜き取った跡と想定できるその外側でも検出レベルの異なる焼けた部分が存在することから炉跡の造り変えなども想定できる。出土遺物は非常に多く、北白川Ｃ２式の土器が大半であるが、数点の北白川上層式、元住吉山式土器が含まれている。上述したように竪穴式住居跡廃棄後に掘られた遺構が存在したものと考えられる。土器の個体数は多いが接合率が低く、住



第８図　長岡京跡右京第988次調査　４トレンチ遺構平面図

居廃棄時に伴う遺物ではなく、住居のくぼみに捨てられた土器である可能性が高い。東西方向６.5m、南北方向５mに復元でき、検出面からの深さは15cmである。

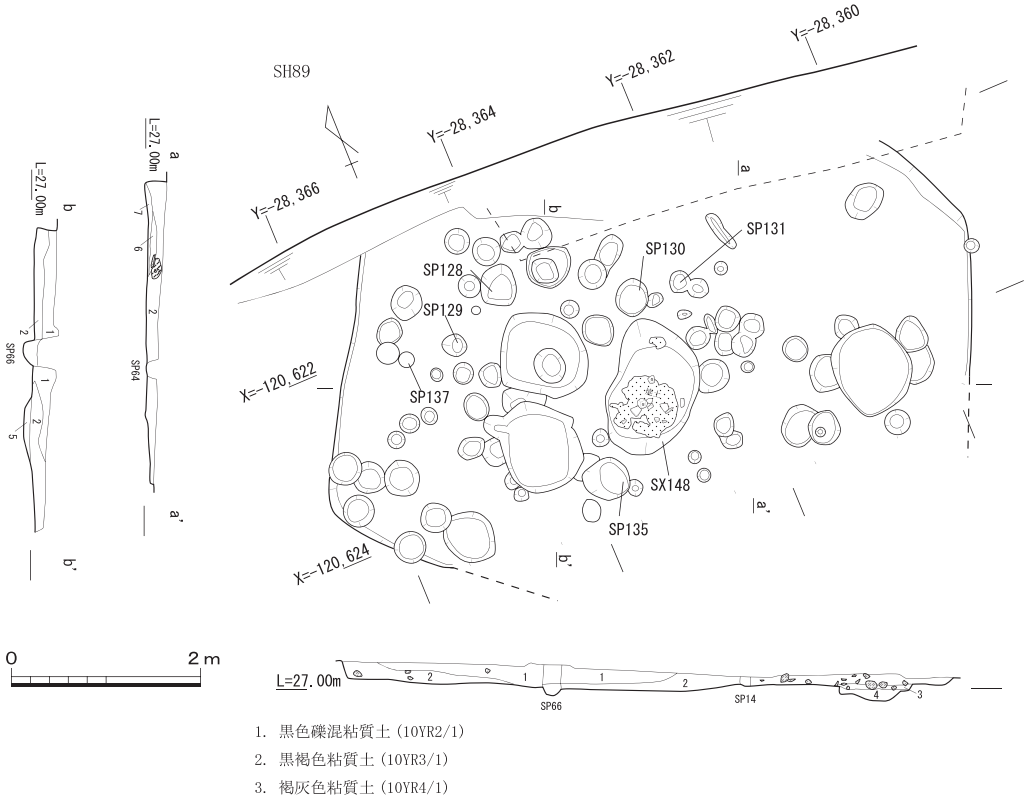
竪穴式住居跡ＳＨ85（第６・11図）　右京第927次調査ＳＫ147につながる遺構で、今回の調査により竪穴式住居跡と判明した。遺構床面でＳＫ161、ＳＫ152の土坑を検出することができた。

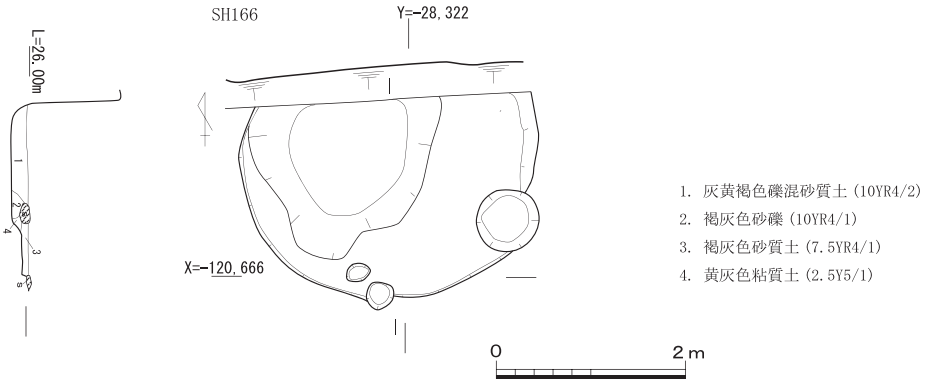


第９図　長岡京跡右京第988次調査　長岡京期及び古墳時代遺構断面図

なお、右京第927次調査ＳＫ147は竪穴式住居跡とＳＫ161の延長部が重なり合い、不定形な様相を示していたものと考えられる。住居床面の南西部には焼土が確認できた。出土遺物は縄文時代中期の北白川Ｃ式が主体で、数点新しい時期のものが混入する。東西方向4.5m、南北方向5.4m、検出面からの深さ20cmを測る。

竪穴式住居跡ＳＨ78（第６・11図）　１トレンチ中央部分で検出した竪穴式住居跡である。右京第927次調査では土坑と認識していた遺構で、今回の調査により竪穴式住居跡と判明した。遺構検出面付近では円形に見え、褐灰色礫混じり砂質土内から礫に混じり瓦や須恵器の細片が出土している。このため当初は長岡京期の土坑として掘削し始めたが、下層において焼土を検出した。



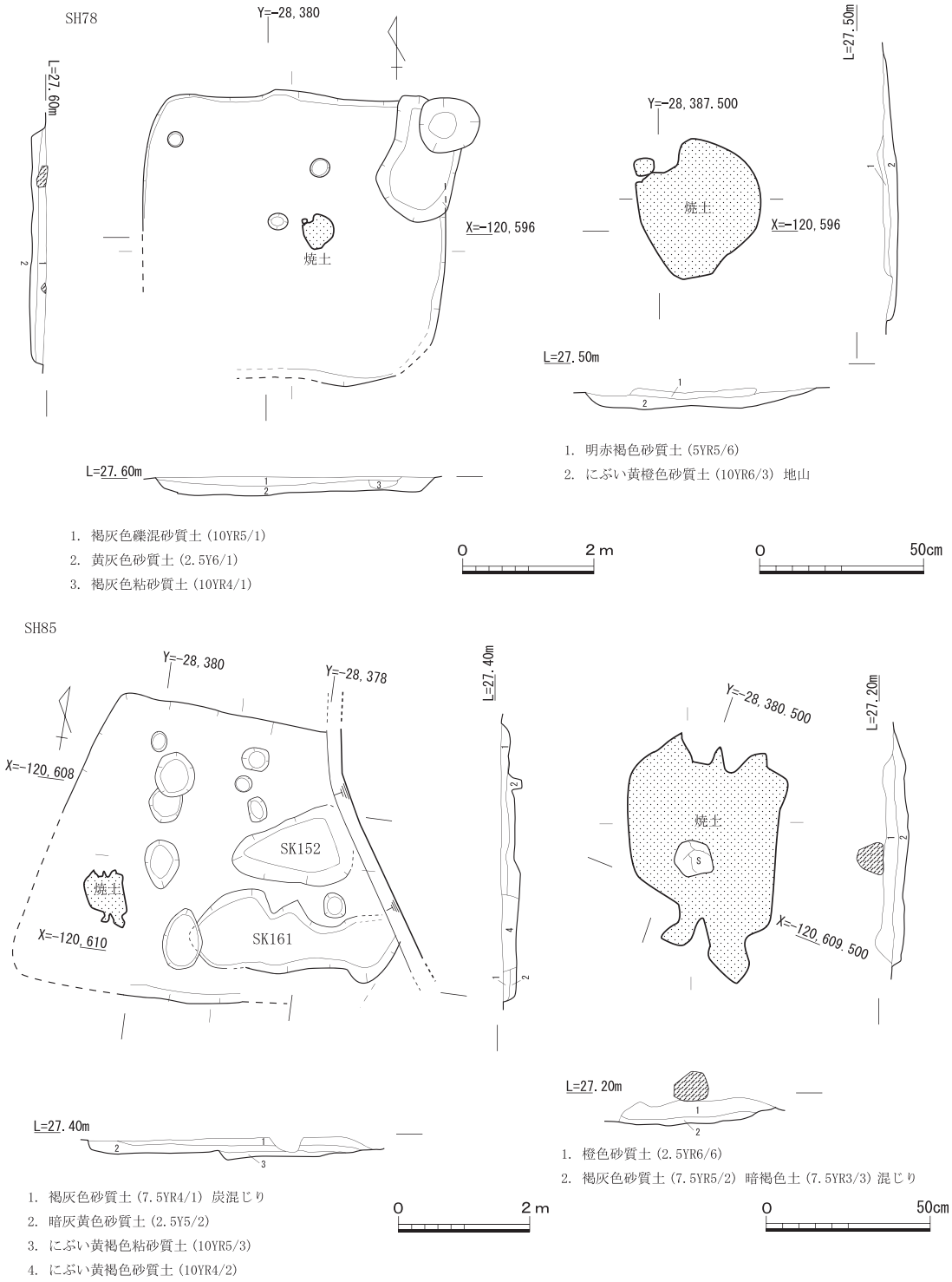


第10図　長岡京跡右京第988次調査

１トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ89・４トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ16 6 実測図

本来の住居跡の埋土は黄灰色土で遺構検出面の土層と酷似していたため、上面で検出した円形のまま掘り進んだが、床面から遺構の輪郭を追っていくことによって方形の竪穴式住居跡であることが判明した。中央の炉跡と考えられる部分には直径50cmの円形の焼土が残されていた。他に施設等は検出できなかった。遺物は少なく、元住吉山式と考えられる遺物のみであった。東西3.6 m、南北3.6 m、検出面からの深さ35cmである。

竪穴式住居跡ＳＨ107（第６図）　調査区内で北東辺部分のみを検出した大形の遺構で、規模から竪穴式住居跡と考えられる。埋土からは縄文土器が出土している。一辺の長さは約５mで、検出面からの深さは15cmである。



第11図　長岡京跡右京第988次調査　1トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ78・85実測図

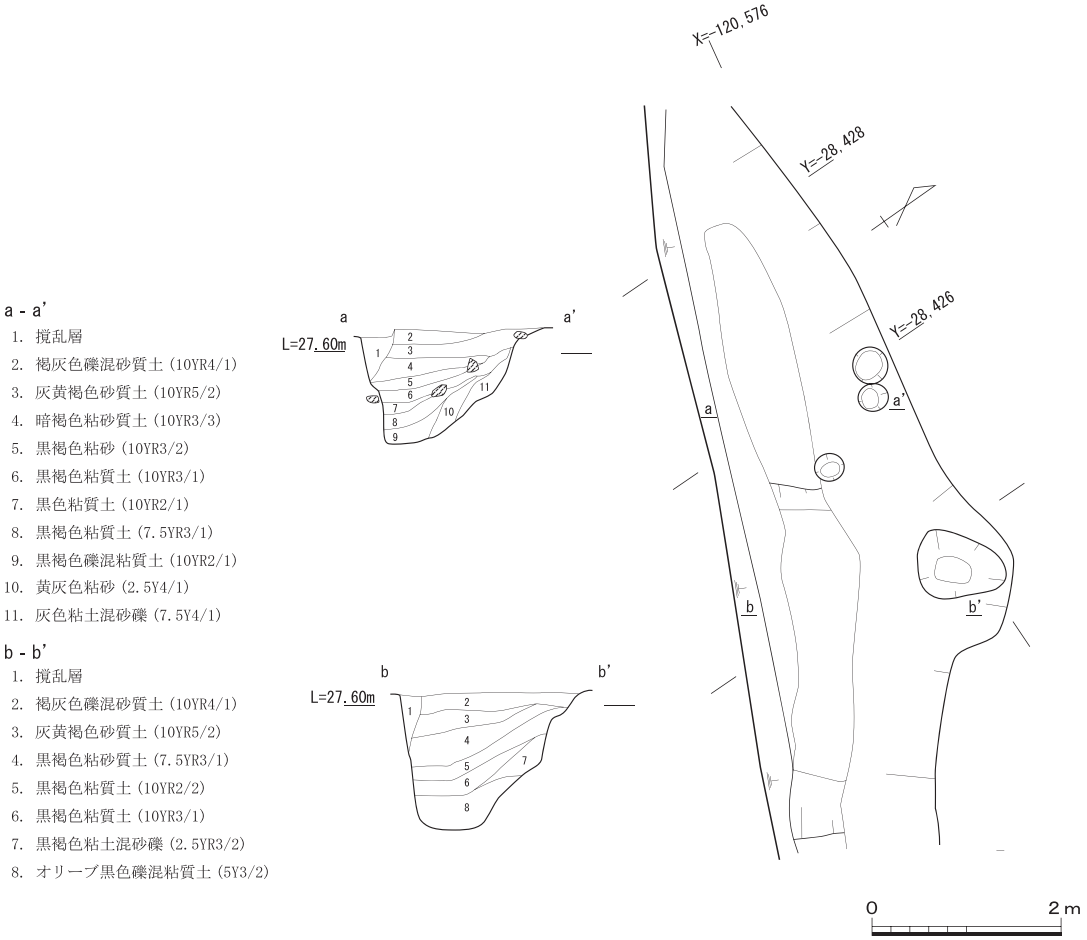
竪穴式住居跡ＳＨ166（第８・10図）　４トレンチで検出した円形の竪穴式住居跡である。右京第943次調査２トレンチＳＨ01の延長部分である。今回の発掘調査では３つの遺構が重なる構造になった。ＳＨ16 6 の断面観察の結果竪穴式住居跡の検出面から切り込まれた土坑が確認できた。竪穴式住居跡とこの土坑検出時の土を洗浄した結果、元住吉山式土器と骨片、緑色の石材を用いた平玉の未成品、剝片などが出土した。なお、右京第943次調査でも玉類が出土している。直径約3.2m、検出面からの深さ10cmを測る。

竪穴式住居跡ＳＨ192（第６図）　ＳＨ85の北西部で検出した竪穴式住居跡で、北東辺のみが検出できた。床面には焼土が２か所確認できた。北東辺の長さ3.2m、検出面からの深さ５cmである。

崖ＳＸ199（第５・12図）　１トレンチ北側で検出した縄文時代の崖である。現在の調査地に残る崖面は中世以後の河川の浸食によるもので、この部分だけが削り残されて縄文時代の崖が残ったものと考えられる。崖面は45°程度の傾斜をもつことから、この崖もある時期の河川浸食によって形成されたものと考えられる。堆積土中には北白川上層３式の土器が多く含まれ、崖上方から捨てられたものである。時期の異なる遺物はほとんどなく、検出面上部から切り込む遺構もあることから堆積物で早くに埋没したものと考えられる。近くには縄文時代中期の住居跡があるにもかかわらず遺物がほとんど含まれず、縄文時代前期前葉の遺物で満たされていることは、崖の形成が中期末以後になされたと考えることが妥当である。層序的には遺物の廃棄には若干の時期差があり、大型の破片は堆積土中位付近に多く認められる傾向があった。

土坑ＳＫ08（第７図）　３トレンチで検出した土坑で、北東部が調査区外に延びる。遺構内から北白川Ｃ式の土器が出土した。遺構の最大幅は70cm、検出面からの深さ５cmを測る。

土坑ＳＫ10（第７図）　３トレンチでＳＤ01と重複して検出した平面形が楕円形を呈する土坑である。遺構内から北白川Ｃ式の土器が出土した。長軸90cm、短軸70cm、検出面からの深さ35cmを測る。



第12図　長岡京跡右京第988次調査　１トレンチ崖ＳＸ199実測図

土坑ＳＫ14（第７図）　３トレンチ北西部で検出した土坑で、規模等は確定できない。検出面からの深さは10cmを測り、土坑内から花崗岩製の磨石が出土した。

土坑ＳＫ15（第７図）　２トレンチ南東端で検出した大型の土坑で、埋土から北白川上層式の土器が出土した。調査区の外に遺構が続くため規模は不明である。最大幅は1.4m、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑ＳＫ22（第７図）　３トレンチで検出した土坑で、遺構の多くの部分が調査区外である。検出最大長は80cm、検出面からの深さ５cmを測る。

土坑ＳＫ25（第７図）　３トレンチで検出した楕円形の土坑で、一部が調査区外に延びる。遺構内からは北白川Ｃ式の土器が出土した。長軸90cm、短軸約60cm、検出面からの深さ10cmを測る。

土坑ＳＫ27（第６図）　１トレンチ南端部の攪乱北側で検出した円形の土坑である。土坑内から無文の縄文土器が出土した。直径40cm、検出面からの深さ30cmを測る。

土坑ＳＫ32（第６図）　１トレンチ南部で検出した楕円形の土坑である。内部から元住吉山式の土器が出土した。長軸70cm、短軸50cm、検出面からの深さ6 0cmを測る。

土坑ＳＫ44（第６図）　１トレンチで検出した隅丸長方形の土坑でＳＰ112と重複するが、本土坑のほうが先行する。土坑内からは北白川Ｃ式の土器が出土した。長辺1.3m、短辺0.7m、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑ＳＫ71（第６図）　１トレンチＳＤ02の南側で検出した円形の土坑である。土坑内から元住吉山式の土器が出土した。直径45cm、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑ＳＫ73（第６・13図）　１トレンチＳＨ85北側で検出した円形の土坑である。直径50cm、検出面からの深さ20cmを測る。遺構検出面でまとまった土器が出土し、その土器群を取り去るとチャート製の扁平な礫を検出した。さらにその下にも土器が存在した。土器埋納土坑の可能性もある。礫を囲むように無紋の土器が３個体据えられていた。

土坑ＳＫ75（第６図）　１トレンチＳＨ85北側に隣接したＳＫ76上面から切り込まれた円形の土坑である。土坑内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径30cm、検出面からの深さ10cmを測る。

土坑ＳＫ76（第６図）　１トレンチＳＨ85北側に隣接する不定形の土坑である。土坑内には最大長が30cm前後の礫２個が存在した。出土遺物には北白川Ｃ式の土器がある。最大長２m、幅1.2m、検出面からの深さ15cmを測る。

土坑ＳＫ90（第６・14図）　１トレンチＳＨ89の西側で検出した長方形の浅い土坑で、底は一様に平らであった。土坑内から北白川Ｃ式の土器が出土した。長辺1.9m、短辺0.9m、検出面からの深さ５cmを測る。

土坑ＳＫ91（第６・14図）　１トレンチＳＨ89の西側で検出した円形の土坑である。土坑内から縄文時代後期の凹線文土器が出土した。直径6 0cm、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑ＳＫ122（第６図）　１トレンチＳＨ89の西側で検出した柱穴の可能性がある円形の土坑で、土坑内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径20cm、深さ25cmを測る。

土坑ＳＫ123（第６・13図）　１トレンチ南端で検出したＳＫ124と並列する楕円形の土坑である。長さ30～20cmの礫が充填されていた。土坑内から縄文土器細片が出土した。長軸1.1m、短軸0.8m、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑ＳＫ124（第６・13図）　１トレンチ南端で検出したＳＫ123と並列する長楕円形の土坑である。土坑内から北白川Ｃ式の土器と凹線文土器が混在して出土した。ＳＫ159と重複するため遺物が混在した可能性が考えられる。長軸1.2m、短軸0.7m、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑ＳＫ136（第６・14図）　１トレンチＳＨ89床面で検出した円形の土坑である。埋土は３層に細分でき、上層に炭化物が認められた。北白川Ｃ式の土器が主に１層から出土した。直径80cm、検出面からの深さ40cmを測る。

土坑ＳＫ146（第６・14図）　１トレンチＳＨ89床面のＳＫ136北側で検出した円形の土坑である。埋土は３層に細分でき、上層に炭化物が認められた。北白川Ｃ式の土器が主に１層から出土した。直径80cm、検出面からの深さ50cmを測る。

土坑ＳＫ147（第６・14図）　１トレンチＳＨ89床面で検出した円形の土坑である。埋土は２層に細分でき、上層に炭化物が認められた。２層は非常に硬く、石等を含まない砂質土であった。北白川Ｃ式の土器と考えられる底部が１層から出土した。直径80cm、検出面からの深さ60cmを測る。

土坑ＳＫ152（第６・11・14図）　１トレンチＳＨ85床面で検出した土坑である。形状は不定形で右京第927次調査地に続く。もっとも長い部分が前回の調査とあわせて2.2m、それに直行する幅が0.9m、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑ＳＫ154（第６・14図）　１トレンチＳＤ01・02間で検出した土坑である。一部が浸食により存在しないが、楕円形を呈していたと考えられる。残存長0.6 m検出面からの深さ20cmである。

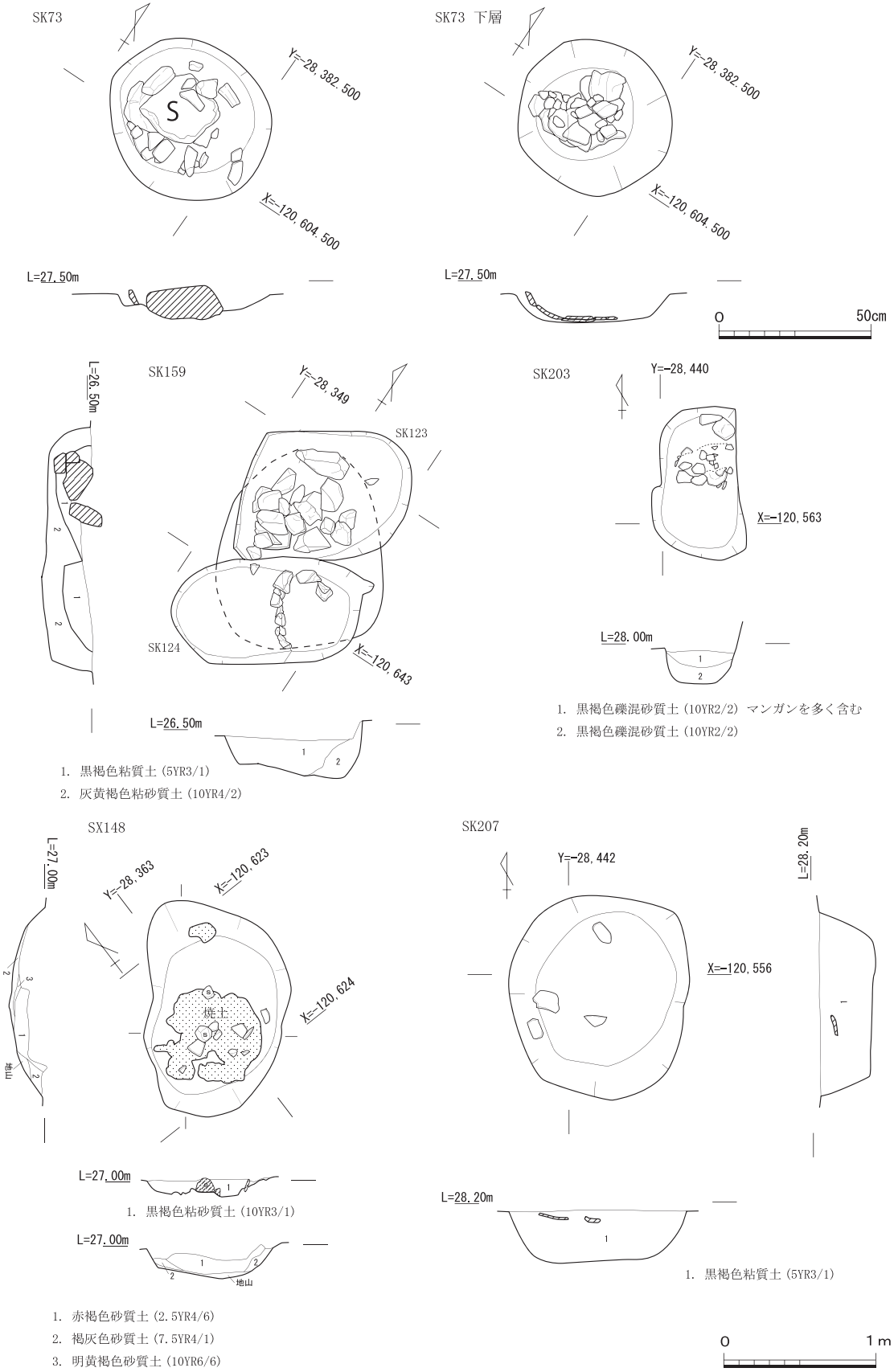
土坑ＳＫ159（第６・13図）　１トレンチ南端で検出したＳＫ123・124と重複する長楕円形の土坑である。土坑内から縄文土器が出土しているが砕片のため時期が不明である。他に台石が出土している。長軸1.4m、短軸1.1m、検出面からの深さ30cmを測る。

土坑ＳＫ161（第６・11・14図）　１トレンチＳＨ85床面で検出した土坑である。形状は不定形で右京第927次調査地に続く。もっとも長い部分が前回の調査とあわせて2.2m、それに直行する幅が0.8m、検出面からの深さ15cmを測る。

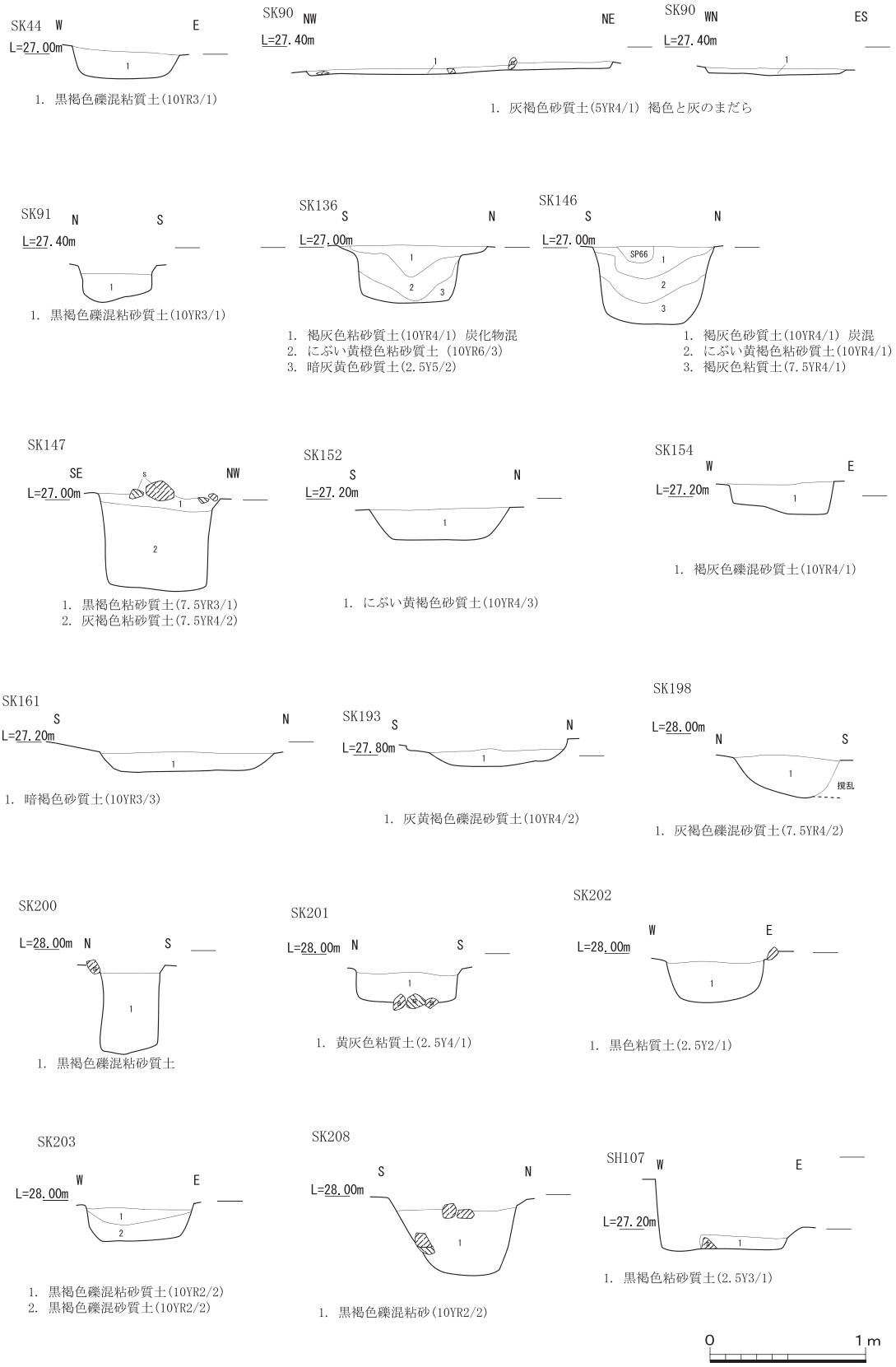
土坑ＳＫ162（第６図）　１トレンチＳＫ90と重複し、先行する土坑である。右京第927次調査のＳＫ21につながる長い土坑で、土坑内から北白川Ｃ式の土器が出土した。検出長は2.2m、幅1.1m、検出面からの深さ45cmを測る。

土坑ＳＫ169（第８図）　４トレンチ中央部分で検出した円形の浅い土坑である。土坑内から切り目石錘が出土した。直径1.3m、検出面からの深さ５cmを測る。

土坑ＳＫ181（第８図）　４トレンチ東端セクションにかかるように検出した土坑である。遺構は東側に延びるため規模は不明であるが、４トレンチ東壁断面図の７の土層に対応し、北白川Ｃ式土器が底部に張り付いた状況で出土した。南北長は30cmで、検出面からの深さ10cmを測る。



第13図　長岡京跡右京第988次調査　1トレンチ検出遺構実測図



第14図　長岡京跡右京第988次調査　1トレンチ検出遺構断面図

土坑ＳＫ193（第５・14図）　１トレンチＳＸ199東側で検出した皿状の円形土坑である。直径1.2m、深さ15cmを測る。

土坑ＳＫ194（第６図）　１トレンチＳＤ02北側で検出した長楕円形の土坑で、土坑内から北白川Ｃ式の土器が出土した。長軸1.4m、短軸0.6 m、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑ＳＫ195（第６図）　１トレンチＳＤ02の南側で検出した土坑で、多くは前回の調査地へ続き、北白川Ｃ式の土器が出土した。検出長1.1m、幅0.5m、検出面からの深さ40cmを測る。

土坑ＳＫ198（第５・14図）　１トレンチのＳＸ199を掘り込む土坑で、南半が攪乱のため失われている。遺物は出土しなかったが、ＳＸ199が埋まった後に掘削されたことがわかる。最大幅３ｍ、検出面からの深さ30cmである。

土坑ＳＫ200（第５・14図）　１トレンチＳＸ199の北側にある円形の土坑である。顕著な遺物は認められなかったが、埋土等から縄文時代のものと判断した。直径70cm、検出面からの深さ80cmを測る。右京第927次調査でも数基の同様な深い土坑を検出しており、木柱や掘立柱建物が存在した可能性も考えられるが、建物としてはまとまらなかった。

土坑ＳＫ201（第５・14図）　１トレンチＳＸ199の北側にある隅丸方形の土坑である。一辺が0.7m、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑ＳＫ202（第５・14図）　１トレンチ北側屈曲部で検出した隅丸方形の土坑である。土坑内からは縄文土器片が出土した。直径0.7m、検出面からの深さ30cmを測る。

土坑ＳＫ203（第５・13・14図）　１トレンチ北側屈曲部で検出した円形の土坑である。右京第927次調査のＳＫ28と同一遺構で、その西半部である。土坑内からは無文土器がまとまって出土した。一辺1.1m、検出面からの深さ20cmを測る。

土坑ＳＫ204（第５図）　１トレンチ北部で検出した不定形の土坑でＳＫ207に切り込まれている。最大長2.3m、幅1.1m、検出面からの深さ10cmを測る。

土坑ＳＫ207（第５・13図）　１トレンチ北部で検出した円形の土坑で、不定形の土坑ＳＫ204を切り込んで掘削されている。土坑内から北白川Ｃ式、北白川上層式の土器が出土した。直径1.2m、検出面からの深さ40cmを測る。

土坑ＳＫ208（第５・14図）　１トレンチ北側屈曲部で検出した円形の土坑である。埋土から縄文時代の遺構と考えられる。直径0.8m、検出面からの深さ6 0cmを測る。

柱穴ＳＰ06（第７図）　３トレンチ中央部で検出した円形の柱穴である。中央部に柱痕跡と考えられる部分が存在した。柱穴内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径40cm、検出面からの深さ10cmを測る。

柱穴ＳＰ20（第７図）　３トレンチ南東部で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川C式の土器が出土した。直径25cm、検出面からの深さ５cmを測る。

柱穴ＳＰ21（第７図）ＳＤ02と重複して検出した円形の柱穴である。柱穴内から無文の縄文土器片が出土した。直径40cm、検出面からの深さ15cmを測る。

柱穴ＳＰ24（第７図）　３トレンチＳＤ20・ＳＫ10と重複して検出した柱穴で、ＳＫ10に先行

すると考えられる。柱穴内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径20cm、検出面からの深さ15cmを測る。

柱穴ＳＰ28（第６図）　１トレンチ南端部の水路関連施設による攪乱の北側で検出した円形の柱穴で、柱穴内から元住吉山式の土器片が出土した。直径30cm、検出面からの深さ15cmを測る。

柱穴ＳＰ66（第６図）　１トレンチＳＨ89床面のＳＫ146を切り込む円形の柱穴である。柱穴内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径30cm、検出面からの深さ10cmを測る。

柱穴ＳＰ74（第６図）　１トレンチＳＨ85床面で検出した楕円形の柱穴である。柱穴内から縄文土器片が出土した。

柱穴ＳＰ112（第６図）　１トレンチＳＫ44を切り込む円形の柱穴である。柱穴内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径0.3m、検出面からの深さ20cmを測る。

柱穴ＳＰ115（第６図）　１トレンチＳＨ89床面で検出した円形の柱穴である。ＳＰ116を切り込んで掘削されている。柱穴内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径0.3m、検出面からの深さ30cmを測る。

柱穴ＳＰ116（第６図）　１トレンチＳＨ89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径0.4m、検出面からの深さ10cmを測る。

柱穴ＳＰ120（第６図）　１トレンチＳＨ89床面で検出した円形の柱穴である。元住吉山式の土器が出土した。直径0.3m、検出面からの深さ15cmを測る。

柱穴ＳＰ128（第10図）　１トレンチＳＨ89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径0.3m、検出面からの深さ40cmを測る。

柱穴ＳＰ129（第10図）　１トレンチＳＨ89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径0.2m、検出面からの深さ20cmを測る。

柱穴ＳＰ130（第10図）　１トレンチＳＨ89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径0.4m、検出面からの深さ50cmを測る。

柱穴ＳＰ131（第10図）　１トレンチＳＨ89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から石器が出土した。直径0.2m、検出面からの深さ10cmを測る。

柱穴ＳＰ135（第10図）　１トレンチＳＨ89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径0.5m、検出面からの深さ15cmを測る。

柱穴ＳＰ137（第10図）　１トレンチＳＨ89床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から縄文土器片が出土した。直径0.15m、検出面からの深さ40cmを測る。

柱穴ＳＰ149（第６図）　１トレンチＳＨ85床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径0.5m、検出面からの深さ20cmを測る。

柱穴ＳＰ150（第６図）　１トレンチＳＨ85床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川Ｃ式の土器が出土した。ＳＰ149に切り込まれる。直径0.4m、検出面からの深さ25cmを測る。

柱穴ＳＰ151（第６図）　１トレンチＳＨ85床面で検出した円形の柱穴である。柱穴内から北白川Ｃ式の土器が出土した。直径0.2m、検出面からの深さ10cmを測る。

４．出土遺物

１）土器・土製品

縄文土器については観察表を別途掲載したことから簡単な記述にとどめることとする。

(1)長岡京跡右京第984次(7ANOOD- ９)調査(第15～18図)

大型落ち込み状遺構ＳＸ08　遺構内から北白川Ｃ式の土器がまとまって出土している。１～５は大波状口縁を持つ有文深鉢の突起部である。１の突起部は四角く面をなしており、土器の内側に向いた面では沈線で丸く区画した中に押し引きした刺突で施文する。この土器は焼成が非常によく同一個体はほかに存在しない。４・５・15・16・21・25・26・30は水平口縁を持ち、口縁直下にすぐ文様帯が来る有文深鉢である。８～10、13・14・17・18・20・22・29は口縁部が肥厚する無文深鉢である。９・10・13のように口縁部内面にも縄文が施されるものもある。19は水平口縁を持ち隆帯の中に楕円形区画文を横に連ねた土器で、楕円形区画接点部上面には指頭による凹点が施されている。23・28は角閃石を含む胎土を持つ平縁深鉢である。ナデによって滑らかな稜を持つ凹凸を作り上げている。23の胴部には沈線文が施される。32・34・40は縄文施文後、棒状工具によって多重弧線文を施した深鉢である。上部が外反することから頸部と考えられ、14に見られるような口縁部が肥厚する口縁と組み合わせられると考えられる。24・27・31は器表面が平滑に調整された深鉢で、他の縄文土器とは異なるもので後期前葉に属するものと考えられる。35は無文浅鉢で、外面は板状の工具で丁寧にナデられる。37は口縁部内側端面に広く縄文が施された有文浅鉢である。36・38～41・43～47は有文深鉢胴部である。48～52は深鉢底部である。

土坑ＳＫ02　53は表面に縄文が施された深鉢胴部である。54は縄文時代後期後葉の凹線文土器の口縁部である。55は縄文時代中期末の北白川Ｃ式土器の深鉢胴部である。ＳＫ02からは時期の異なる土器が出土している。

土坑ＳＫ05　56は有文深鉢頸部で、口縁部がわずかに欠損する。57は縄文が施された無文深鉢の口縁部である。58は縄文の施された胴部である。これらの土器はいずれも北白川Ｃ式土器である。

土坑ＳＫ06　図化できる遺物は縄文土器底部のみである。６２～６６は深鉢の底部である。

土坑ＳＫ12　59は縄文時代後期後葉の凹線文土器の口縁部である。

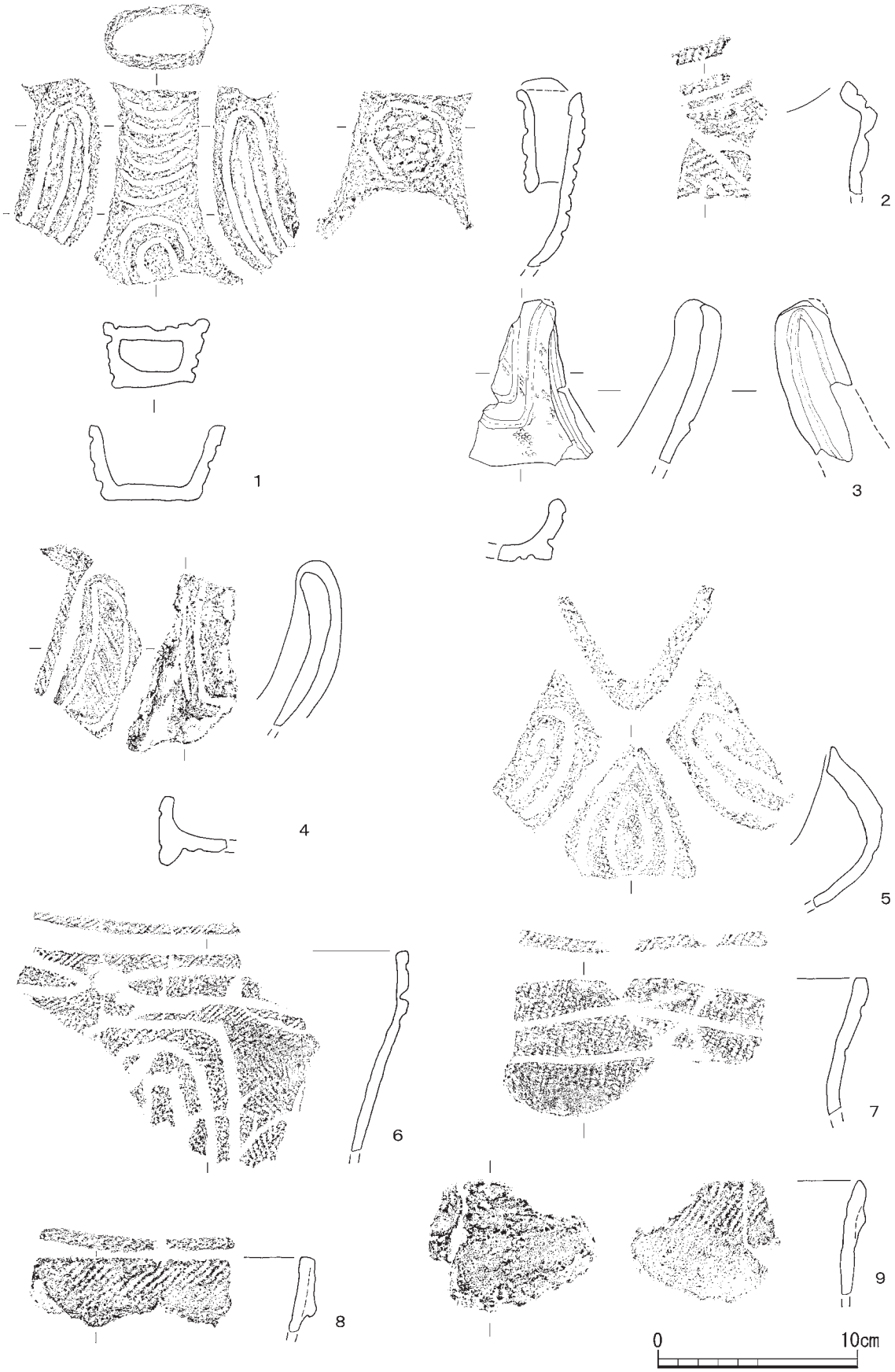
土坑ＳＫ14　60は隆帯によって楕円形に区画した北白川Ｃ式土器の有文深鉢頸部である。横方向の楕円形区画が接する部分の上部には、棒状の工具による刺突が確認できる。

土坑ＳＫ16　61は口縁部外面に多重沈線が施される北白川Ｃ式土器の有文浅鉢口縁部である。

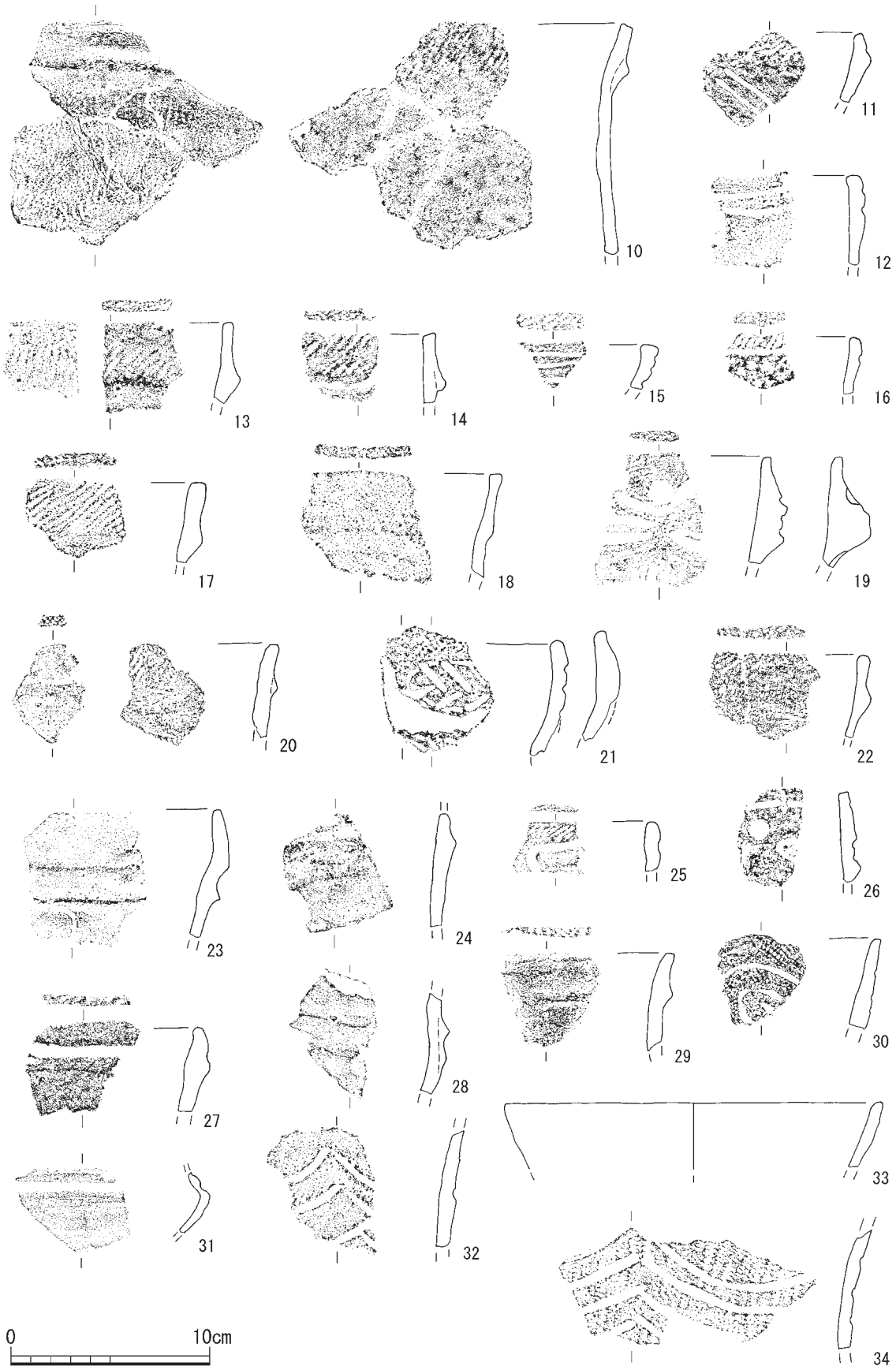
土坑ＳＫ20　67・68は北白川Ｃ式土器の有文深鉢口縁部である。70は外面に縄文の施された北白川Ｃ式土器の無文深鉢口縁部である。

土坑ＳＫ21　72は北白川Ｃ式土器の無文深鉢頸部である。75は凹線が施された後期後葉の凹線文土器の胴部である。

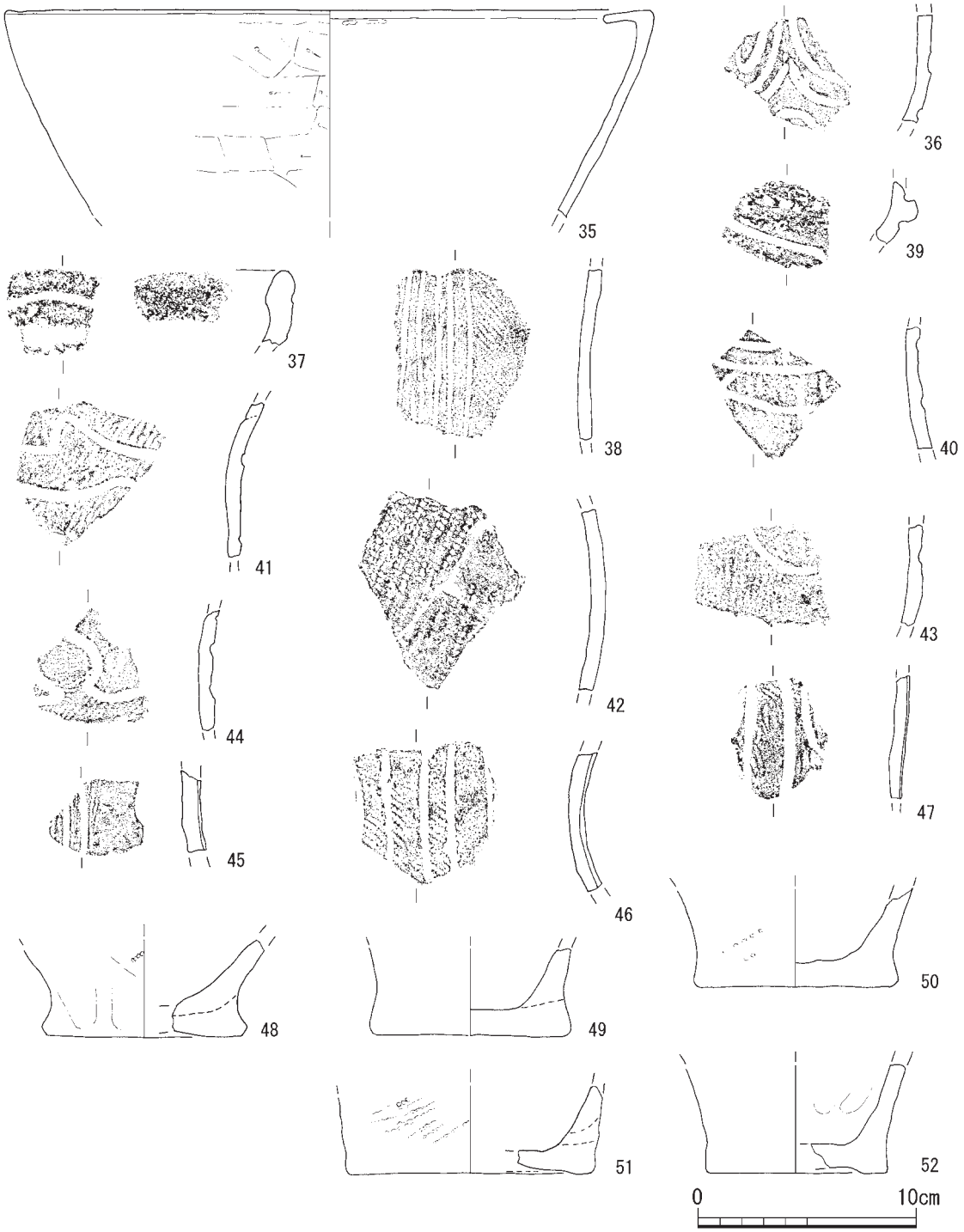
土坑ＳＫ24　71は縄文が施された北白川Ｃ式土器の無文深鉢胴部である。74は口縁部が肥厚



第15図　長岡京跡右京第984次調査　大型落ち込み状遺構ＳＸ08出土縄文土器（１）



第16 図　長岡京跡右京第984次調査　大型落ち込み状遺構ＳＸ08出土縄文土器２）



第17図　長岡京跡右京第984次調査　大型落ち込み状遺構ＳＸ08出土縄文土器（３）

する北白川Ｃ式土器の無文深鉢である。

土坑ＳＫ26　69は北白川Ｃ式土器の有文深鉢口縁部である。口縁端面には工具によるキザミが施される。

土坑ＳＫ27　73は小片のためはっきりしないが、縄文時代後期前葉の堀之内式土器の胴部と考えられる。

(2)長岡京跡右京第988次(7ANOOD-10)調査（第19～54図）

第18図　長岡京跡右京第984次調査　遺構出土縄文土器

①**長岡京期**（第19図）

溝ＳＤ01　77は須恵器の壺胴部である。78は須恵器の底部で高台は付かない。79は須恵器甕の口縁部である。82は丸瓦の受け部である。83・84は平瓦である。今回の調査では軒瓦は出土せず、隣接地で調査した右京第927次に比べると出土量は極端に減少した。

溝ＳＤ02　80は杯Ｂの底部である。これまでの調査で見つかった土器に比べると、この個体には高台の取り付け方に古い様相が認められる。81は須恵器の蓋で、頂部に輪状のつまみが剝がれた跡が残る。

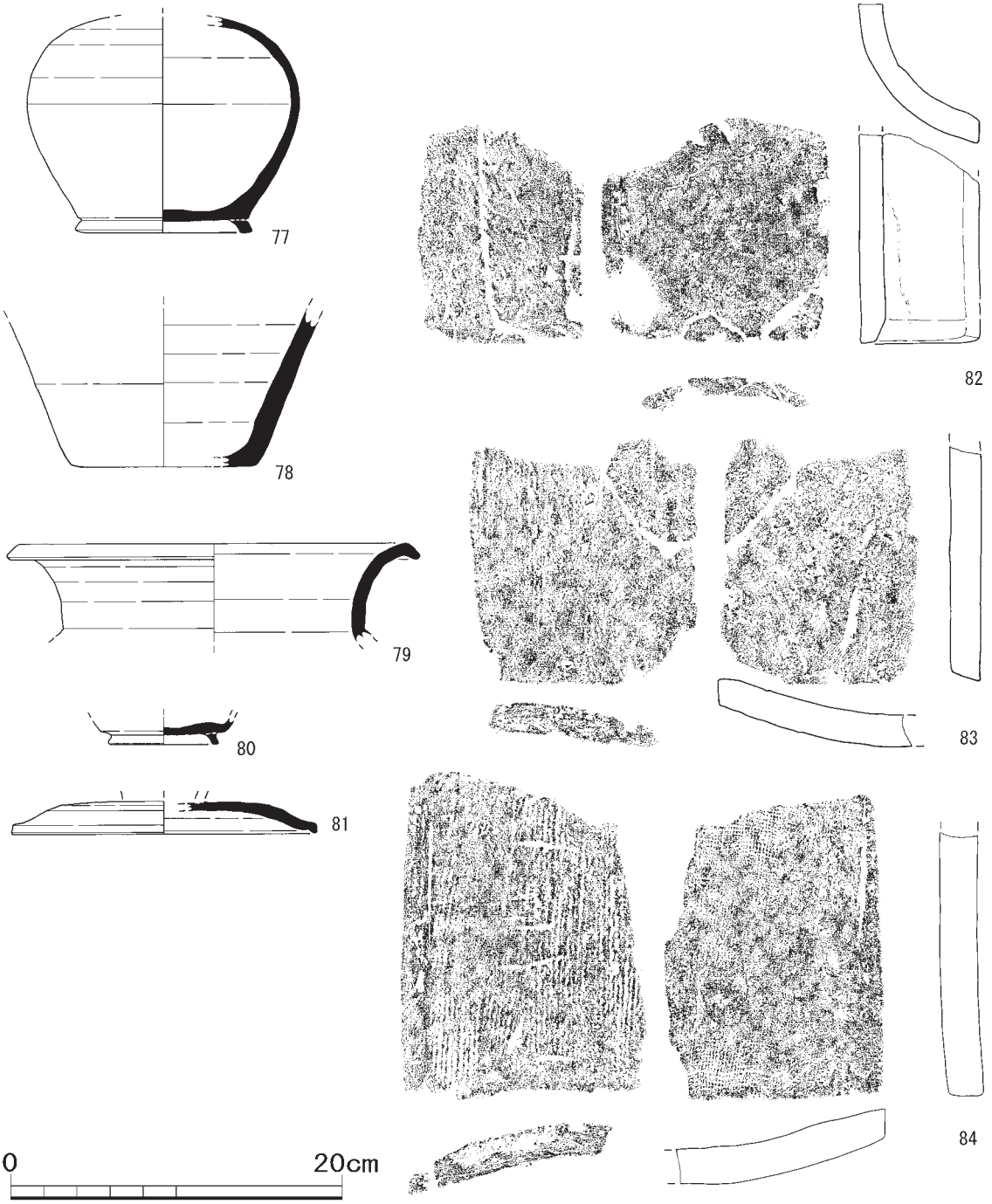
②**古墳時代**（第20図）

溝ＳＤ106　85は６世紀初頭の須恵器杯蓋である。86は須恵器の杯身である。87は土師器の壺である。88は土師器の甕で、体部外面は縦方向のハケ、内面はケズリで調整される。

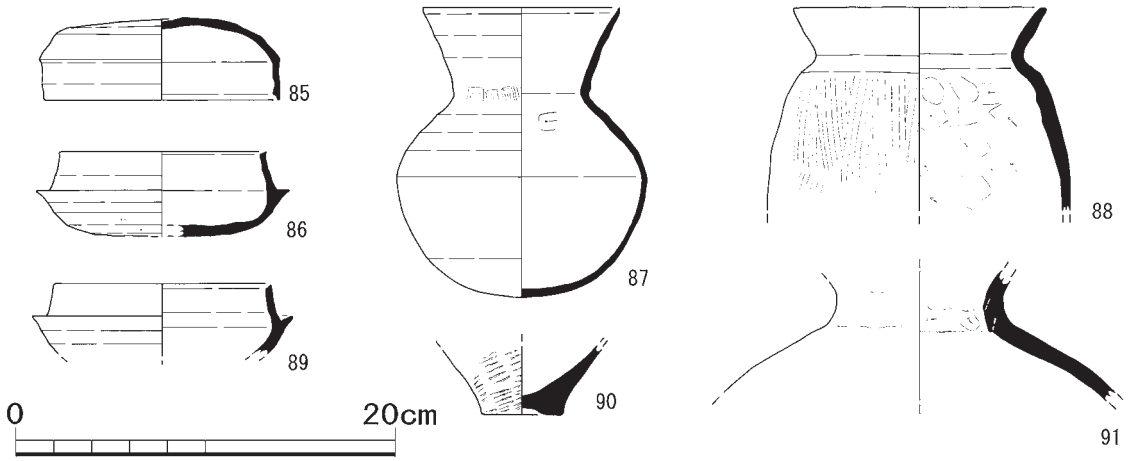
落ち込み状遺構ＳＸ205　89は６世紀初頭の須恵器杯身である。この遺構からは縄文時代からの遺物が混在するが、この須恵器が時期のわかるものでは最も新しい遺物である。90は古墳時代初頭の外面がタタキで調整された甕の底部である。91は粘土の接合痕がよく残っている土師器の壺の頸部である。

③縄文時代

竪穴式住居跡ＳＨ89（第21～32図）　92～126 は波状口縁を持つ北白川Ｃ式土器の深鉢である。105は全体にナデ調整のみでわずかに沈線による施文が施されるが、非常に大きな突起部に復元



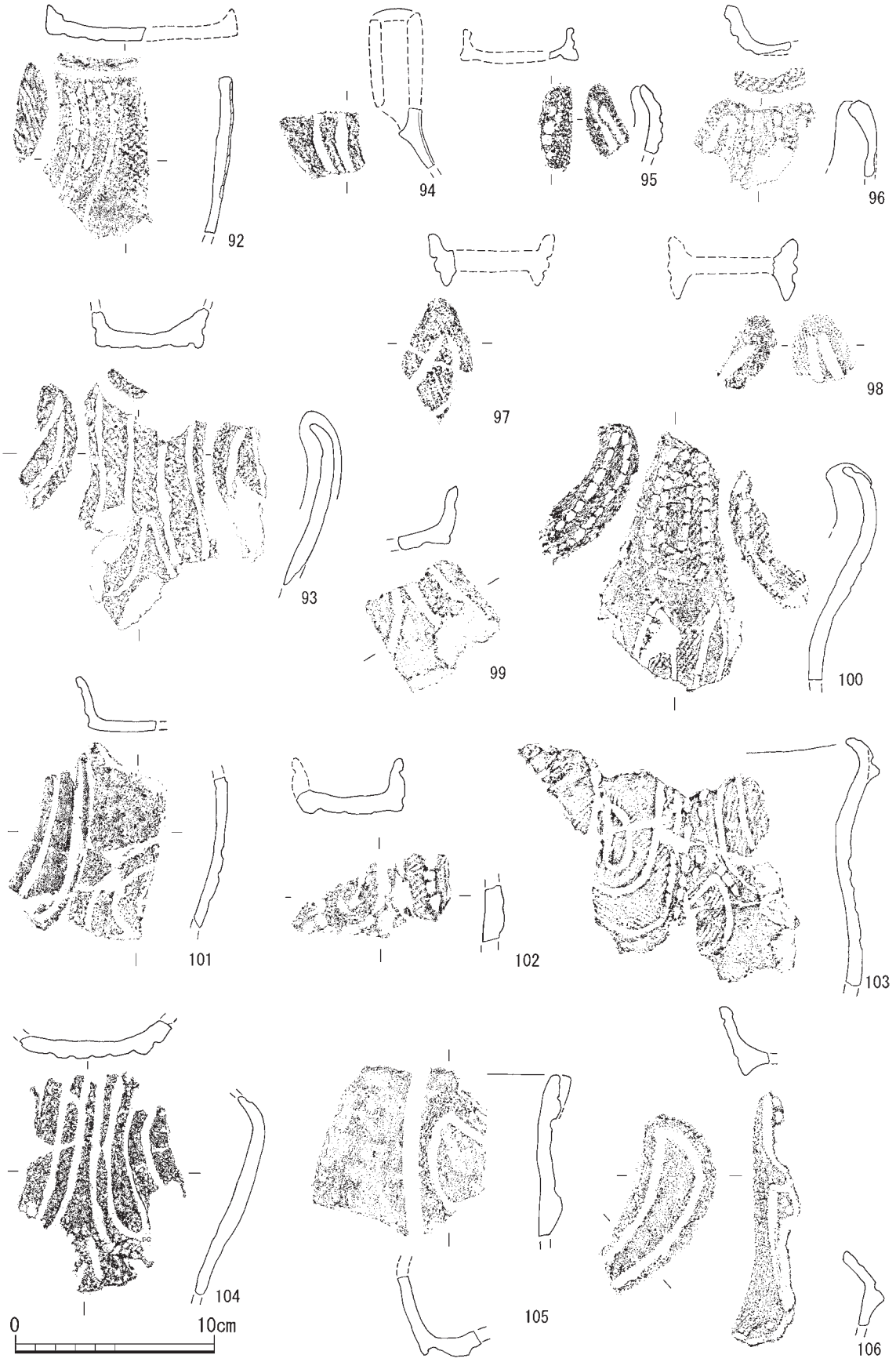
第19図　長岡京跡右京第984次調査　溝ＳＤ01・02出土遺物



第20図　長岡京跡右京第988次調査　古墳時代遺構出土遺物

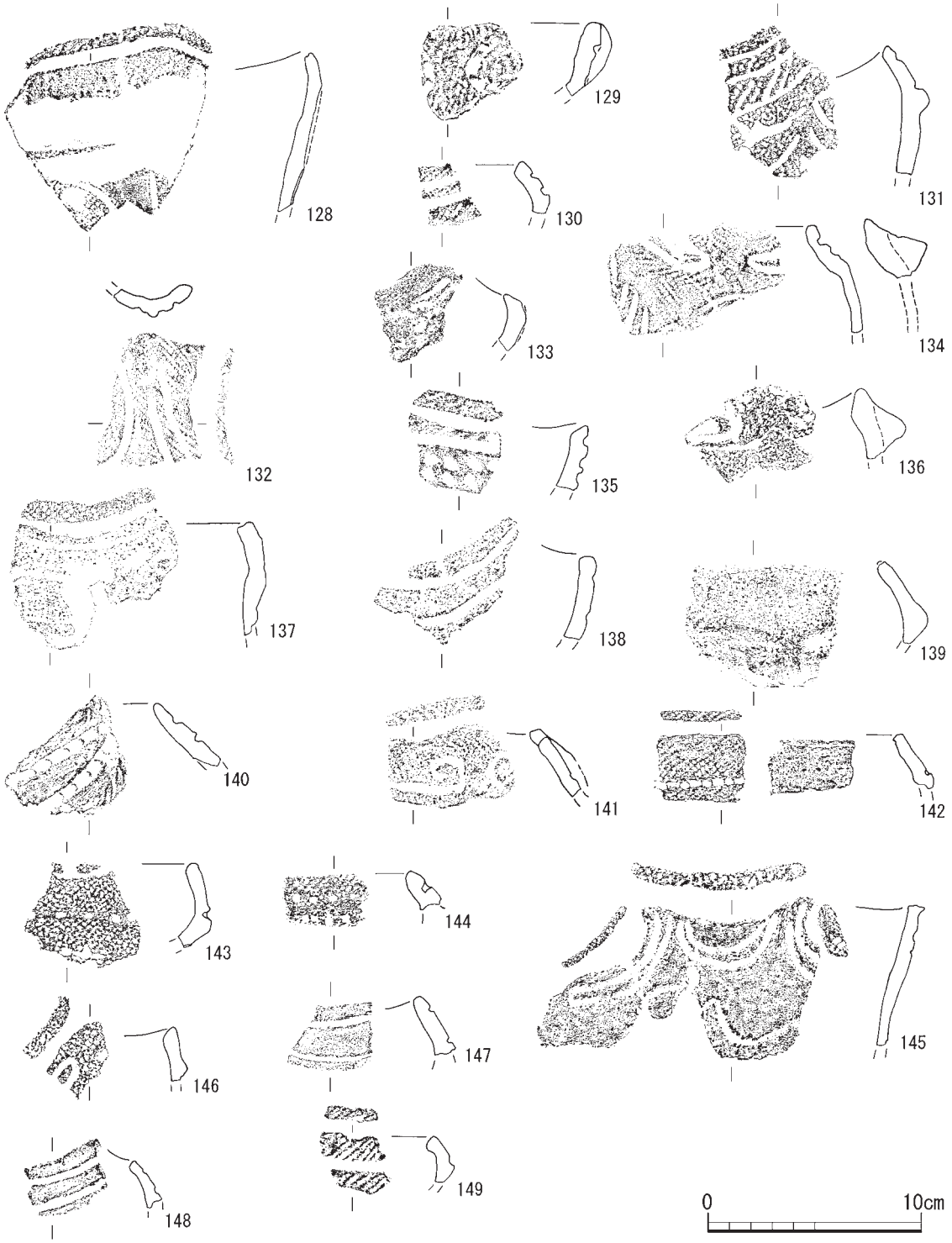
できるもので、こうした土器の中では文様が少ないことが注目される。127は口縁部外面を沈線によって横方向に楕円に区画し、その隣り合う部分が突出する。128は波状口縁を持つ深鉢で、器表面には大きく剝離した跡が存在する。橋状把手などが付けられていた可能性が高い。129～138・140・141・146～148は波状口縁を持つ深鉢である。139は隆帯によって横方向に楕円形状に区画していく深鉢である。143・144は口縁外面に縄文を施した後、刺突によって施文した深鉢口縁部である。小片のため口縁が波状を呈したかは不明である。149は縄文と沈線で施文された深鉢口縁部である。小片のため口縁が波状を呈したかは不明である。145は２つに分かれる突出部を持つ深鉢である。沈線によって口縁部の形状に沿って施文されている。150～153・155は非常によく似た色調・胎土を示す個体である。しかしながら150・151は平縁で、152・153は波状口縁の様相を示している。口縁部の個体は口縁部付近には施文されず、隆帯の下から沈線文が施される。156～16 0・16 2は特徴が酷似した土器片であるが接点は存在しない。いずれも口縁外面を肥厚させた土器で、頸部との段差部分を上から凹点を施し突出させる。肥厚部分から下は多重弧線文が施される。16 2は口縁部が欠損しているが同様のものと考えられる。16 2には焼成後に穿孔された穴が２か所存在する。161もまた肥厚部分から下は多重弧線文が施される深鉢であるが、16 2とは胎土が著しく異なる。16 3は口縁部外面を肥厚させ、その肥厚部から下に沈線文が施された深鉢であるが、上記の156～16 016 2と文様形態が異なる。16 4～182は平縁の深鉢口縁部である。16 6 は肥厚した部分の下側を凹線で「L」字状に施文している。183～206 は平縁の深鉢口縁部である。189は隆帯を渡すように橋状把手が付けられている。207～211・215・219は平縁の有文深鉢口縁部である。212・213は無文深鉢である。214は無文深鉢口縁部で、口縁端にキザミが施されているが上部はわずかに欠損している。216～218・220～223・225は無文深鉢口縁部である。

224・226は胎土に大きな砂粒を含まないよく似た無文浅鉢の口縁部である。227は穿孔が施され口縁端面に縄文を持つ浅鉢である。228は平口縁の沈線による施文をもつ有文浅鉢である。229は「く」字状に屈曲する口縁部を持つ無文浅鉢である。230は口縁部が「く」字状に屈曲し、屈曲部に縄文を施し、口縁外面に凹点を置く浅鉢で、胎土は砂粒をほとんど含まず、丁寧に作られ



第21図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（１）

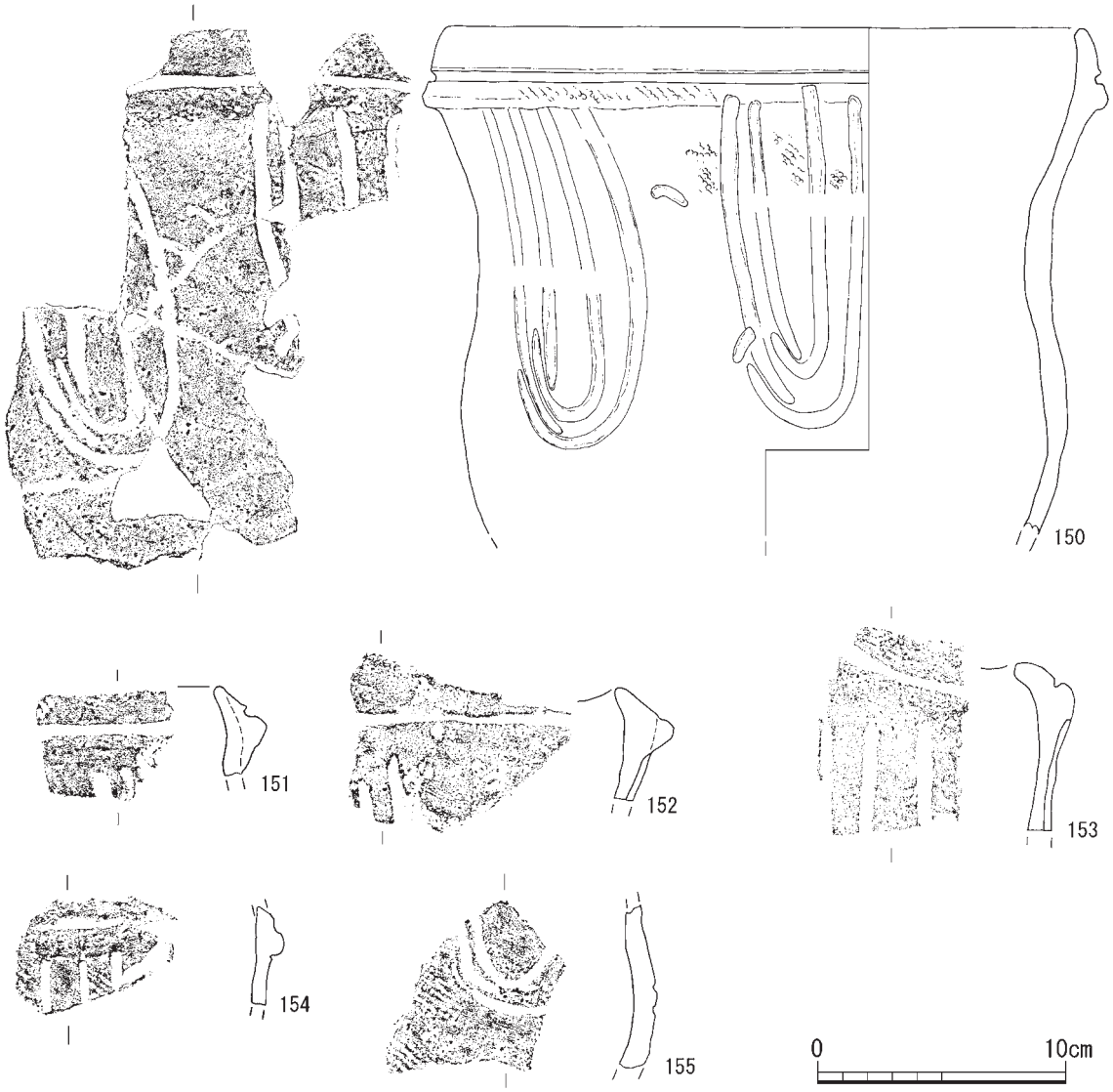
第22図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（２）



第23図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（３）

ている。231 ～ 255は北白川Ｃ式土器の深鉢胴部及び頸部である。233は隆帯を渡すように橋状把手が付けられている。234は大きな波状口縁をもつ個体と考えられる。238は横方向に楕円形区画を巡らす有文深鉢である。256 ～ 279は北白川Ｃ式土器の有文深鉢胴部である。280は土器を再利用した錘である。

281 ～ 284は北白川上層式土器の有文深鉢口縁部である。281・283は肥厚した口縁部外面に縄



第24図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（４）

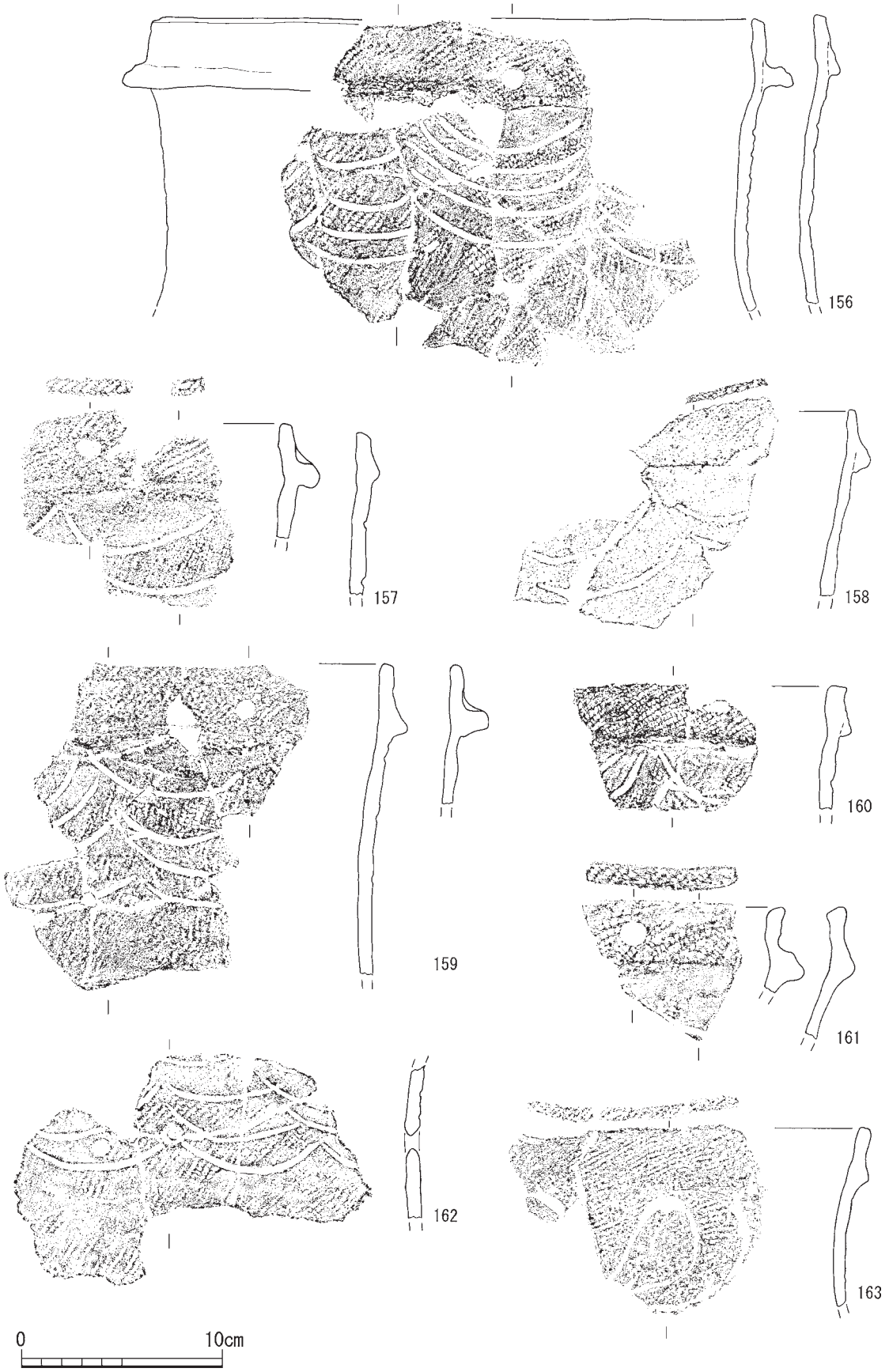
文があり、その下から縦方向に多条の細い沈線が施される。282・284は口縁内面部に縄文が施文されている。285 ～ 287は凹線文土器で元住吉山式土器と考えられる有文深鉢である。

281 ～ 287は北白川Ｃ式土器以外の土器であり、図化できるもののすべてである。

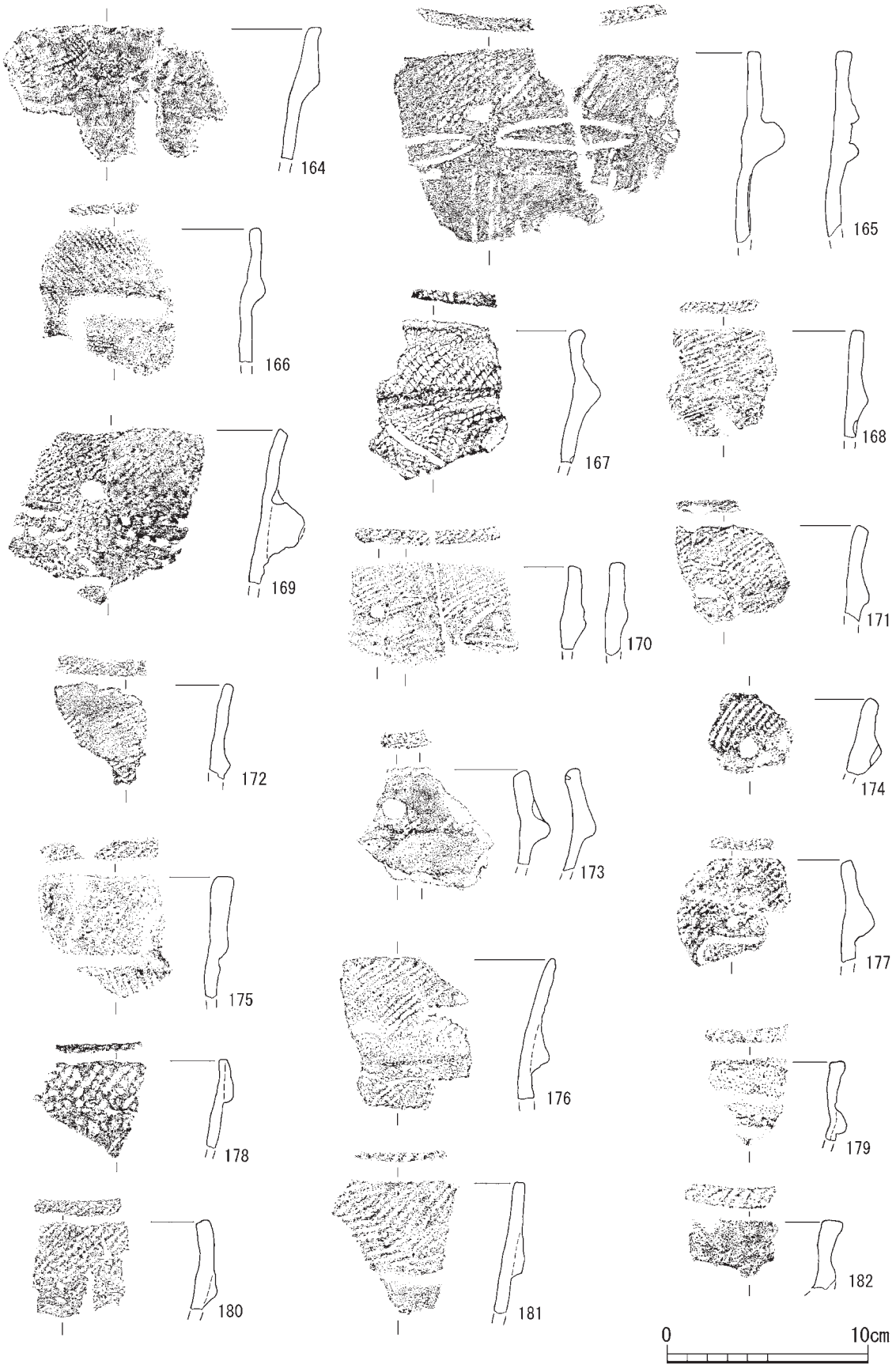
288 ～ 312は北白川Ｃ式土器の深鉢底部である。289は沈線と縄文によって底面が施文される。290は底面に対向するように「C」字状の沈線文が施され、器表面底面近くにまで沈線文が認められ稜を形成するように整形された部分も認められる。291は底面の地面と接するか所と器面底部付近に縄文が施される。296 は底面全面に縄文が施された個体である。

竪穴式住居跡ＳＨ85（第33図）　313 ～ 327・329・330の縄文土器が出土している。313 ～ 324・326 ・327・330は北白川Ｃ式土器である。325は器壁が薄く角閃石を含んでいることから縄文時代後期のものと考えられる。329は縄文時代後期後葉の凹線文土器で、器表面に凹線と貝殻の扇状圧痕が認められる。出土遺物の大半が北白川Ｃ式土器である。

竪穴式住居跡ＳＨ78（第33図）　328は北白川上層式土器の波状口縁をもつ有文深鉢口縁部であ

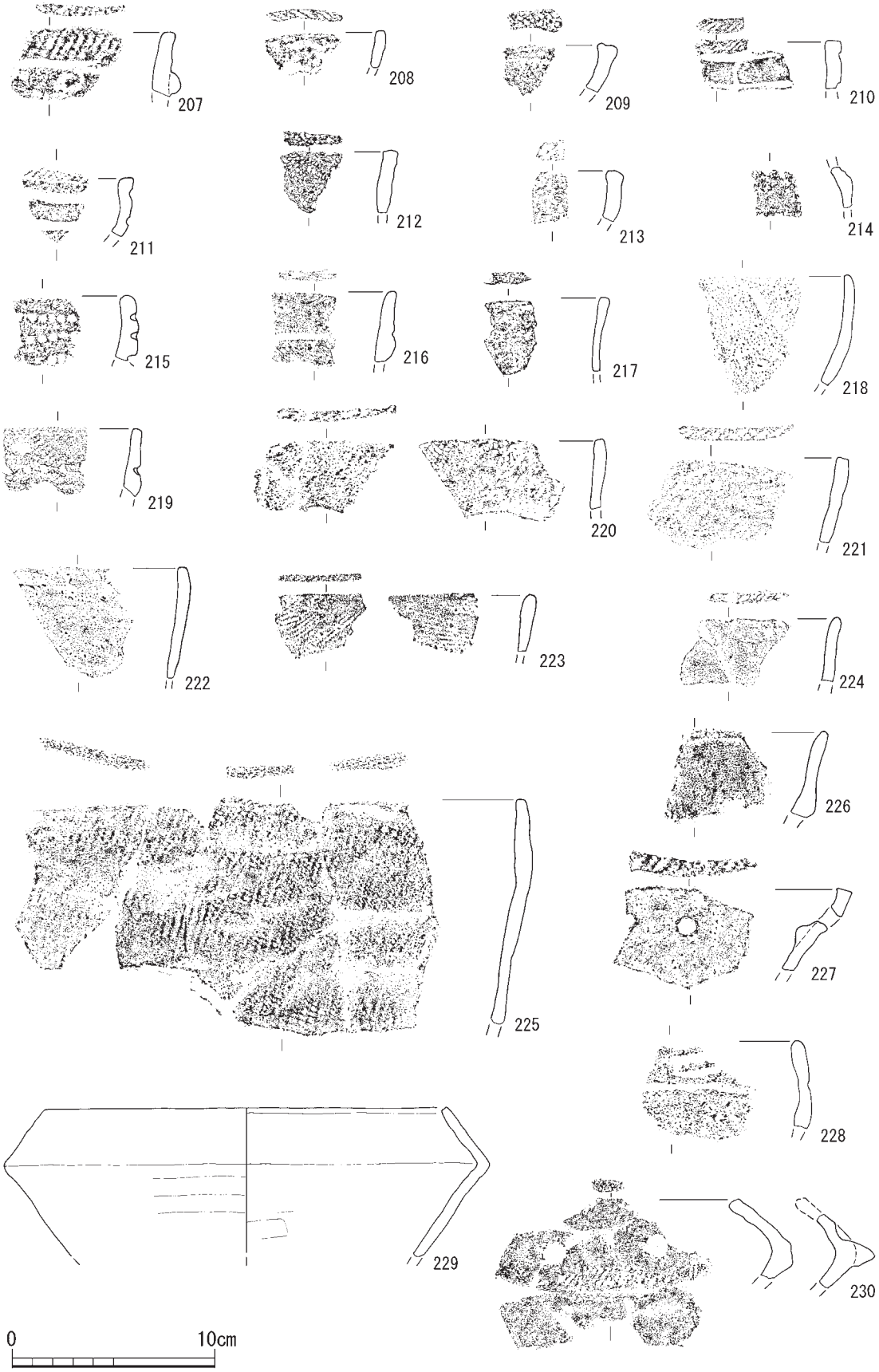


第25図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（５）

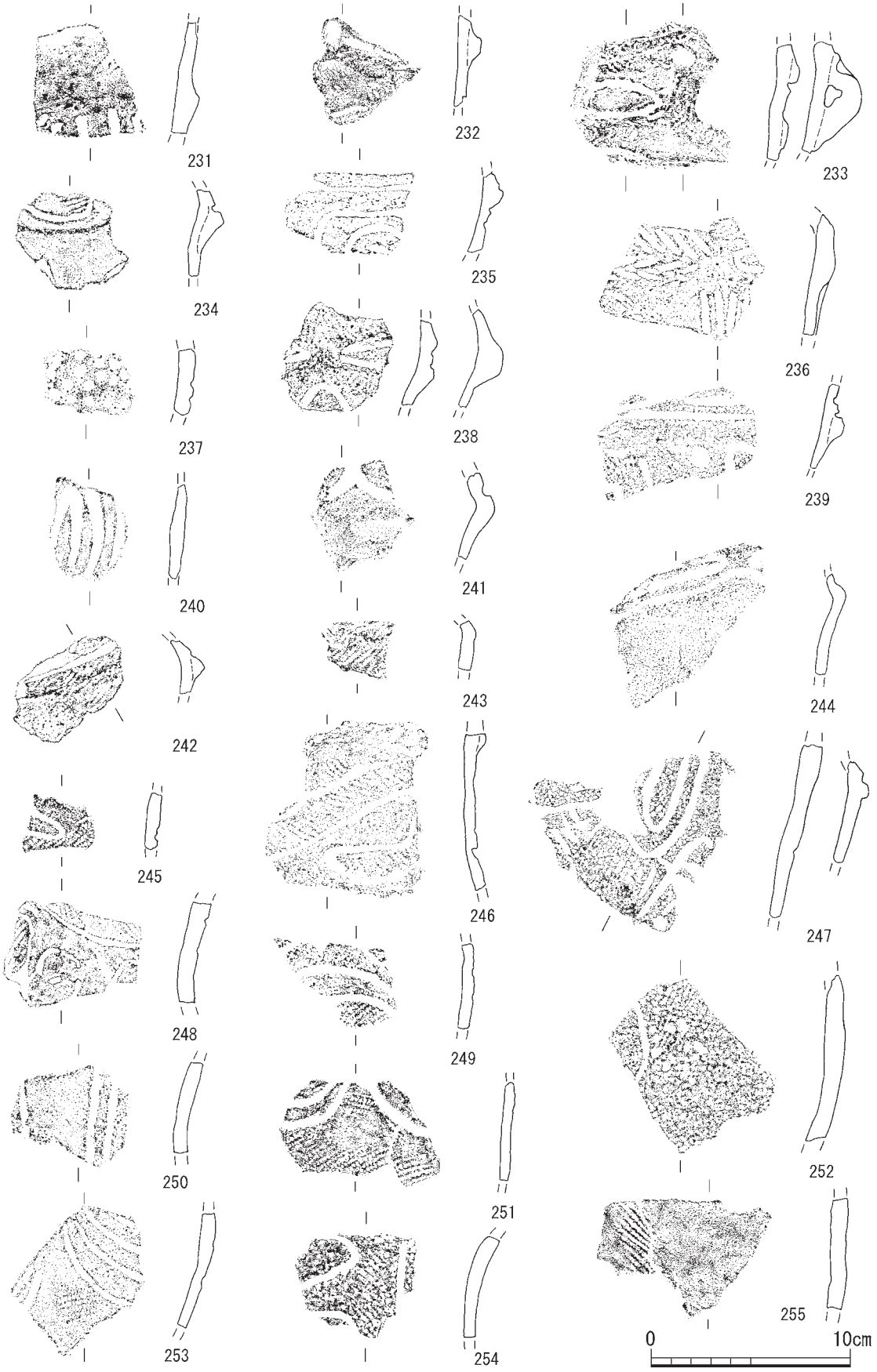


第26 図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器６）

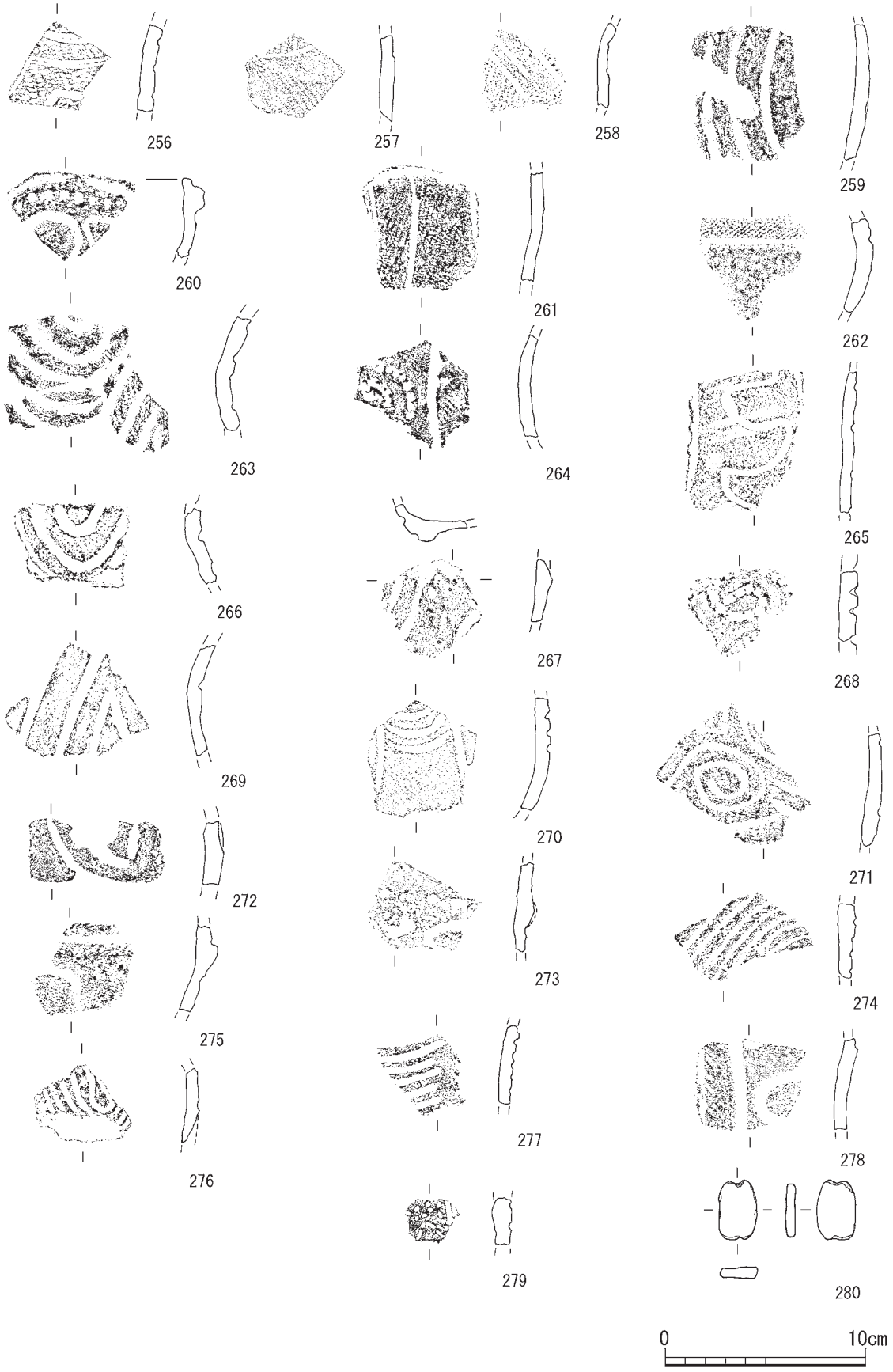
第27図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（７）



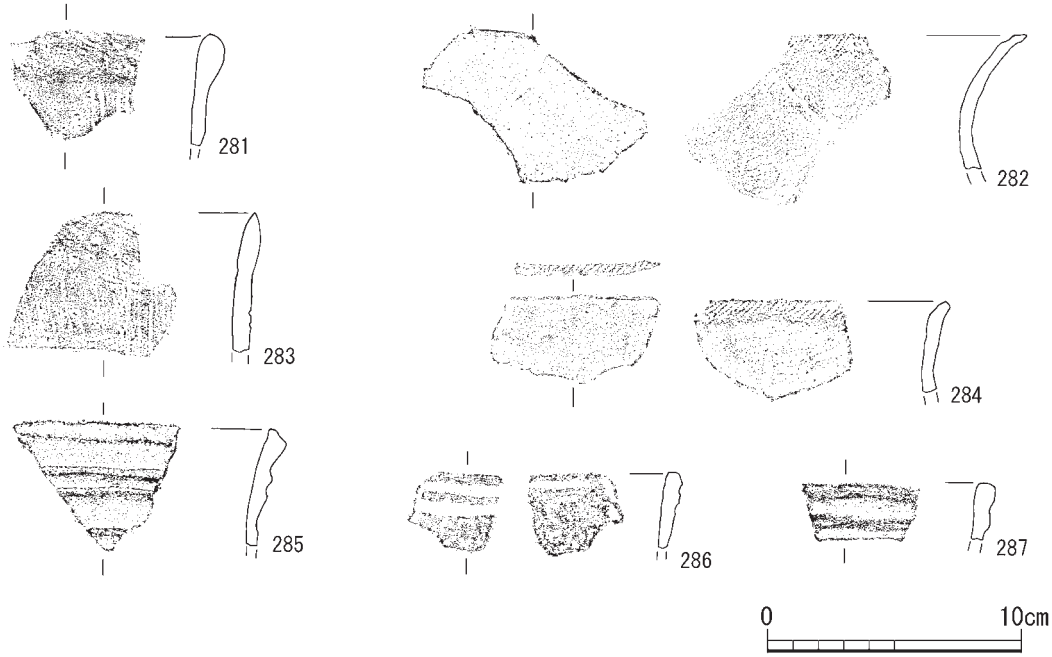
第28図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（８）



第29図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（９）



第30図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(10)



第31図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(11)

る。これ以外に図化できる遺物は見当たらなかった。

竪穴式住居跡ＳＨ107(第33図)　332・333は角閃石を含む特徴的な胎土を持つ土器の底部である。332は浅鉢底部と考えられる。縄文時代後期に属すものである。

竪穴式住居跡ＳＨ166(第33図)　331は凹線文土器の胴部で、元住吉山式土器と考えられる。

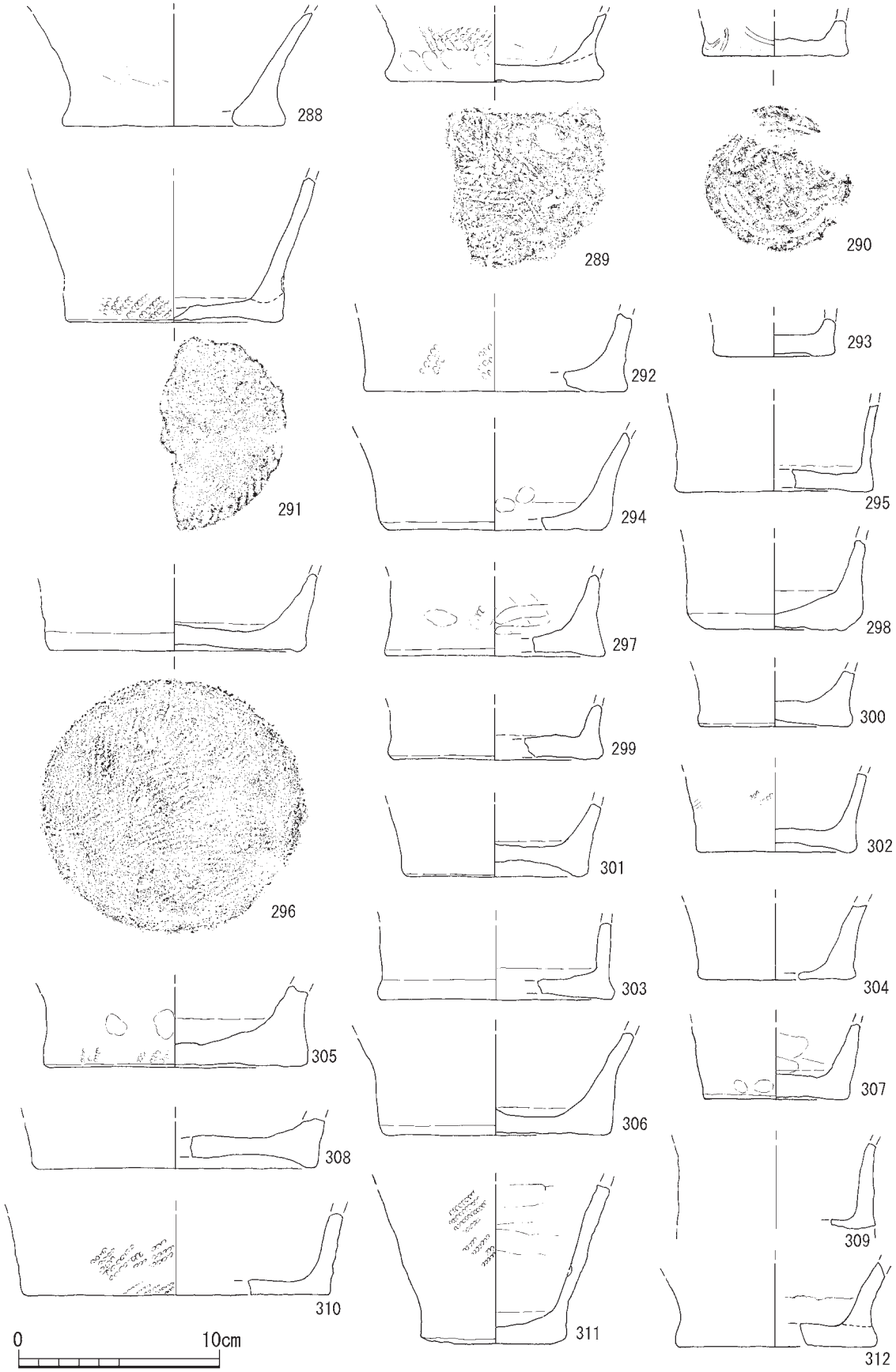
崖ＳＸ199(第34～44図)　この遺構からは北白川上層式の土器がまとまって出土した。土器群から北白川上層式２期の新相、３期の古層に位置づけられるが、ここでは３期として名称を用いている。

334～341は北白川上層式３期の波状口縁を持つ有文深鉢である。334は頸部に垂直方向の多条の沈線が施されている。336は小片で傾きがわからないが、334・346と同じような形態の個体と考えられる。340は頸部の遺存状態がよく突起部は４か所に復元できる。342は口縁を外側に折り曲げた土器で有文深鉢に分類したが、内面が平滑に仕上げられている浅鉢の可能性もある。343は頸部の残りが悪く口縁部形状の復元が難しいが、波状口縁を持つ有文深鉢であった可能性が高い。口縁内面はわずかに肥厚し、端面に沈線２条が施文される。

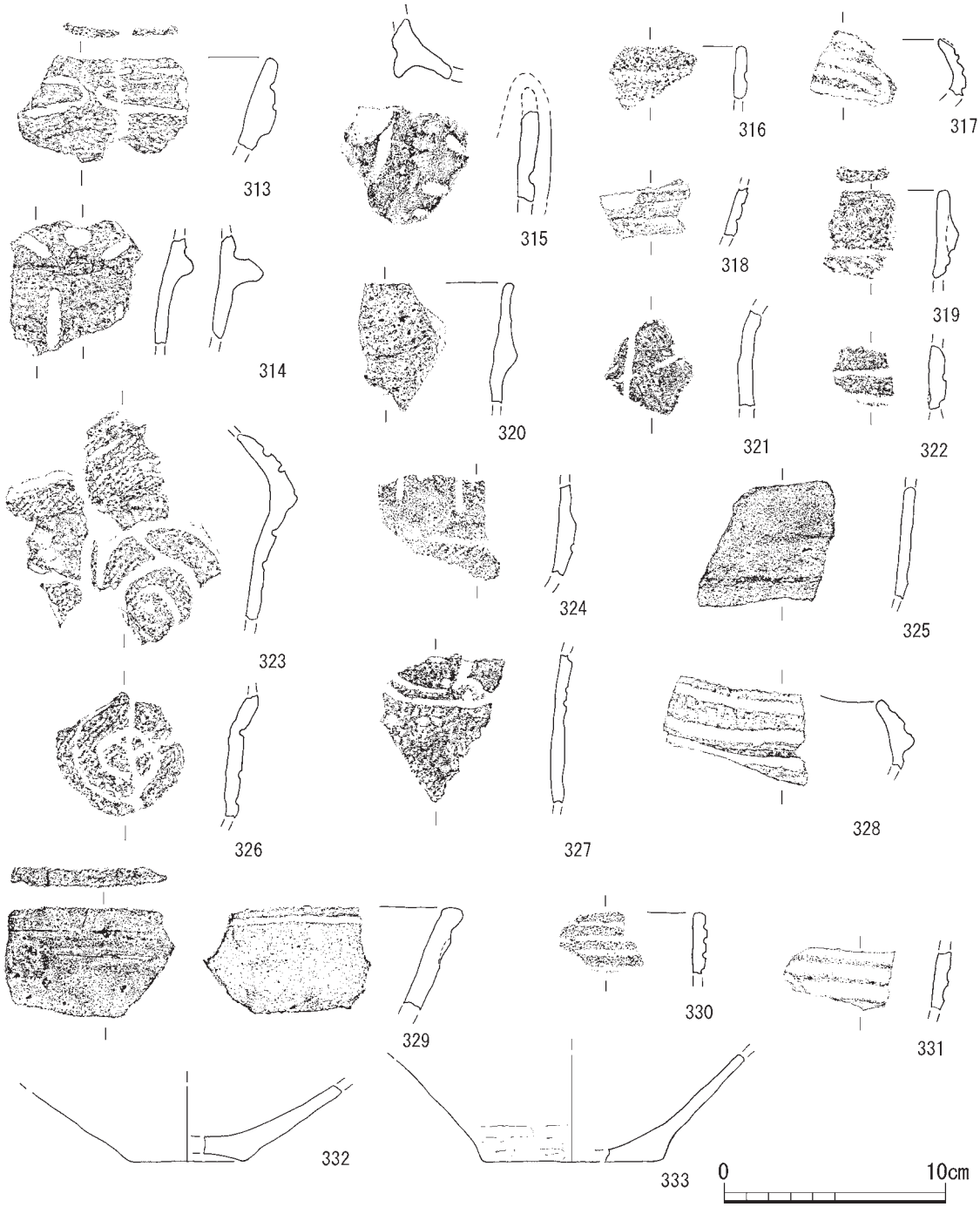
344は口縁内外面に沈線を入れ、段状に形状を整えた有文深鉢口縁部である。345・347～362は口縁口唇部外面、内面あるいはその両方に縄文が施された平縁の深鉢である。

363・364・367～375は沈線が口縁口唇部内面を回る平縁有文深鉢である。377～380は無文粗製深鉢である。379は口縁端面にキザミが施されている。

381～390・414は堀之内式土器の影響を受けたバケツ形の胴部を持つ有文深鉢である。変容が大きいことから北白川上層式３期として特に観察表では別の型式として区分しなかった。387～390は器表面に横方向の沈線が多条に認められる。390は387・388に見られるように密接した多条の沈線が回るものであるが、やや内湾することから浅鉢の可能性も否定できない。391～393は



第32図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器(12)

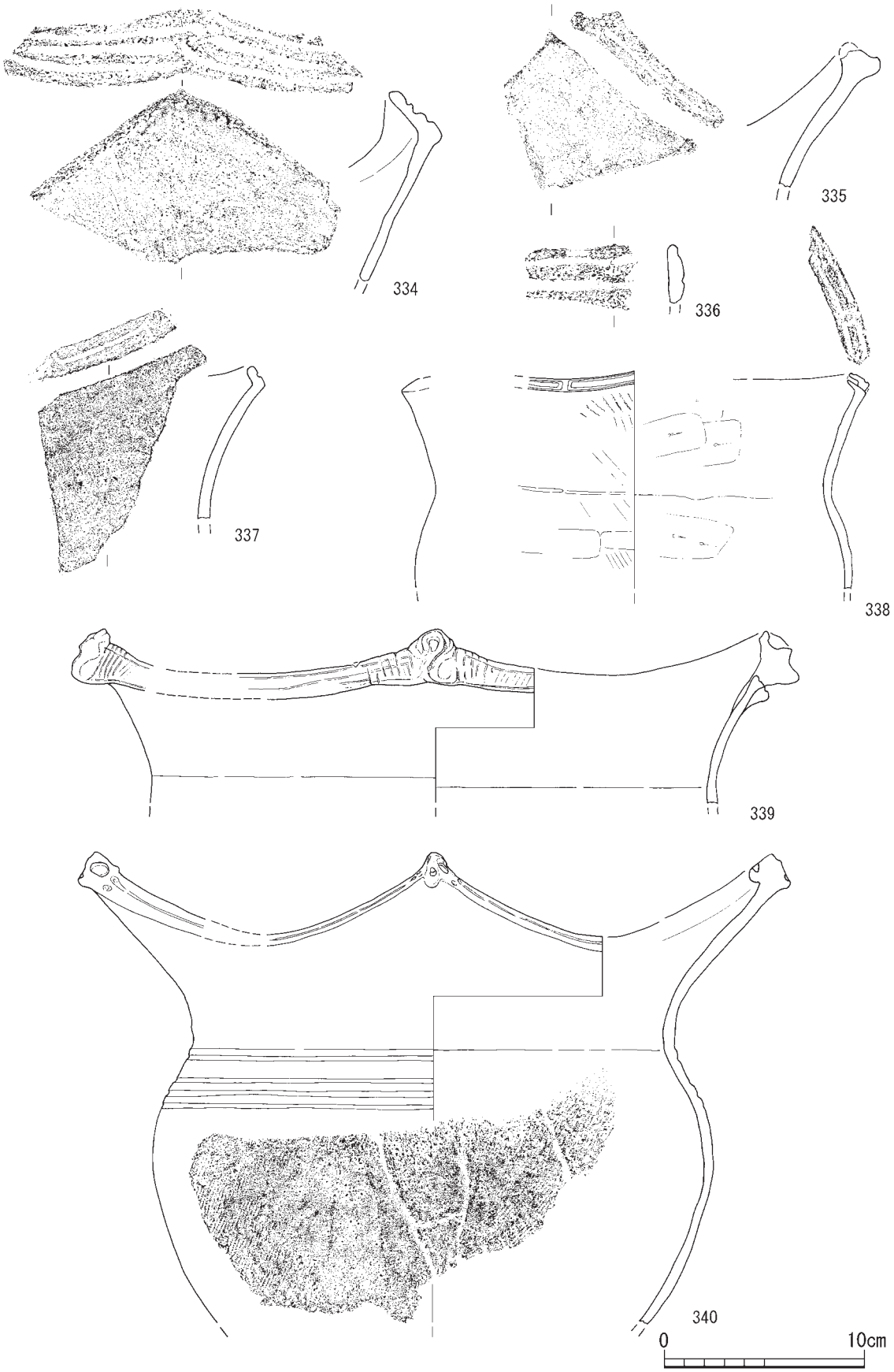


第33図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ78・85・107・16 6 出土縄文土器

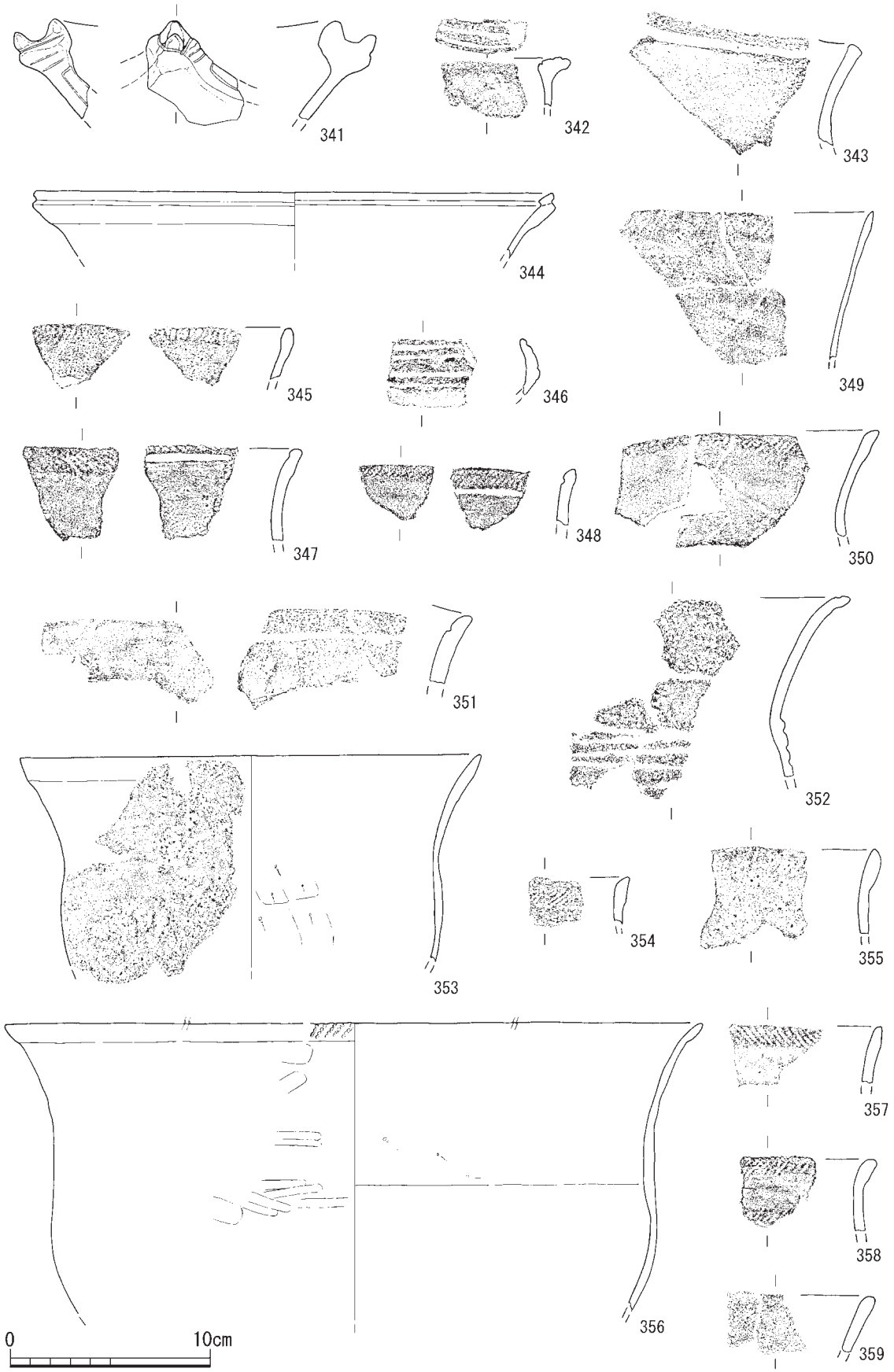
口縁端部が丸く収まる深鉢口縁部に付けられた突起部である。394は長い頸部を持つ深鉢の頸部及び胴部である。396 ・400・401は同一個体である可能性が高い。

407 ～ 428・430は北白川上層式３期の有文深鉢胴部である。429は縄文の施された無文深鉢の胴部である。423 ～ 428・430は細い多条の沈線が垂直方向に施される。410は状態が悪く凹線文土器の可能性もある。

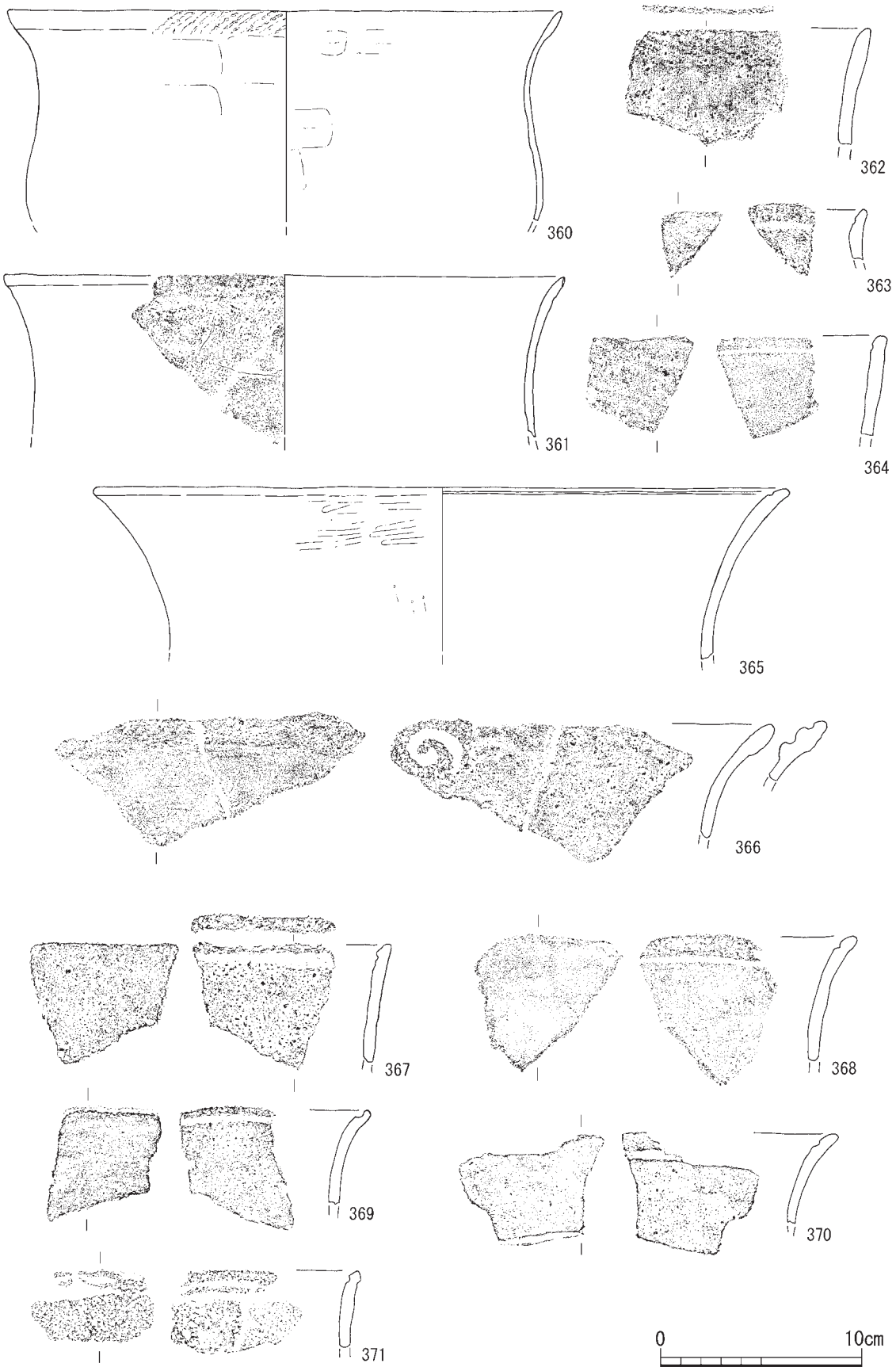
431・432は頸部から胴部において沈線が回る有文浅鉢である。433は口縁部が垂直で胴部にかけてやや広がる無文浅鉢である。434は口縁が開く有文浅鉢の口縁部である。435は多条の沈線が



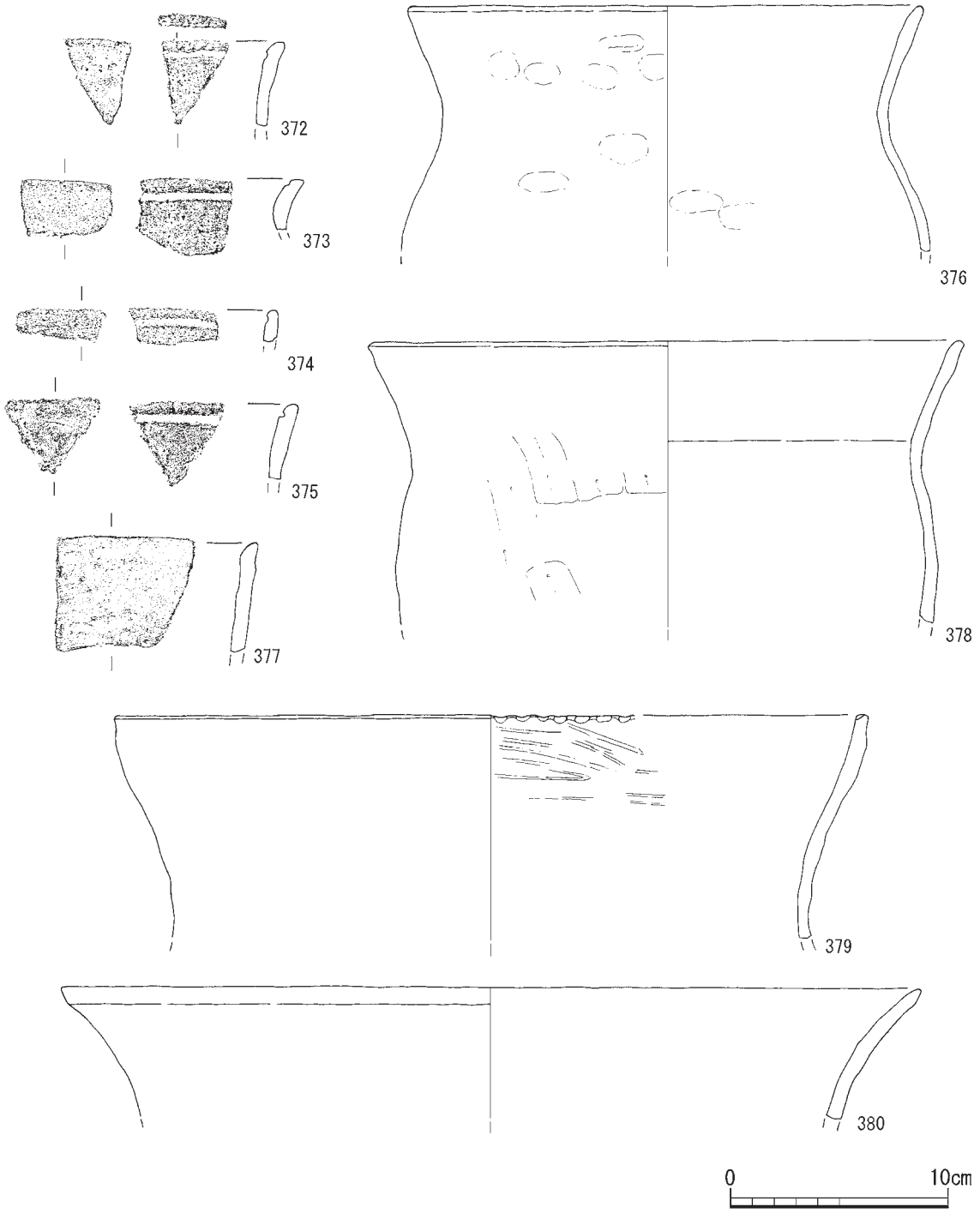
第34図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（１）



第35図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（２）

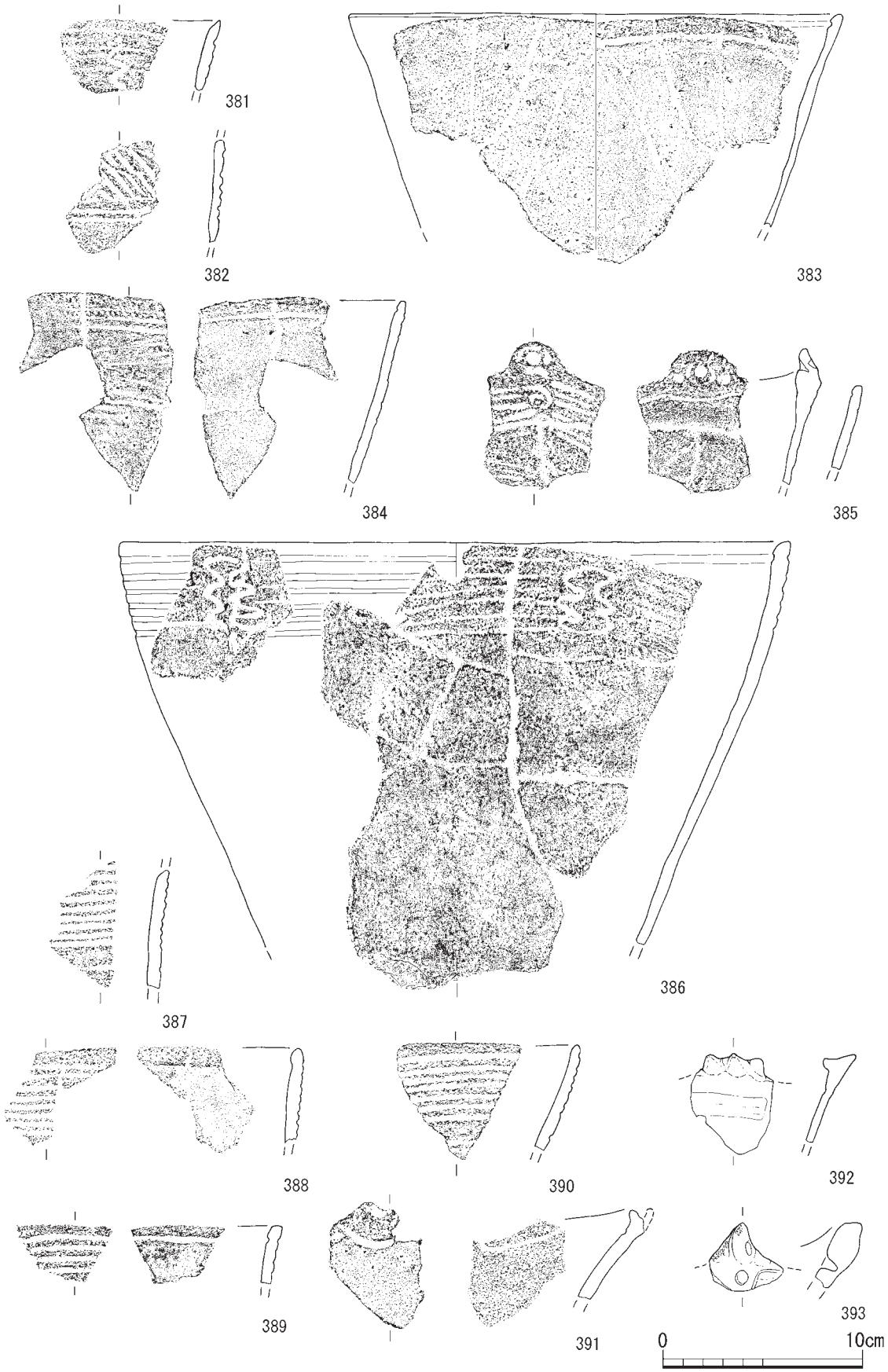


第36 図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器３）

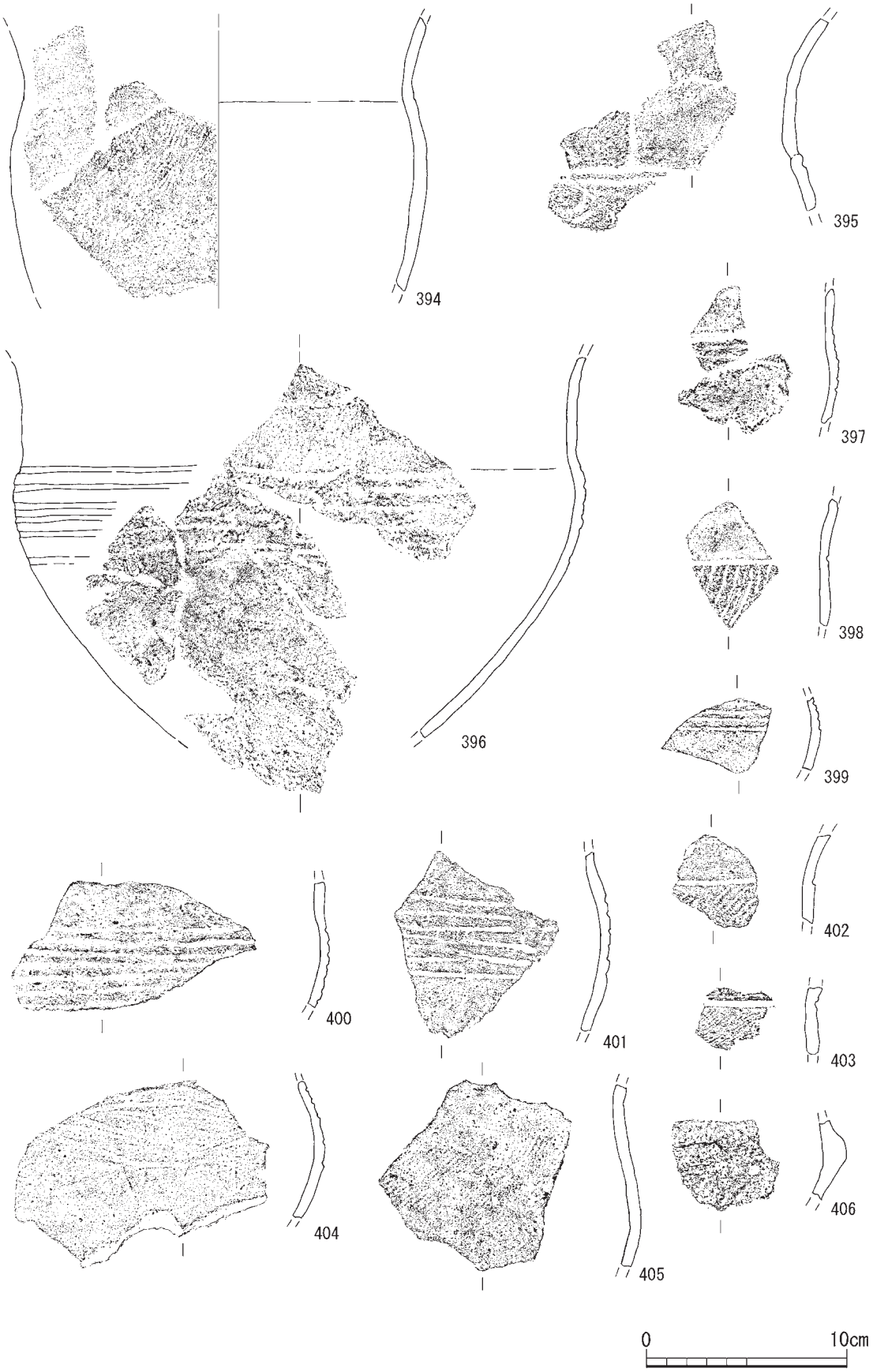


第37図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（４）

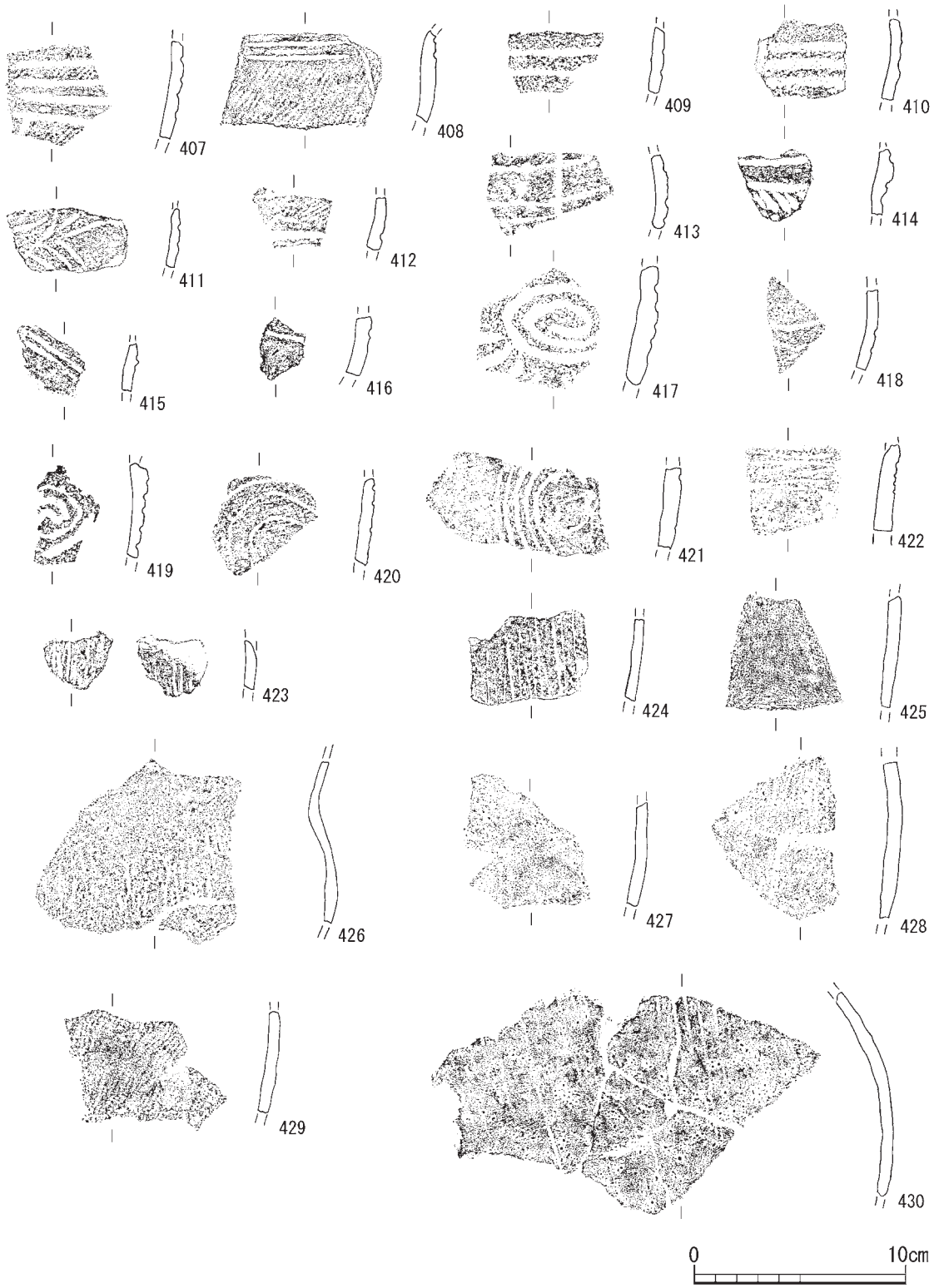
回る有文浅鉢である。436 ～ 439は無文浅鉢である。440 ～ 443は丸胴部を持つ浅鉢で、胴部に縄文が施文される。444は無文の浅鉢である。445は口縁部内面を肥厚させ沈線文を施した有文浅鉢である。446 は口縁内面に沈線と押し刺突によって施文された有文浅鉢である。447は内外面が沈線で施文された有文浅鉢である。448は口縁外面に沈線文が施された有文浅鉢である。449は内面に沈線と刺突文が施された有文浅鉢である。450・452は口縁外面に沈線がめぐる有文浅鉢である。451は口縁内面の１か所に短い粘土紐が付けられた有文浅鉢である。453 ～ 456 は無文の浅鉢



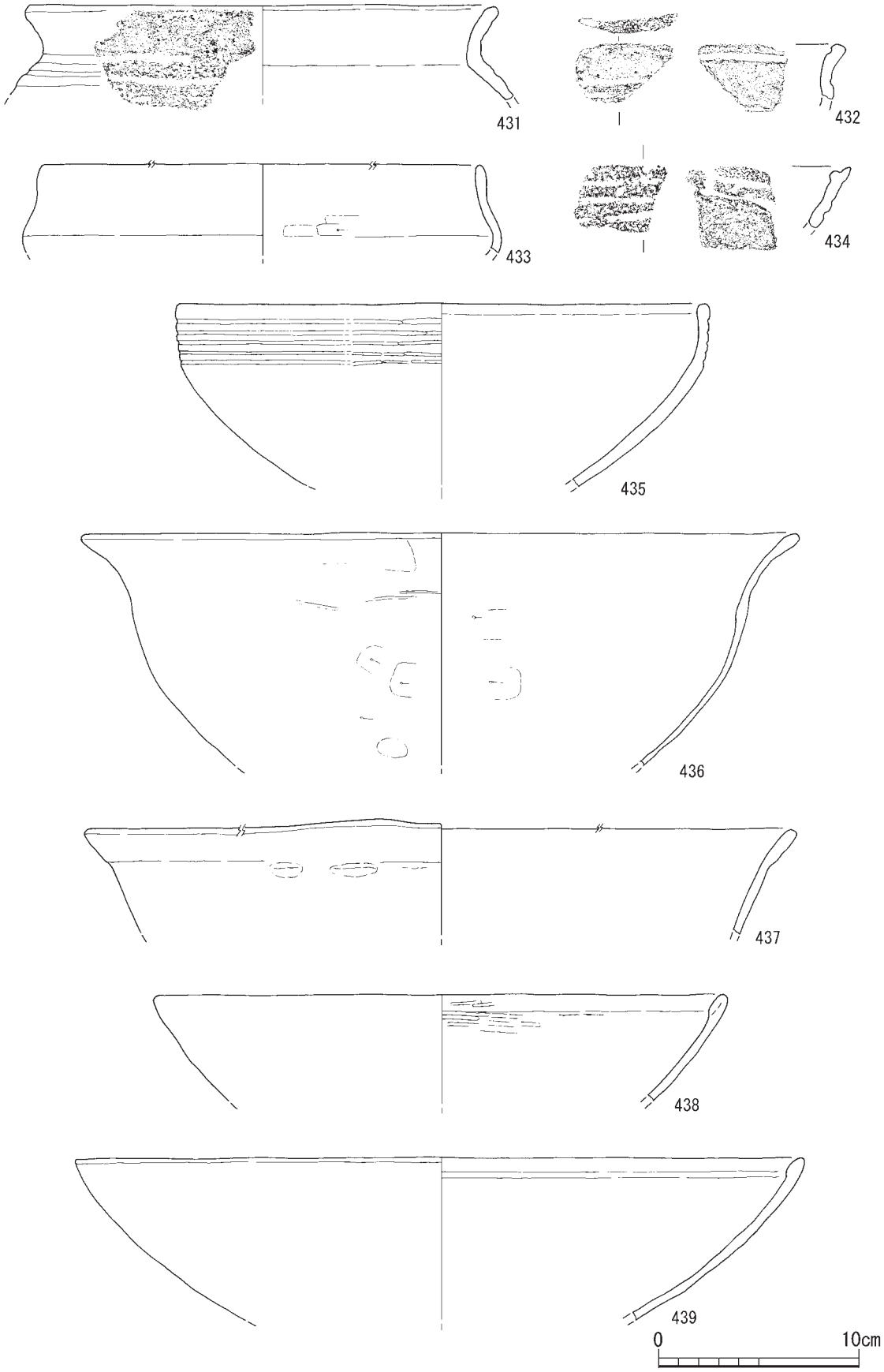
第38図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（５）



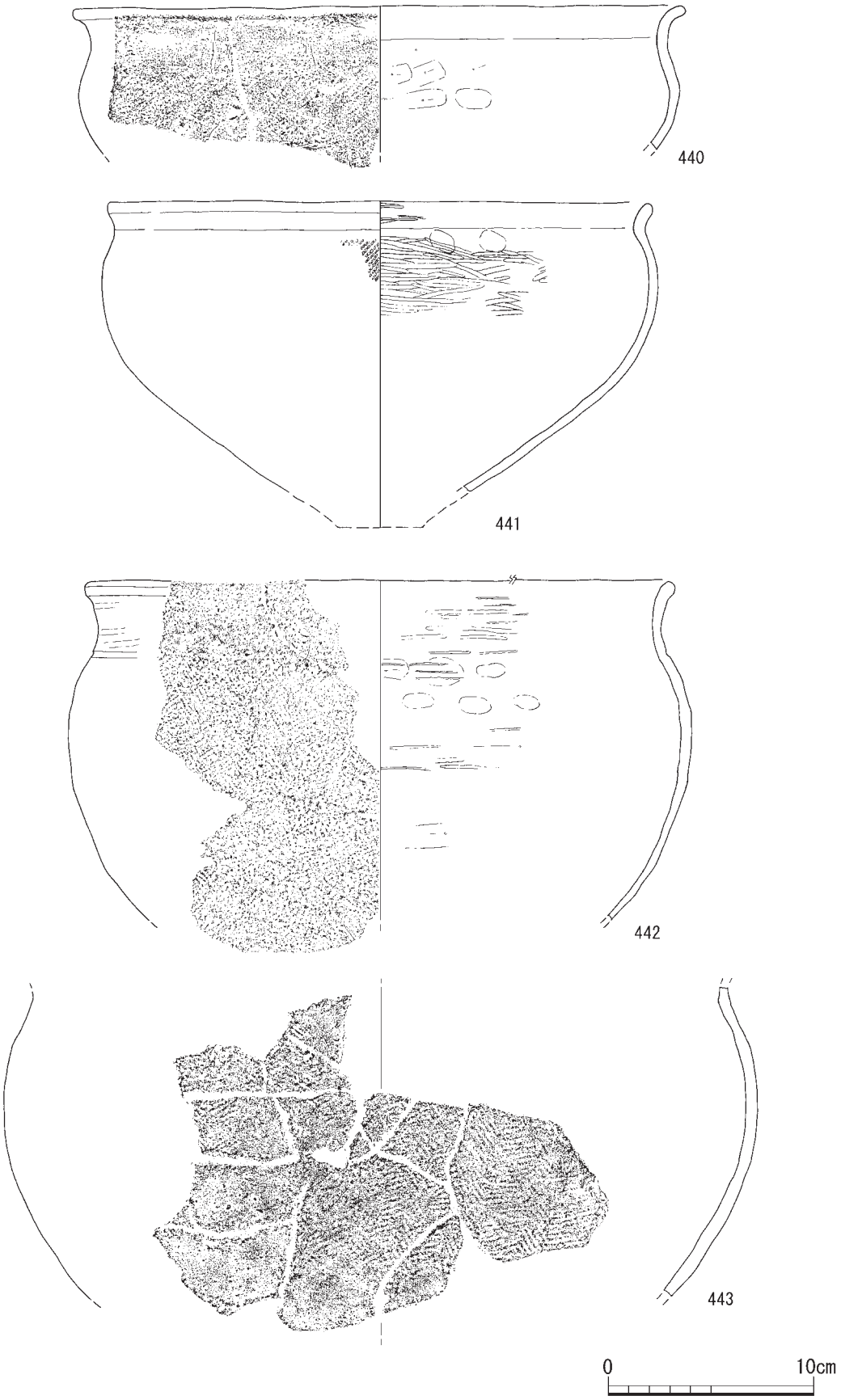
第39図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（６）



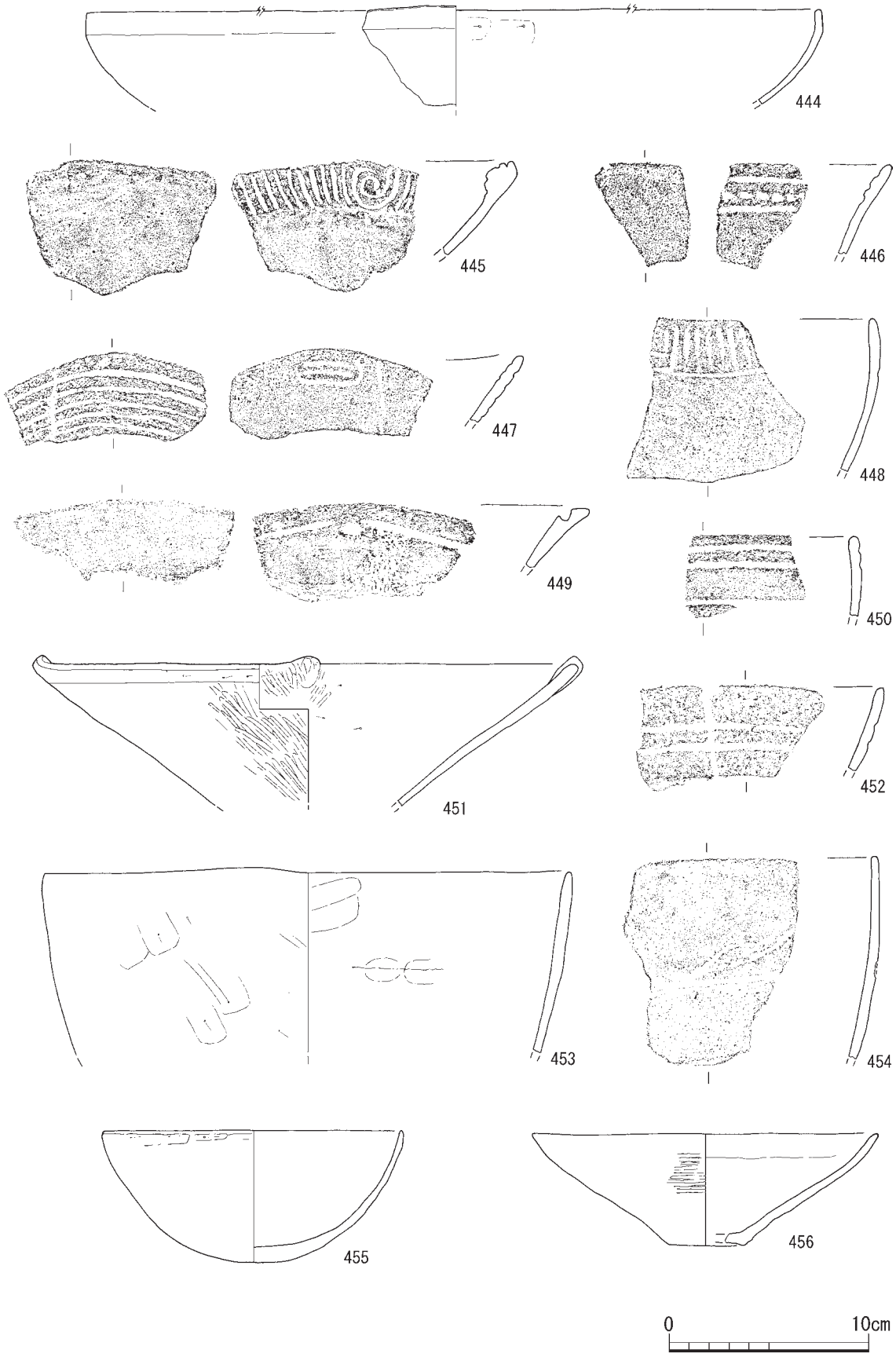
第40図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（７）



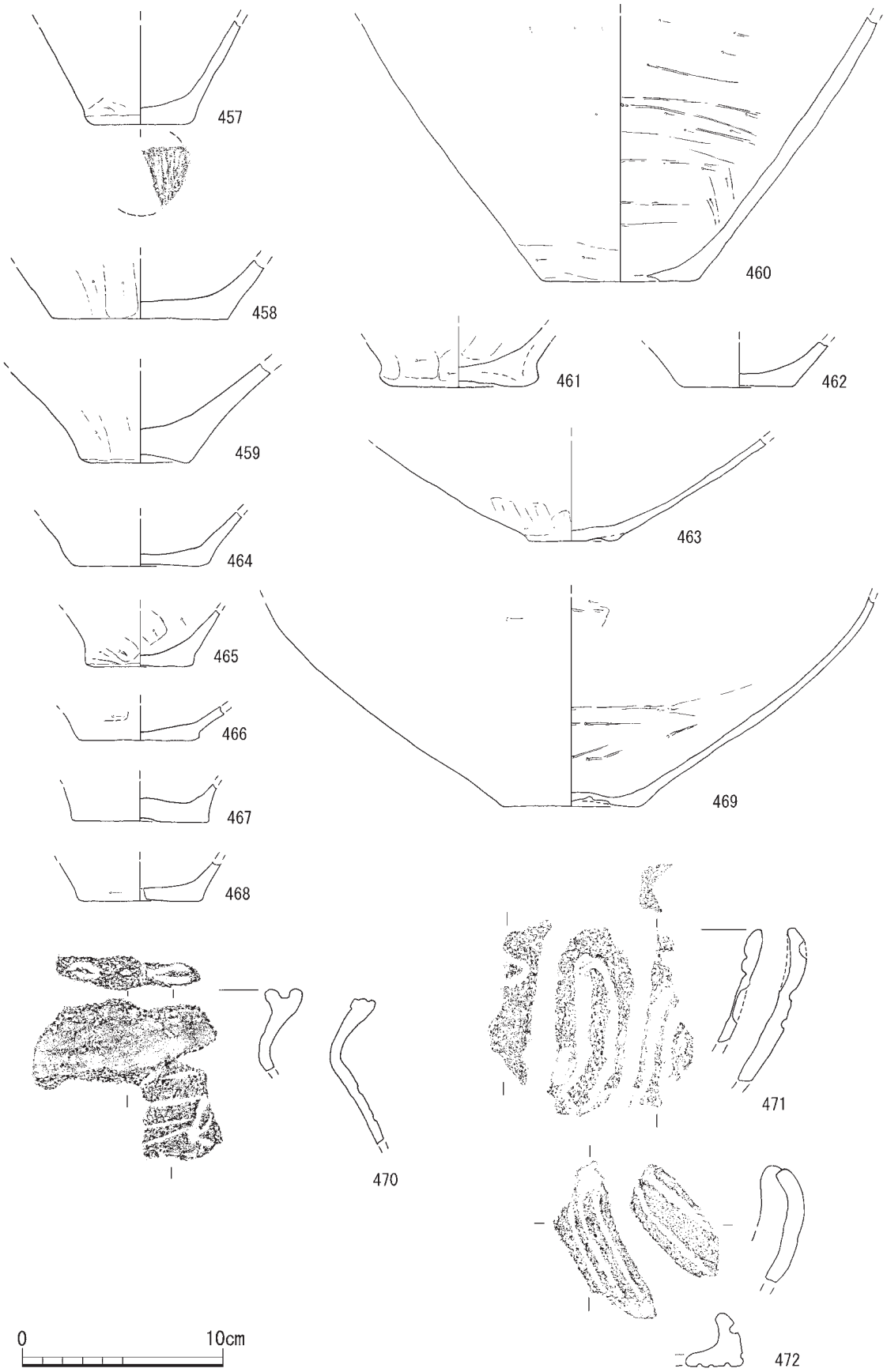
第41図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（８）



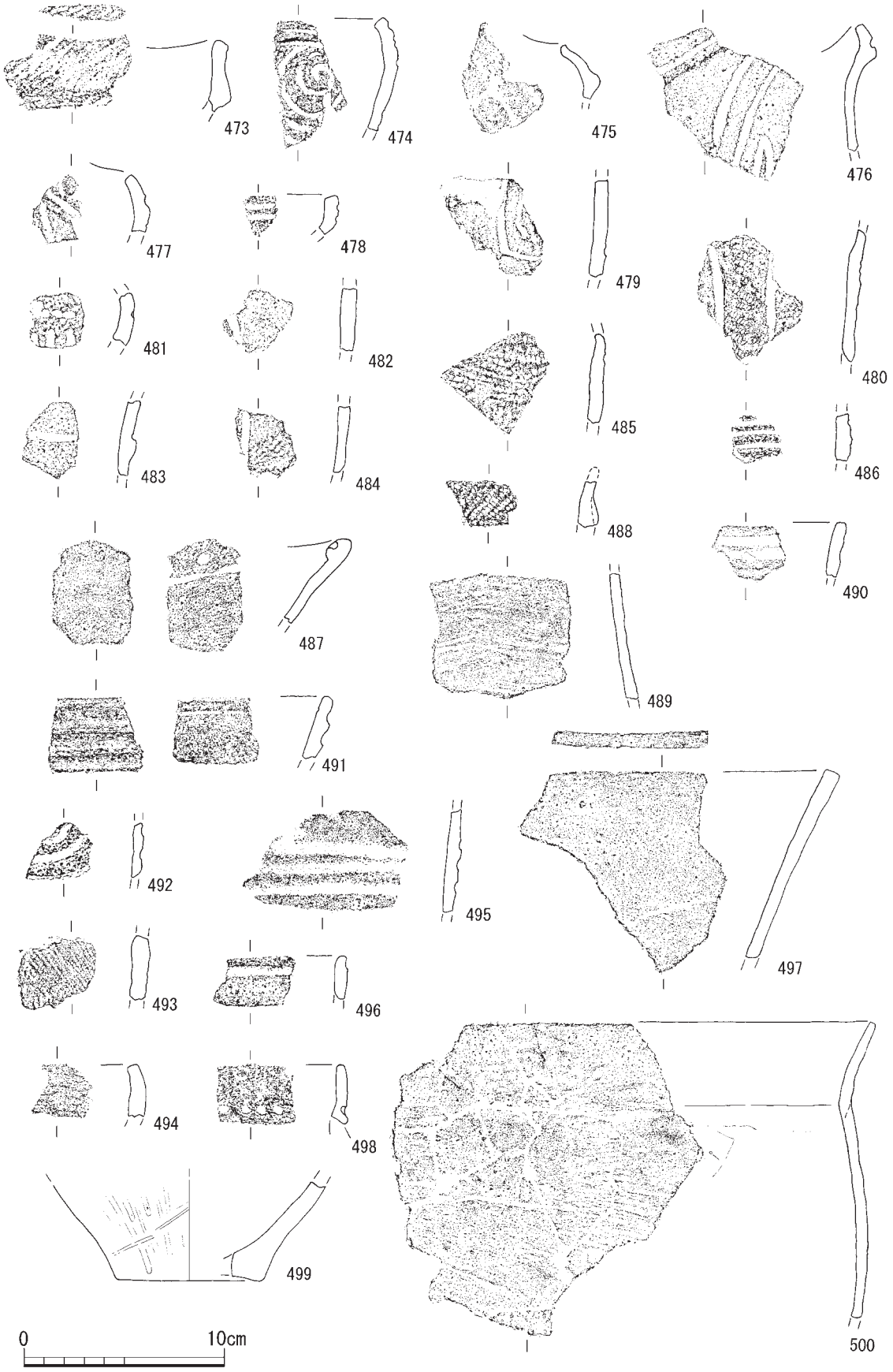
第42図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器（９）



第43図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器(10)



第44図　長岡京跡右京第988次調査　崖ＳＸ199出土縄文土器(11)



第45図　長岡京跡右京第988次調査　土坑出土縄文土器（1）

である。

457～469は縄文土器底部である。457・460は深鉢底部で、463・469は浅鉢底部に特定できる。

470は縄文時代後期前葉の四ツ池式土器有文深鉢である。磨滅のため器表面の状態が非常に悪い。471・472は中期末の北白川Ｃ式土器の波状口縁を持つ有文深鉢突起部である。

土坑ＳＫ08（第45図）　473は北白川Ｃ式土器の口縁部が肥厚する平縁の無文深鉢である。

土坑ＳＫ10（第45図）　474～485は北白川Ｃ式土器の深鉢片である。485以外はすべて有文である。476は波状口縁を持つ個体である。

土坑ＳＫ15（第45図）　487は北白川上層式土器の有文浅鉢である。

土坑ＳＫ22（第45図）　486は北白川上層式土器の堀之内系有文深鉢胴部である。

土坑ＳＫ25（第45図）　488は北白川Ｃ式土器の口縁部が肥厚する平縁の無文深鉢である。

土坑ＳＫ27（第45図）　489は器表面に条痕が残る無文土器で、縄文時代後期後葉と考えられる。

土坑ＳＫ32（第45図）　490は凹線文土器の口縁部である。

土坑ＳＫ44（第45図）　492・493はいずれも北白川Ｃ式土器の深鉢で、492は沈線文が施される。

土坑ＳＫ71（第45図）　491・494～497はいずれも後期後葉の凹線文土器である。元住吉山式土器と考えられる。

土坑ＳＫ73（第45・46図）　499～502はいずれも無文の深鉢で、縄文時代晩期滋賀里Ⅲ式土器である。この時期の遺構はＳＫ73のみである。

土坑ＳＫ75（第46図）503は北白川Ｃ式土器の有文深鉢である。

土坑ＳＫ76（第45図）　498は北白川Ｃ式土器の平縁有文深鉢口縁部である。

土坑ＳＫ90（第46図）504～507は北白川Ｃ式土器の有文深鉢である。

土坑ＳＫ91（第46図）　508・509は凹線文土器の深鉢である。508は貝殻の扇状圧痕と凹線が確認できる。

土坑ＳＫ122（第46図）　510・511・515は北白川Ｃ式土器である。510は縄文が外面全面に施された無文の浅鉢である。511・515は有文深鉢胴部である。

土坑ＳＫ124（第46図）　512は縄文時代後期後葉の深鉢である。514・516～524は北白川Ｃ式土器である。

土坑ＳＫ136（第47図）　525は北白川Ｃ式土器の有文深鉢胴部である。

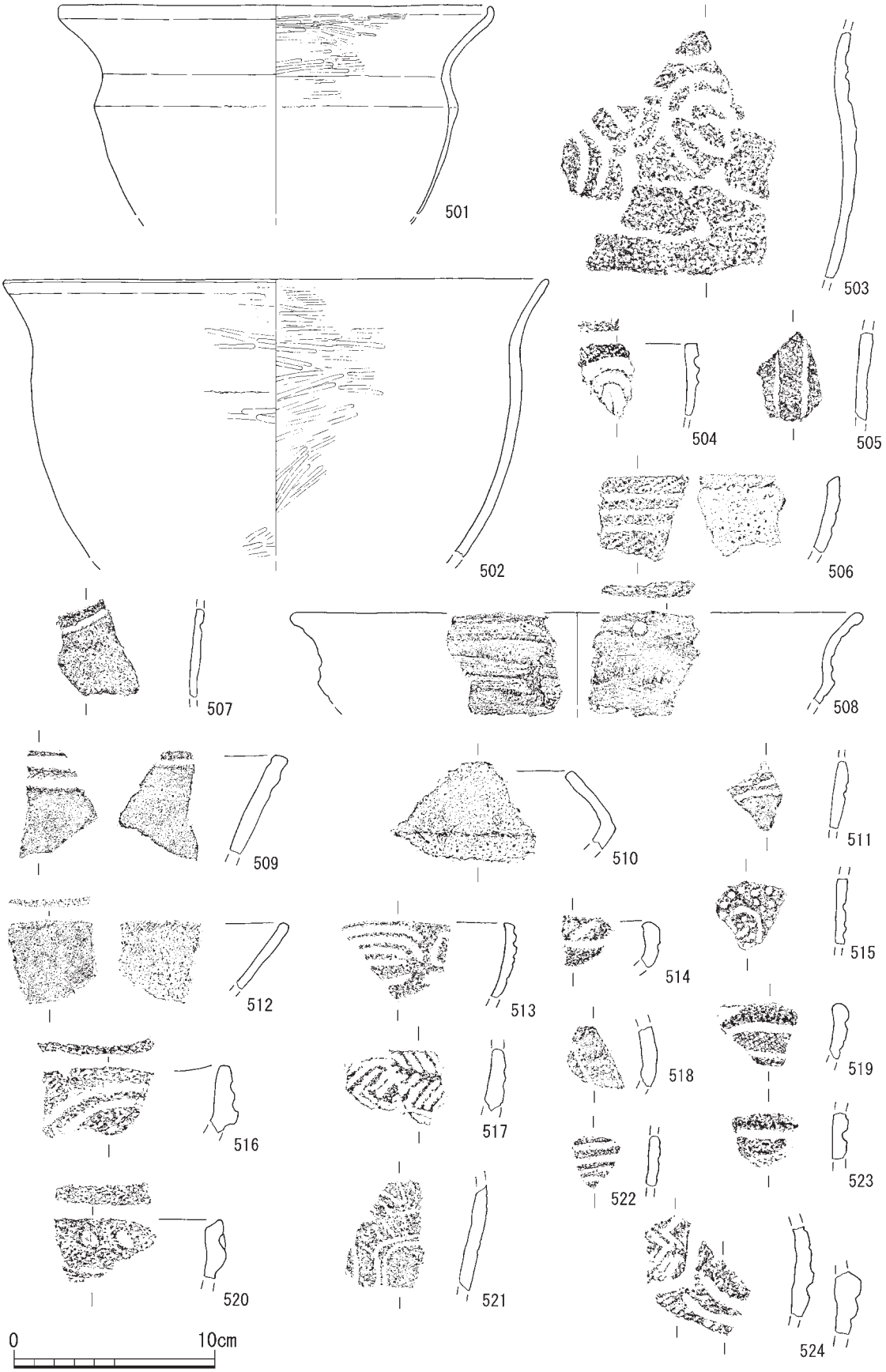
土坑ＳＫ146（第47図）　526～551は北白川Ｃ式土器である。528・529・530は波状口縁をもつ有文深鉢である。527は端面に縄文が施された浅鉢口縁部である。531・534は平縁の深鉢である。537は口縁屈曲部に凹点を連続して施文した有文深鉢である。532・533・535・536・538～543・545～550は有文深鉢の胴部である。544・551は深鉢の底部である。

土坑ＳＫ162（第48図）　552～557は北白川Ｃ式土器の深鉢である。557は波状口縁を呈する。

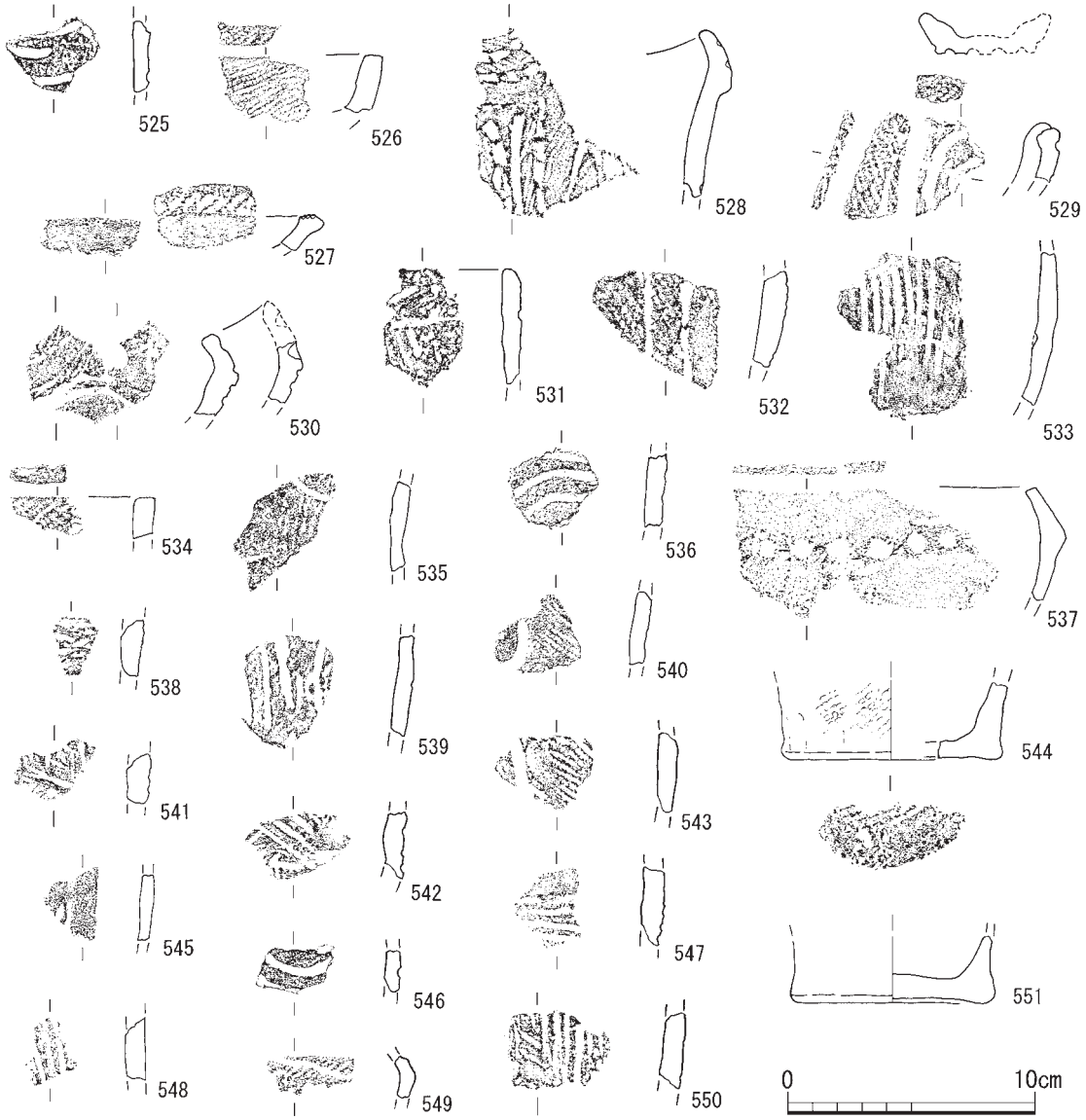
土坑ＳＫ181（第48図）　558は北白川Ｃ式土器の有文深鉢胴部である。

土坑ＳＫ194（第48図）　559は北白川Ｃ式土器の有文深鉢である。

土坑ＳＫ195（第48図）　560～562は北白川Ｃ式土器の有文深鉢である。



第46 図　長岡京跡右京第988次調査　土坑出土縄文土器（2）



第47図　長岡京跡右京第988次調査　土坑出土縄文土器（３）

土坑ＳＫ201（第48図）　56 3・56 6 ・56北白川Ｃ式土器である。56 3は高台状を呈し、大きく穿孔される。56 6 ・56 7は有文深鉢の口縁部である。

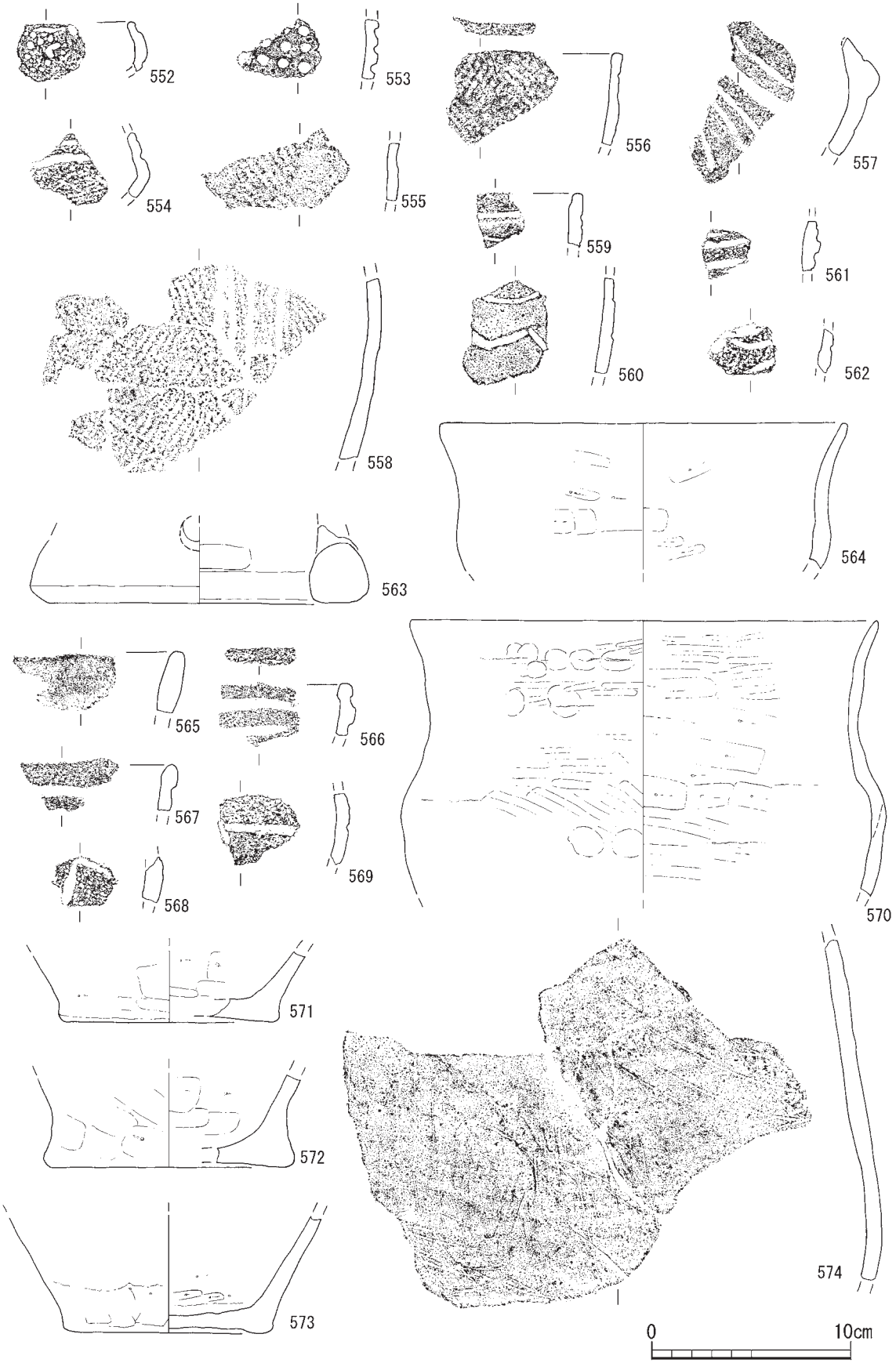
土坑ＳＫ202（第48図）　565は無文の深鉢口縁部である。569は有文深鉢の胴部である。574は北白川上層式土器の有文深鉢胴部である。

土坑ＳＫ203（第48図）　56 4・570～573はいずれも北白川上層式の無文土器である。

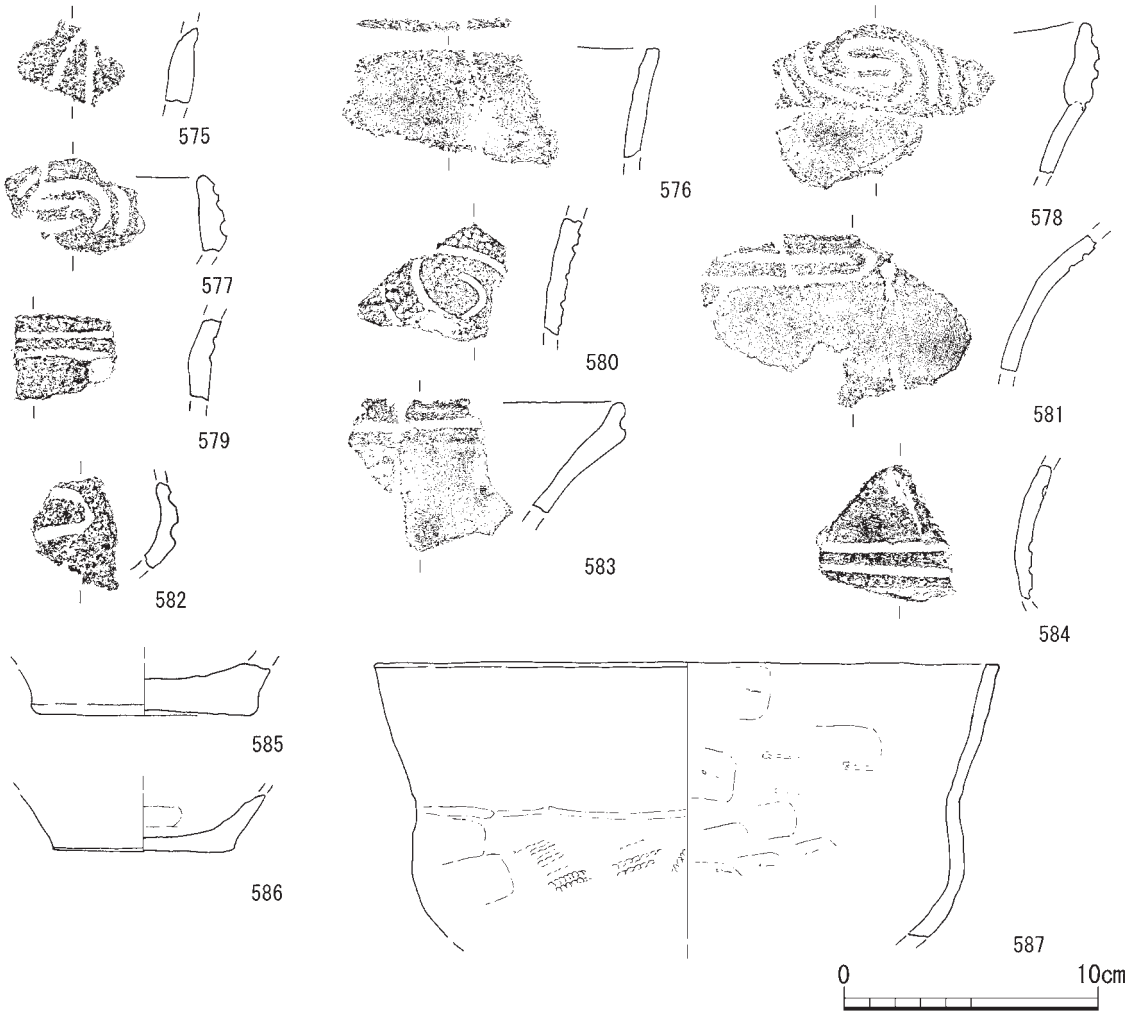
土坑ＳＫ204（第49図）　575・576 はいずれも北白川上層式の土器である。

土坑ＳＫ207（第49図）　577 ～ 587が出土した。580が北白川Ｃ式、その他が北白川上層式の土器である。

柱穴ＳＰ06（第50図）　588は北白川Ｃ式土器の有文深鉢である。589は北白川Ｃ式土器の無文深鉢である。



第48図　長岡京跡右京第988次調査　土坑出土縄文土器（4）



第49図　長岡京跡右京第988次調査　土坑出土縄文土器（５）

柱穴ＳＰ20（第50図）　590は北白川Ｃ式土器の波状口縁をもつ有文深鉢である。

柱穴ＳＰ21（第50図）　591は縄文後期の無文深鉢である。

柱穴ＳＰ24（第50図）　592は北白川Ｃ式土器の平縁有文深鉢である。593は北白川Ｃ式土器の無文浅鉢の口縁部である。

柱穴ＳＰ28（第50図）　594は凹線文土器の有文深鉢である。

柱穴ＳＰ66（第50図）　595 ～ 598は北白川Ｃ式土器の有文深鉢である。

柱穴ＳＰ74（第50図）　599は北白川Ｃ式土器の有文深鉢胴部である。

柱穴ＳＰ112（第50図）　6 00は北白川Ｃ式土器の有文深鉢頸部である。

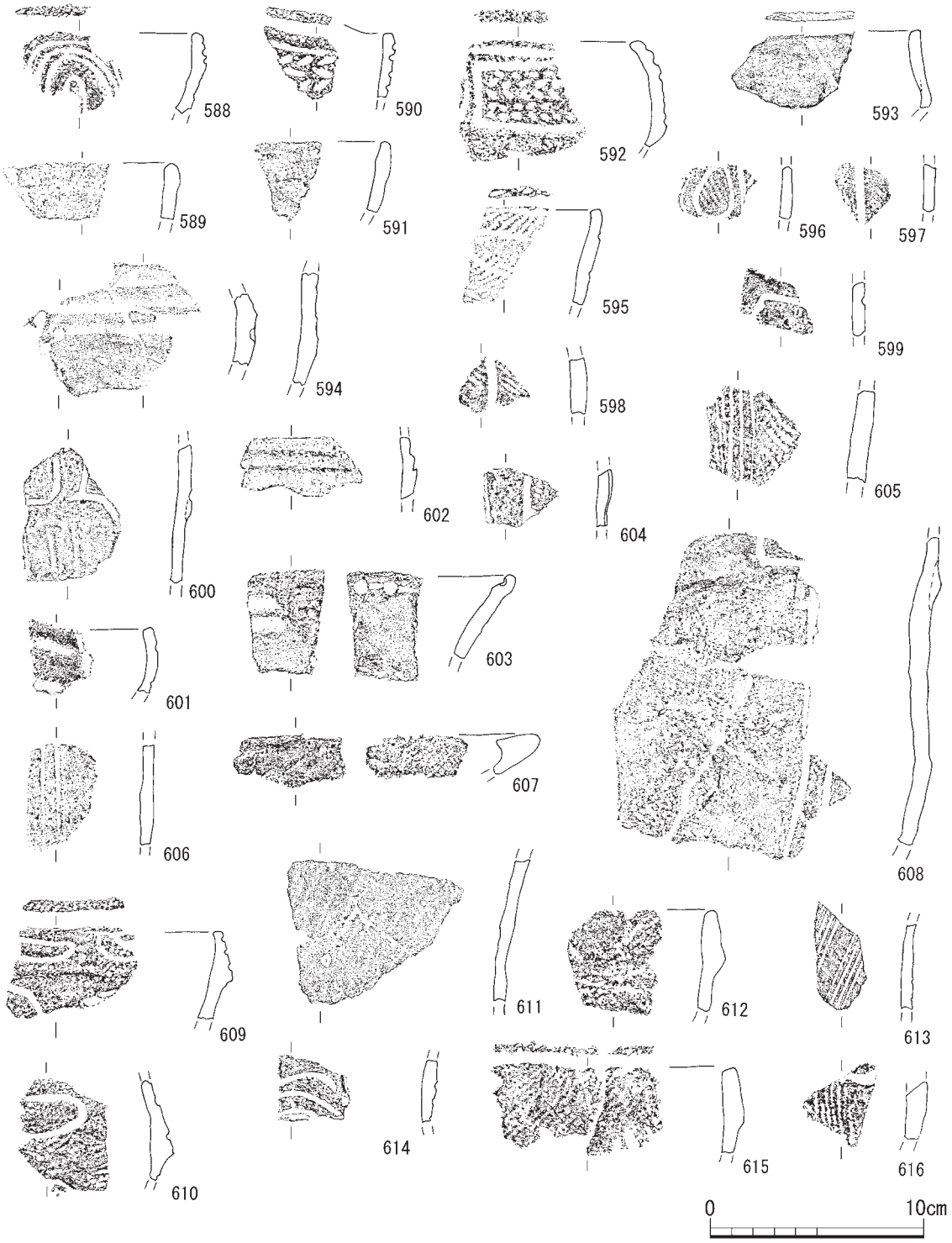
柱穴ＳＰ115（第50図）　6 01は北白川Ｃ式土器の有文深鉢口縁部である。

柱穴ＳＰ116（第50図）　6 06 は北白川Ｃ式土器の有文深鉢である。

柱穴ＳＰ120（第50図）　6 02・6 03・6 06は凹線文土器の元住吉山式土器である。6 02・6 03は有文深鉢で、6 07は無文浅鉢である。

柱穴ＳＰ128（第50図）　6 04・6 05・6 08は北白川Ｃ式土器の有文深鉢である。

柱穴ＳＰ129（第50図）　6 09・6 10は北白川Ｃ式土器の有文深鉢である。



第50図　長岡京跡右京第988次調査　柱穴出土縄文土器

柱穴ＳＰ130（第50図）　6 11は胎土に角閃石を含む無文深鉢胴部である。

柱穴ＳＰ135（第50図）　6 14は北白川C式土器の有文深鉢である。

柱穴ＳＰ137（第50図）　6 13は北白川上層式土器の堀之内系の有文深鉢胴部である。

柱穴ＳＰ149（第50図）　6 12は北白川C式土器の無文深鉢口縁部である。

柱穴ＳＰ150（第50図）　6 15は北白川C式土器の無文深鉢口縁部である。

柱穴ＳＰ151（第50図）　6 16 は北白川C式土器の有文深鉢胴部である。

２）石器・石製品

(1)玉類（第51図）　右京第988次調査４トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ166の埋土を洗浄選別して出てきた玉類である。玉は碧玉の一種である。617は扁平な円形に粗く加工した後、両面からの穿孔によって穴があけられている。約半分は欠損している。618は円形に粗く加工され、穿孔されている。穿孔方向は欠損のため不明である。6 19～6 21は扁平な円形に粗く加工された玉の一部で、穿孔等は欠損のため確認できない。622は扁平な円形に粗く加工した後、穿孔された玉である。穿孔方法は片面が欠損しているため不明であるが、片面の穿孔部が貫通していないことから未完成品であることがわかる。623は扁平な円形に粗く加工した後、両面から穿孔されているが、貫通していない。6 24は扁平な円形に粗く加工した後、両面から穿孔されるが貫通していない。

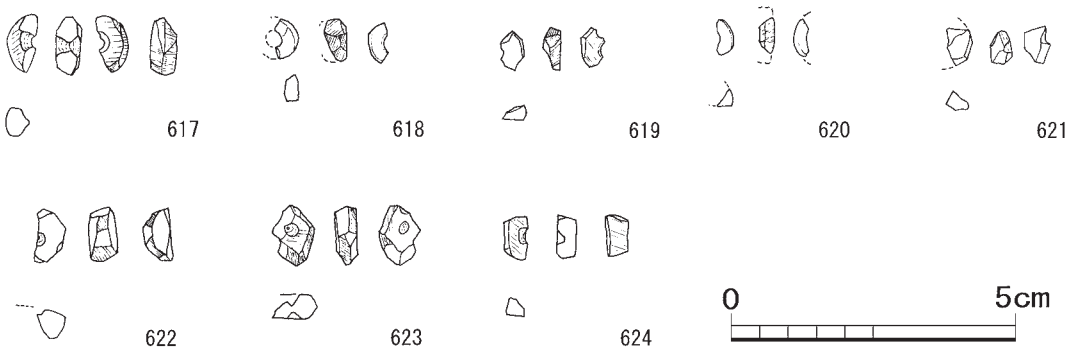
これらの玉は完成品がなく、一部製作時に出た砕片も出土していることから失敗品とみなすことができる。特に穿孔段階の破損品が多く穿孔工程にかかわる作業場が近くに存在した可能性が考えられる。

(2)打製石器（第52図）　625～630はサヌカイト製の凹基無茎の打製石鏃である。625は右京第988次調査１トレンチＳＨ89、6 26 ・6 29は右京第988次調査１トレンチＳＨ85、6 27・6 28・6 30は右京第988次調査４トレンチＳＨ16 6 から出土している。破損している石鏃もすべて破損面は他の風化面と変わらない。

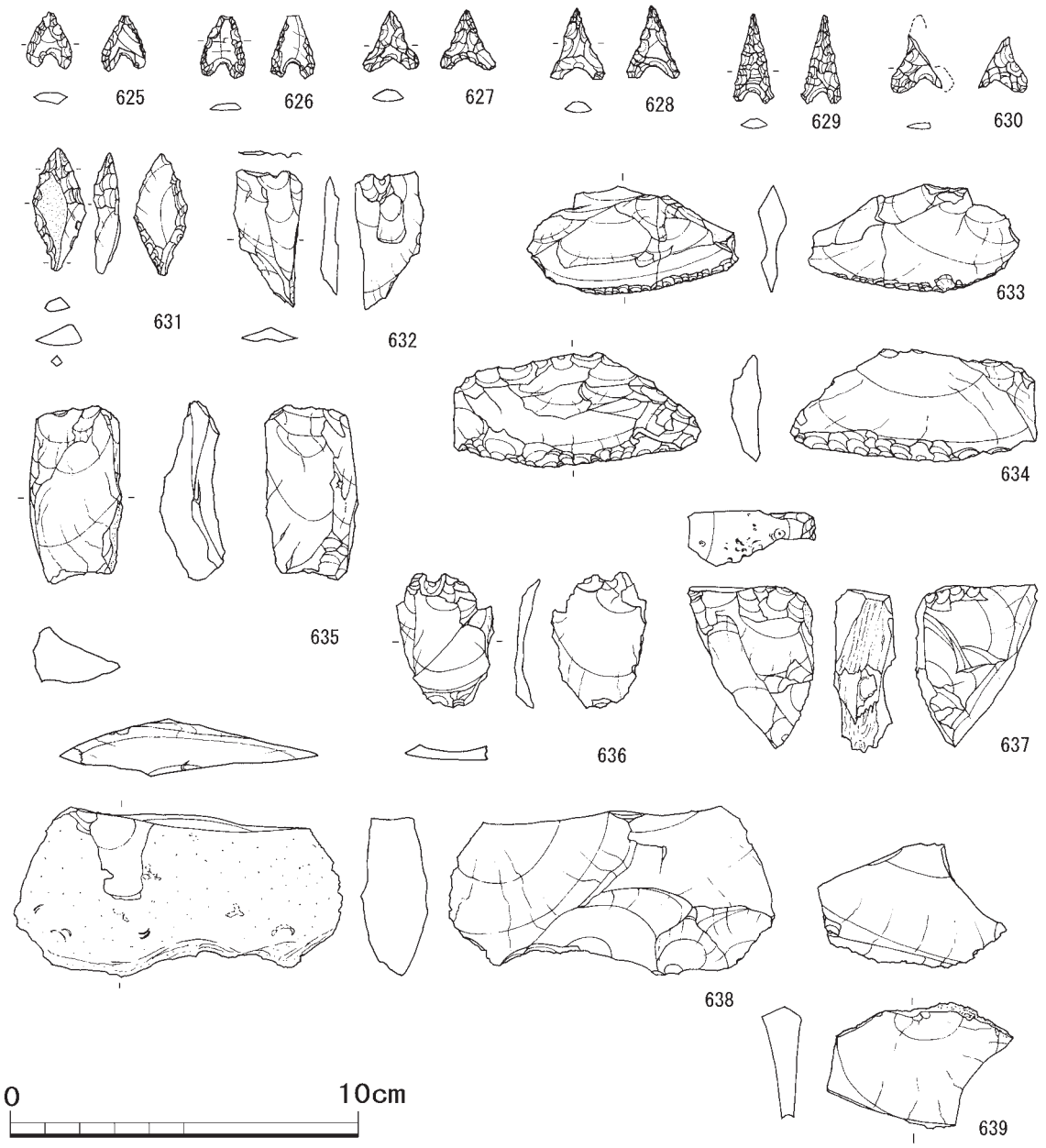
631は右京第988次調査４トレンチＳＨ166から出土しているサヌカイト製の石錐である。先端部には使用痕は認められないが、穿孔過程の玉類と共伴することは注目される。

6 32・6 36～6 37は右京第984次調査ＳＸ08で検出したサヌカイト製の石器である。6 32・6 36 は線状打面を持つ両極技法で作られた剝片である。638は打面縁にツブレが認められる楔形石器である。打面部には多くの打撃による痕跡が残されている。

6 33・6 34はサヌカイト製の削器である。両者ともに横長剝片を用い、その末端部に背腹両面から刃部加工がなされている。6 33は右京第988次調査１トレンチＳＨ85、6 34は右京第988次調査１



第51図　長岡京跡右京第988次調査　竪穴式住居跡ＳＨ16 6 出土玉類

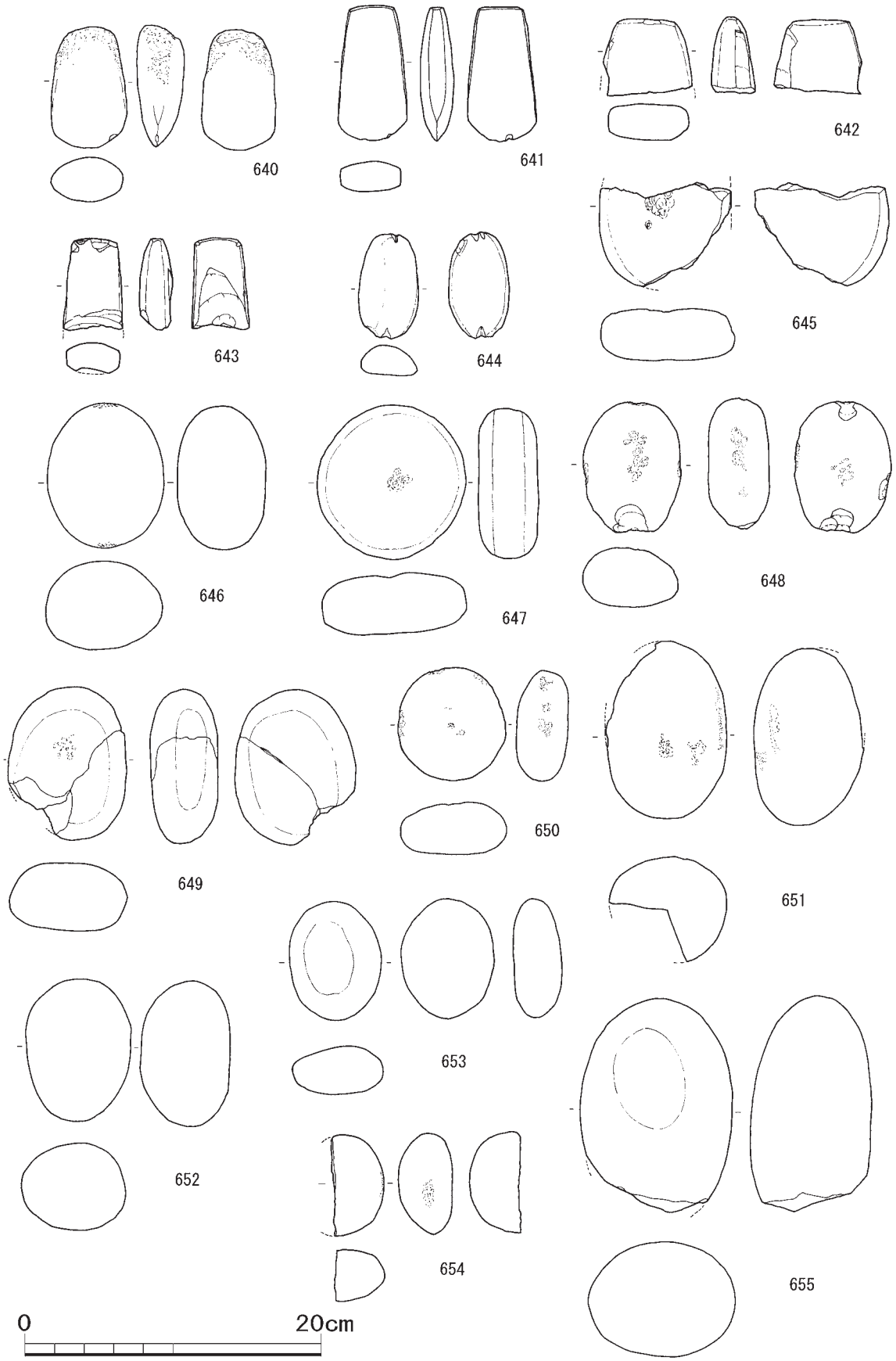


第52図　長岡京跡右京第984・988次調査　打製石器

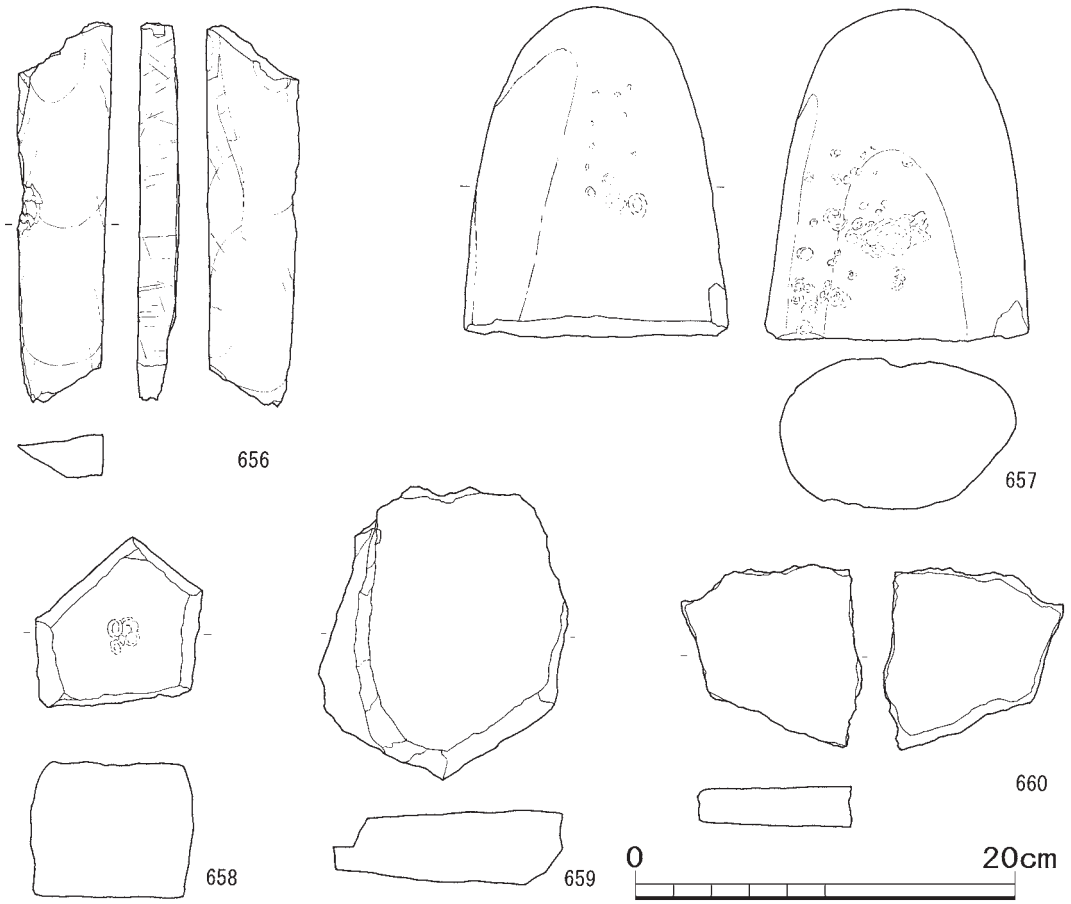
トレンチＳＨ89床面で検出したＳＰ131から出土している。635は右京第988次調査１トレンチＳＨ78出土のサヌカイト製楔形石器である。6 38・6 39は右京第988次調査１トレンチＳＸ199から出土した。638は大型のサヌカイト片で、折れ面が最終的な面である。この石器が今回の調査で出土したサヌカイトのうち包含層出土の石器を含めてもっとも大きなものである。639はサヌカイト製の横長剥片である。

(3)磨製石器及び礫石器（第53・54図）

6 40は右京第988次調査１トレンチＳＨ85で出土した、断面が楕円形を呈する緑色ヒン岩製の磨製石斧である。着柄部分は敲打痕が残されている。641・642は右京第988次調査１トレンチＳＨ89で出土した石斧である。641は刃部に一部欠損があるのみで完形品である。全面が磨製加工されている。石材は緑色の硬い岩石で粒状構造が認められる。6 42はヒン岩製の石斧の基部である。



第53図　長岡京跡右京第984・988次調査　石斧及び礫石器



第54図　長岡京跡右京第988次調査　礫石器

側面に残る剝離痕は刃部側からの力を受けたことを示している。6 43は右京第988次調査１トレンチＳＨ85出土のヒン岩製の石斧の基部で、前方からの衝撃によって破損したものと考えられる。

6 44は右京第988次調査４トレンチＳＫ16 9から出土した砂岩製の切り目石錘である。6 45は右京第984次調査ＳＸ08出土の凹石である。素材となる石材は角閃石を多く含んでいる。6 46 は右京第984次調査ＳＫ14出土の花崗岩製の敲石である。647は右京第988次調査１トレンチ包含層出土の石英質砂岩製の凹石である。6 48は右京第988次調査３トレンチＳＫ08から出土した石英質砂岩製の敲石である。649は右京第988次調査１トレンチＳＨ89から出土した砂岩製の磨石である。650は右京第988次調査１トレンチＳＸ199出土の石英質の岩石を用いた敲石である。6 51は右京第988次調査１トレンチＳＨ89から出土した敲石である。石質は不明であるが周辺では産出しない石材である。6 52は右京第988次調査１トレンチＳＨ89から出土した磨石で、石材は不明であるが角閃石を含む。653は右京第988次調査１トレンチＳＸ199出土の砂岩製の磨石で、図面上端部が前面に渡り赤く変色する。6 54は右京第988次調査１トレンチＳＸ199出土の石英製の敲石である。6 55は右京第984次調査ＳＸ08から出土した砂岩製の礫で、一部に磨かれた部分を持つ。6 56 は右京第988次調査１トレンチＳＨ89から出土した粘板岩である。自然面上には軸に直行する方向に線状痕が認められる。657は右京第988次調査１トレンチＳＫ159から出土した砂岩製の台石で、敲打痕や研磨痕が認められる。658は右京第988次調査１トレンチＳＨ85出土のヒン岩製の台石である。

６59・６６０は右京第988次調査１トレンチSＸ199から出土した板状に割れる緻密な岩石を使用した石皿である。中部地方で言う鉄平石の可能性がある。

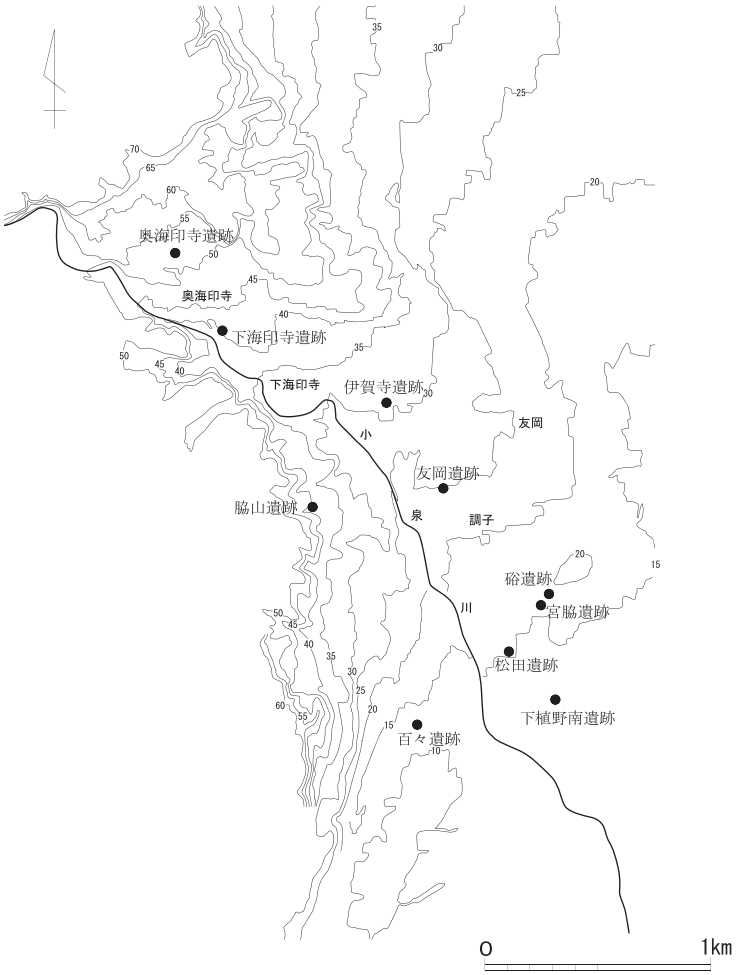
５．小泉川流域の縄文集落の変遷

１）はじめに

京都府南部における縄文時代研究は大正12年に発見された北白川追分町遺跡に始まる。乙訓地域では大枝遺跡や下海印寺遺跡の調査が研究の黎明期にあたる。下海印寺遺跡は1971年に発見され、1976 年に初めて発掘調査が実施され 京都における代表的な縄文時代遺跡として知られるようになった。

下海印寺遺跡に隣接した小泉川は、西山山塊に源を発する淀川支流の小河川である。川の両岸には段丘が発達し、特に左岸には広い段丘面が広がっている。また、川の流れる地域は大阪層群の固い粘土層が基盤になっており、河川による基盤層の掘り込みが顕著でなく、現在の氾濫原の地表下２～３ｍで基盤層に到達する。下海印寺遺跡はこの小泉川左岸の低位段丘上に立地している。

平成15年度から始まった京都第二外環状道路の建設に伴う発掘調査によって、小泉川左岸の発掘調査が密に実施されることになった。その結果、段丘のあり方や、新たな縄文時代遺跡の発見があり、これまでの周辺の調査と合わせて多くのことが明らかになってきた。特に遺跡の消長や立地の変遷が分かってきている。縄文時代の遺構・遺物が発見されている場所ごとに地形の状況を考えていきたい。



第55図　小泉川流域の縄文時代遺跡分布図

２）小泉川左岸の遺跡

第55図でみられるように小泉川流域には多くの縄文時代遺跡が分布している。その中でも立地等の遺跡のあり方がわかっており、遺物量の豊富な３遺跡を取り上げたい。

(1)下海印寺遺跡（尾流・方丸地区）

下海印寺遺跡の中心域は、

1978年から４次にわたる調査によって、低位段丘上にあるとされてきた。調査された地点では縄文時代早期の押型文土器が発見されており、地形面との関係が整合的である。

しかしながら、この低位面の堆積物には押型文土器を含む土石流状のしまりの悪い礫混じり層なども見られ、縄文時代早期後半から後期初頭までの間に扇状地が発達し、堆積物が覆いかぶさっている可能性も否定できない。近接する同じ地形面である西条地区（右京第970次調査：岡﨑2010.7）では地表下50cm程度で基盤層である大阪層群の粘土が検出できた。その上にしまりの悪い人頭大の礫を含む堆積層が存在した。検出できた遺構は庄内期が最も古く、近くで縄文時代の遺物が多いにもかかわらず遺構を検出することができなかった。

西条地区よりも川に近い尾流地区では、低段丘面よりも下位の平坦面から縄文時代後期の中津式、里木Ⅱ式の土器が土坑や包含層から出土している。下海印寺遺跡の中心的な時期と同じである。調査地点南側は江戸時代、中世の崖面が形成されている。

西条地区東側の上内田地区（中川ほか2009・岡﨑ほか2010）でも平坦面が形成されている。発掘調査の結果、庄内期の竪穴式住居跡を最古期の遺構とする平坦面で、ベース面となる黄褐色砂礫から縄文土器片が出土している。縄文土器片には縄文が施されている。この面では、ほかに古墳時代中期～後期、中世の遺構が検出されているが、古墳時代末には、礫の掘り込みを伴う洪水性堆積物が認められる。

以上のことから、下海印寺周辺では３つの成立期の異なる遺構面があることがわかる。１つは縄文時代早期以前に形成された下海印寺遺跡中心部、他は縄文時代後期初頭以前に形成された尾流地区、縄文時代から庄内期までの間に形成された上内田地区である。

(2)伊賀寺遺跡（第56 図・付表１～５）

伊賀寺遺跡の調査は大半が京都第二外環状道路建設に伴う事業によるものであるが、調査年度が異なることや、調査事業主体が異なることからまとめて報告されることがなかった。京都第二外環状道路建設関連の伊賀寺遺跡調査の最後である本報告書でこれまでの調査をまとめたい。

Ａ．過去の伊賀寺遺跡の調査

伊賀寺遺跡は、遺跡内の次数が整理されていないため、長岡京跡の発掘次数を発掘調査地を分けるために用いた。

①右京第70次調査（Ｒ70次）

1982年に長岡京市教育委員会によって実施された発掘調査で、現在のＮＴＴ西日本長岡京別館の建物敷地にあたる。調査地は低位段丘面に立地している。発掘調査では中世の建物群、長岡京期の溝などが検出されたが縄文時代の遺構は発見されなかった。包含層中から縄文時代草創期のサヌカイト製有舌尖頭器が出土し、縄文時代の活動がこの地域にもあったことが明らかになった。

②右京第799次調査（Ｒ799次：岩松ほか2005）

京都第二外環状道路建設に先立ち平成15（2003）年度に実施された部分的な発掘調査のうち、伊賀寺遺跡に関連する下海印寺地区で13か所のトレンチが設定された。現在の氾濫原に１・２・４～６・９～13、沖積段丘面に３・７・８のトレンチを設定した。氾濫原のトレンチでは50～70

付表１　伊賀寺遺跡調査地点一覧

	次数	地区	調査年次	調査主体	遺構	遺物
1	右京第70次調査		昭和56年度	長岡京市教育委員会		○
2	右京第799次調査	下海印寺	平成15年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○
3	右京第910次調査		平成19年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○
4	右京第927次調査	下内田地区	平成19年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○
5	右京第941次調査		平成20年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○
6	右京第943次調査		平成20年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○
7	右京第947次調査	伊賀寺地区	平成20年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター		○
		樽井地区				○
8	右京第975次調査		平成21年度	長岡京市教育委員会	○	○
9	右京第984次調査		平成21年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○
10	右京第988次調査		平成21年度	京都府埋蔵文化財調査研究センター	○	○

cmの中世以後に形成された土壌堆積を経て河川堆積の礫層に変わる。

沖積段丘面に設置した３か所のトレンチのうち３トレンチからは打製石鏃、時期不明の縄文土器、７トレンチからは土坑内から北白川Ｃ式の土器が出土している。８トレンチでは北白川上層式・元住吉山Ⅱ式の縄文土器が包含層から出土した。この発掘調査によって伊賀寺遺跡が縄文時代の遺跡でもあることがより明らかになり、今後の調査で縄文時代の遺物・遺構に留意する必要性を認識させた。

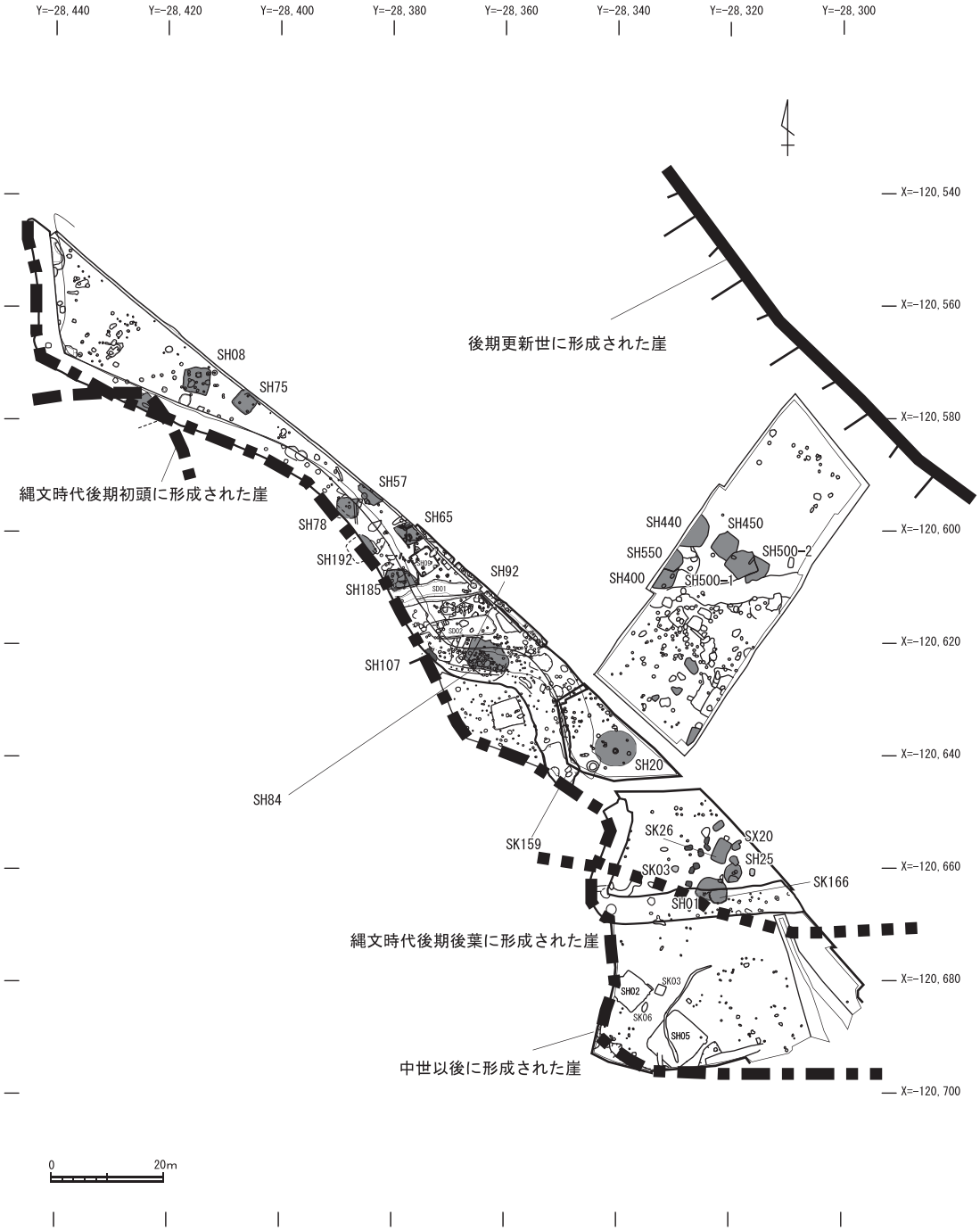
③右京第910次調査（Ｒ910次：増田ほか2009）

平成19(2007)年度に実施された京都第二外環状道路に取り付く府道部分の発掘調査である。１～４のトレンチが低位段丘面上に配置された。縄文時代の遺構は３トレンチのみで検出された。遺構は竪穴式住居跡ＳＨ190で平面形は部分的調査であるため不明であるが、内部からは縄文時代中期末の北白川Ｃ式土器が出土している。低段丘面上では唯一の遺構検出例である。包含層中ではあるが、装飾表現の施された石冠が出土している。石冠は縄文時代後期後半から晩期にかけての遺物であることから沖積段丘面に見られる凹線文土器の時代の生活域が低段丘面上にも広がっていたことがわかる。

④右京第927次調査（Ｒ927次：中川ほか2010）

平成19(2007)年度に実施された京都第二外環状道路予定地の発掘調査である。Ｒ799次調査の７・８トレンチ周辺の発掘調査地で、第１・２の２つの調査区を設定した。第１調査区では縄文時代の柱穴、土坑を検出した。土器は破片のため時期を特定できなかった。

第２地区では方形の竪穴式住居跡（ＳＨ08・57・６５・75)4基を検出した。住居跡はすべて北白川Ｃ式土器の時期に属する。ＳＨ08では方形の石囲い炉を検出した。その他土坑、柱穴を多く確認し、縄文時代中期末の北白川Ｃ式、後期の中津・福田KⅡ・北白川上層・元住吉山・宮滝式、晩期突帯文土器が出土している(付表５参照)。



第56 図　伊賀寺縄文遺跡における主要遺構

⑤右京第941次調査（Ｒ941次：増田ほか2010）

京都第二外環状道路に取り付く府道部分で、平成20(2008)年度に右京第910次調査と同じ路線内で実施された調査である。８トレンチからのみ縄文時代の遺構が検出された。８トレンチは沖積段丘面上に立地し、８基（ＳＨ400・440・450・500－1・500－2・520・550・590）の竪穴式住居跡を検出している。ＳＨ520は出土遺物がわずかであるが北白川Ｃ式の時期である。ＳＨ590は時期不明で、その他が元住吉山～宮滝式の凹線文土器の時期に帰属する竪穴式住居跡である。

８トレンチ北東部の全体の３分の１程度はほとんど縄文時代の遺構が存在しない地域で、調査

区中央部分に縄文時代後期の竪穴式住居跡が分布し、調査区南西部には土坑、土壙、柱穴がある。

石器類が包含層中から多数出土した。石器類の総数は4,485点で、石鏃が244点と多く、石核・剥片が90％以上になる。石器製作に伴う遺物が多いことが明らかになり、共伴遺物から多くは縄文時代後期凹線文土器の時期に比定できる。

⑥右京第943次調査伊賀寺地区（Ｒ943次：岩松ほか2009）

京都第二外環状道路側道の府道部分で、平成20(2007)年度に実施された。Ｒ799次調査の３トレンチを含む地域に３か所のトレンチを設定した。１トレンチと２トレンチの間には地形の変換を示す崖面ＳＸ29を検出し、１トレンチのある場所が２トレンチに比べ形成時期が新しいことが明らかになった。１トレンチでは遺構検出面の下層が縄文時代後期の包含層になっており、基盤の礫層に続く。崖は縄文時代後期以後に形成されたものと考えられ、１トレンチでは縄文時代の遺構を検出することができなかった。

２トレンチでは、２基の竪穴式住居跡（ＳＨ01・25）を検出した。ＳＨ25は後期の土壙が上面から掘り込まれていることから、後期凹線文土器以前の遺構であることがわかる。ＳＨ01は元住吉山式土器の時期に帰属する。このほかに縄文時代後期後葉の火葬を受けた骨の入る土壙２基（ＳＫ03・26）、土壙墓と考えられる遺構16 基を検出した。２トレンチと隣接するＲ941次調査８トレンチ南部の地域とあわせ、墓壙と考えられる大型の土坑が多く見られ、墓域を形成していることがわかった。

３トレンチでは、縄文時代中期北白川Ｃ式の竪穴式住居跡と考えられるＳＨ20が検出できた。住居跡床面近くまで削平が及んでおり、平面形状は不明である。炉跡が存在し、北東側に大型の砂岩製の礫を横長に据え、炉の一辺を形成している。

⑦－１　右京第947次調査伊賀寺地区（Ｒ947次：岡﨑ほか2010）

平成20年度第二外環状道路部分の発掘調査で、Ｒ943次調査１トレンチに接した部分に設定された調査区である。Ｒ943次調査１トレンチ同様に、縄文時代の遺構は発見できなかった。下層の確認のため実施した深掘り調査によって、この調査区の遺構面の基盤層となる礫層中から縄文時代後期の土器が出土した。

⑦－２　右京第947次調査樽井地区（Ｒ947次：岡﨑ほか2010）

平成20年度第二外環状道路部分の発掘調査で、伊賀寺地区に接した部分に設定された調査区である。伊賀寺地区の調査地よりも１段低い氾濫原に位置しており、沖積段丘から段丘崖にかけて調査区が設けられた。その結果、段丘崖に露出した礫層中から縄文時代後期の土器を上限とする縄文土器が出土している。氾濫原では古墳時代～中世までの遺物を含む流路が複数存在し、遺構は近世以降のものしか確認できなかった。中世段階まで離水しなかった可能性が指摘できる。

⑧右京第975次調査（Ｒ975次：小田桐2010）

平成21(2009)年度に遺跡の範囲を確認するため、長岡京市教育委員会で実施された発掘調査である。Ｒ941次調査の８トレンチ東側に２か所のトレンチを設定した。両トレンチからは縄文時代中期(北白川Ｃ式)、後期(一乗寺Ｋ式～宮滝式)の土器とともに、多量の石器類と碧玉製平玉の

未製品が出土している。

２トレンチでは骨を伴う集積墓ＳＸ14が検出されており、近接するＲ943次調査２トレンチの墓域の広がりをおさえることができた。遺物の詳細については不明である。

Ｂ．縄文時代の時期別遺構

①縄文時代中期末（北白川Ｃ式）

この時期に所属すると考えられる竪穴式住居跡は９基で、平面形が不明なＲ910次調査ＳＨ190、Ｒ943次調査ＳＨ20を除くとすべて方形を呈している。

炉跡を持つものは３基で、Ｒ927次調査ＳＨ08のものは方形の平面形を呈し、北側の辺は１枚の砂岩円礫で形成し、他の辺は複数の礫で作られている。Ｒ943次調査ＳＨ20では北東側に大型の砂岩製円礫を据え、その他の部分は粘土を貼り付け、内部は床面に対して20cmほどくぼんでいる。Ｒ988次調査ＳＨ89では、20cm程度掘り込んだ炉跡の北側に横方向に焼土が掻き取られたような部分があり、ＳＨ20、ＳＨ08同様に大型の石が据えられていた可能性がある。

Ｒ927次調査SH57・65、Ｒ988次調査ＳＨ85では竪穴式住居床面の壁近くに焼土の広がりが認められた。いずれも掘り窪められた跡や施設は確認できなかった。他の遺構としては土坑･土壙･柱穴などがある。そのうちでもＳＰ436は検出時に柱穴と認識したが、後に土壙であることが明らかになった遺構である。土壙からは大型の礫とともに小片の骨が出土している。

縄文時代中期末の遺構は、Ｒ941次調査８トレンチ南部、Ｒ943次調査２トレンチ、Ｒ927次調査地、Ｒ984次調査地、Ｒ988次調査地と沖積段丘面の氾濫原に近い部分に集中する。また、後世の削平が著しいが、低位段丘面上のＲ910次調査でＳＨ190がある。中期の遺構は、低位段丘の段丘崖からＲ941次調査８トレンチ中央部分まで希薄である。Ｒ975次調査では湧水があったことなどから、段丘崖と沖積段丘面が接する地域では湿気を含んでおり、中期には居住に適さなかった可能性がある。

②後期前葉（中津～四ツ池式）

Ｒ927次調査ＳＫ51では中津式の深鉢１個体がほぼ完形の状態で埋納されていた。これ以外に当該期の遺構は存在していない。Ｒ927から福田Ｋ２式、Ｒ988次調査で四ツ池式土器が他の時期の遺構から出土しているが、これらの時期の明確な遺構は検出されていない。

③後期前葉（北白川上層式１～３期）

北白川上層式の遺構はＲ927・988次調査地点に限られ、竪穴式住居跡が２基検出されている。Ｒ988次調査ＳＨ78は中央に炉跡を持つ方形の竪穴式住居跡である。出土遺物のうち時期のわかるものは１点のみである。Ｒ988次調査ＳＨ107は氾濫原形成時の浸食によって多くの部分が失われているが、残存部分から隅丸方形を呈していたと想定できる。出土遺物は土器底部だけであるが北白川上層式と考えられる。

この時期に明確に属する土坑は少ない。Ｒ927次調査ＳＫ04・05・16・53があり、北白川上層式１期の遺物が出土している。Ｒ988次調査ではＳＫ15・22・202～204、ＳＰ137が検出されている。

Ｒ988次調査のＳＸ199は縄文時代に河川によって形成された崖面である。この斜面堆積物の中からまとまって北白川上層式の土器が出土している。土器は時期幅が限られた良好な資料で、北白川上層式２期の新相もしくは３期の古相として位置づけられる。

④後期後葉（元住吉山～宮滝式）

竪穴式住居跡は、Ｒ941次調査８トレンチでは５基と周辺の状況から凹線文期に属すと考えられるもの２基が検出され、Ｒ943次調査では１基と周辺の状況から凹線文期に属すと考えられるもの１基が検出された。Ｒ941次調査８トレンチの竪穴式住居跡は方形のものが主体を占めているが、Ｒ943次のものはすべて円形である。

Ｒ941次調査８トレンチ南部とＲ943次調査２トレンチ、Ｒ975次調査１トレンチにかけて墓域が広がっていた。その中でも火葬を施した骨を埋納した土壙墓が２基検出された。付表４で示したように火葬を受けたことや人骨であることが同定できた遺構以外に、骨片が出土した縄文時代後期の遺構が７基あり、それらが上記の２基の火葬骨の入った土壙（ＳＫ20・26）の周辺に分布していることから、その他の大型土壙とあわせ集中して埋葬が行われた地域と想定できる。

玉作りに関連する遺物が墓域と重なって存在する。出土品は原石または成形加工時の砕片、平玉の未完成品である。平玉は扁平な円形に粗く整形された後、両面から穿孔されている。完成品や表面が平滑に磨かれたものがないなど穿孔過程までのもので構成されていることから、製作時のゴミが捨てられたものと考えられる。

⑤晩期前葉（滋賀里Ⅲ式）

Ｒ988次調査ＳＫ73だけが時期のわかる遺物が出土した遺構である。大型の土器の破片を敷いた上に平らなチャート礫を載せ、さらにその上に大型の土器の破片を被せた遺構であり、行為自体に意味があると考えられる遺構である。遺物も含めこれまでの調査で唯一の晩期前葉のものである。

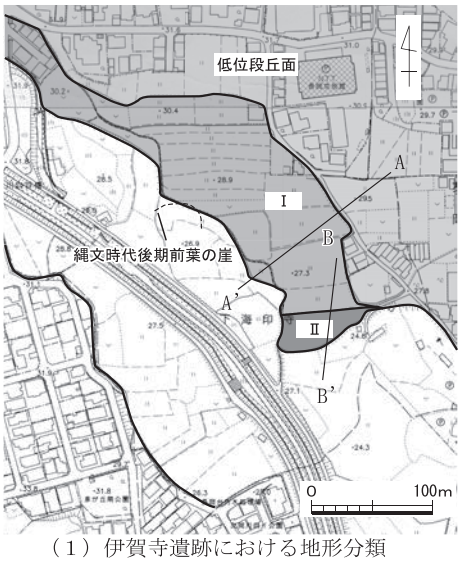
(3) 友岡遺跡

右京第325次調査（小田桐1996）で、低段丘崖の斜面堆積物中から中期の船元Ⅲ式土器を中心とする遺物が出土している。出土状況から低位段丘上に集落が広がっていたものと想定されている。

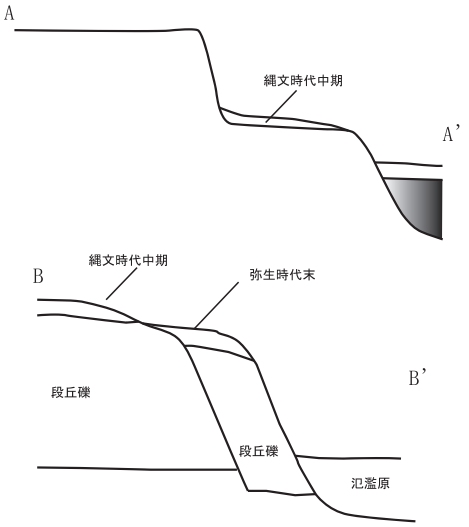
３）遺跡の関係（第57図）

上記した３つの遺跡は互いに、500m程度離れた位置に立地している。川の上流から下海印寺遺跡、伊賀寺遺跡、友岡遺跡の順に並ぶ。この３遺跡は同じ縄文時代の遺跡であるが、その遺構を伴う中心的な時期が互いに異なっている。もっとも古いのは友岡遺跡で船元式土器段階、その次は伊賀寺遺跡の北白川Ｃ式段階、下海印寺遺跡の中津式・里木式段階、伊賀寺遺跡の北白川上層式２期・元住吉山式段階と、時期により縄文時代の遺跡の分布が異なることがわかる。

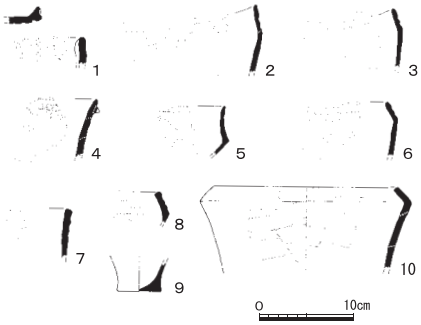
こうした集落の移動と地形面の関係を見ていきたい。地形面は、下海印寺遺跡の中心部や友岡遺跡の載る低段丘面、伊賀寺遺跡中心部や下海印寺遺跡尾流地区の立地している沖積段丘面Ⅰ、宮滝式土器段階から庄内期までに形成された沖積段丘面Ⅱがある。友岡遺跡では低段丘面から段丘崖方向にゴミが捨てられていることから、水場に近い場所が居住に適しているという前提に立



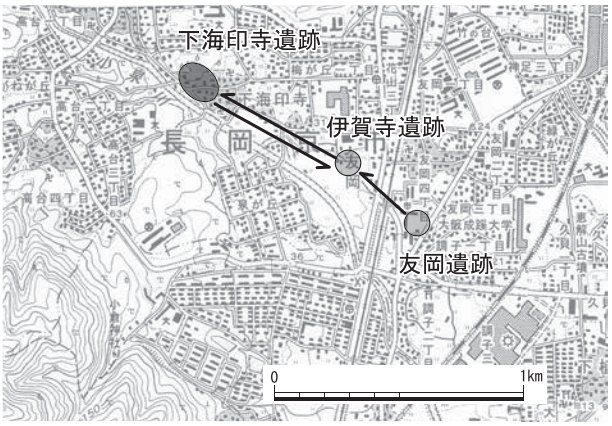
（1）伊賀寺遺跡における地形分類



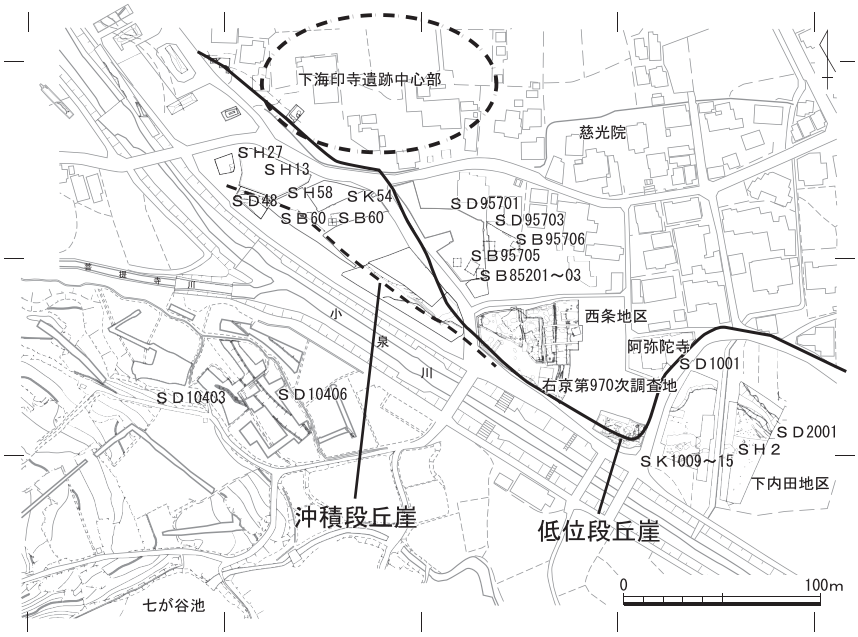
（2）伊賀寺遺跡における断面模式図



（3）沖積段丘Ⅱ面出土の縄文土器
（2・6 ～ 8・10 が断ち割りで出土）



（4）小泉川流域における集落移動モデル



（5）下海印寺遺跡周辺の地形

第57図　小泉川流域の縄文時代遺跡考察関連図面

てば、沖積段丘面Ⅰが形成されていなかったか、完全に離水していなかったと想定することも可能である。下海印寺遺跡では扇状地の活動が盛んであった可能性も指摘できる。

沖積段丘面Ⅰでは下海印寺遺跡と伊賀寺遺跡は補完的に時期がずれている。伊賀寺遺跡では北白川Ｃ式段階と北白川上層式２期段階の間に河川による沖積段丘面Ⅰに対する浸食が認められる。前述したように、北白川Ｃ式段階には沖積段丘面Ⅰが現在より広く、河川の浸食によって集落が損害を受けたことは想像に難くない。その後、上流の下海印寺遺跡に集落が移り、より広い平坦面を持つ伊賀寺遺跡に再びかえってくる。縄文時代後期後葉以後に沖積段丘面Ⅰを削り込み沖積段丘面Ⅱが形成される。集落の終わりをこの時期と考えたい。

小泉川流域の縄文時代中期から後期にかけての集落変遷は、地形面形成からわかる過去の災害と一致することから、自然環境によって移動するという仮説を立てることが可能であることが分かった。こうした自然環境による移動が汎日本的な環境変動によるものであるかどうかは、他の地域との詳細な対比とともに自然科学的データの検討が必要とされる。

６．まとめと考察

１）長岡京期（第58図）

今回の調査地は右京八条三坊九・十六町にあたる地域である。長岡京は784年から794年の10年間しか存在していなかった。そのため京域がどの程度完成していたかについては、決着を見ていない。ただ宮から遠くなるにつれて条坊関連遺構が発見されることが稀になる。

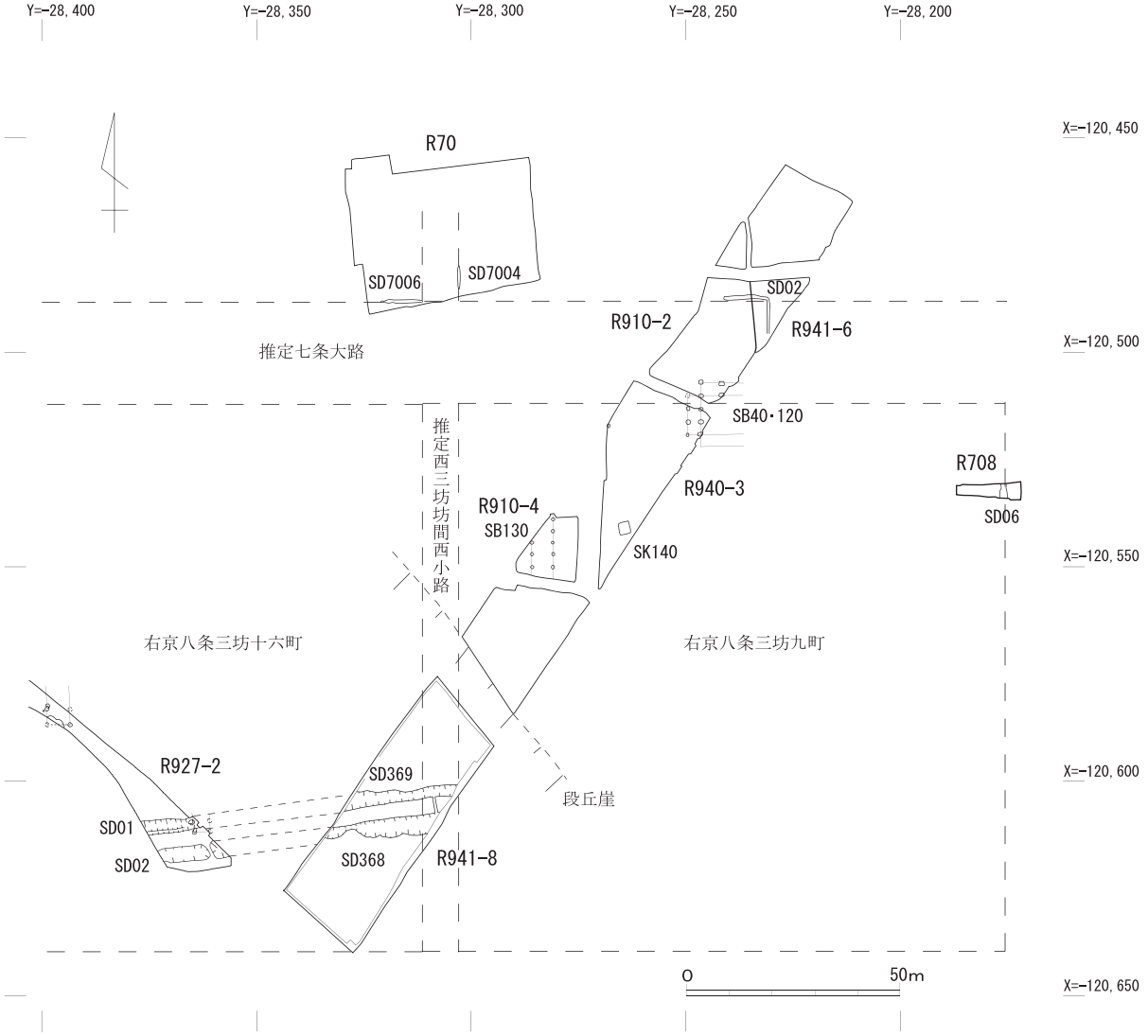
右京第70次調査（中尾ほか1982）では、七条大路北側溝（ＳＤ7006 ）と西三坊坊間西小路東側溝（ＳＤ7004）とされる遺構が検出されている。溝の残存状態が良好でなかったことから、性格の確定に疑念も存在した。右京第910次調査２トレンチ内で検出された「L」字に曲がる溝ＳＤ02の東西方向部分がＳＤ7006 の東側延長部分と一致する。このことから長岡京期前後の真東西を向く同じ軸線上の溝が存在することになり、ＳＤ7006 が条坊側溝である信憑性が増加した。しかしながら右京第910次調査では、推定七条大路の路面上を溝が横断したり、建物が建つことになり矛盾することとなる。こうした結果から、右京第927次調査（中川ほか2010）の報告では、伊賀寺に関連した地割と考えた。

また、今回の調査地等で検出している溝ＳＤ01・02は長岡京期の溝と考えられるが、東で７度北に振り長岡京期の計画線と異なる。この溝は平行する溝で、内側の肩部は直線的であるが、外側に凹凸が認められる。このような傾向は京内の築地塀のある宅地では散見できる現象である。また、他にこの溝と直交する方向の溝２条や南北棟の掘立柱建物跡を検出している。こうした軸が異なる遺構群と前述した正方位を向く遺構群との関係を検討すると、正方位を向く遺構群は低位段丘上に立地しており、軸が異なる遺構群は沖積段丘上に存在する。両者の間には２m前後の段丘崖が存在する。同時期に２つのプランが存在したことになるが、右京八条三坊九町の宅地では両者が共存していることになる。１つの仮説として、長岡京条坊プランが崖の存在から部分的にゆがんだと考えることもできる。しかも、七条大路の南側にある八条坊間北小路は現在の小泉

川の氾濫原であることを加味してみても、連続して施工することができなかったと考えられる。条坊の横軸となる道路は七条大路しか通せなかったことになり、大路を起点として宅地を設けたため地形の影響を受けたとは考えられないだろうか。

また、仮説２として大路の側溝とされるＳＤ7006が七条大路南側溝であれば、右京第910次調査で検出した遺構群はすべて宅地内に納まることになる。ＳＤ02が八条坊間北小路北側溝の位置にゆがみはあるが存在することになり、右京八条三坊九町の宅地は１町以上の宅地に復元できる。そして、八条坊間北小路北側溝に対応する南側溝がないことと、施工自体が困難ですぐに途絶える状況となり意味がないことから、宅地南面は川に対峙していたと考えられる。

右京八条三坊九町の宅地は、段丘上の眺望のいい部分に主要な建物が建てられ、前面を築地で区切り河原へと続いていた構造ととらえることができる。主要な建物部分からは小泉川の水面や河原、遠望には山崎の天王山を望む南面した好立地の宅地として復元することができる。この宅地は一町以上の規模を持つことから、延喜式から類推すると三位以上の身分のものが所有できる土地である。この地域では小泉川の対岸は山となっており、条坊施工も発掘調査地点までしか物



第58図　下内田地区周辺の長岡京期の遺構

理的にできない状況である。こうした土地に有力者の宅地が存在することは、前述した立地の特徴から別荘として利用されたものと想定できる。

２）古墳時代

古墳時代後期の溝ＳＤ106 と落ち込み状遺構ＳＸ206 を検出した。いずれも古墳時代後期の遺物が出土している。同時期の竪穴式住居跡は右京第927次調査や右京第941次調査で多く検出されている。今回の調査では集落に直接関連する遺構は発見できなかった。

３）縄文時代

(1)縄文土器　縄文時代の遺物は中期末の北白川Ｃ式と北白川上層式３期のものが多く、しかも１つの遺構からそれぞれまとまって出土している。

北白川Ｃ式土器は竪穴式住居跡ＳＨ89からまとまって出土している。伊賀寺遺跡の場合、竪穴式住居内の土器の出土量は決して多くはなく、この住居跡が特殊である。この遺構はいくつかの遺構が重なっている可能性が指摘できる。また、図化したように個体数が非常に多く接合比率も低いものであったことから竪穴式住居の窪みに投棄されたものと考えられる。遺物の中には北白川上層式・元住吉山式の土器が含まれるがごく少数で、ＳＨ89に投棄された遺物の時期は縄文時代中期末と考えたい。出土遺物には北白川追分町遺跡における土器分類のA、B、C類の有文深鉢土器が量的にも多く出土しており、比叡山西麓地域との比較検討が必要とされる。

土器に用いられた胎土は多岐にわたっている。弥生時代等で見られる在地の土器の砂粒は石英・長石・チャート・赤色斑粒である。遺跡の立地する長岡京市はその河川の多くが丹波古世層で形成された山塊に源を発している。そのため、古世層起源のチャートや頁岩などの鉄分を含んだ堆積岩が熱せられ赤色化した赤色斑粒が含まれる。明らかに在地の土器と異なり角張った石英・長石と通常風化によって砕片化する大きな雲母が含まれるものもある。角閃石を含む個体があるが、いわゆる生駒西麓産と呼ばれる褐色の粘土部分を持たず、角閃石と他の鉱物とが分離してない岩片として入っているものもある。こうした角閃石を含むものには古世層起源のチャートを含む個体も存在する。

縄文時代の崖ＳＸ199からは縄文時代後期前葉の北白川上層式３期の土器が大量に出土した。北白川Ｃ式土器、四ツ池式土器がそれぞれ数個体存在する。北白川Ｃ式土器は残りがよいが、四ツ池式土器は器表面が非常に荒れている。出土土器は、ＳＨ89のものと異なり角閃石を含むものが多くなる。土器群は堀之内式土器の文様構成が崩れるなど２期より新しい様相を見せている。３期の資料は標識遺跡である京都大学構内出土の遺物よりも量的に恵まれていることと、３期の標識資料が今回の資料に比べ新しい様相を持つことから詳細に細分することが可能であろう。

(2)石器・石製品　打製石器はすべてサヌカイト製である。遺跡内で発見される剥片や分割礫は、小型で10cmを越すものは存在しない。また、礫石器の中には遺跡周辺では河川礫中から入手できないものも多く、通常近くで入手していると考えられる石器であるが、遠方からもたらされている可能性がある。石皿に用いられた石材は鉄平石の可能性があり、中部地方からもたらされたことも視野に入れる必要がある。

ＳＨ16 6 で検出した玉類は、ＳＨ16 6切り込む土坑部分と住居部分のどちらからも出土している。右京第947次調査では墓壙からも玉及び未完成品、素材が出土している。今回の調査では、こうした玉類が副葬品ではなく、この区画が玉作りに関連する機能を持っており、その後、墓が造られたことがわかった。

（中川和哉）

参考文献

岩松保ほか「京都第二外環状道路関係遺跡平成15年度発掘調査概要」（『京都府遺跡調査概報』第113冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2005

岩松保ほか「京都第二外環状道路関係遺跡平成16年度発掘調査概要」（『京都府遺跡調査概報』第118冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2006

岩松保ほか「京都第二外環状道路関係遺跡平成17年度発掘調査概要」（『京都府遺跡調査概報』第124冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2007

岩松保ほか「大山崎大枝線道路改良事業関係遺跡報告書」（『京都府遺跡調査報告集』第133冊 （財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2009

岡崎研一「長岡京跡右京第970次・下海印寺遺跡の発掘調査」（『京都府埋蔵文化財情報』第112号 （財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2010.7

岡崎研一ほか「京都第二外環状道路関連遺跡平成20年度発掘調査報告」（『京都府遺跡調査報告集』第137冊 （財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2010

古閑正浩ほか『境野１号墳』大山崎町教育委員会 2007

中川和哉・大本朋哉「京都第二外環状道路関係遺跡長岡京跡（長岡京跡右京第927次）・伊賀寺遺跡」（『京都府遺跡調査報告集』第136 冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2010

中川和哉・高野陽子ほか「京都第二外環状道路関係遺跡平成19年度発掘調査報告」（『京都府遺跡調査報告集』第131冊 （財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2009

中川和哉・戸原和人「京都第二外環状道路関係遺跡平成18年度発掘調査報告」（『京都府遺跡調査報告集』第126 冊（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2008

福永伸哉ほか『鳥居前古墳－総括編－』大阪大学文学部考古学研究室 1990

増田孝彦「長岡京跡右京第910次（7ANOI R5・NNT-3地区）・941次（７ANOOD-5・OI R7・NNT-4地区）・友岡遺跡・伊賀寺遺跡発掘調査報告」（『京都府遺跡調査報告集』第133冊 （財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2009

増田孝彦「長岡京跡右京第941次（7ANOOD-5・OI R7・NNT-4地区）・友岡遺跡・伊賀寺遺跡」（『京都府遺跡調査報告集』第137冊 （財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2010

森島康雄「長岡京跡右京第968次発掘調査報告」（『京都府遺跡調査報告集』第141冊 （財）京都府埋蔵文化財調査研究センター） 2010

付表２　伊賀寺遺跡検出の竪穴式住居跡

発掘次数	竪穴式住居跡番号	時　期	形　状	炉　跡	出土遺物	
					土器	石器
右京第 910 次	S H90	北白川Ｃ式	不明	不明	○	
右京第 927 次	S H08	北白川Ｃ式	方形	石囲炉	○	
	S H57	北白川Ｃ式	方形	焼土	○	○
	S H65	北白川Ｃ式	方形	焼土	○	○
	S H75	北白川Ｃ式	方形	無	○	
右京第 941 次	S H400	宮滝式	方形	不明		○
	S H440	宮滝式	長楕円形	焼土	○	○
	S H450	元住吉山式以前	六角形	地床炉	○	○
	S H500-1	元住吉山式	方形	焼土	○	○
	S H500-2	元住吉山式	方形	無		
	S H520	北白川Ｃ式か	方形	不明	○	○
	S H550	凹線文土器	方形	不明	○	○
	S H590	不明	方形	不明	○	
右京第 943 次	S H01	元住吉山式	円形	無	○	○
	S H20	北白川Ｃ式	不明	石囲炉	○	
	S H25	元住吉山式以前	円形	地床炉		
右京第 988 次	S H78	北白川上層式か	隅丸方形	地床炉	○	
	S H85	北白川Ｃ式	隅丸方形	焼土	○	○
	S H89	北白川Ｃ式	隅丸方形	地床炉	○	○
	S H07	北白川上層式か	隅丸方形	焼土	○	
	S H92	不明	方形	焼土		

付表３　伊賀寺遺跡地点別石器出土状況

石器・石製遺物		R70	R799	R910	R927	R941	R943	R947		R975	R984	R988
								伊賀寺	樽井			
狩猟具	尖頭器	○				○						
	石鏃		○	○	○	○	○			○	○	○
漁撈具	石錘				○	○						○
土堀具	打製石斧				○	○						
調理具	石皿類				○	○				○		○
	磨石類			○	○	○				○		○
伐採具	磨製石斧				○	○	○					○
加工具	打製石錐			○	○	○						○
	石匙				○	○						
	削器				○	○						○
	台石					○	○					○
	砥石					○						
祭祀具	石棒				○					○		
	石冠			○								
装身具	平玉					○	○			○		○

付表４　骨が出土した遺構

調査次数	遺構番号	時期	遺構の平面形	規　模（m）	遺　物		礫	焼土
					土器	石器		
右京第 941 次	S H436	北白川Ｃ式	長方形	1.25 × 0.25	○	○		
	S K540	元住吉山式	円形	直径 0.6	○		○	
	S T560	不明	楕円形	1.5 × 0.9				
	S T620	北白川Ｃ式	楕円形	2.2 × 1.5	○	○		
	S K697	元住吉山式	楕円形	2.5 × 1.4	○	○		○
右京第 943 次	S K03	元住吉山式	楕円形	1.24 × 1.05	○	○	○	○
	S K20	元住吉山式	方形	1.55 × 1.4	○		○	○
	S K26	元住吉山式	方形	4.05 × 2.85	○	○		○
右京第 971 次	S X14	後期	楕円形	0.9 以上× 0.5	不明	不明	○	不明
右京第 988 次	S H66(S K01)	元住吉山式	円形	直径 3.2	○	○		

付表５　伊賀寺遺跡出土の縄文土器

時　期		R70	R799	R910	R927	R941	R943	R947		R975	R984	R988
								伊賀寺	樽井			
草創期		○				○						
早　期										○		
前　期												
中期	鷹島式											
	船元Ⅰ式											
	船元Ⅱ式											
	船元Ⅲ式					○						
	船元Ⅳ式											
	里木Ⅱ式											
	北白川Ｃ式		●	●	●	●	●	○	○	○	●	●
後期	中津式				●							
	福田ＫⅡ式				○							
	四ツ池式											○
	北白川上層式１期				○							
	北白川上層式２期		○		○							
	北白川上層式３期				○						●	●
	一乗寺Ｋ式									○		
	元住吉山Ⅰ式					○			○	不明		
	元住吉山Ⅱ式		○		●	●	●	○		○	●	●
	宮滝式				○	●				○		●
	滋賀里Ⅰ式											
晩期	滋賀里Ⅱ式											
	滋賀里Ⅲａ式											●
	篠原式											
	滋賀里Ⅳ式											
	船橋式				○			○				
	長原式											

●：遺構・遺物、○：遺物のみ

付表６　縄文土器観察表

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
1	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	明赤色斑粒褐 2.5YR5/ 6	明赤色斑粒褐 2.5YR5/ 6	沈線・刺突文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	ＳＸ08
2	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	黒褐 10YR3/ 1	灰黄褐 10YR6 / 2	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	ＳＸ08
3	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	黒 5Y1/ 2	褐灰 10YR5/ 1	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	ＳＸ08
4	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	灰黄褐 10YR6 / 2	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・雲母	ＳＸ08
5	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい赤色斑粒褐 5YR5/ 4	橙 5YR6 / 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	ＳＸ08
6	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	灰白 10YR8/ 2	浅黄橙 10YR8/ 3	凹点・沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	ＳＸ08
7	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	にぶい褐 7.5YR5/ 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	ＳＸ08
8	無文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR7/ 4	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	ＳＸ08
9	無文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	浅黄橙 10YR8/ 3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	ＳＸ08
10	無文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	灰白 10YR8/ 2	にぶい橙 5YR7/ 4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	ＳＸ08
11	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	橙 5Y6/ 6	灰褐 5YR4/ 2	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	ＳＸ08
12	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR7/ 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	ＳＸ08
13	無文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR7/ 4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	ＳＸ08
14	無文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	明赤色斑粒褐 2.5YR5/ 6	明赤色斑粒褐 2.5YR5/ 6	縄文	ナデ		石英・長石	ＳＸ08
15	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	灰黄褐 10YR4/ 2	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	ＳＸ08
16	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/ 4	にぶい橙 7.5YR7/ 4	刺突文・沈線・縄文	ナデ		石英・長石	ＳＸ08
17	無文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	褐灰 10YR4/ 1	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	ＳＸ08
18	無文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	にぶい黄橙 10YR6 / 3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	ＳＸ08
19	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR5/ 3	にぶい黄橙 10YR5/ 3	縄文	ナデ		石英・長石	ＳＸ08
20	無文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	橙 5YR6 / 6	橙 5YR6 / 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	ＳＸ08

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調 内面	色調 外面	文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
21	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6／3	にぶい黄橙 10YR5/3	区画内羽状沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
22	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 7.5YR8/4	灰白 10YR8/2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
23	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6／4	橙 7.5YR6／6	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX08
24	無文深鉢	頸部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR5/3	無文	ナデ		石英・長石・雲母	SX08
25	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR4/7	にぶい黄橙 10YR4/7	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
26	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 5YR6／3	凹点・沈線	ナデ		石英・長石	SX08
27	無文深鉢	口縁部	北白川上層式	後期前葉	良	明黄橙 10R6／4	橙 7.5YR6／6	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX08
28	無文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6／2	にぶい黄橙 10YR7/3	沈線・縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX08
29	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6／3	橙 5YR6／6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
30	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR6／6	橙 7.5YR6／6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
31	無文深鉢	胴部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6／3	にぶい黄橙 10YR6／3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX08
32	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6／4	にぶい黄橙 10YR6／4	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX08
33	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
34	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	褐灰 10YR5/1	にぶい黄橙 10YR7/4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SX08
35	無文浅鉢	口縁～胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6／4	灰黄褐 10YR4/2	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
36	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	黒 5Y2/1	褐灰 10YR5/1	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
37	有文浅鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SX08
38	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄褐 10YR7/3	明灰黄 2.5Y5/6	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SX08
39	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	明褐 7.5YR5/6	褐 7.5YR4/3	刺突文・沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08
40	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	灰褐 7.5YR5/2	にぶい黄橙 10YR6／3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX08

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調 内面	色調 外面	文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
41	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 7.5YR6 / 3	にぶい黄橙 7.5YR6 / 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	S X08
42	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR5/ 2	灰黄褐 10YR5/ 2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S X08
43	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	灰黄褐 10YR6 / 2	沈線・縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X08
44	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	黒褐 7.5YR3/ 1	にぶい褐 7.5YR5/ 4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	S X08
45	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR6 / 3	にぶい褐 7.5YR6 / 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S X08
46	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR5/ 3	にぶい黄橙 10YR5/ 3	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・角閃石・雲母	S X08
47	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR7/ 6	にぶい黄橙 10YR6 / 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S X08
48	有文深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	明赤色斑粒褐 2.5YR5/ 6	明赤色斑粒褐 2.5YR5/ 8	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S X08
49	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	明褐 7.5YR5/ 6	明褐 7.5YR5/ 6	無文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・雲母	S X08
50	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	灰黄褐 10YR6 / 2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S X08
51	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 2	灰白 2.5YR7/ 1	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S X08
52	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	黄灰 2.5YR5/ 1	にぶい黄橙 10YR7/ 2	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S X08
53	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6 / 2	にぶい黄橙 10YR7/ 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K02
54	有文深鉢	口縁部	凹線文土器	後期後葉	良	橙 5YR6 / 6	橙 5YR6 / 6	凹線	ナデ		石英・長石	S K02
55	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/ 3	にぶい橙 7.5YR7/ 4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K02
56	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄褐 10YR7/ 3	にぶい黄褐 10YR7/ 3	押引き刺突文・沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒・雲母	S K05
57	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	にぶい黄橙 10YR6 / 4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	S K05
58	無文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	明赤色斑粒褐 5YR5/ 6	にぶい橙 7.5YR6 / 4	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S K05
59	有文深鉢	口縁部	凹線文土器	後期後葉	良	灰黄褐 5YR5/ 2	黒褐 2.5YR3/ 1	凹線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S K12
60	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	にぶい黄橙 10YR7/ 4	凹点・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K14
61	有文浅鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	浅黄橙 10YR8/ 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	S K16

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調 内面	色調 外面	文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
62	深鉢	底部			良	橙 7.5YR6／4	黄橙 10YR7／4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK06
63	深鉢	底部			良	灰 N4／0	にぶい黄橙 10YR7／3	無文	ナデ		石英・長石・雲母	SK06
64	深鉢	底部			良	赤色斑粒褐 5YR4／5	にぶい褐 7.5YR5／3	無文	ナデ		石英・長石	SK06
65	深鉢	底部			良	にぶい橙 7.5YR7／4	にぶい黄橙 10YR6／3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK06
66	深鉢	底部			良	黄灰 2.5Y7／2	灰黄褐 10YR6／3	無文	ナデ		石英・長石	SK06
67	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6／4	にぶい橙 7.5YR6／4	沈線	ナデ		石英・長石	SK20
68	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR6／4	にぶい赤色斑粒褐 5YR5／3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SK20
69	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄褐 10YR5／4	にぶい黄橙 10YR5／3	口唇部刺突・沈線・縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SK26
70	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6／3	にぶい黄橙 10YR6／3	縄文	ナデ		石英・長石・チャート・角閃石・雲母	SK20
71	無文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6／3	黄灰 2.5Y4／1	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK24
72	無文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	灰黄 2.5Y7／2	にぶい黄橙 10YR7／4	隆帯	ナデ		石英・長石	SK21
73	有文深鉢	胴部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5／4	黒褐 10YR3／1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK27
74	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6／4	橙 7.5YR7／6	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SK24
75	有文深鉢	胴部	凹線文土器	後期後葉	良	黒 N1.5／0	黒褐 10YR3／2	凹線	ナデ		石英・長石・雲母	SK21
76	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6／3	にぶい黄橙 10YR6／3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK26
92	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6／3	にぶい黄橙 10YR6／3	押引き刺突文・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒・角閃石・雲母	SK89
93	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	黒褐 10YR3／1	にぶい黄橙 10YR6／3	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SK89
94	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	明赤色斑粒褐 5YR5／6	明赤色斑粒褐 5YR5／6	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	SK89
95	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	褐灰 5YR4／1	にぶい橙 7.5YR5／4	刺突文・沈線・縄文	ナデ	b	石英・チャート・赤色斑粒	SK89

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
96	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	浅黄橙 5YR8/ 4	にぶい橙 7.5YR5/ 4	押引き刺突文・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	ＳＩ89
97	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	橙 5YR6 / 6	橙 5YR6 / 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	ＳＩ89
98	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい赤色斑粒褐 5YR4/ 3	明赤色斑粒褐 5YR5/ 6	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	ＳＩ89
99	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	にぶい橙 7.5YR6 / 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	ＳＩ89
100	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 2	にぶい黄橙 10YR6 / 3	押引き刺突文・沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒・雲母	ＳＩ89
101	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	灰黄褐 10YR6 / 2	にぶい橙 7.5YR6 / 4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	ＳＩ89
102	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	黒褐 2.5YR3/ 1	暗灰黄 2.5YR5/ 2	押引き刺突文・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	ＳＩ89
103	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい黄橙 10YR7/ 3	押引き刺突文・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母・砂	ＳＩ89
104	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	黒褐 5YR3/ 1	褐白 7.5YR4/ 1	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	ＳＩ89
105	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	浅黄 2.5Y7/ 2	浅黄 2.5Y7/ 2	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	ＳＩ89
106	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/ 3	浅黄橙 10YR8/ 3	刺突文・沈線	ナデ		石英・長石・雲母	ＳＩ89
107	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい赤色斑粒褐 5YR5/ 3	にぶい橙 5YR7/ 4	押引き刺突文・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母・砂	ＳＩ89
108	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	橙 5YR7/ 6	にぶい黄橙 10YR7/ 4	押引き刺突文・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	ＳＩ89
109	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい橙 5YR6 / 4	にぶい橙 7.5YR6 / 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	ＳＩ89
110	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	橙 5YR6 / 6	灰褐 5YR5/ 2	沈線・縄文	摩滅		石英・長石	ＳＩ89
111	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 2	にぶい黄橙 10YR7/ 2	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	ＳＩ89

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
112	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR7/1	浅黄橙 7.5YR8/4	押引き刺突文・沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
113	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR5/2	灰褐 7.5YR4/2	刺突文・沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	S I89
114	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	褐 7.5Y4/4	褐 7.5Y4/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	S I89
115	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5Y5/3	にぶい褐 7.5YR5/3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
116	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい橙 7.5YR7/3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
117	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	淡赤色斑粒橙 2.5Y7/4	橙 2.5YR7/6	沈線	ナデ		石英・長石	S I89
118	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	黒褐 2.5Y3/1	隆帯・沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
119	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
120	無文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	灰褐 5YR4/1	橙 5YR6/6	穿孔	ナデ	b	石英・長石・チャート	S I89
121	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/3	浅黄橙 7.5YR8/4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	S I89
122	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
123	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	S I89
124	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
125	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR8/2	黒褐 2.5Y3/1	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	S I89
126	無文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR 7/6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
127	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	明赤色斑粒褐 5YR5/6	橙 7.5YR6/6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・砂	S I89
128	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい橙 5YR6/4	沈線・縄文・剝離痕	ナデ	b	石英・長石・チャート	S I89
129	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	押引き刺突文・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
130	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
131	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	黒褐 10YR3/ 1	黒褐 10YR3/ 1	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I-89
132	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	灰褐 7.5YR4/ 2	灰褐 7.5YR4/ 2	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I-89
133	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	橙 2.5YR6 / 6	橙 2.5YR6 / 6	縄文	ナデ		石英・長石	S I-89
134	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	橙 5YR7/ 6	にぶい橙 5YR6 / 4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S I-89
135	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	赤色斑粒褐 5YR4/ 6	にぶい赤色斑粒褐 5YR4/ 4	刺突・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S I-89
136	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	橙 7.5YR7/ 6	橙 7.5YR7/ 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
137	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/ 3	浅黄橙 10YR8/ 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
138	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	にぶい黄橙 10YR6 / 3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
139	無文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	灰黄褐 10YR6 / 2	にぶい黄橙 10YR7/ 3	隆帯・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I-89
140	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	橙 5YR7/ 6	にぶい橙 7.5YR7/ 4	押引き刺突文・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
141	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	橙 5YR6 / 6	橙 5YR6 / 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
142	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	にぶい褐 7.5YR6 / 4	押引き刺突文・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
143	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	褐灰 10YR5/ 1	黄灰 2.5YR4/ 1	刺突・縄文	ナデ		石英・長石	S I-89
144	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい橙 10YR7/ 4	にぶい橙 10YR7/ 4	刺突・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
145	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR7/ 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
146	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	橙 7.5YR6 / 6	橙 7.5YR6 / 6	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I-89
147	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	橙 5YR6 / 6	橙 5YR6 / 6	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
148	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	褐灰 7.5YR6 / 1	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
149	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	にぶい黄橙 10YR7/ 4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	S I-89
150	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 2	にぶい黄橙 10YR6 / 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調 内面	色調 外面	文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
151	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
152	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	灰白 2.5YR8/2	浅黄橙 10YR8/3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
153	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
154	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/3	褐灰 10YR4/1	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
155	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR8/2	にぶい黄橙 10YR7/3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
156	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	浅黄橙 10YR8/3	凹点・隆帯・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
157	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/3	凹点・隆帯・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
158	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	隆帯・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
159	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	凹点・隆帯・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
160	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	凹点・隆帯・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
161	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	凹点・隆帯・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S I89
162	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
163	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	隆帯・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
164	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
165	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR5/3	凹点・隆帯・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
166	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	褐灰 10YR5/1	灰黄褐 10YR5/2	凹線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
167	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR5/2	褐灰 7.5YR5/2	縄文・沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S I89
168	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	縄文・沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S I89

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
169	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR8/2	浅黄橙 10YR8/3	凹点・隆帯・押引き刺突文・沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
170	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR5/2	にぶい橙 7.5YR6/4	凹点・隆帯・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
171	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/3	縄文	ナデ		石英・長石	SI89
172	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR5/2	縄文	ナデ		石英・長石	SI89
173	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	凹点・隆帯・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SI89
174	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	明赤色斑粒褐 5YR5/6	凹点・隆帯・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SI89
175	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	縄文・沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	SI89
176	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	縄文	ナデ		石英・長石・チャート	SI89
177	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰黄 2.5YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/3	隆帯・縄文・沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・雲母	SI89
178	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/2	灰黄褐 10YR5/2	縄文	ナデ		石英・長石	SI89
179	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR7/4	橙 5YR7/6	隆帯・縄文・沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
180	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/4	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SI89
181	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SI89
182	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
183	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
184	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR5/2	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SI89
185	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	凹点・縄文		b	石英・長石・チャート	SI89
186	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
187	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒・雲母	SI89
188	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 2.5YR6/6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調 内面	色調 外面	文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
189	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6／4	にぶい黄褐 10Y5／3	橋状把手・凹点・沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
190	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	明灰褐 7.5YR5／6	にぶい橙 7.5YR7／4	凹点・隆帯・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
191	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR6／6	橙 7.5YR6／6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
192	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6／4	にぶい黄橙 10YR6／4	隆帯剝離痕・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SI89
193	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6／4	にぶい橙 7.5YR6／4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
194	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6／3	にぶい黄橙 10YR6／3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
195	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR6／6	にぶい黄橙 10YR6／3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SI89
196	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7／3	灰黄褐 10YR6／2	縄文	ナデ		石英・長石	SI89
197	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5／4	にぶい褐 7.5YR5／4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
198	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6／4	にぶい赤色斑粒褐 5YR5／4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
199	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8／4	浅黄橙 10YR8／4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
200	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7／3	にぶい黄 2.5YR6／3	穿孔・沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SI89
201	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6／4	橙 7.5YR6／6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
202	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7／2	にぶい黄橙 10YR6／4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SI89
203	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR7／6	橙 7.5YR7／6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
204	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR7／4	明褐灰 5YR7／2	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
205	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR7／6	橙 7.5YR7／6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
206	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	黒褐 10YR3／1	黒褐 10YR3／1	口唇上キザミ・沈線・縄文	ナデ		石英・長石	SI89
207	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5／3	にぶい赤色斑粒褐 5YR5／4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SI89

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
208	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR6 / 4	橙 7.5YR6 / 6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
209	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR6 / 4	にぶい橙 5YR6 / 4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
210	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6 / 6	橙 5YR6 / 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
211	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	にぶい橙 10YR7/ 4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S I-89
212	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR7/ 6	にぶい褐 7.5YR5/ 3	縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S I-89
213	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR5/ 4	にぶい橙 7.5YR6 / 4	縄文	ナデ		石英・長石	S I-89
214	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/ 3	にぶい褐 7.5YR6 / 3	縄文	ナデ		石英・長石	S I-89
215	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR7/ 4	刺突文・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
216	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR6 / 6	橙 7.5YR6 / 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
217	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR7/ 1	にぶい黄橙 10YR7/ 3	無文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S I-89
218	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	にぶい橙 7.5YR6 / 4	無文	不明	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
219	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR6 / 6	橙 7.5YR6 / 6	刺突文・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
220	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR6 / 3	にぶい褐 7.5YR6 / 3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
221	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/ 3	橙 7.5YR7/ 6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	S I-89
222	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	黄灰 2.5YR4/ 1	浅黄橙 10YR8/ 3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
223	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR7/ 4	縄文	不明	b	石英・長石・チャート・雲母	S I-89
224	無文浅鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	黄灰 2.5Y5/ 1	縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S I-89
225	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	にぶい黄橙 10YR6 / 3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
226	無文浅鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR8/ 2	浅黄橙 10YR8/ 3	無文	ナデ		石英・長石	S I-89
227	無文浅鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	黄灰 2.5YR5/ 1	にぶい黄橙 10YR6 / 3	穿孔・縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S I-89
228	有文浅鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	橙 5YR7/ 6	橙 5YR6 / 6	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
229	無文浅鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR6 / 4	浅黄橙 10YR8/ 3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
230	無文浅鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 7.5YR8/ 4	橙 5YR6 / 8	凹点・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S I-89

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調 内面	色調 外面	文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
231	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR5/4	にぶい黄橙 10YR6/4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SI89
232	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい橙 7.5YR7/3	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	SI89
233	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/3	灰褐 7.5YR4/2	凹点・沈線・縄文	ナデ		石英・長石	SI89
234	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR5/2	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・雲母	SI89
235	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SI89
236	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SI89
237	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	刺突文	ナデ		石英・長石	SI89
238	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・雲母	SI89
239	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 7.5YR8/3	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
240	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
241	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6/2	褐灰 5YR4/1	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SI89
242	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	灰褐 5YR5/2	にぶい橙 5YR6/4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SI89
243	無文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
244	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR7/3	浅黄橙 10YR8/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
245	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	赤色斑粒褐 5YR4/6	にぶい赤色斑粒褐 5YR4/4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	SI89
246	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	褐 7.5YR4/3	褐 7.5YR4/3	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	SI89
247	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	黒褐 7.5YR3/1	褐灰 10YR4/1	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	SI89
248	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SI89
249	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR4/3	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	SI89
250	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SI89
251	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6/6	にぶい橙 5YR4/4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SI89
252	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰褐 7.5YR5/2	灰褐 7.5YR4/2	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SI89
253	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰褐 7.5YR4/2	灰褐 7.5YR4/2	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SI89

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
254	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR7/ 6	にぶい黄橙 10YR7/ 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
255	無文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6 / 2	黒褐 10YR3/ 1	縄文	ナデ		石英・長石	S I89
256	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR6 / 4	にぶい赤色斑粒褐 5YR5/ 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
257	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/ 3	にぶい褐 7.5YR5/ 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
258	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	にぶい黄橙 10YR7/ 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
259	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR6 / 3	灰褐 7.5YR5/ 2	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
26 0	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR5/ 3	灰黄褐 10YR5/ 2	刺突文・沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S I89
26 1	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰褐 7.5YR6 / 2	にぶい赤色斑粒褐 5YR5/ 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
26 2	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	灰黄褐 10YR5/ 2	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒・雲母	S I89
26 3	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	褐灰 5YR7/ 6	橙 5YR7/ 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
26 4	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR6 / 4	灰黄褐 10YR6 / 2	刺突文・沈線・縄文	ナデ		石英・長石	S I89
26 5	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰褐 7.5YR5/ 2	橙 5YR6 / 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
26 6	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR6 / 4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
26 7	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	褐灰 10YR4/ 1	灰白 10YR8/ 2	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	S I89
26 8	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR6 / 6	にぶい橙 7.5YR6 / 4	刺突文・縄文	ナデ		石英・長石	S I89
26 9	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6 / 4	にぶい橙 7.5YR6 / 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
270	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR5/ 4	にぶい黄橙 10YR5/ 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
271	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい黄橙 10YR7/ 4	沈線	ナデ		石英・長石	S I89
272	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい黄橙 10YR7/ 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
273	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/ 4	にぶい褐 7.5YR5/ 3	刺突文・沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
274	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/ 4	橙 7.5YR7/ 6	沈線	ナデ		石英・長石	S I89

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調 内面	色調 外面	文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
275	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	橙 7.5YR6 / 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
276	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	褐灰 10YR5/ 1	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S I89
277	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	にぶい黄橙 10YR6 / 3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	S I89
278	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6 / 2	灰黄褐 10YR6 / 2	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・雲母	S I89
279	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	明赤色斑粒褐 5YR5/ 6	明赤色斑粒褐 5YR5/ 6	刺突文	ナデ		石英・長石	S I89
280	錘		北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	にぶい黄橙 10YR7/ 3	無文	ナデ		石英・長石	S I89
281	有文深鉢	口縁部	北白川上層式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/ 4	にぶい褐 7.5YR5/ 4	縄文・沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S I89
282	無文深鉢	口縁部	北白川上層式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 3	浅黄橙 7.5YR8/ 4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
283	有文深鉢	口縁部	北白川上層式	中期末	良	灰黄褐 10YR6 / 2	にぶい褐 7.5YR5/ 4	縄文・沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S I89
284	無文深鉢	口縁部	北白川上層式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 3	にぶい黄橙 10YR7/ 3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
285	有文深鉢	口縁部	凹線文土器	中期末	良	灰黄褐 10YR5/ 2	にぶい黄褐 10YR5/ 4	凹線	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
286	有文深鉢	口縁部	凹線文土器	中期末	良	褐灰 10YR4/ 1	褐灰 10YR4/ 1	凹線	ナデ		石英・長石	S I89
287	有文深鉢	口縁部	凹線文土器	中期末	良	暗灰黄 2.5Y5/ 2	黒褐 2.5Y3/ 1	凹線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S I89
288	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6 / 2	にぶい褐 7.5YR5/ 3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
289	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR4/ 7	橙 5YR6 / 6	縄文・沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
290	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	にぶい橙 7.5YR6 / 4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
291	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	灰 N4/0	浅黄橙 10YR8/ 3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	S I89
292	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6 / 2	にぶい黄橙 10YR7/ 3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
293	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	にぶい黄橙 10YR7/ 4	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89
294	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	褐灰 10YR5/ 1	灰白 10YR8/ 2	無文	ナデ		石英・長石・雲母	S I89
295	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	褐灰 10YR4/ 1	橙 5YR6 / 8	無文	ナデ		石英・長石	S I89
296	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR8/ 1	にぶい橙 7.5YR7/ 4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I89

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
297	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	灰褐 7.5YR5/ 2	浅黄橙 7.5YR8/ 3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
298	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	黄灰 2.5Y5/ 1	にぶい橙 7.5YR7/ 3	無文	ナデ		石英・長石	S I-89
299	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR8/ 1	にぶい橙 5YR6 / 3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート	S I-89
300	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR8/ 2	褐灰 10YR6 / 1	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
301	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 2	浅黄橙 7.5YR8/ 4	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒・雲母	S I-89
302	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい橙 5YR7/ 4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
303	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	灰白 7.5YR8/ 2	灰白 10YR8/ 2	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
304	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR7/ 4	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
305	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 2	浅黄橙 7.5YR8/ 3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒・雲母	S I-89
306	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	黄灰 2.5Y4/ 1	浅黄橙 10YR8/ 3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
307	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	灰褐 7.5YR6 / 2	にぶい橙 7.5YR7/ 3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート	S I-89
308	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	灰白 2.5Y8/ 1	にぶい橙 7.5YR7/ 4	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート	S I-89
309	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	灰褐 7.5YR4/ 1	橙 5YR6 / 6	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
310	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR7/ 3	灰白 10YR7/ 3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
311	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 7.5YR8/ 3	明褐灰 7.5YR7/ 2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-89
312	深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	明褐 7.5YR5/ 6	明褐 7.5YR5/ 6	無文	ナデ		石英・長石・雲母	S I-89
313	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい褐 7.5YR5/ 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-85
314	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 2	灰白 10YR8/ 2	凹点・沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S I-85
315	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	淡赤色斑粒橙 2.5YR7/ 4	橙 2.5Y7/ 6	沈線	ナデ		石英・長石	S I-85
316	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR5/ 3	にぶい黄橙 10YR5/ 3	刺突文・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S I-85
317	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6 / 2	にぶい橙 7.5YR6 / 4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S I-85
318	有文深鉢	胴部	凹線文土器	後期後葉	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	灰黄褐 10YR6 / 2	凹線	ナデ		石英・長石・雲母	S I-85

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調 内面	色調 外面	文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
319	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	灰白 10YR8/ 2	明褐灰 7.5YR7/ 2	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S H85
320	無文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい黄橙 10YR6 / 3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S H85
321	有文深鉢	胴部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	灰黄褐 10YR4/ 2	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・チャート・赤色斑粒	S H85
322	有文深鉢	胴部	北白川Ｃ式	中期末	良	黒褐 7.5YR3/ 1	灰褐 7.5YR4/ 2	沈線	ナデ		石英・長石	S H85
323	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	橙 5YR7/ 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S H85
324	有文深鉢	胴部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい黄褐 10YR4/ 3	黒褐 10YR3/ 2	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	S H85
325	無文深鉢	胴部	凹線文土器	後期後葉	良	黒褐 10YR3/ 1	黒 10YR2/ 2	無文	不明	a	石英・長石・角閃石	S H85
326	有文深鉢	胴部	北白川Ｃ式	中期末	良	橙 7.5YR6 / 6	橙 5YR6 / 0	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S H85
327	有文深鉢	胴部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR6 / 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S H85
328	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川上層式	後期前葉	良	灰 5Y6/ 1	灰 5Y5/ 1	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	S H78
329	有文深鉢	口縁部	凹線文土器	後期後葉	良	黒 2.5Y2/ 1	黒褐 2.5YR3/ 1	凹線・貝殻圧痕	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S H85
330	有文深鉢	口縁部	北白川Ｃ式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/ 3	灰褐 7.5YR4/ 2	沈線	ナデ		石英・長石	S H85
331	有文深鉢	胴部	凹線文土器	後期後葉	良	黒褐 10YR3/ 2	黒褐 10YR3/ 1	凹線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S H6 6
332	浅鉢	底部			良	灰黄褐 10YR6 / 2	にぶい黄褐 10YR6 / 3	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S H07
333	深鉢	底部			良	にぶい黄褐 10YR5/ 3	にぶい黄褐 10YR5/ 3	無文	ケズリ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S H07
334	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/ 4	黒褐 7.5YR3/ 2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99
335	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5/ 3	黒褐 10YR3/ 2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S X99
336	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 5YR6 / 4	にぶい橙 5YR6 / 4	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S X99
337	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/ 4	にぶい黄褐 10YR4/ 3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99
338	有文深鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒褐 5YR3/ 1	黒褐 7.5YR3/ 2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99
339	有文深鉢	口縁～頸部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/ 3	黒褐 7.5YR3/ 3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
340	有文深鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒 2.5YR2/ 1	黒 10YR2/ 1	沈線・縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
341	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR4/ 3	黒褐 10YR3/ 3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
342	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR7/ 4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	S X199
343	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5/ 3	灰黄褐 10YR4/ 2	沈線	ナデ	a	石英・長石・チャート・角閃石	S X199
344	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒 2.5Y2/ 1	黒 2.5Y2/ 1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S X199
345	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	にぶい黄橙 10YR6 / 3	縄文	ミガキ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
346	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい褐 7.5YR4/ 3	褐 7.5YR4/ 3	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S X199
347	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	明赤色斑粒褐 5YR5/ 6	明赤色斑粒褐 5YR5/ 6	縄文	ミガキ		石英・長石・雲母	S X199
348	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒 10YR2/ 1	黒 10YR2/ 1	沈線・縄文	ミガキ		石英・長石・雲母	S X199
349	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5/ 3	灰黄褐 10YR5/ 2	縄文	不明	a	石英・長石・角閃石	S X199
350	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰白 7.5YR8/ 2	橙 5YR6 / 6	縄文	ナデ		石英・長石	S X199
351	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 5YR6 / 4	橙 7.5YR6 / 4	沈線・縄文	ミガキ		石英・長石・赤色斑粒	S X199
352	有文深鉢	口縁～頸部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒 10YR2/ 2	黒褐 10YR3/ 2	沈線・縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S X199
353	有文深鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	褐 7.5YR4/ 3	縄文	ナデ・ミガキ		石英・長石・チャート・赤色斑粒	S X199
354	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい黄橙 10YR7/ 3	縄文	ナデ		石英・長石	S X199
355	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR5/ 4	にぶい黄褐 7.5YR5/ 4	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
356	有文深鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐灰 10YR4/ 1	灰褐 7.5YR4/ 2	縄文	ミガキ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
357	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	にぶい黄橙 10YR6 / 3	縄文	ナデ	a	石英・長石・赤色斑粒・角閃石	S X199
358	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	にぶい黄橙 10YR6 / 3	縄文	ナデ		石英・長石	S X199

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調 内面	色調 外面	文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
359	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	縄文	ナデ	a	石英・長石・赤色斑粒・角閃石	SX99
360	有文深鉢	口縁～頸部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	縄文	ケズリ	a	石英・長石・角閃石	SX99
361	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰黄褐 10YR4/2	にぶい黄褐 10YR4/3	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX99
362	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX99
363	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX99
364	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX99
365	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ミガキ・ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SX99
366	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	赤色斑粒褐 5YR4/6	褐 7.5YR4/3	沈線・縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX99
367	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰白 10YR8/2	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX99
368	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒褐 10YR3/1	黒褐 2.5Y3/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX99
369	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐灰 10YR4/1	黒褐 10YR3/2	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SX99
370	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒褐 10YR3/2	黒褐 10YR3/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX99
371	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX99
372	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	沈線	ナデ		石英・長石・チャート	SX99
373	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	暗灰黄 2.5YR5/2	にぶい黄褐 10YR5/4	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX99
374	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	浅黄橙 10YR8/4	明黄褐 10YR7/6	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX99
375	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/4	黒 7.5YR2/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SX99
376	有文深鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/4	黒褐 7.5YR3/2	無文	ナデ	b	石英・長石・角閃石・雲母	SX99
377	無文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR5/4	無文	ナデ	b	石英・長石・角閃石・雲母	SX99
378	無文深鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR7/3	褐灰 10YR4/1	無文	ケズリ		石英・長石・赤色斑粒	SX99

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
379	無文深鉢	口縁～頸部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	にぶい黄褐 10YR5/ 3	無文	ナデ		石英・長石	S X199
380	無文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/ 3	にぶい黄橙 10YR5/ 4	無文	ナデ	b	石英・長石・角閃石	S X199
381	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒褐 10YR3/ 1	浅黄橙 10YR8/ 3	沈線・刺突	ナデ		石英・長石	S X199
382	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/ 3	灰褐 7.5YR4/ 2	沈線	ナデ		石英・長石	S X199
383	有文深鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	暗褐 7.5YR3/ 3	にぶい黄褐 10YR5/ 3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S X199
384	有文深鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰褐 7.5YR4/ 2	灰褐 7.5YR4/ 2	沈線・刺突	ナデ		石英・長石・雲母	S X199
385	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰褐 7.5YR4/ 2	にぶい褐 7.5YR5/ 4	沈線・刺突	ナデ		石英・長石・雲母	S X199
386	有文深鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10Y7/ 3	にぶい黄橙 10Y7/ 2	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	S X199
387	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	橙 5YR6 / 8	橙 5YR6 / 6	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S X199
388	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	橙 5YR6 / 6	にぶい黄褐 10YR5/ 4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S X199
389	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰黄褐 10YR4/ 2	褐灰 10YR4/ 1	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S X199
390	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	橙 5YR6 / 5	にぶい橙 7.5YR6 / 4	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S X199
391	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰黄褐 10YR5/ 2	橙 7.5YR6 / 6	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S X199
392	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/ 3	にぶい黄橙 10YR6 / 3	突起	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S X199
393	有文深鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐灰 7.5YR3/ 1	にぶい橙 7.5YR7/ 4	縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・雲母	S X199
394	有文深鉢	頸部・胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/ 4	褐 7.5YR4/ 4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S X199
395	有文深鉢	頸部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒 7.5YR2/ 1	にぶい黄橙 10YR6 / 4	沈線	ナデ		石英・長石	S X199
396	有文深鉢	頸部・胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	橙 5YR6 / 6	橙 7.5YR6 / 6	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S X199
397	有文深鉢	頸部・胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/ 3	明褐灰 7.5YR7/ 2	沈線	ナデ		石英・長石	S X199
398	有文深鉢	頸部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい褐 7.5YR4/ 3	褐 7.5YR4/ 3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調 内面	色調 外面	文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
399	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 10YR4/3	灰黄褐 10YR4/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S X99
400	有文深鉢	頸部・胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99
401	有文深鉢	頸部・胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 7.5YR7/6	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99
402	有文深鉢	頸部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S X99
403	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・雲母	S X99
404	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黄灰 2.5Y4/1	にぶい黄褐 10YR5/3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99
405	有文深鉢	頸部・胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰白 2.5Y7/1	灰 5Y7/1	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99
406	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR4/3	灰黄褐 10YR4/2	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99
407	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5/3	灰褐 7.5YR4/2	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S X99
408	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒 N1.5/0	橙 5YR6/6	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S X99
409	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S X99
410	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	沈線	ナデ		石英・長石	S X99
411	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐灰 5YR4/1	にぶい橙 7.5YR7/4	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S X99
412	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/3	黄灰 2.5Y4/1	沈線・縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99
413	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/3	黒褐 10YR3/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99
414	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	沈線	ナデ		赤色斑粒	S X99
415	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/3	灰褐 7.5YR4/2	沈線	不明		石英・長石	S X99
416	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S X99
417	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	橙 5YR6/6	橙 5YR7/6	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S X99
418	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰褐 7.5YR4/2	黒褐 7.5YR3/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
419	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/ 4	褐 7.5YR4/ 3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S X99
420	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	橙 5YR6 / 6	褐灰 7.5YR4/ 1	沈線・縄文	不明		石英・長石・雲母	S X99
421	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/ 4	にぶい橙 7.5YR6 / 4	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S X99
422	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR7/ 4	沈線	ナデ		石英・長石	S X99
423	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい褐 7.5YR6 / 3	にぶい橙 5YR7/ 3	沈線	ナデ		石英・長石	S X99
424	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR7/ 3	沈線	ナデ		石英・長石	S X99
425	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/ 6	褐 7.5YR4/ 2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99
426	有文深鉢	頸部・胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/ 3	褐 7.5YR4/ 3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S X99
427	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	明赤色斑粒褐 5YR5/ 6	褐 7.5YR4/ 3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S X99
428	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/ 4	褐 7.5YR4/ 5	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・	S X99
429	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰褐 7.5YR4/ 2	にぶい黄橙 10YR5/ 3	縄文	不明		石英・長石	S X99
430	有文深鉢	胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい赤色斑粒褐 5YR4/ 3	にぶい黄橙 10YR4/ 3	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S X99
431	有文浅鉢	口縁～頸部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰 N4/ 0	灰黄褐 10YR6 / 2	沈線・縄文	不明		石英・長石	S X99
432	有文浅鉢	口縁～頸部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	にぶい橙 7.5YR6 / 4	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S X99
433	無文浅鉢	口縁～頸部	北白川上層式3期	後期前葉	良	暗灰黄 2.5Y5/ 2	にぶい黄橙 10YR6 / 4	無文	ケズリ・ナデ		石英・長石	S X99
434	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰黄褐 10YR5/ 2	にぶい黄橙 10YR7/ 2	沈線	不明		石英・長石	S X99
435	有文浅鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	灰黄褐 10YR4/ 2	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S X99
436	無文浅鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/ 3	にぶい黄褐 10YR4/ 3	無文	ケズリ・ナデ	a	石英・長石・赤色斑粒・角閃石	S X99
437	無文浅鉢	口縁～頸部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR4/ 3	にぶい黄褐 10YR5/ 3	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99
438	無文浅鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/ 4	褐 7.5YR4/ 4	無文	ミガキ・ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X99

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調 内面	色調 外面	文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
439	無文浅鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/ 4	褐 7.5YR4/ 6	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
440	無文浅鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰黄褐 10YR4/ 2	黒褐 10YR3/ 2	縄文	ナデ	b	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
441	無文浅鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR4/ 3	にぶい黄橙 10YR4/ 3	縄文	ミガキ・ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
442	無文浅鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐灰 10YR5/ 1	にぶい黄橙 10YR6 / 3	沈線・縄文	ケズリ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S X199
443	無文浅鉢	頸～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/ 4	褐 7.5YR4/ 4	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
444	無文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5/ 3	にぶい黄褐 10YR5/ 3	無文	ケズリ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
445	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR6 / 4	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
446	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黄灰 2.5Y4/ 1	灰黄褐 10YR5/ 2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
447	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	明赤色斑粒褐 5YR5/ 6	赤色斑粒褐 5YR4/ 6	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
448	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒褐 2.5Y3/ 1	にぶい黄橙 10YR5/ 4	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
449	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 5YR7/ 4	にぶい橙 5YR7/ 4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S X199
450	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐灰 10YR4/ 1	にぶい黄褐 10YR5/ 3	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S X199
451	有文浅鉢	口縁～胴部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6 / 4	にぶい橙 5YR7/ 4	沈線	ミガキ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S X199
452	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰白 10YR8/ 2	灰白 10YR8/ 2	沈線	不明		石英・長石	S X199
453	無文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR4/ 3	暗褐 10YR3/ 3	無文	ケズリ・ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
454	無文浅鉢	口縁部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	にぶい橙 7.5YR6 / 4	無文	ナデ	a	石英・長石・赤色斑粒・角閃石	S X199
455	無文浅鉢	口縁～底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	にぶい褐 7.5YR6 / 3	無文	ケズリ・ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S X199
456	無文浅鉢	口縁～底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黒褐 7.5YR2/ 2	暗赤色斑粒褐 5YR3/ 2	無文	ミガキ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
457	深鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰黄褐 10YR5/ 2	灰黄褐 10YR5/ 2	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199
458	深鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/ 6	褐 7.5YR4/ 3	無文	ケズリ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S X199

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
459	深鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰黄褐 10YR4/2	橙 7.5YR6/6	無文	ケズリ		石英・長石・雲母	SX199
460	深鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰褐 7.5YR5/2	にぶい黄橙 10YR7/4	無文	ケズリ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SX199
461	深鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰褐 7.5YR5/2	にぶい橙 5YR6/4	無文	ケズリ		石英・長石・雲母	SX199
462	深鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄褐 10YR5/3	無文	ナデ		石英・長石	SX199
463	浅鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	黄灰 2.5Y5/1	暗灰黄 2.5Y4/2	無文	ケズリ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
464	深鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい赤色斑粒褐 5YR4/4	褐 7.5YR4/4	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
465	深鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	明褐 7.5YR5/6	にぶい褐 7.5YR5/4	無文	ケズリ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
466	深鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐灰 7.5YR4/1	にぶい黄褐 10YR5/3	無文	ナデ		石英・長石	SX199
467	深鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい赤色斑粒褐 5YR4/4	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
468	深鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	褐 7.5YR4/3	褐 10YR4/4	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
469	浅鉢	底部	北白川上層式3期	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	無文	ケズリ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SX199
470	有文深鉢	口縁～頸部	四ツ池	後期初頭	良	黒褐 10YR3/1	灰褐 7.5YR6/2	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SX199
471	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/3	沈線	ナデ		石英・長石	SX199
472	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・雲母	SX199
473	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/3	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SK08
474	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄褐 7.5YR5/4	灰黄褐 10YR4/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SK10
475	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	明黄褐 10YR7/5	明黄褐 10YR7/5	沈線	ナデ		石英・長石	SK10
476	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	黒褐 7.5YR3/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SK10
477	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	にぶい赤色斑粒褐 5YR5/4	褐 7.5YR4/3	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SK10
478	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SK10

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
479	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	褐灰 7.5YR5/1	にぶい褐 7.5YR6/3	沈線	ナデ		石英・長石	SK10
480	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK10
481	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10Y6/4	刺突文・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SK10
482	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	黒褐 5YR3/1	橙 5YR6/6	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SK10
483	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	褐灰 10YR5/1	灰黄褐 10YR6/2	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	SK10
484	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	沈線・縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK10
485	無文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート	SK10
486	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	黄灰 2.5Y6/1	にぶい黄橙 10YR7/3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	SK22
487	有文浅鉢	口縁部	北白川上層式	後期前葉	良	褐灰 10YR5/1	灰黄褐 10YR5/2	刺突文・沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SK15
488	無文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK25
489	無文深鉢	胴部	凹線文土器	後期後葉	良	にぶい黄橙 7.5YR7/4	灰黄褐 10YR5/2	条痕	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SK27
490	有文深鉢	胴部	凹線文土器	後期後葉	良	橙 5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/3	凹線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK32
491	有文深鉢	口縁部	凹線文土器	後期後葉	良	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	凹線	ナデ		石英・長石	SK71
492	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	SK44
493	無文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/4	灰黄褐 10YR4/2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK44
494	無文深鉢	口縁部	凹線文土器	後期後葉	良	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	無文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK71
495	有文深鉢	胴部	凹線文土器	後期後葉	良	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい橙 5YR7/4	凹線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK71
496	有文深鉢	口縁部	凹線文土器	後期後葉	良	にぶい橙 7.5Y7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	凹線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK71
497	無文深鉢	口縁部	凹線文土器	後期後葉	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい褐 7.5YR5/4	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SK71
498	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	刺突文	ナデ		石英・長石	SK76

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
499	無文深鉢	底部	滋賀里Ⅲ式	晩期	良	灰白 10YR7/ 1	にぶい黄橙 10YR7/ 3	無文	ケズリ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K73
500	無文深鉢	口縁部	滋賀里Ⅲ式	晩期	良	黒褐 2.5Y3/ 1	橙 5YR6 / 6	無文	ケズリ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K73
501	無文深鉢	口縁～胴部	滋賀里Ⅲ式	晩期	良	褐灰 10YR4/ 1	暗褐 10YR3/ 3	無文	ミガキ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S K73
502	無文深鉢	口縁～胴部	滋賀里Ⅲ式	晩期	良	黒 7.5YR2/ 1	にぶい橙 7.5YR7/ 3	無文	ミガキ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K73
503	有文深鉢	頸部～胴部	北白川C式	中期末	良	明赤色斑粒褐 5YR5/ 6	にぶい黄橙 10YR5/ 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K75
504	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6 / 6	褐灰 10YR5/ 1	沈線・縄文	不明		石英・長石	S K90
505	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR8/ 1	灰黄褐 10YR4/ 2	沈線・縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S K90
506	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰 N5/0	淡黄 2.5YR8/ 3	沈線・縄文	不明		石英・長石・雲母	S K90
507	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/ 4	にぶい橙 5YR6 / 4	沈線	不明		石英・長石・雲母	S K90
508	有文深鉢	口縁部	凹線文土器	後期後葉	良	黒 N2/0	暗灰 N3/ 0	凹線・貝殻圧痕・刺突	ナデ		石英・長石	S K91
509	有文深鉢	口縁部	凹線文土器	後期後葉	良	灰褐 7.5YR4/ 2	灰褐 7.5YR4/ 2	凹線・沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S K91
510	有文浅鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい橙 7.5YR6 / 4	縄文	ナデ		石英・長石	S K122
511	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	にぶい黄橙 10YR6 / 3	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S K122
512	有文深鉢	口縁部	凹線文土器	後期後葉	良	浅黄橙 10YR8/ 3	灰白 2.5YR8/ 2	縄文	不明	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K124
513	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/ 4	にぶい黄橙 10YR6 / 3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S K124
514	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい黄橙 10YR7/ 3	沈線	不明		石英・長石・雲母	S K124
515	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR6 / 3	にぶい褐 7.5YR6 / 3	沈線・刺突	ナデ		石英・長石	S K122
516	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	黄灰 2.5Y6 / 1	橙 7.5YR6 / 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K124
517	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR6 / 6	橙 7.5YR6 / 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K124
518	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR7/ 6	橙 7.5YR7/ 6	沈線・縄文	不明		石英・長石・赤色斑粒	S K124
519	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 7.5YR8/ 4	浅黄橙 7.5YR8/ 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K124
520	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	にぶい黄橙 10YR7/ 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K124

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調 内面	色調 外面	文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
521	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR4/ 2	灰黄褐 10YR4/ 2	沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S K24
522	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/ 3	灰 N4/ 0	沈線	不明		石英・長石	S K24
523	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい黄橙 10YR7/ 3	沈線	不明		石英・長石	S K24
524	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	橙 5YR7/ 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K24
525	有文深鉢	頸部	北白川C式	中期末	良	褐灰 10YR4/ 1	褐灰 10YR4/ 1	沈線	ナデ		石英・長石	S K36
526	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい黄橙 10YR7/ 3	刺突文・沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S K46
527	無文浅鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR7/ 4	にぶい褐 7.5YR7/ 4	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
528	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	褐灰 10YR4/ 1	灰黄褐 10YR5/ 2	押引き刺突文・沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S K46
529	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6 / 6	にぶい橙 5YR6 / 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
530	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6 / 2	褐灰 10YR4/ 1	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	S K46
531	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	暗褐灰 7.5YR7/ 2	にぶい褐 7.5YR6 / 3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
532	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6 / 2	オリーブ黒 5Y3/ 1	沈線・縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S K46
533	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR7/ 3	にぶい橙 5YR7/ 4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
534	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	黒褐 10YR3/ 2	黒褐 10YR3/ 2	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
535	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 3	にぶい橙 7.5YR7/ 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
536	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい橙 7.5YR7/ 4	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S K46
537	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/ 3	にぶい橙 7.5YR7/ 4	凹点	ナデ	b	石英・長石・チャート	S K46
538	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR7/ 3	褐灰 5YR4/ 1	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
539	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR6 / 3	にぶい橙 5YR6 / 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
540	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6 / 6	にぶい橙 5YR6 / 3	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
541	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6 / 3	灰褐 7.5YR6 / 2	沈線	不明	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
542	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	褐灰 7.5YR4/ 1	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート	S K46
543	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 5YR7/ 6	にぶい橙 7.5YR7/ 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
544	有文深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR6 / 4	にぶい黄橙 10YR7/ 3	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
545	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR6 / 3	にぶい褐 7.5YR6 / 3	沈線	不明	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
546	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい橙 7.5YR7/ 4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
547	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	褐灰 7.5YR4/ 2	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
548	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 5YR6 / 4	にぶい赤色斑粒褐 5YR5/ 3	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
549	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6 / 6	橙 5YR6 / 6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
550	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 3	にぶい橙 7.5YR6 / 4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K46
551	有文深鉢	底部	北白川C式	中期末	良	にぶい赤色斑粒褐 5YR5/ 4	にぶい褐 7.5YR5/ 4	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S K46
552	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	にぶい黄橙 10YR7/ 3	刺突文・沈線	ナデ		石英・長石・雲母	S K6 2
553	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/ 3	にぶい橙 7.5YR7/ 4	刺突文	ナデ		石英・長石	S K6 2
554	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	明黄褐 10YR7/ 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K6 2
555	無文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰 N4/0	淡黄 2.5Y8/ 3	縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S K6 2
556	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 3	灰白 2.5Y8/ 2	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S K6 2
557	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/ 3	浅黄橙 10YR8/ 3	沈線	ナデ		石英・長石	S K6 2
558	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR7/ 4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K81
559	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/ 4	にぶい褐 7.5YR5/ 3	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	S K94

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
560	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄褐 10YR5/3	オリーブ黒 5Y3/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK195
561	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	SK195
562	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR7/2	沈線・縄文	不明	b	長石・チャート	SK195
563	鉢	高台部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 10YR8/3	灰白 10YR8/2	穿孔	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK201
564	無文深鉢	口縁～頸部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	無文	ケズリ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK203
565	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄褐 10YR5/4	暗褐 10YR3/4	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SK202
566	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線	ナデ		石英・長石	SK201
567	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	沈線	不明		石英・長石	SK201
568	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR5/3	沈線・縄文	不明		石英・長石・赤色斑粒	SK201
569	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK202
570	無文深鉢	口縁～胴部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/3	無文	ケズリ		石英・長石・雲母	SK203
571	無文深鉢	底部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄褐 10YR4/3	無文	ケズリ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SK203
572	無文深鉢	底部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR7/2	橙 7.5YR6/6	無文	ケズリ		石英・長石・赤色斑粒	SK203
573	無文深鉢	底部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	無文	ケズリ		石英・長石・赤色斑粒	SK203
574	有文深鉢	胴部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR7/2	灰白 10YR8/2	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SK202
575	有文深鉢	胴部	北白川上層式	後期前葉	良	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	沈線	ナデ		石英・長石	SK204
576	無文深鉢	口縁部	北白川上層式	後期前葉	良	橙 7.5YR6/6	灰黄褐 10YR6/2	縄文	不明	b	石英・長石・チャート	SK204
577	有文深鉢	口縁部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい褐 5YR5/4	にぶい褐 5YR5/4	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SK207
578	有文深鉢	口縁	北白川上層式	後期前葉	良	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SK207

報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調		文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
						内面	外面					
579	有文深鉢	胴部	北白川上層式	後期前葉	良	橙 7.5YR6 / 6	にぶい黄褐 10YR4/ 3	沈線	ナデ		石英・長石	S K207
580	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	橙 7.5YR7/ 6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K207
581	有文深鉢	頸部	北白川上層式	後期前葉	良	灰黄 2.5YR7/ 2	灰黄 2.5YR7/ 2	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S K207
582	有文深鉢	胴部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	にぶい黄橙 10YR5/ 3	沈線	ナデ		石英・長石	S K207
583	有文深鉢	口縁部	北白川上層式	後期前葉	良	橙 5YR6 / 6	橙 5YR6 / 6	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S K207
584	有文深鉢	頸部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい橙 5YR6 / 4	にぶい橙 5YR7/ 4	沈線	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	S K207
585	深鉢	底部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい橙 7.5YR6 / 4	5YR6 / 4	無文	不明	a	石英・長石・角閃石・雲母	S K207
586	深鉢	底部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR7/ 2	灰白 10YR8/ 2	無文	ナデ		石英・長石	S K207
587	無文深鉢	口縁～胴部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄褐 10YR5/ 3	灰黄褐 10YR5/ 2	沈線・縄文	ケズリ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S K207
588	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/ 4	橙 5YR6 / 6	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	S P96
589	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい赤色斑粒褐 5YR4/ 3	にぶい赤色斑粒褐 5YR4/ 3	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S P96
590	有文深鉢	口縁部（波状）	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 4	にぶい橙 7.5YR7/ 4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石	S P20
591	無文深鉢	口縁部		後期	良	黒褐 2.5Y3/ 1	黒褐 2.5Y3/ 1	無文	ミガキ		石英・長石・雲母	S P21
592	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	褐灰 10YR5/ 1	刺突文・沈線	不明		石英・長石	S P24
593	無文浅鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	黒 7.5Y2/ 1	灰黄 2.5Y6 / 2	無文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	S P24
594	有文深鉢	胴部	凹線文土器	後期後葉	良	にぶい黄橙 10YR6 / 3	黒褐 2.5Y3/ 1	巻貝扇状圧痕・凹線・刺突文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒・雲母	S P28
595	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	灰褐 7.5YR6 / 2	にぶい橙 7.5YR7/ 4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	S B 6
596	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	浅黄橙 7.5YR8/ 4	にぶい黄橙 10YR7/ 3	沈線・縄文	不明		石英・長石	S B 6
597	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR7/ 3	にぶい橙 7.5YR7/ 4	沈線	ナデ		石英・長石	S B 6

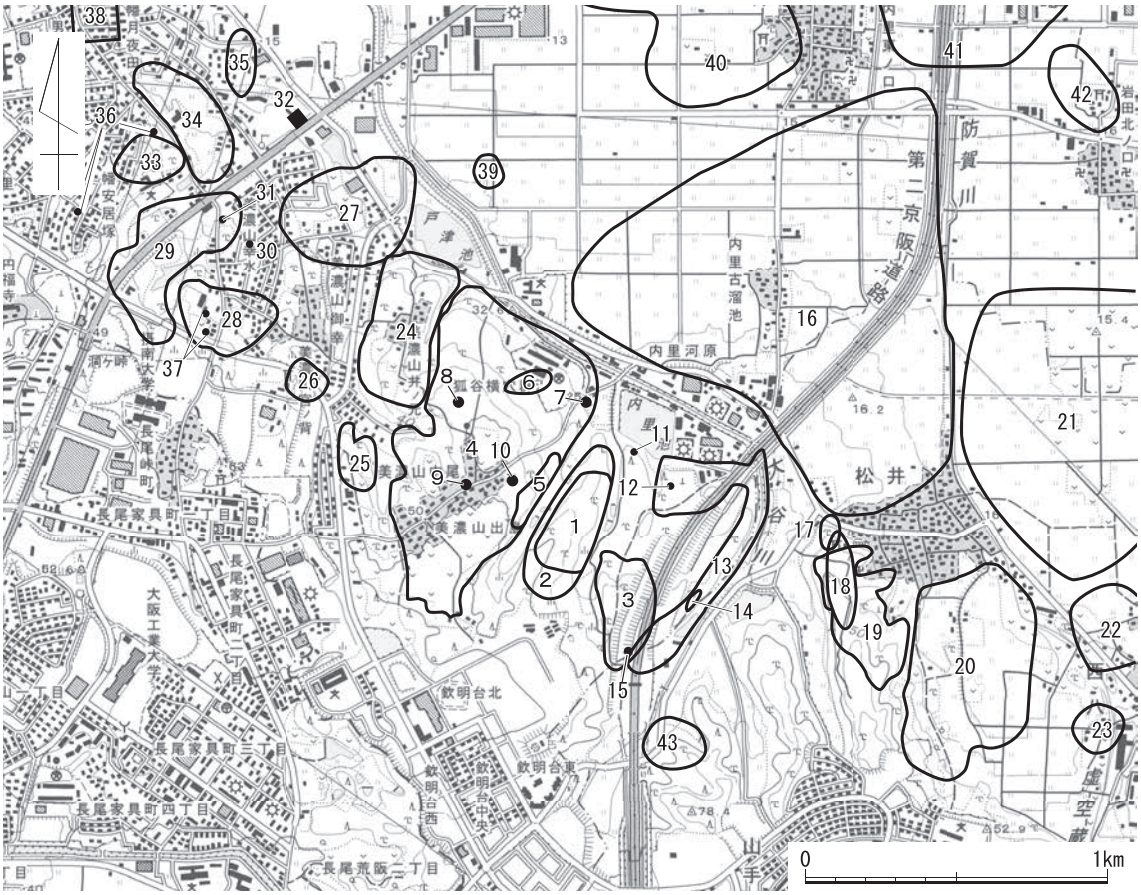
報告番号	器形	部位	形式	時期	焼成	色調 内面	色調 外面	文様・施文	調整	種別	含有鉱物	出土地点
598	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 5YR6／6	にぶい橙 7.5YR6／4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SB6
599	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 7.5YR6／6	橙 7.5YR6／6	沈線	不明		石英・長石・雲母	SF74
600	有文深鉢	頸～胴部	北白川C式	中期末	良	灰褐 7.5YR4/2	灰褐 7.5YR4/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SP12
601	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい橙 10YR6／3	凹線	ナデ		石英・長石	SP15
602	有文深鉢	胴部	凹線文土器	後期後葉	良	にぶい橙 7.5YR6／4	浅黄橙 10YR8/3	凹線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SP20
603	有文深鉢	口縁部	凹線文土器	後期後葉	良	灰褐 7.5YR6／2	灰 5Y4/1	巻貝扇状圧痕・凹線	不明		石英・長石・角閃石	SP20
604	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい橙 7.5YR6／4	にぶい橙 7.5YR6／4	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SP28
605	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	沈線・縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SP28
606	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/3	灰褐 7.5YR5/2	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SP16
607	無文浅鉢	口縁部	凹線文土器	後期後葉	良	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR6／6	無文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SP20
608	有文深鉢	頸～胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/4	黒褐 10YR3/2	沈線	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SP28
609	有文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	沈線・縄文	ナデ	a	石英・角閃石	SP29
610	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	橙 2.5YR7/6	橙 2.5YR6／6	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SP29
611	無文深鉢	胴部			良	にぶい黄橙 10YR6／3	にぶい褐 7.5YR5/3	縄文	ナデ	a	石英・長石・角閃石・雲母	SP30
612	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/3	縄文	ナデ		石英・長石・雲母	SP49
613	有文深鉢	胴部	北白川上層式	後期前葉	良	にぶい黄橙 10YR5/3	黄灰 2.5Y4/1	沈線	ナデ	a	石英・長石・角閃石	SP37
614	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SP35
615	無文深鉢	口縁部	北白川C式	中期末	良	にぶい黄橙 10YR7/3	橙 2.5YR6／6	縄文	ナデ	b	石英・長石・チャート・赤色斑粒	SP50
616	有文深鉢	胴部	北白川C式	中期末	良	灰白 10YR8/2	浅黄橙 10YR8/3	沈線・縄文	ナデ		石英・長石・赤色斑粒	SP51

※種別は、a：角閃石の入ったもの、b：在地の胎土

2．美濃山廃寺下層遺跡第８次発掘調査報告

１．はじめに

美濃山廃寺下層遺跡は、八幡市美濃山古寺に所在する弥生時代から奈良・平安時代を中心とする時期の遺跡である。同遺跡と立地がほぼ重複する美濃山廃寺は、奈良・平安時代の寺院跡である。このたび、新名神高速道路整備事業が計画されたことから、西日本高速道路株式会社からの



第１図　調査区位置図(国土地理院　1/ 25, 000　淀)

１．美濃山廃寺
２．美濃山廃寺下層遺跡
３．荒坂遺跡
４．美濃山遺跡
５．美濃山横穴群
６．狐谷横穴群
７．柿谷古墳
８．野神遺跡
９．小塚古墳
10．美濃山大塚古墳
11．内里池南古墳
12．荒坂古墳
13．女谷・荒坂横穴群
14．御毛通遺跡
15．御毛通古墳
16．新田遺跡
17．天神社古墳群
18．向山遺跡
19．松井横穴群
20．向谷遺跡
21．魚田遺跡
22．西村遺跡
23．西野遺跡
24．金右衛門垣内遺跡（井ノ元遺跡）
25．宮ノ瀬西遺跡
26．宮ノ瀬遺跡
27．幸水遺跡
28．西ノ口遺跡
29．備前遺跡
30．東二子塚古墳
31．西二子塚古墳
32．ヒル塚古墳
33．南山遺跡
34．山田遺跡
35．山田東遺跡
36．南山１～５号墳
37．南山６・７号墳
38．志水廃寺
39．五反田遺跡
40．内里五丁遺跡
41．内里八丁遺跡
42．西岩田遺跡
43．口仲谷古墳群

依頼を受けて、事前に発掘調査を実施した。発掘調査で使用した国土座標は、日本測地系の第Ⅵ座標系である。土壌及び遺物の色調は、農林水産技術会議監修の『新版標準土色帖』を用いた。

なお、本報告の作成は調査第２課調査第２係古川匠が担当した。現地調査及び整理等作業に当たっては、京都府教育委員会、八幡市教育委員会を始め、関係機関、地元自治会、近隣住民の方々のご指導とご協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。

現地調査責任者　調査第２課長　肥後弘幸
調 査 担 当 者　調査第２課課長補佐兼調査第１係長　小池　寛
同　調査第３係次席総括調査員　田代　弘
同　調査第１係主任調査員　引原茂治
同　調査第２係調査員　古川　匠
調　査　場　所　八幡市美濃山古寺
現地調査期間　平成22年12月６日～平成23年３月４日
調　査　面　積　1，500㎡

２．立地と環境

美濃山廃寺下層遺跡が立地する美濃山丘陵は、八幡市西部から南西部にわたって横たわる丘陵である。丘陵では、わずかではあるが旧石器・縄文時代の石器が確認されており、弥生～古墳時代の集落や古墳、横穴、古代寺院の存在が知られている。平野部では、木津川によって形成された自然堤防上で、弥生時代から中世にかけての集落遺跡が発見されている。弥生時代の集落遺跡として、内里八丁遺跡[注1]をはじめ中期の中核的集落跡と位置づけられる金右衛門垣内遺跡[注2]、方形周溝墓群が検出された幸水遺跡等[注3]が所在している。古墳時代には、木津川河床遺跡をはじめ女郎花遺跡[注4]で前期の竪穴式住居跡などが検出されている。一方、美濃山廃寺下層遺跡の近隣には、中小規模の首長墳が点在しており、方墳のヒル塚古墳、大型円墳の美濃山大塚古墳等が挙げられる。後期の柿谷古墳は小規模方墳であるが、鉄製馬具、剣、金銅装胡籙、須恵器などの豊富な副葬品が出土している[注5]。また、この地域の特徴として横穴の多さが挙げられ、美濃山廃寺下層遺跡の周辺にも美濃山横穴、狐谷横穴群等が点在するが、近年、特に美濃山廃寺下層遺跡の東に隣接する女谷・荒坂横穴群で、多くの横穴が発掘調査されている。

７世紀代の創建と考えられている志水廃寺、西山廃寺では、堂塔跡や瓦窯跡が確認されている[注6]。平野山瓦窯は四天王寺の創建瓦を焼成した瓦窯である[注7]。内里八丁遺跡では、古代の道路状遺構と掘立柱建物群が検出されている。この道路状遺構は、古山陰道である可能性が指摘されている。上奈良遺跡は、『延喜式』内膳司に収載される官立の菜園「奈良園」との関係性が注目される遺跡である[注8]。女郎花遺跡では奈良時代から平安時代初頭の大規模な掘立柱建物跡が発見されている。志水廃寺に近く、同寺との関係が看取される。

美濃山廃寺・同下層遺跡における発掘調査は、旧八幡町史編纂事業に伴い、昭和52年度に実施

付表１　美濃山廃寺・同下層遺跡発掘調査一覧

遺跡名	略称	次数	年度	面積	年代	主要遺構	報告
美濃山廃寺	MH	１次	昭和 52	約 70㎡	古代	掘立柱建物	注９
		２次（１次）	平成 11	148㎡	古代	掘立柱建物	注 11・16
		３次（２次）	平成 12	171㎡	古代	掘立柱建物・溝	注 12・16
		４次（３次）	平成 13	255㎡	古代	掘立柱建物・寺域北・西限区画溝	注 13・16
		５次（４次）	平成 14	250㎡	古代	寺域北限区画溝・掘立柱建物	注 14・16
		６次（５次）	平成 15	240㎡	古代	寺域北・東限区画溝・掘立柱建物	注 15・16
美濃山廃寺下層遺跡	MHK	１次	昭和 52	約 70㎡	弥生	竪穴式住居跡	注９
		２次	昭和６２	※試掘	弥生	顕著な遺構なし	注 10
		３次（１次）	平成 11	148㎡	弥生	顕著な遺構なし	注 11・16
		４次（２次）	平成 12	171㎡	弥生	溝ほか	注 12・16
		５次（３次）	平成 13	255㎡	弥生	竪穴式住居跡・土坑・溝	注 13・16
		６次（４次）	平成 14	250㎡	弥生	溝・ピットほか	注 14・16
		７次（５次）	平成 15	240㎡	弥生	竪穴式住居跡・土坑・ピット	注 15・16
		８次	平成 22	1，500㎡	縄文～古代	土坑・ピット・溝状遺構	本報告

括弧内の次数は平成11～15年度の八幡市教育委員会による確認調査の次数を示す。

された第１次調査を嚆矢とする。この調査では、掘立柱建物跡や奈良時代の遺物、弥生時代後期の円形竪穴式住居跡の一部が検出された。その後、平成11年度から15年度にかけて、八幡市教育委員会による範囲確認調査が実施され、掘立柱建物跡が数棟と寺域の外周をめぐる区画溝が検出された。この結果、寺域が東西約90m、南北約90 ～ 120mにわたることが判明した。また、出土遺物から、奈良時代中頃から平安時代前期までの存続が推定されている。

以上のように、美濃山廃寺で計６次、美濃山廃寺下層遺跡で計７次にわたる発掘調査が、主に八幡市教育委員会によって実施されてきた。平成22年度以降からは、当センターによる新名神高速道路整備事業に伴う発掘調査が実施されていることから、今回の調査の現地作業終了後に、調査次数の統一について、関係機関と協議した。また、遺物の整理作業で用いる調査略称についても、統一を図ることとした。詳細は付表１のとおりである。本報告を含め、今後、美濃山廃寺・同下層遺跡では、この次数表記に準じて発掘調査が実施されることになる。

３．調査概要

1）調査区の設定と層序（第２・３図）

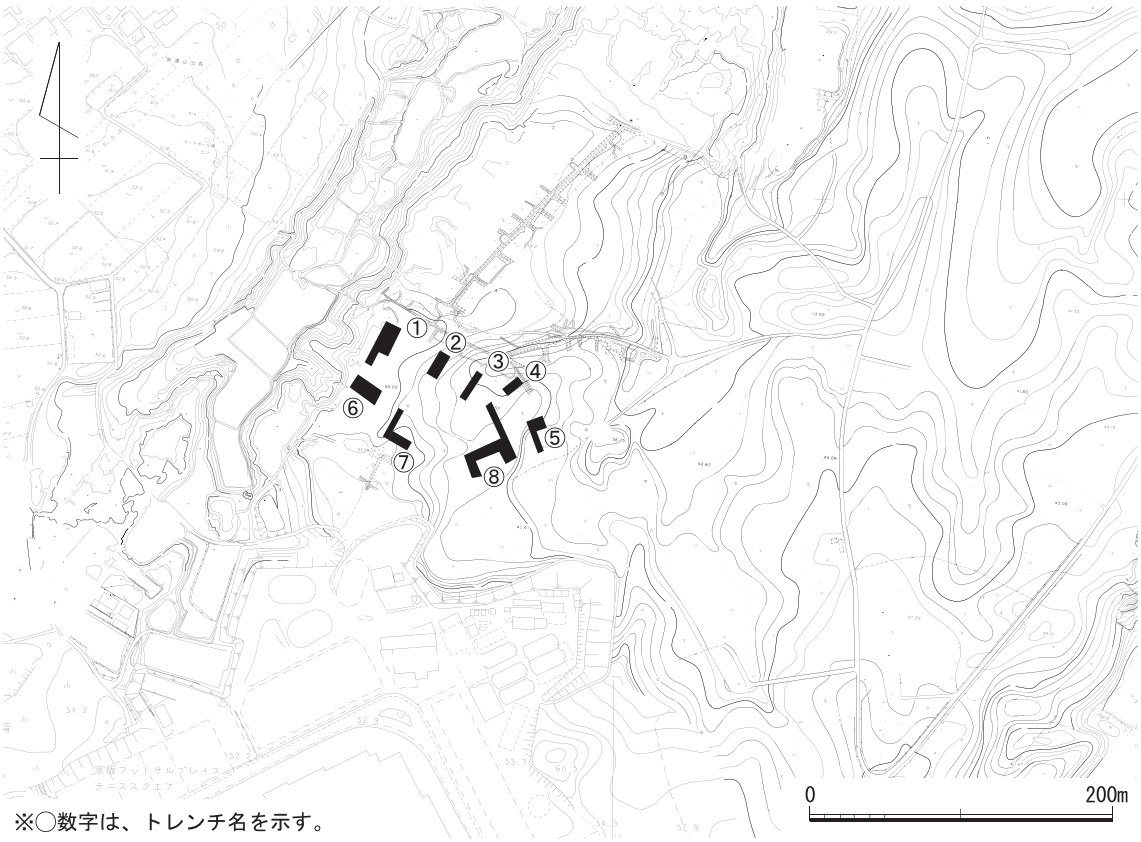
調査対象地は美濃山廃寺の中心部から約200m南の丘陵上にあり、美濃山廃寺下層遺跡の南端部にあたる。調査着手前の現況は竹林であったが、竹林造成以前は、明治時代を中心に茶畑が営まれていた。このような土地活用の履歴を反映するものか、南西から北東にかけて下がっていく段造成が痕跡的に認められる。また、茶畑以降の、近年にかけての竹林造成に伴う地形改変による凹凸も顕著である。今回の調査では、調査対象地内の広範囲にわたってトレンチを分散して設定し、発掘調査を実施した。調査対象地の西北隅に第１トレンチを設定し、東に向かって順番に第２～４トレンチを、さらに南側に、西から東へ向かって第６～８トレンチを設定した。

各トレンチにおける堆積状況を比較すると、個別の分層とは別に、おおまかな単一の尺度によ

る土層の検討が可能である。本報告では、以下のとおり、第Ⅰ層から第Ⅷ層までの層序把握によって、調査対象地の全体的な地形改変の変遷過程の検証を試みることとする。

第Ⅰ層は、黄褐色と褐色土層が、非常に細かく交互に縞状に堆積して構成される層である。堆積状況と調査着手前の地形から、近年の竹林経営に伴う定期的な造成によって形成された層と認定できる。第Ⅰ層からは、近現代の遺物が出土している。第Ⅱ層は、第Ⅰ層直下に堆積する層で、地山を起源とする客土である。色調は、主に黄褐色を呈する。この層は標高の高い地点ではほとんど見られず、対照的に低い地点では厚く堆積する傾向がある。段造成に伴って形成された堆積層の可能性が高い。第Ⅱ層からは、近世の遺物が出土している。第Ⅲ層は、第Ⅱ層と似た土質であるが、黒褐色土が多く含まれる。第Ⅲ層から第Ⅱ層にかけて、色調が黒褐色から黄褐色へと、漸移的に変化している。第Ⅲ層は、第Ⅱ層と同じく、近世以降の造成に伴って形成された堆積層と考えられる。第Ⅲ層からは、弥生時代～古代の遺物が出土している。第Ⅳ層は、黒褐色を呈し、土質が腐葉土に近い特徴を有する薄い堆積層である。第Ⅳ層からは、弥生時代～古代の遺物が出土している。土層の特徴と堆積状況から、第Ⅱ・Ⅲ層が形成された段階の旧表土層とみなせる。

第Ⅴ層以下は、いわゆる「地山」である。第Ⅴ層は黄褐色粘質シルト層である。土質と色調の特徴から、第Ⅱ・Ⅲ層は主に第Ⅴ層を削り出して形成されたようである。なお、八幡市教育委員会による美濃山廃寺の中心部分の調査では、この層の直上で奈良時代の整地層が検出されているが、今回の調査では確認されなかった。第Ⅵ層は、明黄褐色粘質シルト、第Ⅶ層は橙色シルト質粘土である。



※○数字は、トレンチ名を示す。

第２図　調査トレンチ位置図(1/ 5, 000)

第３図　調査対象範囲地形図(1/1,000)

第Ⅴ～Ⅶ層は、調査対象地の西南部に位置する第６・７トレンチを中心に堆積が確認できるが、東部の第３・４・８トレンチ等では確認できなかった。一方、東部のトレンチでは、第Ⅶ層より下位に堆積する粘土層や砂層、礫層で形成される第Ⅷ層を地山層として検出した。第Ⅷ層は、大阪層群である。

2)第１トレンチ（第４図）

第１トレンチは、調査対象地の北西隅に設定した調査区である。周辺に安定した平坦面が広がっており、また、調査対象地以北に位置する美濃山廃寺の中心部分から、最も近い位置に設定した調査区である。以上の条件から、当トレンチでは、遺構の検出が期待されたが、遺構は皆無であり、遺物も極めて少量であった。堆積状況は、表土直下に厚さ30～40cmの第Ⅲ層が堆積し、直下で地山の第Ⅵ層を検出した。

3)第２トレンチ（第４図）

第２トレンチは、第１トレンチが位置する平坦面から東に下がる斜面に設定した調査区である。表土直下に第Ⅰ・Ⅱ層が堆積しており、表土面から約２ｍ下で地山面を検出した。

4)第３トレンチ（第５図）

表土のほぼ直下で地山面を検出した。調査区の北側が段状を呈していることから、茶畑の造成に伴うものと考えられる。調査区の中央部付近に不定形な溝状のプランを検出したが、断ち割り調査による土層観察から、自然堆積層であることが判明した。

5)第４トレンチ（第５図）

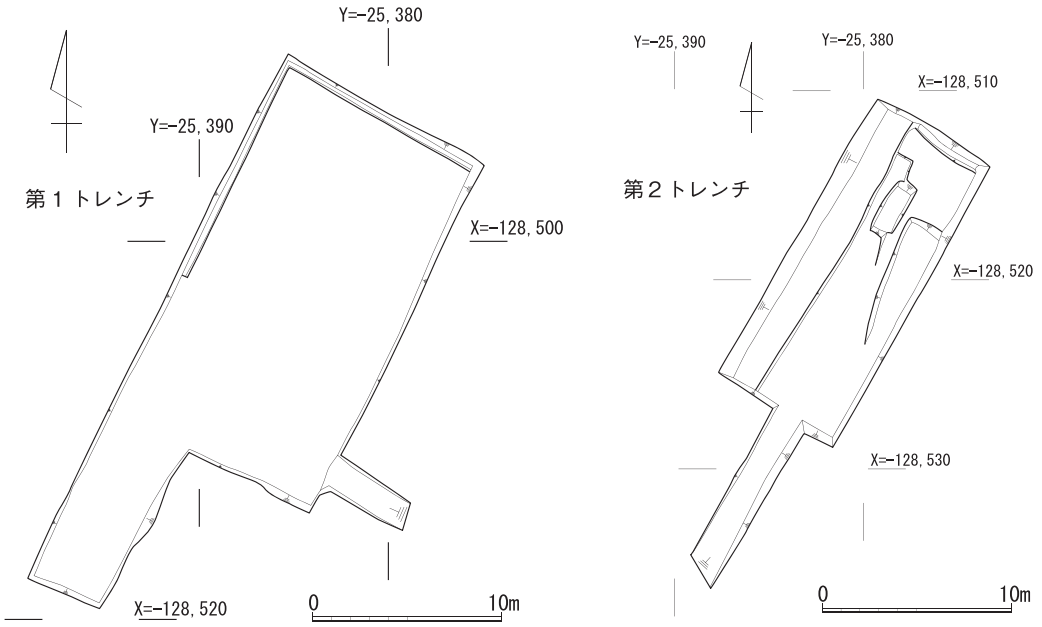
調査対象地の東北隅に位置し、さらに北には竹林用の作業道がある。地山面が北に向かって緩やかに傾斜する。表土、粘土ブロック混じり堆積層の下位で第Ⅷ層を検出した。

6)第５トレンチ（第６図）

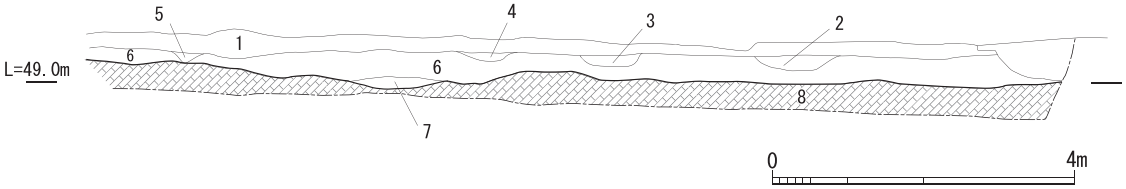
大規模な現代の撹乱層が厚く堆積しており、表土下４ｍまで掘削したが、自然堆積層は検出できなかった。安全保持のため、この深さで掘削を終了した。このトレンチ周辺の地表面は平坦であるが、北東には、南北方向の谷が存在する。現況では埋まっているが、本来は、この谷の内部に位置する可能性がある。

7)第６トレンチ（第６図）

調査対象地の西南隅に設定した調査区である。表土下40～50cmの深度で第Ⅴ層が一面に広がっている。旧地形はほぼ保たれているようで、溝ＳＤ01・04、土坑ＳＫ02、ピットＳＰ05、土坑ＳＸ03を検出した。溝ＳＤ01は幅0.3m・長さ９ｍで、埋土は灰褐色砂質土である。溝ＳＤ04は幅１ｍ・長さ30m以上で、埋土は黒褐色粘質土である。ＳＤ01・04からはガラス片等が出土しており、同様の溝が地表面でも観察されることから、竹林造営に伴う地割溝と考えられる。ＳＫ02は平面規模が1.1m×0.8mの歪な土坑で、深さは0.05mである。埋土は灰褐色粘質シルト層である。ＳＰ05は0.2m×0.4mの規模のピットで、埋土はＳＫ02に近い。ＳＰ05からは瓦片、青磁片が出土したが、掘形が不明瞭で人工的な遺構か否かについては判然としない。ＳＸ03は0.4m×0.15mの土坑で平面形態は方形と考えられる。深さは0.1mである。埋土は、炭化物、焼土から構成さ

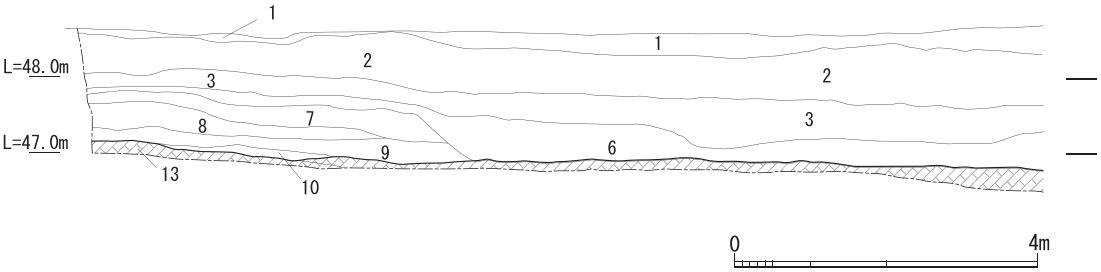


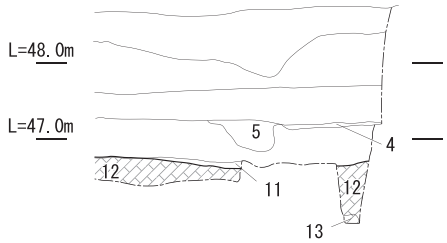
［第１トレンチ西壁］



１．表土
２．黄褐色粘質シルト　10YR5/8
３．明黄褐色粘質シルト　2.5Y4/3
４．明黄褐色粘質シルト　2.5Y4/3　（炭化物、焼土含む）
５．黄褐色シルト質粘土　10YR5/6
６．明黄褐色シルト質粘土　10YR6/8　（橙色シルトを斑状に含む、第Ⅲ層）
７．明黄褐色粘質シルト　10YR6/6
８．明黄褐色粘質シルト　10YR6/8　（締まり強い、地山、第Ⅵ層）

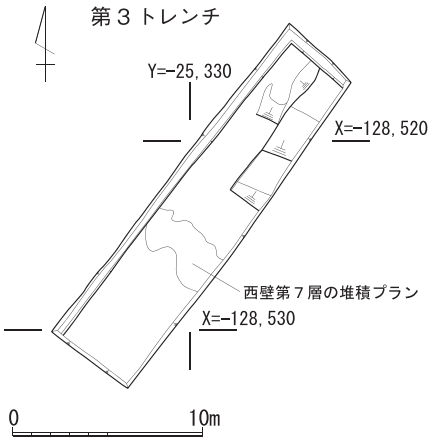
［第２トレンチ西壁］

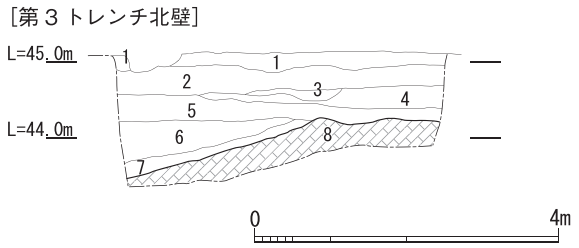




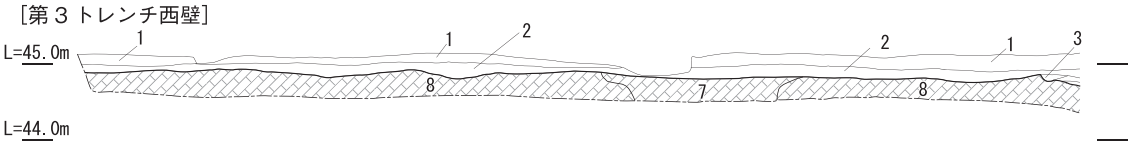
１．表土
２．にぶい黄橙色砂質シルト　10YR6/4
（竹林の客土、第Ⅰ層）
３．にぶい黄褐色砂質シルト　10YR5/4
（黄橙色粘質シルトを少量含む、第Ⅰ層）
４．明黄褐色シルト　2.5YR6/6
（橙色粘土ブロックをわずかに含む）
５．明黄褐色砂質シルト　2.5YR7/6
（灰白色粘土ブロックを少量含む）
６．黄褐色粘質シルト　2.5Y5/6　（第Ⅱ層）
７．明黄褐色シルト　2.5Y6/8
（砂粒わずかに含む）
８．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/6
（粘土ブロックを多く含む）
９．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/6
10．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/6
11．明黄褐色シルト　2.5YR6/8
12．明黄褐色極細砂　2.5Y6/8
（地山、第Ⅴ層）
13．浅黄色砂質シルト　5Y7/3
（10よりやや粘質、地山、第Ⅴ層）

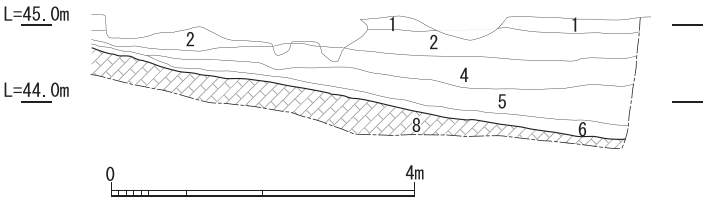
第４図　第１・２トレンチ平・断面図



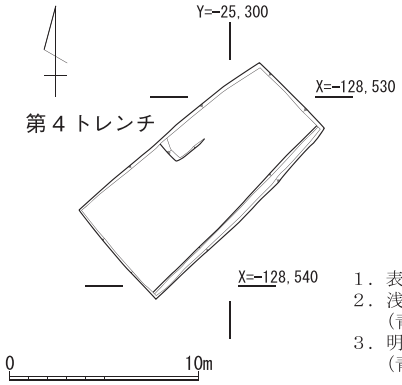


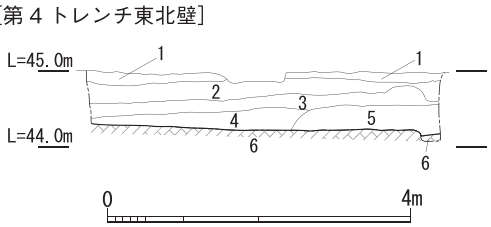
１．表土
２．黄褐色粘質シルト　10YR5/6
（白色粘土ブロックを含む）
３．明黄褐色シルト　2.5Y6/6
（細かい灰色粘土ブロックを含む）
４．黄褐色粘質シルト2.5Y5/6　（細かい灰白色粘土ブロックをわずかに含む）
５．にぶい黄色粘質シルト　2.5YR5/4
６．黄褐色粘質シルト　2.5YR6/4
７．黄褐色粘質シルト　2.5Y5/4
（粘質がやや弱い、第Ⅳ層か）
８．にぶい黄色シルト　2.5Y6/4　（第Ⅴ層、下位に第Ⅵ層が堆積している）



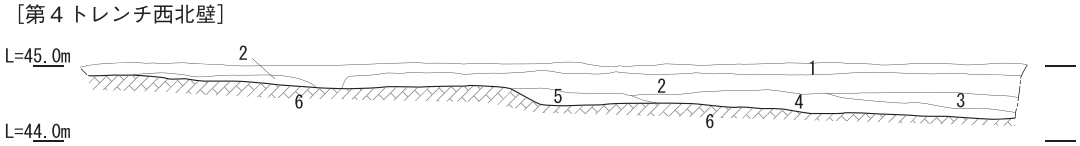


１．表土
２．北壁第２層と同一層
３．にぶい黄色シルト　2.5Y6/4（細かい橙色粘土ブロックを多く含む）
４．北壁第５層と同一層
５．北壁第６層と同一層
６．北壁第７層と同一層
７．にぶい黄色ブロック質シルト　2.5Y6/4
８．北壁第８層と同一層（地山）



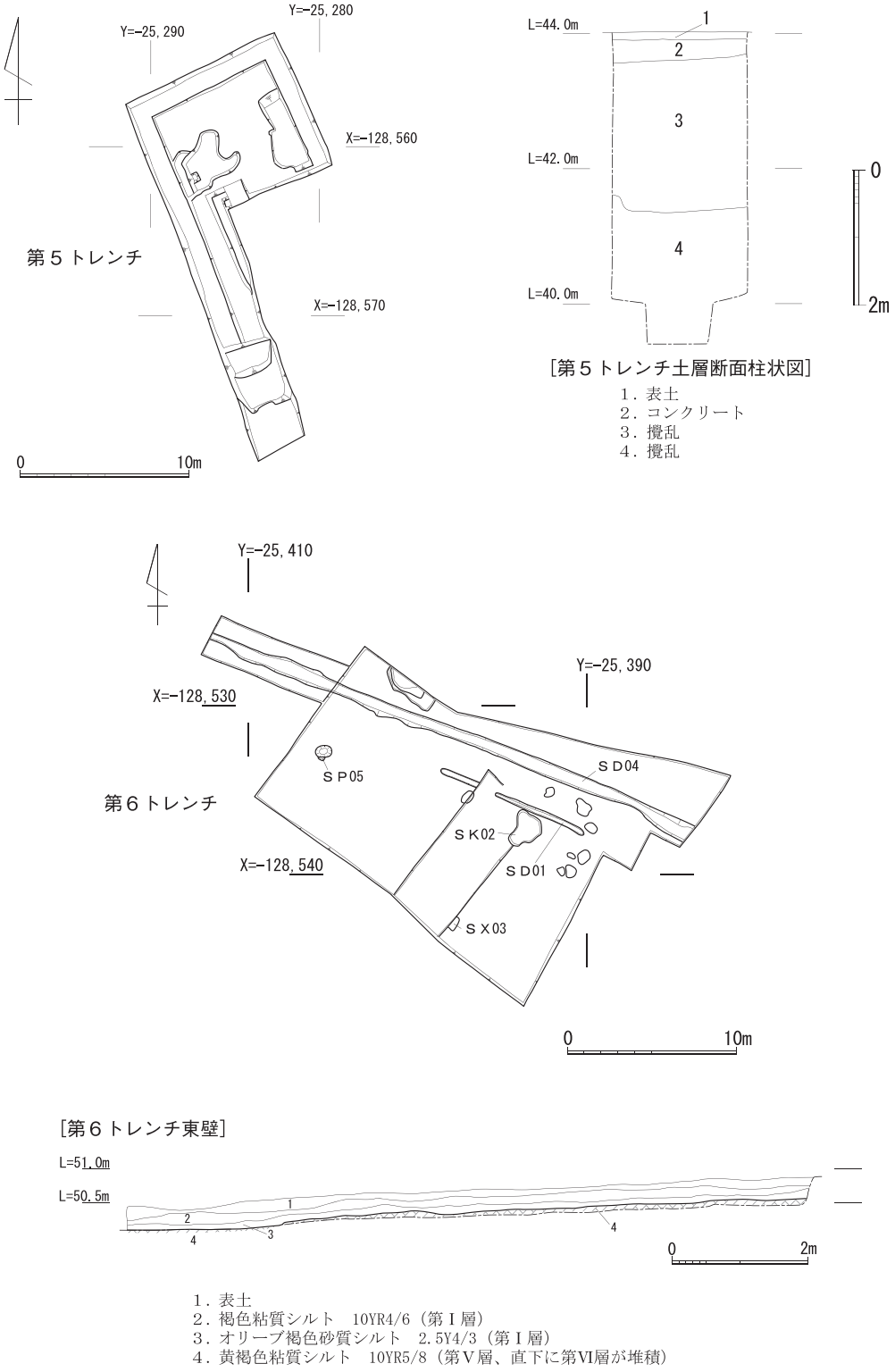


１．表土
２．浅黄色砂質シルト　2.5Y7/4
（青灰色粘土ブロックをやや多量に含む）
３．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/6
（青灰色粘土ブロックを少量含む）
４．黄褐色砂質シルト　2.5Y5/4
（青灰色粘土ブロックを少量含む）
５．明黄褐色シルト混じり極細砂　2.5Y6/6
（青色砂質粘土ブロックを少量含む）
６．灰白色粘土　7.5Y7/2　（ブロック質、地山、第Ⅷ層）



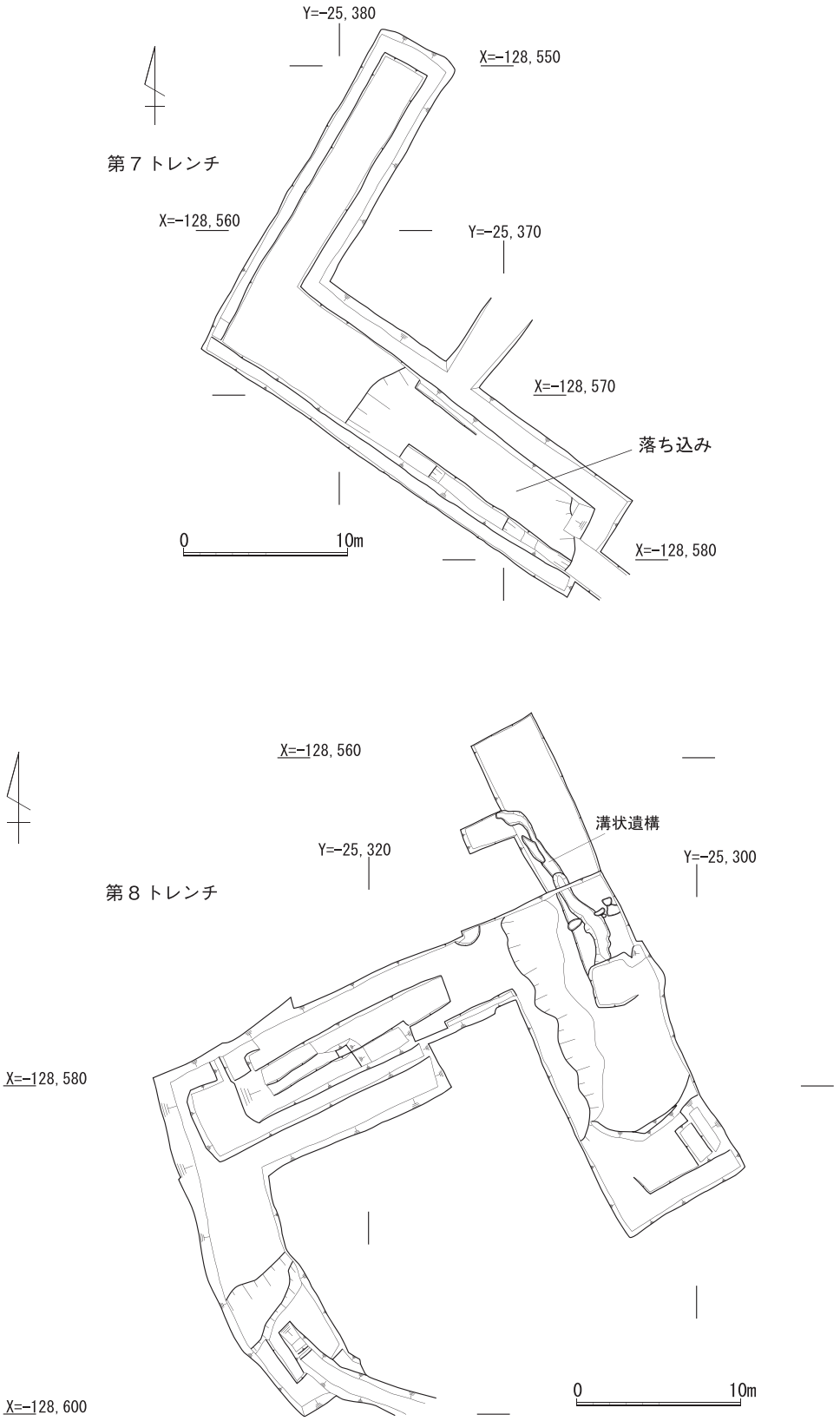
１．表土
２．東北壁第２層と同一層
３．東北壁第３層と同一層
４．東北壁第４層と同一層
５．浅黄色シルト　5Y7/4　（青灰色粘土をわずかに含む）
６．東北壁第６層と同一層　（地山）

第５図　第３・４トレンチ平・断面図



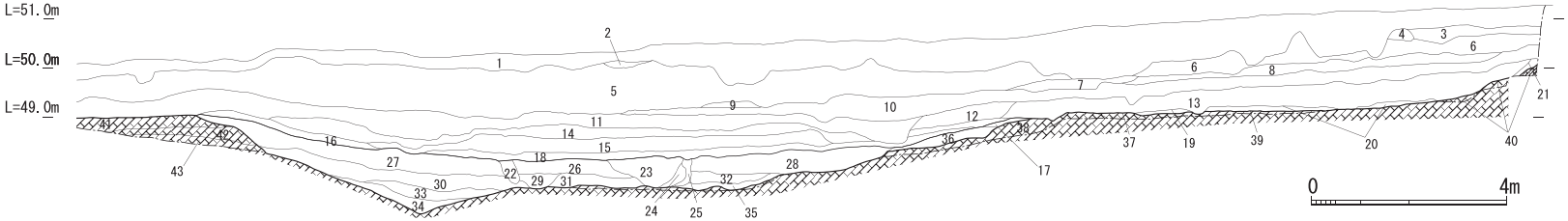
第６図　第５・６トレンチ平面図・西壁断面図

れる。ＳＸ03については、美濃山廃寺に伴う生産遺構の可能性を想定し、調査区を拡張して調査したが、遺構の広がりは確認できなかった。同様の堆積層が他のトレンチの第Ⅱ・Ⅲ層の中で確認されており、図示した中では、第５図の第１トレンチ西壁第３層が相当する。 ＳＸ03についても、近世の山林造成に伴う堆積層の一部の可能性がある。



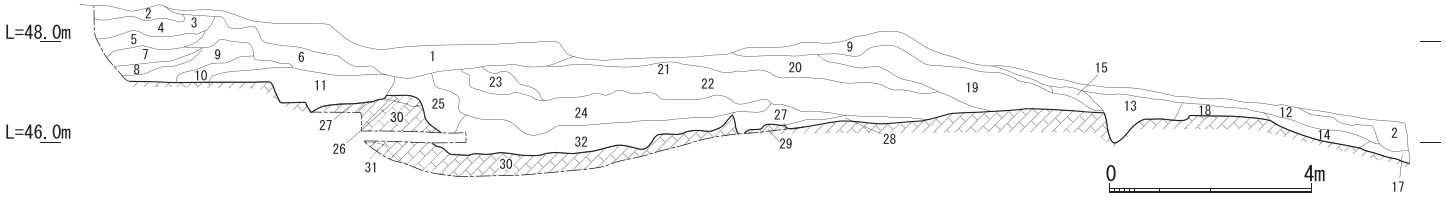
第７図　第７・８トレンチ平面図

［第７トレンチ南壁］



1．表土
2．にぶい黄橙色砂質シルト　10YR7/4
3．黄褐色シルト　10YR5/6（少し粘質、灰褐色シルトが縞状に薄く混じる）
4．褐色シルト　7.5YR4/4（黄褐色ブロック含む）
5．明黄褐色砂質シルト　2.5YR5/6（径 10mm 程度の亜角礫をごく少量含む）
6．黄褐色砂質シルト　2.5YR5/6
7．にぶい黄褐色砂質シルト　10YR5/4
8．明黄褐色シルト　10YR6/8
9．黄褐色粘質シルト　10YR5/6
10．明黄褐色粘質シルト　10YR6/8（白色シルト質粘土を少量含む）
11．黄褐色粘質シルト　2.5Y5/6
12．にぶい黄褐色粘質シルト　10YR5/6
13．黄褐色シルト質粘土　2.5YR5/6
14．黄褐色シルト質粘土　10YR5/6
15．黄褐色粘土　2.5YR5/6
16．オリーブ褐色シルト質粘土　2.5YR4/3（径 15〜30mm 程度の亜角礫を少量含む、第Ⅳ層）
17．オリーブ褐色シルト質粘土　2.5YR4/3（径 15〜30mm 程度の亜角礫を少量含む）
18．黄褐色シルト　2.5YR5/6（径 15〜30mm 程度の亜角礫を少量含む、第Ⅳ層）
19．明黄褐色シルト質粘土　10YR6/8
20．明黄褐色粘質シルト　10YR6/6
21．黄褐色粘質シルト　10YR5/6（地山あるいは崩落土）
22．にぶい黄色粘質シルト　2.5YR6/4（礫を少量含む）
23．黄褐色シルト　2.5YR6/6（礫をやや多めに含む）
24．明黄褐色シルト質粘土　2.5Y6/6
25．明黄褐色粘土　2.5YR6/6
26．明黄褐色粘土　2.5YR6/6（ごくわずかにシルト混じる）
27．明黄褐色シルト　10YR6/8（やや粘質）
28．明黄褐色シルト　10YR6/8（やや粘質）
29．明黄褐色粘質シルト　2.5YR6/6
30．明黄褐色粘質シルト　2.5YR6/6（礫を少量含む）
31．明黄褐色粘質シルト　2.5YR6/6（礫を少量含む）
32．明黄褐色粘質シルト　2.5YR6/6（礫を少量含む）
33．明黄褐色砂質シルト　2.5YR7/6（茶褐色粒子を含む）
34．明黄褐色砂質シルト　2.5Y7/6（17 より色調明るい）
35．明黄褐色粘質シルト　2.5YR6/6（礫を少量含む）
36．明黄褐色シルト　2.5Y6/6
※(22〜36 は落ち込みの埋土)
37．明黄褐色粘質シルト　10YR6/8（第Ⅵ層）
38．明黄褐色シルト質極細砂　10YR6/8（粒径５〜10mm の亜角礫をやや多量に含む、第Ⅵ層）
39．明黄褐色粘土　10YR6/6（明青灰色粘土が斑状に混じる、第Ⅵ層）
40．明青灰色シルト質粘土と明黄褐色シルト質極細砂が混じる（地山、第Ⅶ層か）
41．灰白色粘土　7.5Y7/1（黄褐色粘質シルトをブロック状に含む、地山、第Ⅷ層）
42．明黄褐色砂質シルト　10YR6/6（細粒砂を多量に含む、地山、第Ⅷ層）
43．黄橙色粘質シルト　10YR7/8（細粒砂を多量に含む、地山、第Ⅷ層）

［第８トレンチ西壁］



1．排土
2．表土
3．灰白色粘土　2.5GY8/1
4．明黄褐色シルト質極細砂　2.5Y6/6
5．明黄褐色シルト質極細砂　2.5Y6/6
6．あさぎ色ブロック質シルト　2.5GY7/3
7．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/8
8．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/6（青灰色粘土ブロックを含む）
9．明黄褐色砂質シルト　10YR6/6（青灰色及び灰白色粘土ブロックを含む）
10．明黄褐色ブロック質粘土　2.5Y7/6（白灰色粘土をごく多量に含む）
11．６と同一（灰白色粘土をごく多量に含む）
12．黄褐色砂質シルト　2.5Y5/4（砂粒を多量に含む）
13．にぶい黄色粘質シルト　2.5Y6/4（根株痕）
14．明黄褐色砂質シルト　3.5Y7/6
15．明黄褐色シルト質極細砂　2.5Y6/6
16．灰白色ブロック質粘土　7.5Y8/1（黄褐色砂質ブロック混じり）
17．明黄褐色シルト　2.5Y6/6（地山）
18．にぶい黄色砂質シルト　2.5Y6/4
19．灰白色シルト質粘土　10Y8/1（締り強い）
20．淡黄色ブロック質シルト　2.5Y8/3（締り弱い）
21．明黄褐色ブロック質シルト　2.5Y7/6
22．明黄褐色ブロック質シルト　10YR7/6（灰白色の大きな粘土ブロックを多量に含む）
23．灰白色極細砂混じり粘土　2.5Y8/1
24．明黄褐色シルト　2.5Y6/8
25．灰白色極細砂混り粘土　7.5Y8/1（ブロック質）
26．明黄褐色極細砂　10YR6/8（地山、第Ⅷ層）
27．明黄褐色砂質シルト　10YR6/8（灰白色粘土を少量含む）
28．明黄褐色シルト　2.5Y7/6
29．灰白色粘土　5Y7/2（地山、第Ⅷ層）
30．明オリーブ灰色粘土　2.5GY7/1（地山、第Ⅷ層）
31．30 と同一（30 よりやや色調明るい）
32．明黄褐色砂質シルト　2.5Y6/6（青灰色粘土ブロックを含む）

第８図　第７トレンチ南壁・第８トレンチ西壁断面図

8)第７トレンチ（第７・８図）

第６トレンチの東側に設定したトレンチである。客土が厚く堆積しているが、本来、東に傾斜する緩斜面であったようである。顕著な遺構は検出されなかったが、旧地表面である第Ⅳ層から弥生土器と瓦片が少量出土した。遺物の外面は摩滅しており、高い地点から転落してきたようである。なお、トレンチの東半分は自然の落ち込みであり、この埋土上層より、サヌカイト製の打製尖頭器が１点出土した。落ち込みの断ち割りを行い、共伴遺物等の確認調査を行ったが、他の遺物は出土しなかった。

9)第８トレンチ（第７・８図）

調査区の南東隅に設定したトレンチで、平坦面から南東へ下りる斜面地に位置する。全体に堆積層の残存状況は悪く、特に南斜面は傾斜が急激で、顕著な地形改変がなされたようである。東・南斜面から古代の須恵器、土師器、瓦片が少量出土した。また、東斜面直下で南北方向の溝状遺構を検出したが、平面形態が不定形で直線的な形状にならないため、寺院関連施設の溝とは評価しがたい。

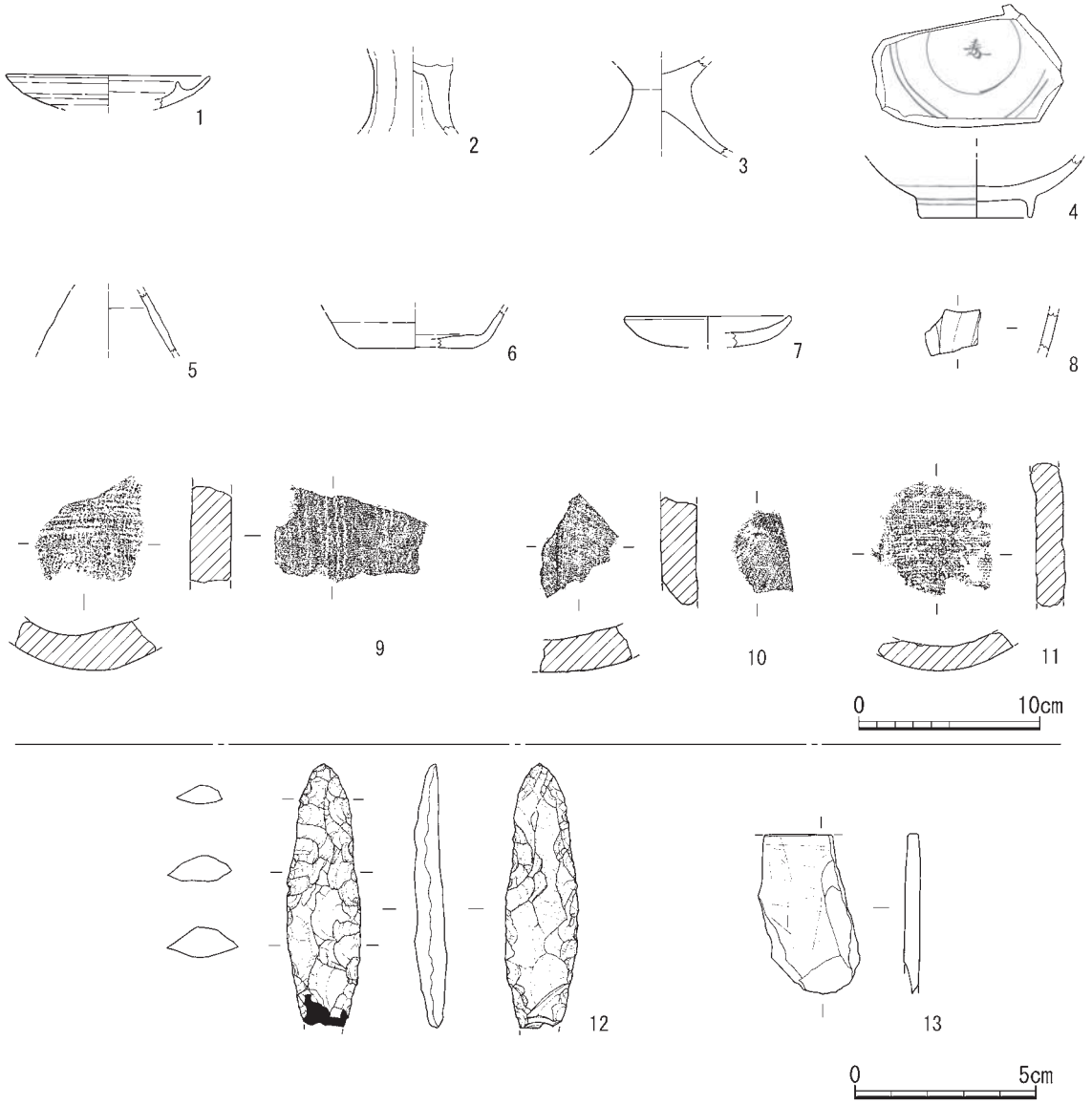
４．出土遺物（第９図・付表２）

１～４は、各トレンチの調査区壁から出土した。１は陶器灯明受け皿である。２は弥生土器高杯脚部である。３は弥生土器高杯脚部である。第Ⅲ層から出土した。４は染付椀である。見込み部に「寿」字が手書きされる。これらの土器は第Ⅲ層から出土した。５は第Ⅳ層出土の高杯脚部である。６・７は第８トレンチの斜面から出土した土器である。６は須恵器杯Ａ、７は土師器皿である。８は第６トレンチＳＫ05 出土の中国産の青磁蓮弁文椀である。９～11は各トレンチ出土の瓦片である。９は丸瓦で、内面に布目痕、外面に縄目叩き痕が観察される。今回の調査で出土した瓦は、全て奈良時代から平安時代にかけての瓦である。12はサヌカイト製の打製尖頭器である。第７トレンチの落ち込みの埋土最上層から出土した。基部の表面が少し欠損するため、出土地点周辺の埋土をふるいにかけたが、同一個体の破片は出土しなかった。土器が共伴しないため、帰属時期は不明確であるが、縄文時代草創期から早期頃の遺物と考えられる。13は粘板岩製の磨製石器破片である。第６トレンチ調査区壁第Ⅱ層から出土した。石包丁などの破片と考えられる。

５．まとめ

今回の調査では明確な遺構は確認されず、瓦、須恵器等の古代を中心とする時期の遺物が少量出土した。何らかの施設の存在が近隣に想定されるが、寺院関連施設を示す証拠は得られなかった。後世の土地開発によって、遺構は消失したようである。

古代以外の時期の様相をみると、第８トレンチの落ち込みの埋土、近世の造成土と考えられる第Ⅱ層および第Ⅲ層、また、近世の旧表土と考えられる第Ⅳ層から、縄文時代から近世の遺物が出土した。また、１点のみではあるが、ピットから中世の青磁椀の破片が出土した。周辺の調査



第９図　遺物実測図

では、美濃山廃寺下層遺跡第２次調査で谷の中から瓦器が少量出土している以外、中世の遺物は発見されていない。今回の第８次調査で出土した資料は、小破片ではあるが、中世段階にも美濃山が土地利用された可能性を示唆する資料である。　（古川　匠）

注１　竹原一彦・森下衛『内里八丁遺跡』Ⅰ（『京都府遺跡調査報告書』第26冊　財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター）　1999
森下衛・柴暁彦『内里八丁遺跡』Ⅱ（『京都府遺跡調査報告書』第30冊　財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター）　2001

注２　『八幡市誌』第１巻　八幡市　1986

注３　桝井豊成・赤松一秀「幸水遺跡（第１・２次）発掘調査概要」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第25集　八幡市教育委員会）　1998

注４　桝井豊成ほか「女郎花遺跡（第３・５次）発掘調査概報」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第28集　八幡市教育委員会）　1999

注５　引原茂治「２.柿谷古墳・美濃山遺跡」（『京都府遺跡調査報告集』第146冊　財団法人京都府埋蔵文財

調査研究センター）　2011
注６　『志水廃寺発掘調査報告』（『八幡市文化財調査報告』第２集　八幡市教育委員会）　1978
『西山廃寺（足立寺）発掘調査概報』八幡市教育委員会　1971
注７　西田直二郎・赤松俊秀「八幡町志水瓦窯址」（『京都府史跡名勝天然記念物調査報告』第17冊　京都府）　1937
注８　八十島豊成「上奈良遺跡発掘調査概報（第４次）」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第35集　八幡市教育委員会）　2003
注９　江谷寛『美濃山廃寺発掘調査報告』（『八幡町文化財調査報告』第１集　八幡市教育委員会）　1977
注10　『美濃山廃寺下層遺跡発掘調査概報』　八幡市教育委員会　1987
注11　八十島豊成・大洞真白・塩貝泰洋「美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡範囲確認調査」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第30集　八幡市教育委員会）　2000
注12　大洞真白「美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡範囲確認調査（第２次）」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第31集　八幡市教育委員会）　2001
注13　大洞真白「美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡範囲確認調査（第３次）」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第32集　八幡市教育委員会）　2002
注14　八十島豊成・大洞真白「美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡範囲確認調査（第４次）」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第34集　八幡市教育委員会）　2003
注15　八十島豊成・大洞真白「美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡範囲確認調査（第５次）」（『八幡市埋蔵文化財発掘調査概報』第37集　八幡市教育委員会）　2004
注16　大洞真白『美濃山廃寺・美濃山廃寺下層遺跡範囲確認調査（１～５次）報告書』（『八幡市埋蔵文化財発掘調査報告』　第32集　八幡市教育委員会）　2002

付表２　遺物観察表

図面番号	トレンチ	遺構	器種	器高（残存高）	口径（底径）	残存率	胎土	焼成	色調	備考
1	4t r	調査区壁	陶器灯明受皿	(1.85cm)	11.2cm	1/ 4強	密	堅緻	断面：2.5G Y5/ 1灰白色 釉調：5Y7/ 1灰白色	－
2	7t r	調査区壁	弥生高杯	(4.1cm)	－	全周	やや粗	良好	2.5Y7/ 4浅黄色	摩滅著しい
3	7t r	調査区壁	弥生高杯	(4.1cm)	－	全周	やや密	良好	2.5Y6 / 1黄灰色	第Ⅲ層
4	6 t r	調査区壁	染付椀	(3.25cm)	6 .05cm	1/ 2強	密	堅緻	断面：白色 釉調：透明（薄く青みがかる）	第Ⅱ層
5	7t r	調査区壁	弥生高杯	(3.2cm)	－	1/ 3	やや粗	良好	2.5Y7/ 4浅黄色	第Ⅳ層
6	8t r	北斜面	須恵器杯Ａ	(2.2cm)	(6 .4cm)	1/ 4強	やや密	堅緻	N7.5/ 0灰色	－
7	8t r	南斜面	土師器皿	－	12.0cm	1/ 6弱	密	堅緻	10YR7/ 3にぶい黄橙色	煤付着
8	6 t r	ＳＫ05	青磁椀	(2.1cm)	－	小破片	密	堅緻	断面：N8/ 1灰白色 釉調：2.5G Y5/ 1オリーブ灰色	－

図面番号	トレンチ	遺構	種別	残存長	器厚	残存率	胎土	焼成	色調	備考
9	7t r	調査区壁	丸瓦	(7.7 × 5.2cm)	－	－	やや粗	良好	10G Y5.5/ 1緑灰色	第Ⅲ層
10	6 t r	ＳＫ02	平瓦	(6 .0× 5.1cm)	2.0cm	－	やや粗	良好	7.5Y7/ 1灰白色	－
11	7t r	調査区壁	瓦	(6 .0× 4.9cm)	1.6 cm	－	やや粗	やや良	2.5Y6 / 1黄灰色	－
12	7t r	落ち込み	打製尖頭器	7.25cm × 2.0cm	0.9cm	ほぼ完形	－	－	暗灰色	サヌカイト
13	6 t r	調査区壁	石包丁か	(4.4cm × 2.2cm)	0.45cm	－	－	－	黒灰色	粘板岩・第Ⅱ層

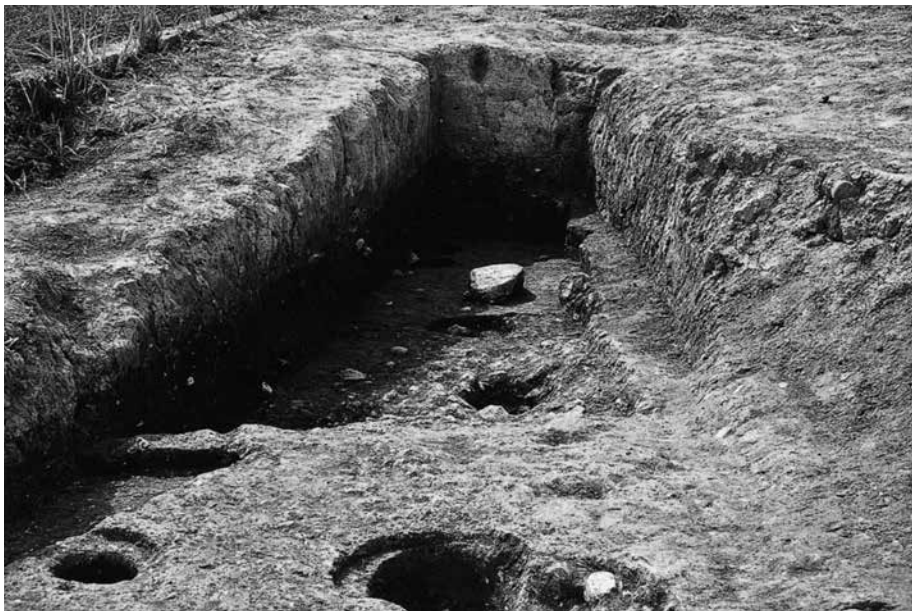
図　　版

京都第二外環状道路関係遺跡　図版第１

長岡京跡右京第 984 次・伊賀寺遺跡

(1)トレンチ全景(南東から)

(2)大型落ち込み状遺構ＳＸ08
（北から）



(3)大型落ち込み状遺構ＳＸ08
（東から）

京都第二外環状道路関係遺跡　図版第２

長岡京跡右京第 988 次・伊賀寺遺跡

(1) 1 トレンチ遺構集中部(南東から)

(2) 4 トレンチ全景(西から)

京都第二外環状道路関係遺跡　図版第３

長岡京跡右京第 988 次・伊賀寺遺跡

(1) １トレンチ全景(南東から)

(2) １トレンチ北部(南から)

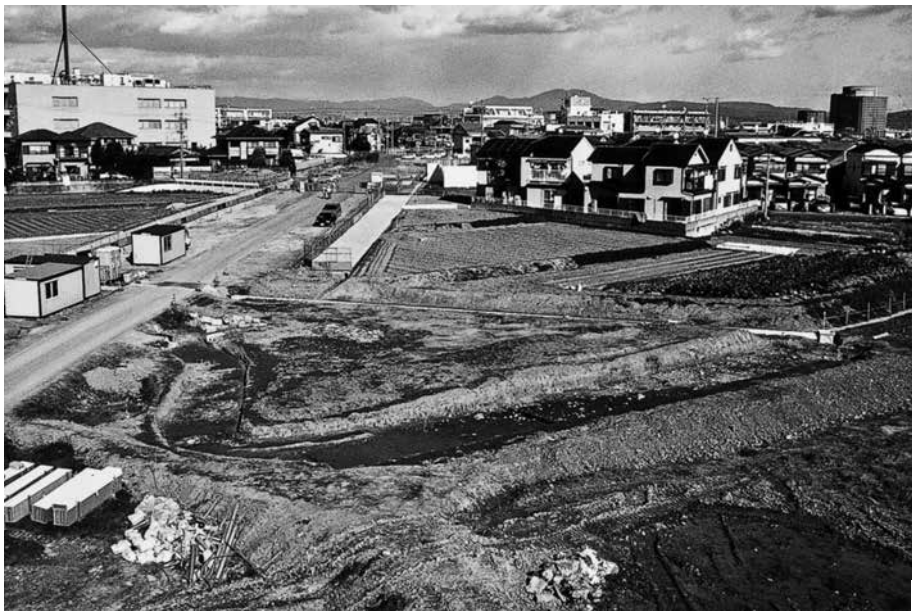
(3) ２・３トレンチ(南東から)

京都第二外環状道路関係遺跡　図版第４

長岡京跡右京第 988 次・伊賀寺遺跡

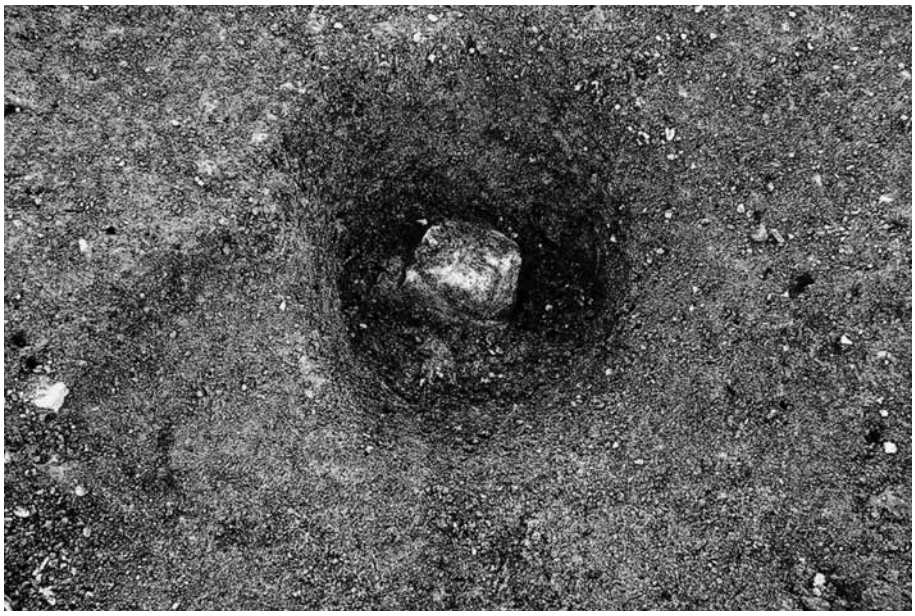
(1) ３トレンチ全景(北西から)

(2) ２トレンチ(北西から)



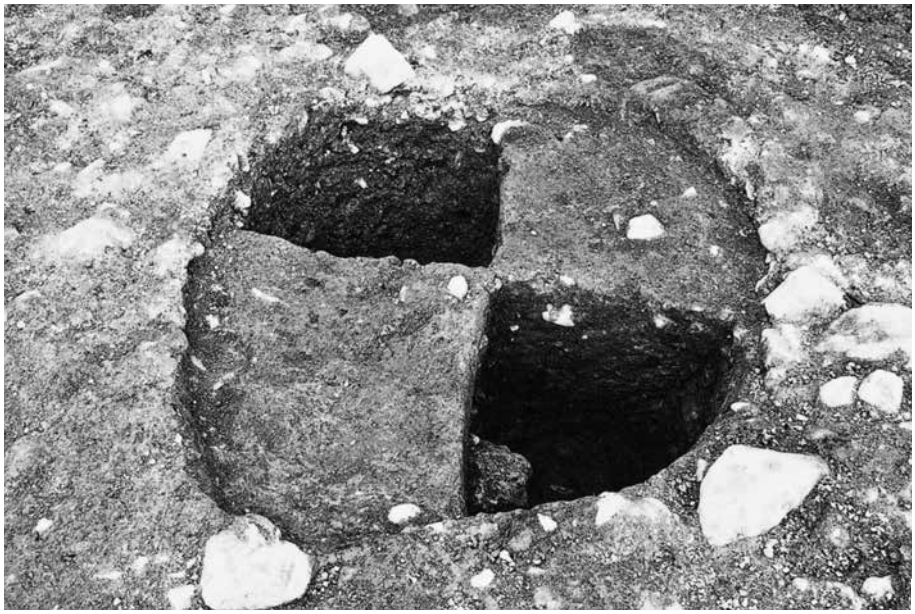
(3) ４トレンチ(南西から)

(1) １トレンチ溝ＳＤ01(西から)



(2) １トレンチ溝ＳＤ01内
柱穴ＳＰ153(東から)

(3) １トレンチ溝ＳＤ02(西から)



(1) １トレンチ柱穴ＳＰ81(南から)

(2) １トレンチ柱穴ＳＰ175
（南から）

(3) １トレンチ柱穴ＳＰ176
（南から）

(1) １トレンチ柱穴ＳＰ177
（西から）

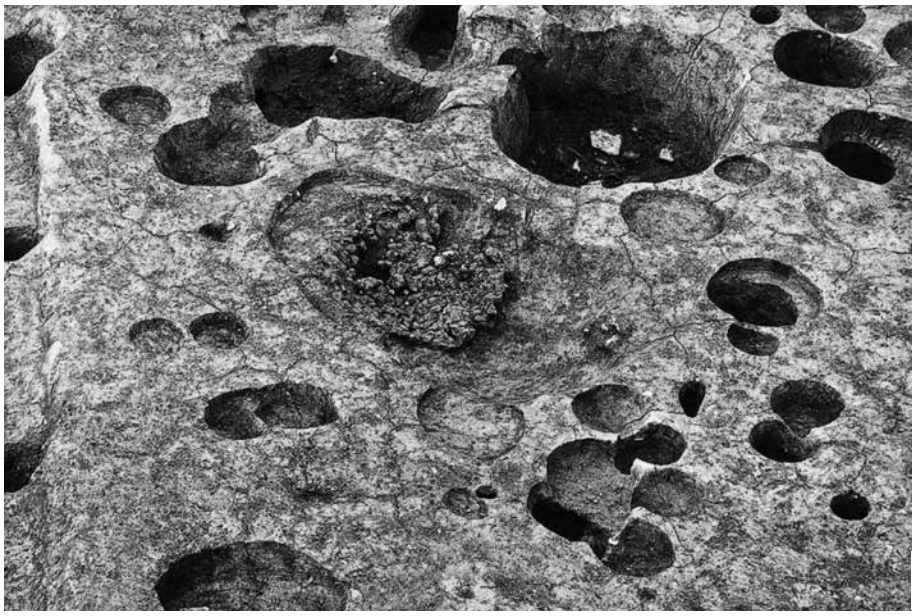
(2) ４トレンチ溝ＳＤ160上層
（南から）

(3) ４トレンチ溝ＳＤ160下層
（東から）

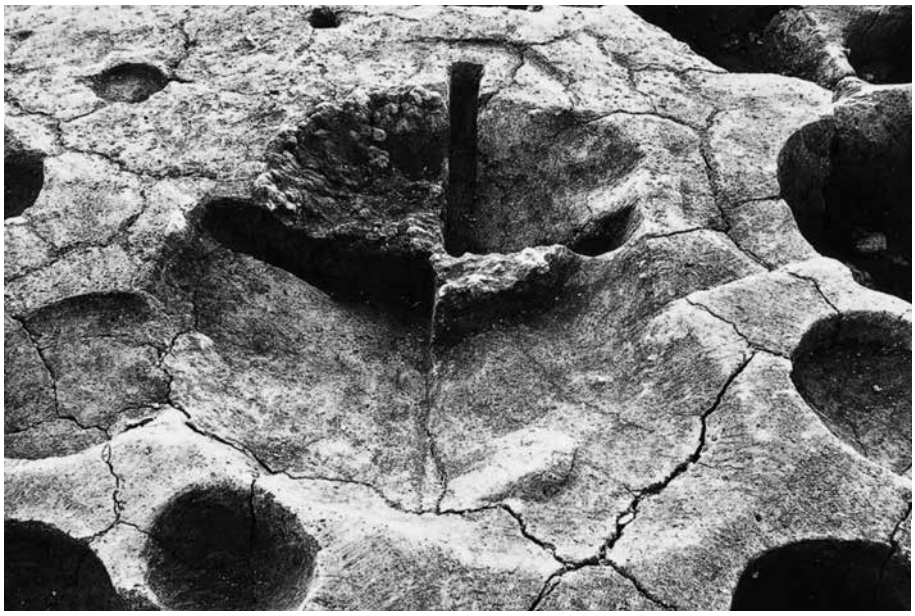
京都第二外環状道路関係遺跡　図版第８

長岡京跡右京第 988 次・伊賀寺遺跡

(1) １トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ89
（東から）



(2) １トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ89
内炉跡ＳＸ148（東から）



(3) １トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ89
内炉跡ＳＸ148断ち割り
（北から）

(1) １トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ85
（東から）

(2) １トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ85
（北から）

(3) １トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ85
焼土（東から）

京都第二外環状道路関係遺跡　図版第 10

長岡京跡右京第 988 次・伊賀寺遺跡

(1) 1 トレンチ溝ＳＤ79・
竪穴式住居跡ＳＨ78上面
（東から）

(2) 1 トレンチ竪穴式住居跡ＳＨ78
（東から）

(3) 1 トレンチ竪穴式住居跡
ＳＨ166（東から）

(1) 1 トレンチ縄文時代の崖
S X199(西から)

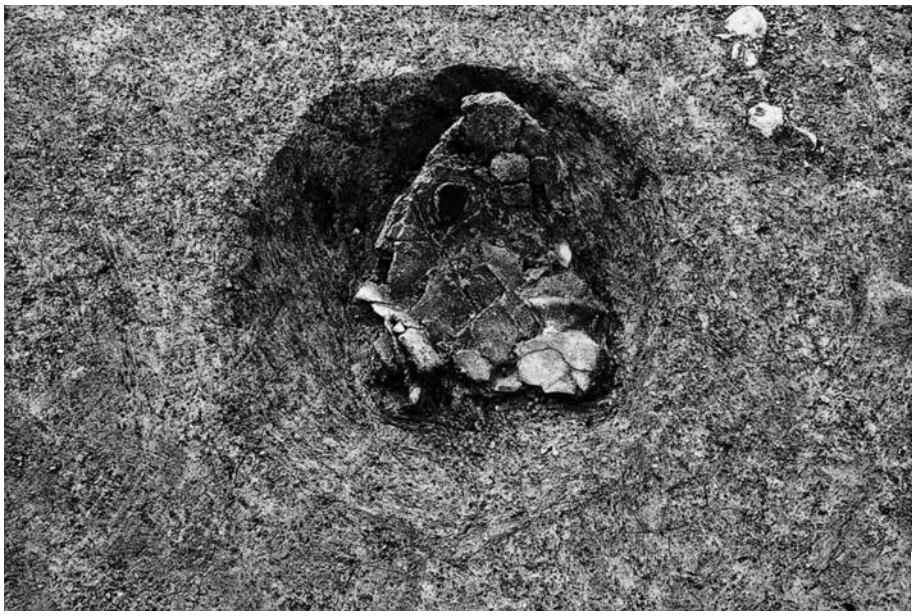
(2) 1 トレンチ縄文時代の崖
S X199断面 1 (西から)

(3) 1 トレンチ縄文時代の崖
S X199断面 2 (西から)

長岡京跡右京第 988 次・伊賀寺遺跡

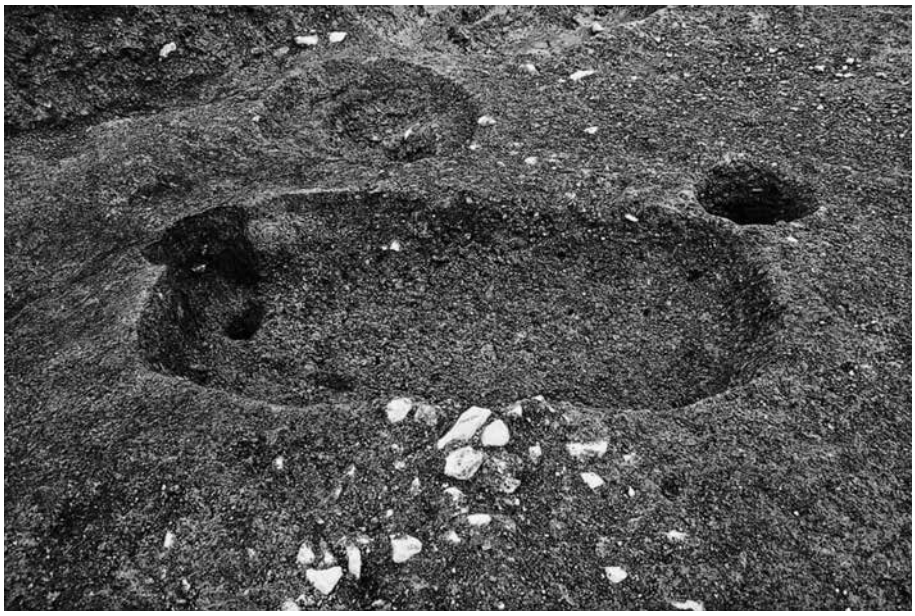
(1) 1 トレンチ縄文時代の崖
ＳＸ199遺物出土状況（西から）

(2) 1 トレンチ土坑ＳＫ73上層
（西から）



(3) 1 トレンチ土坑ＳＫ73下層
（南から）

(1) 1 トレンチ土坑ＳＫ136
（東から）

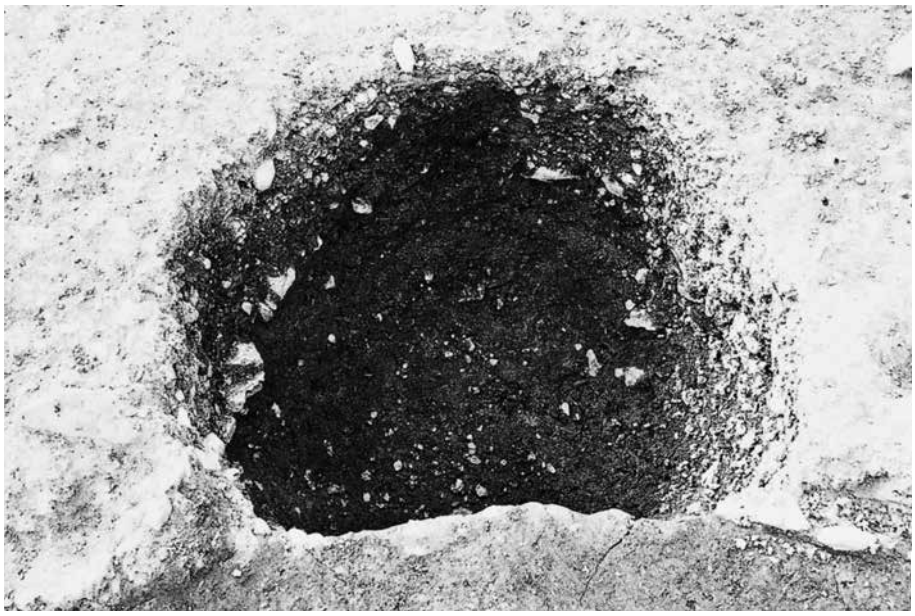


(2) 1 トレンチ土坑ＳＫ144
（西から）

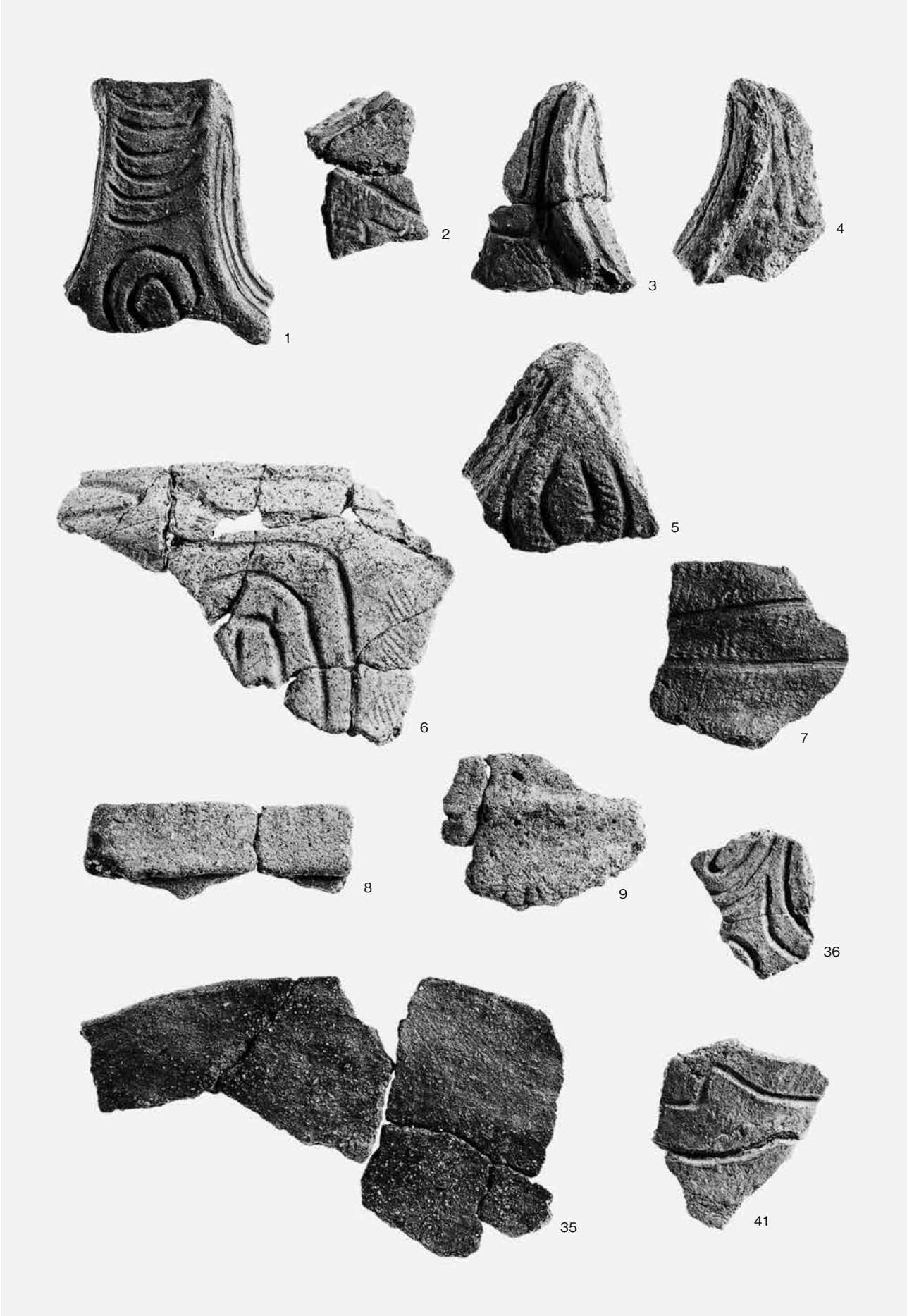
(3) 1 トレンチ土坑ＳＫ181
（西から）

(1) 1 トレンチ土坑ＳＫ203
（西から）

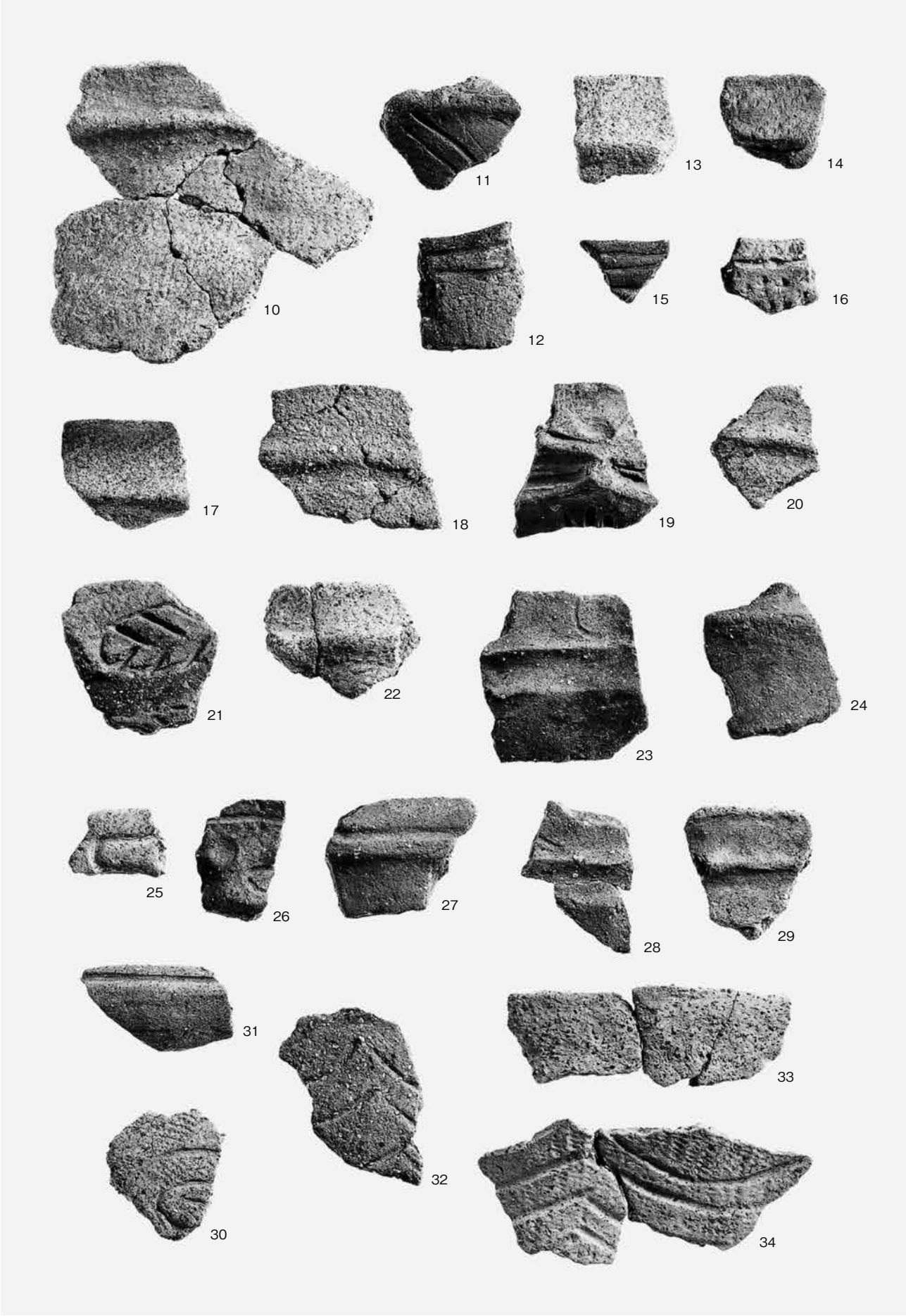
(2) 1 トレンチ土坑ＳＫ207
（西から）



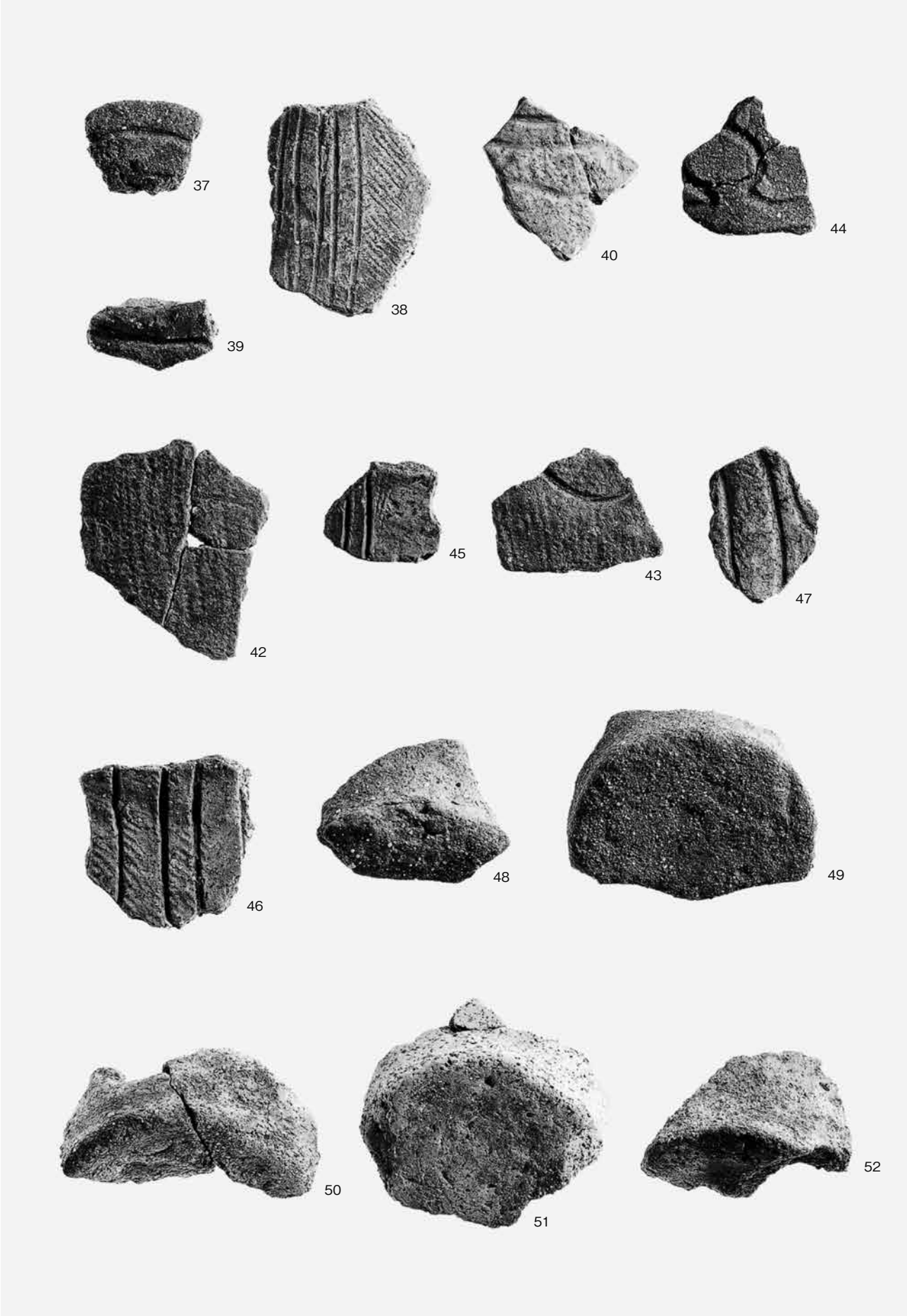
(3) 1 トレンチ土坑ＳＫ208
（北から）



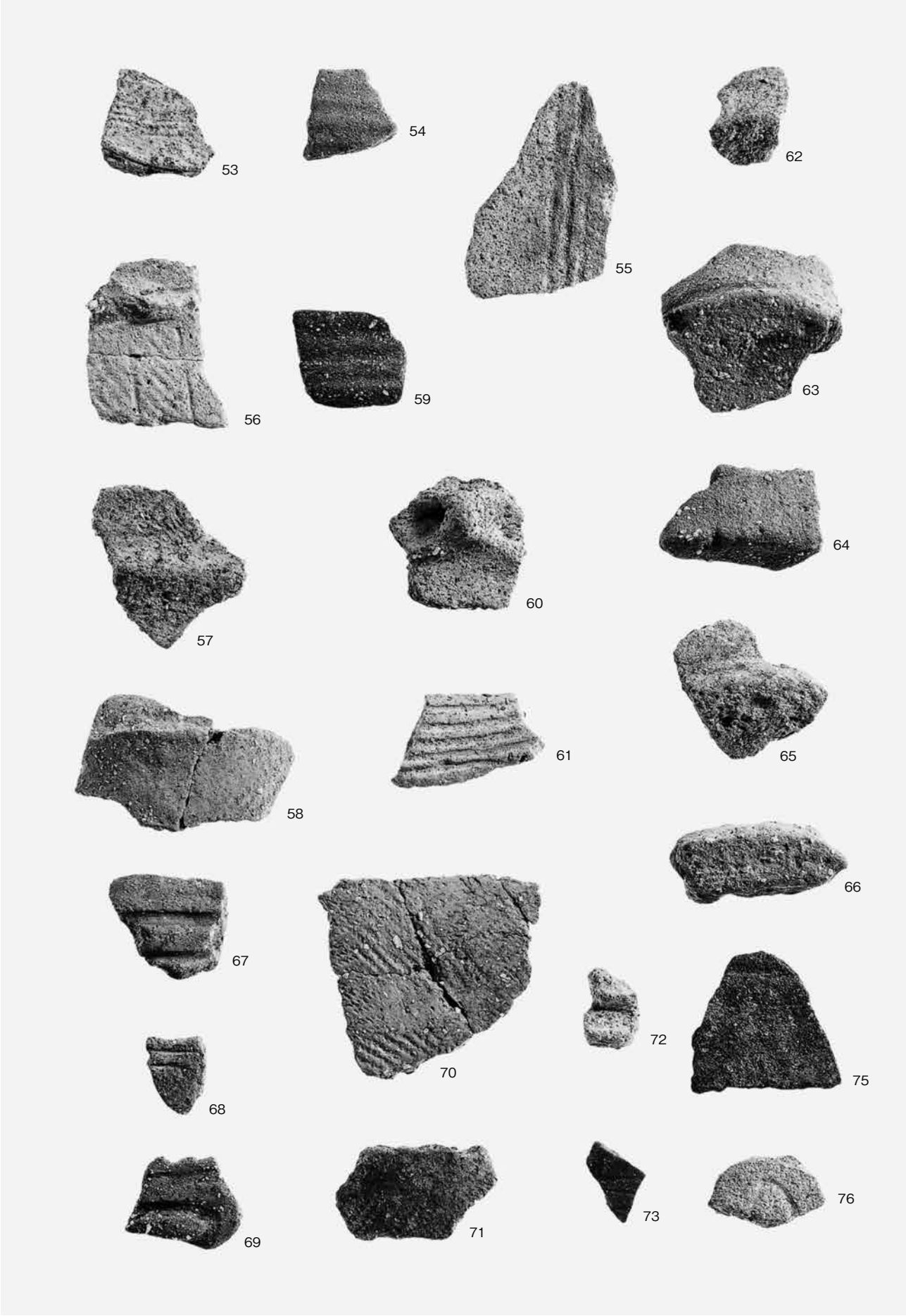
大型落ち込み状遺構ＳＸ08出土縄文土器（１）



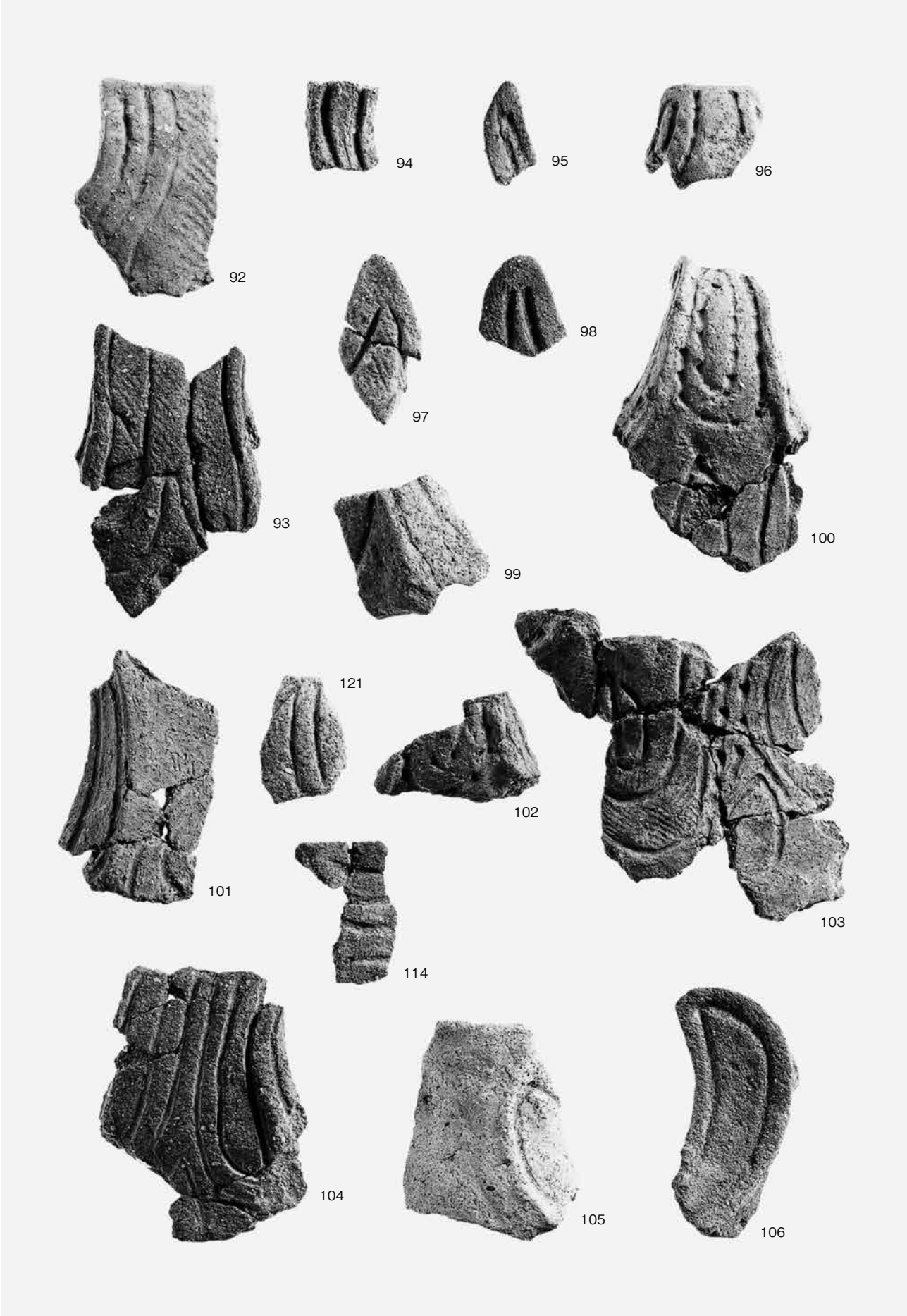
大型落ち込み状遺構ＳＸ08出土縄文土器（２）



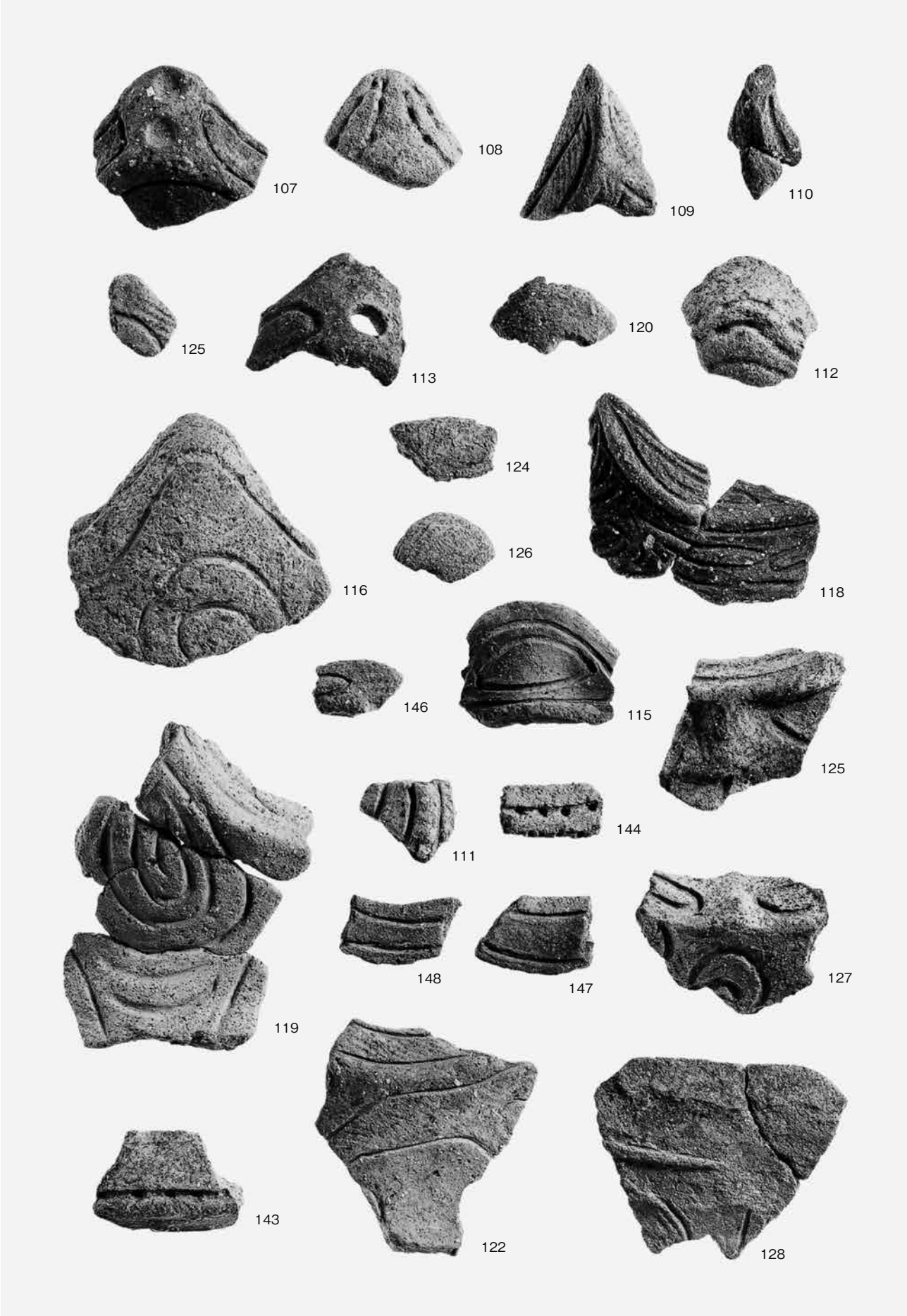
大型落ち込み状遺構ＳＸ08出土縄文土器（３）



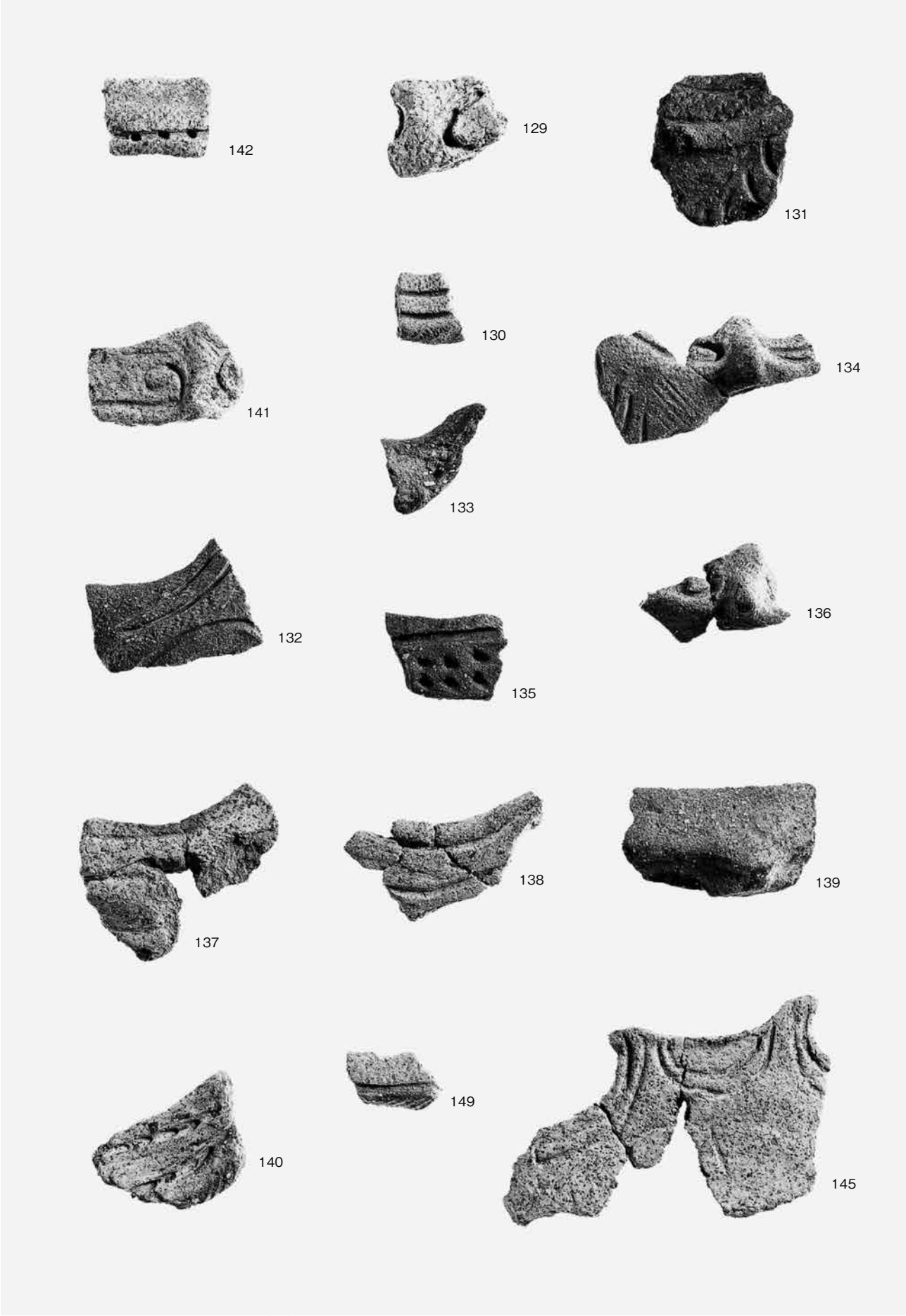
土坑及び柱穴出土縄文土器



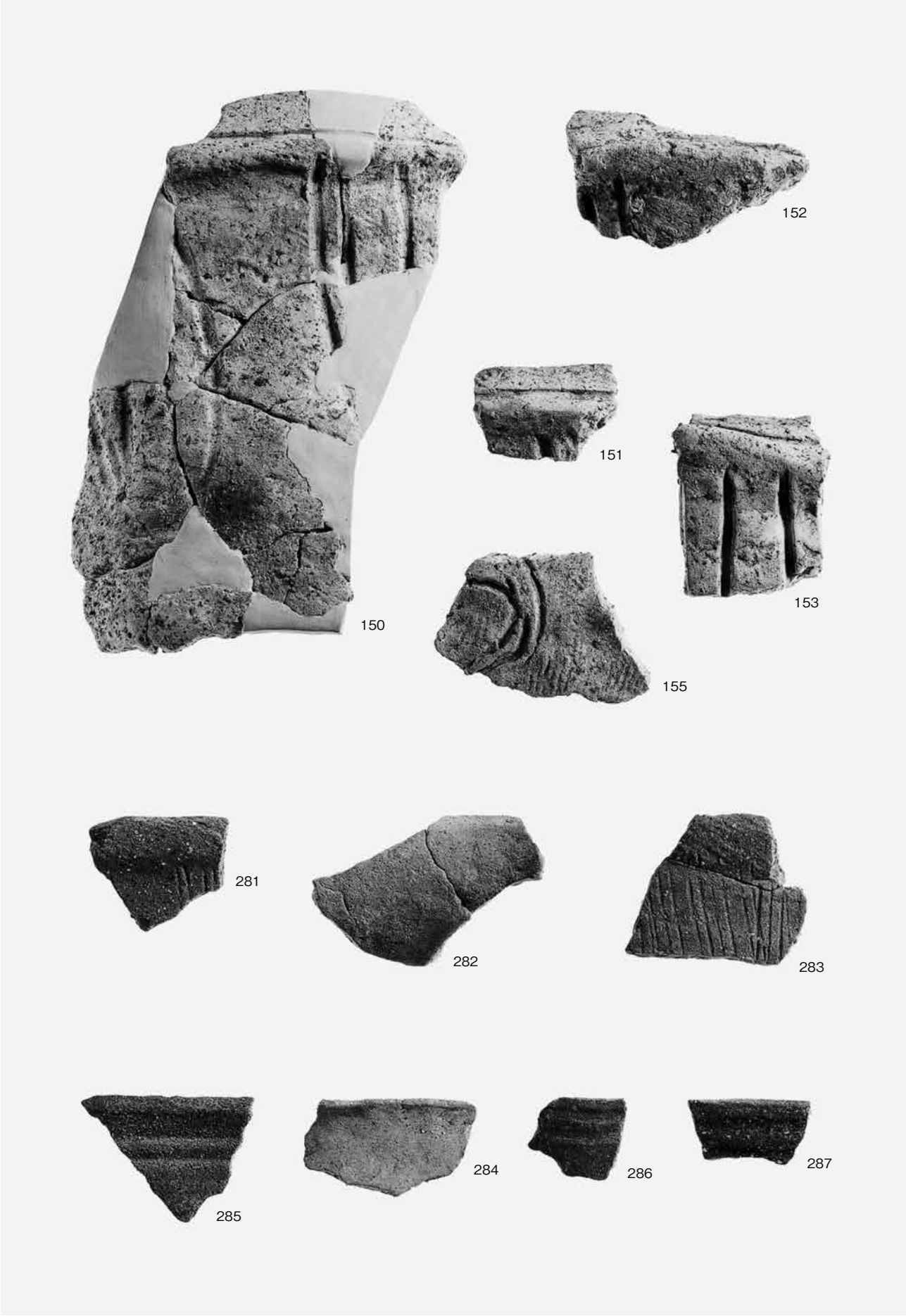
竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（１）



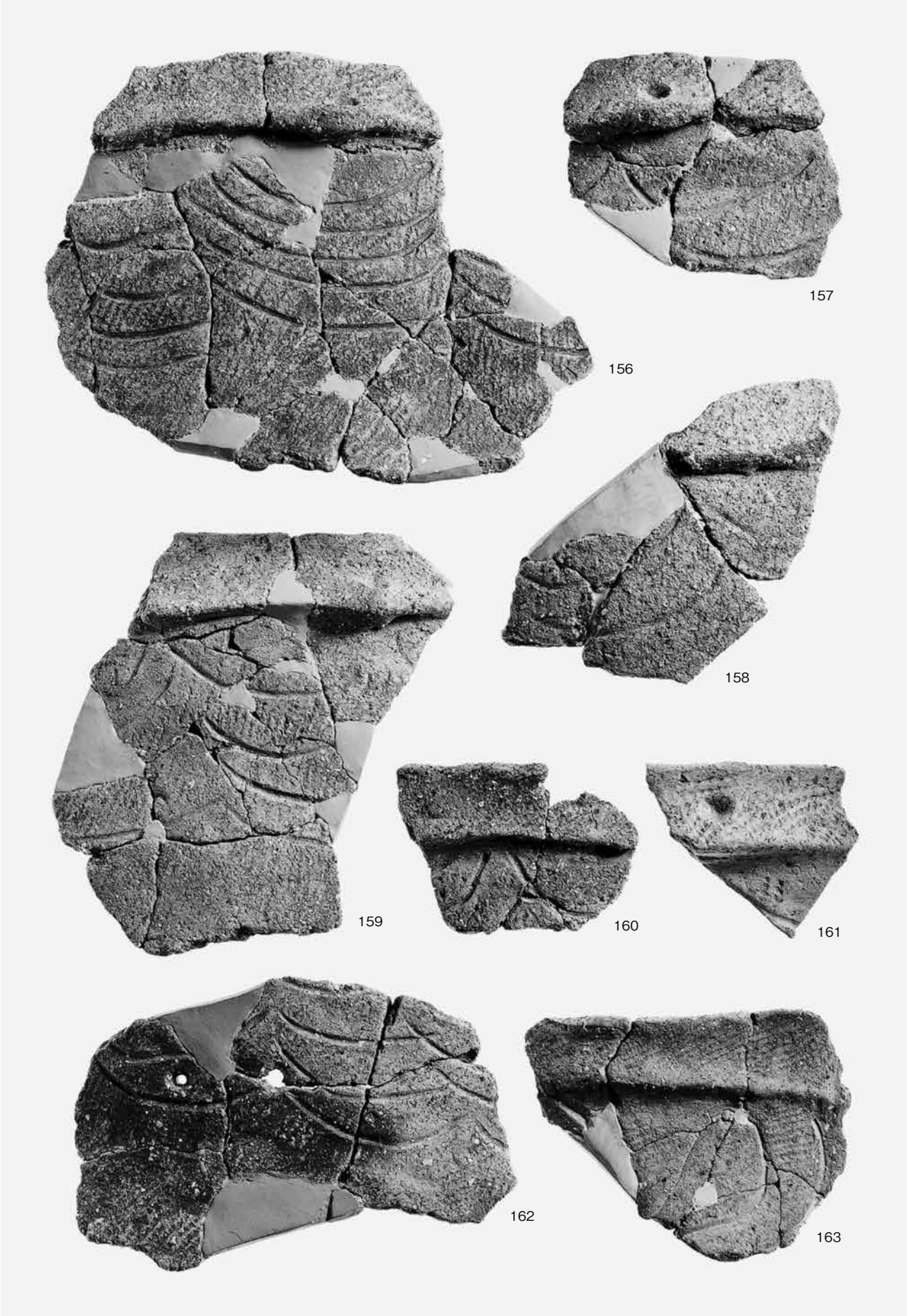
竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（２）



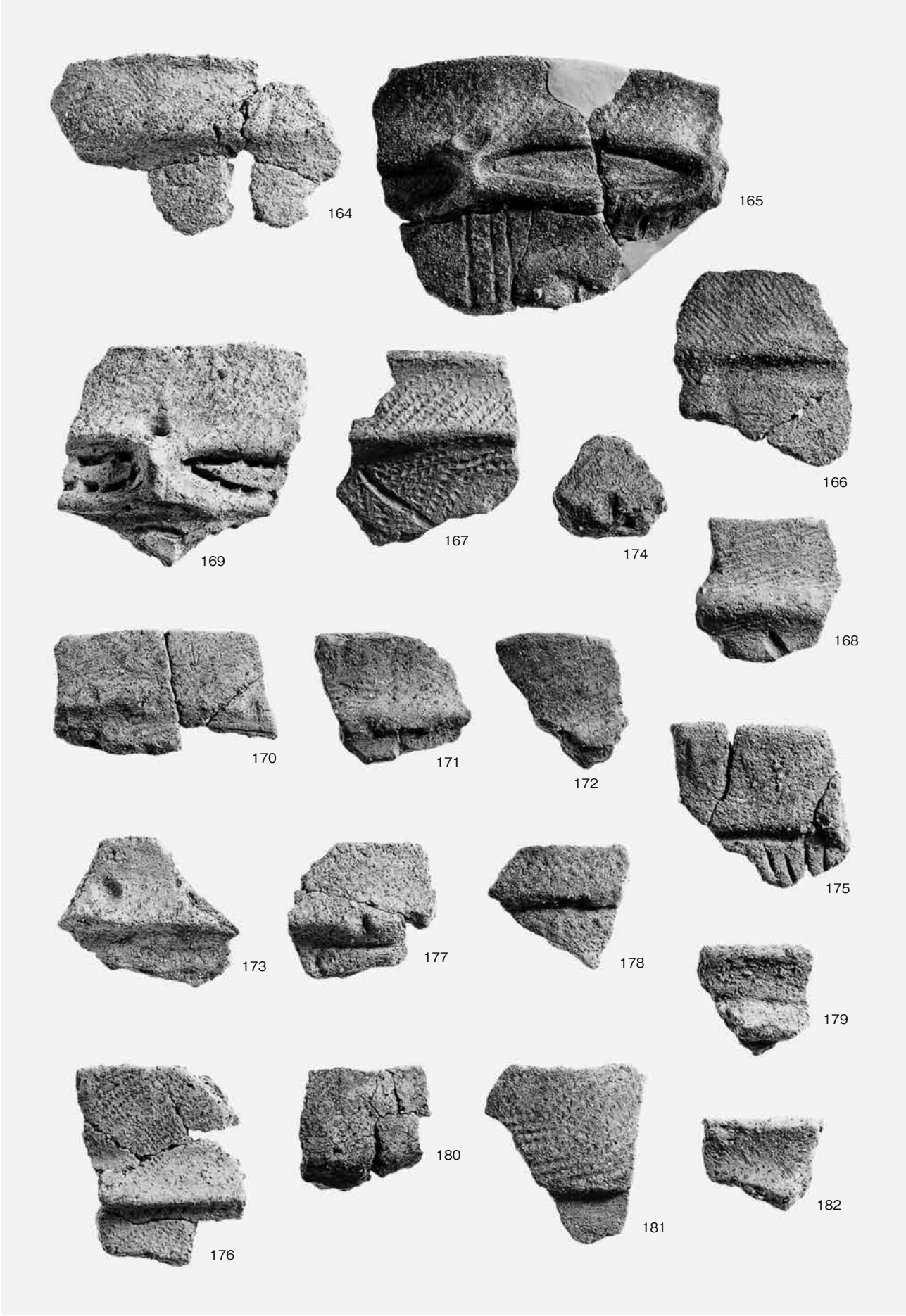
竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（３）



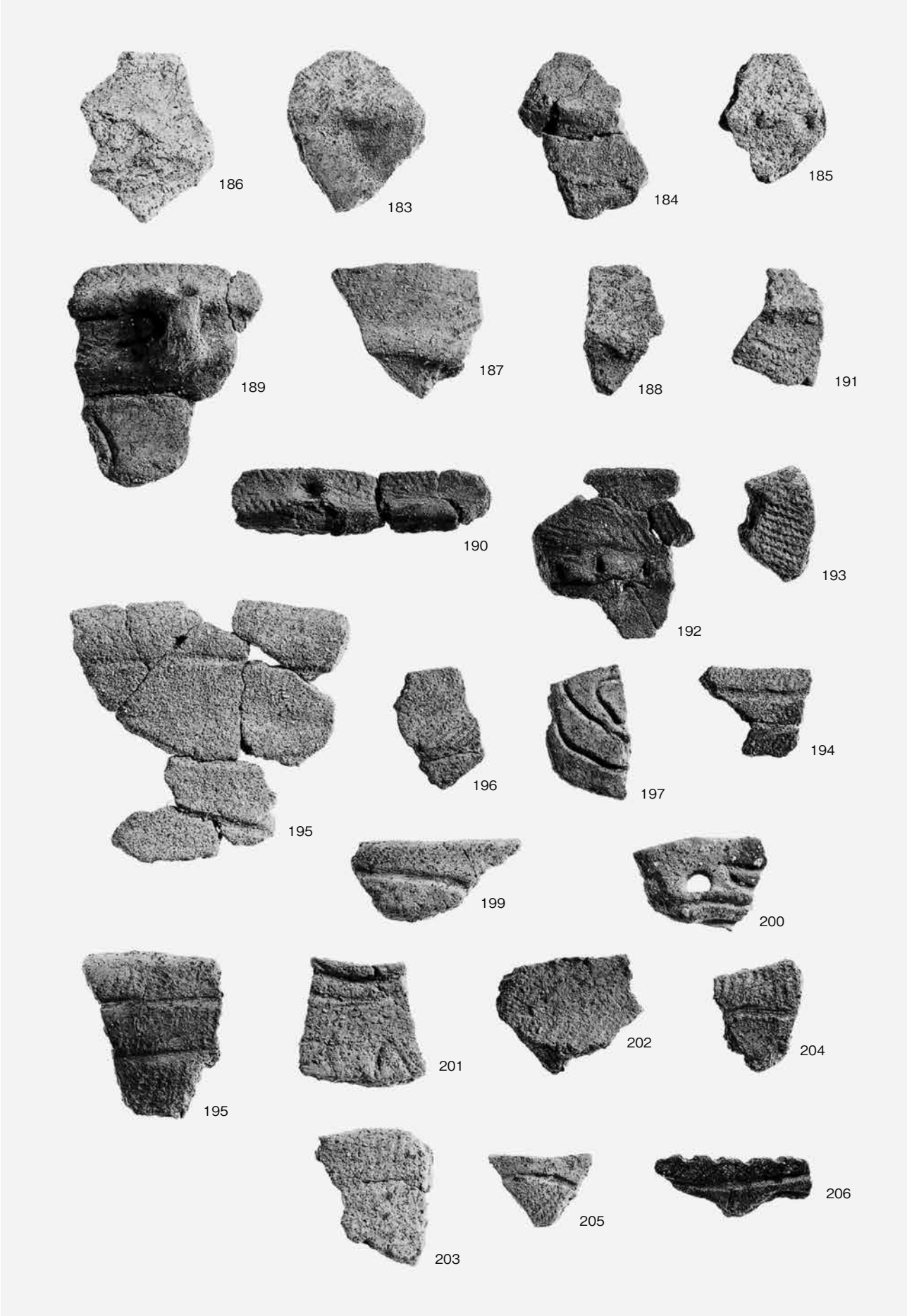
竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（４）



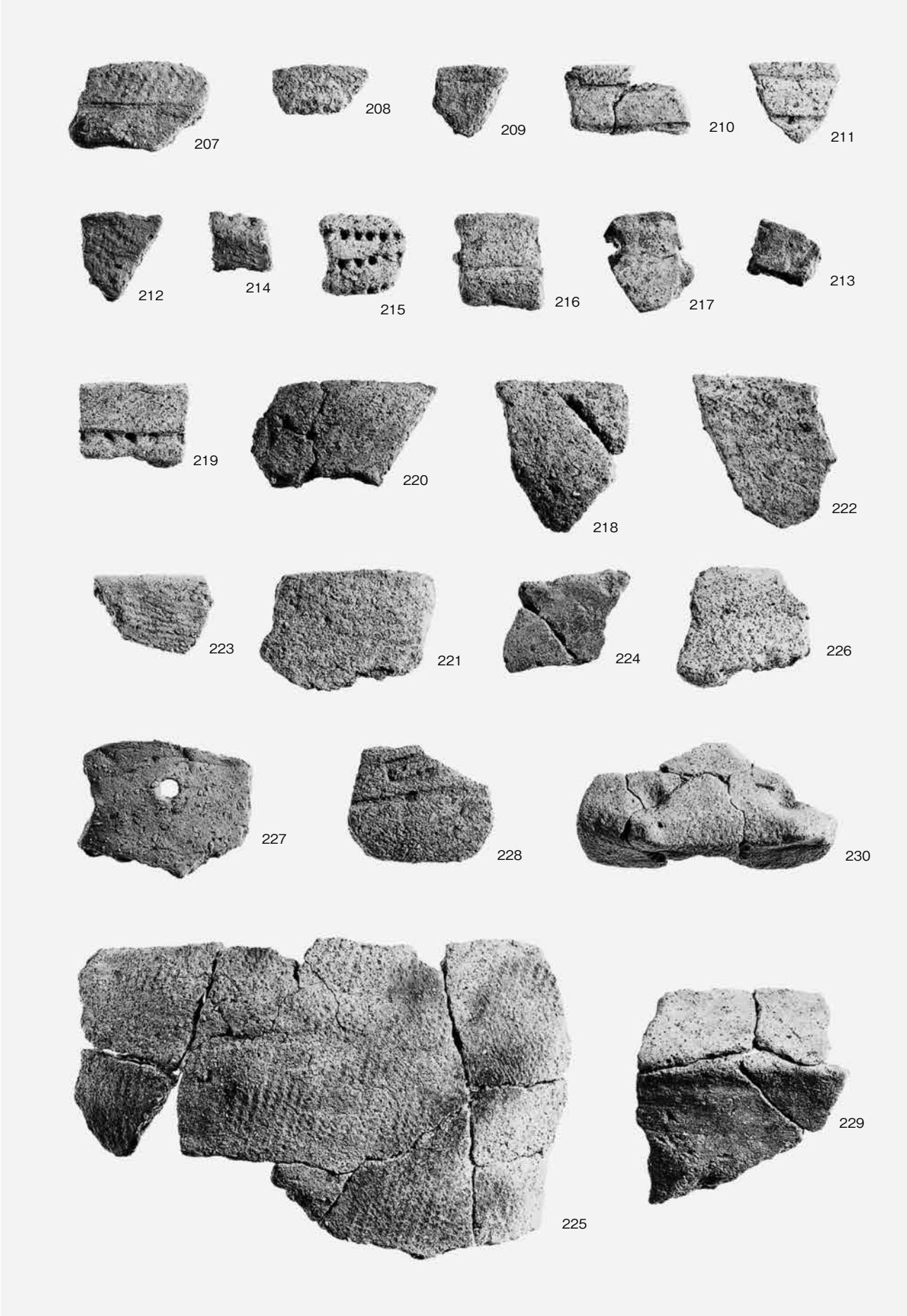
竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（５）



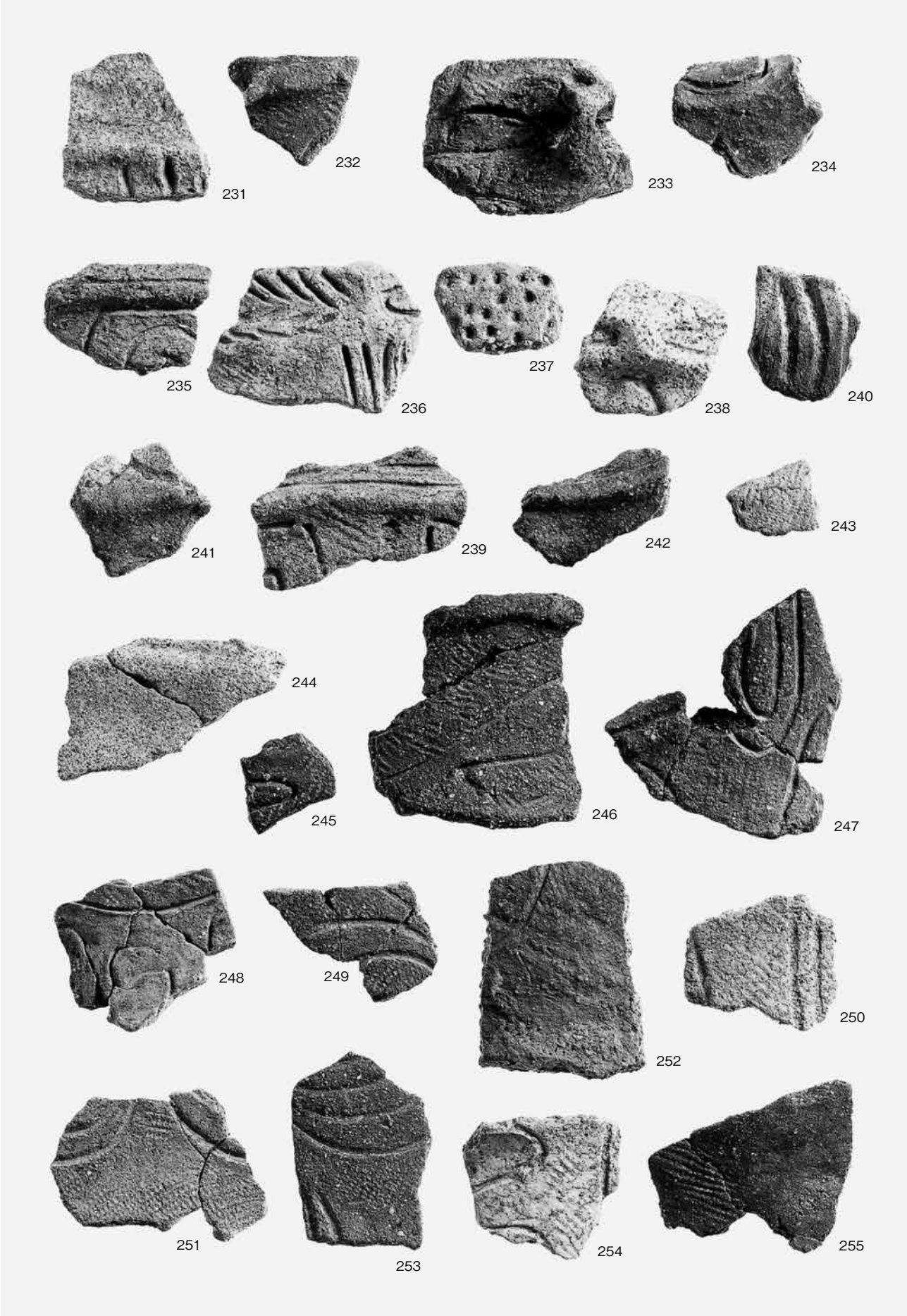
竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（６）



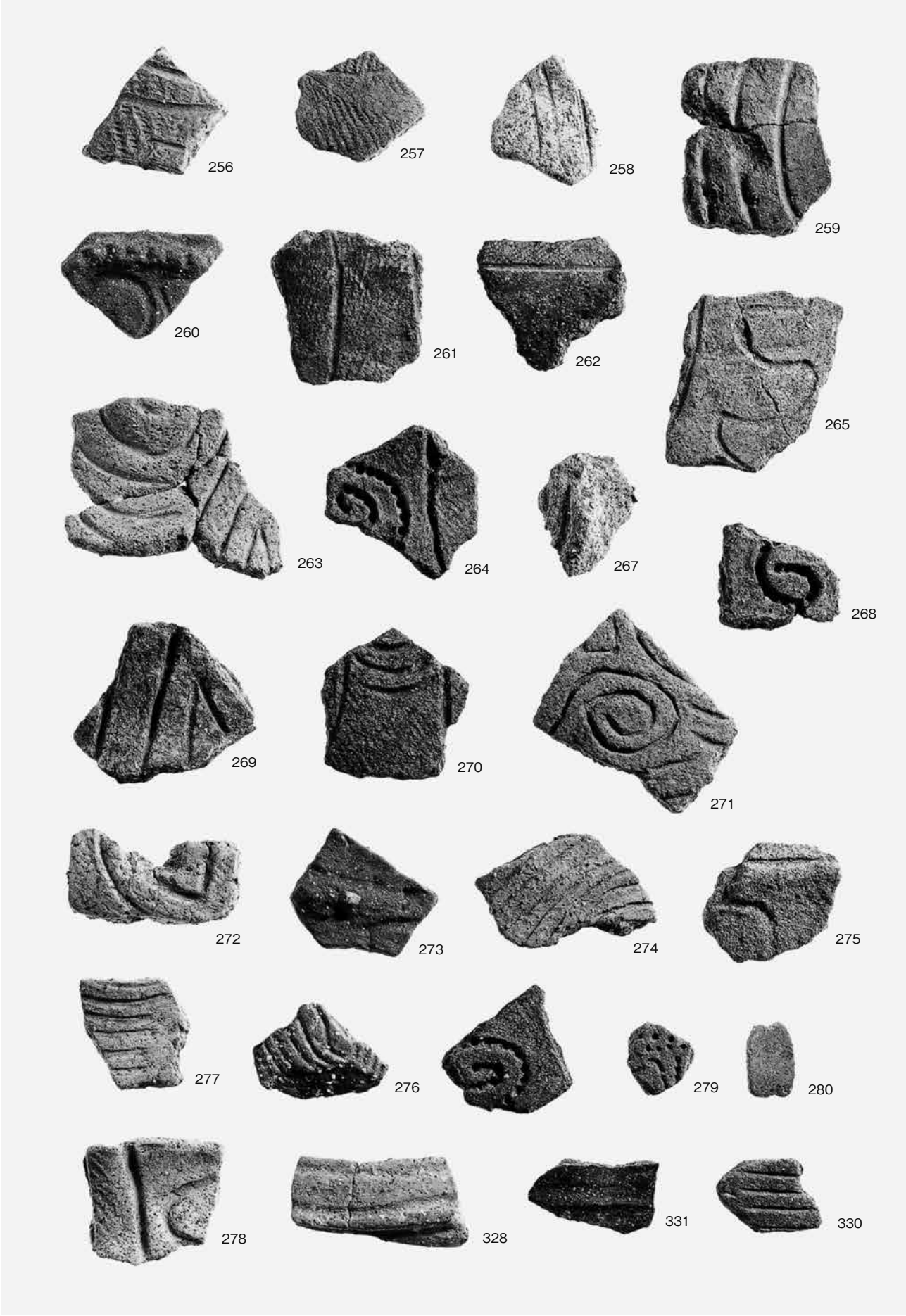
竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（７）



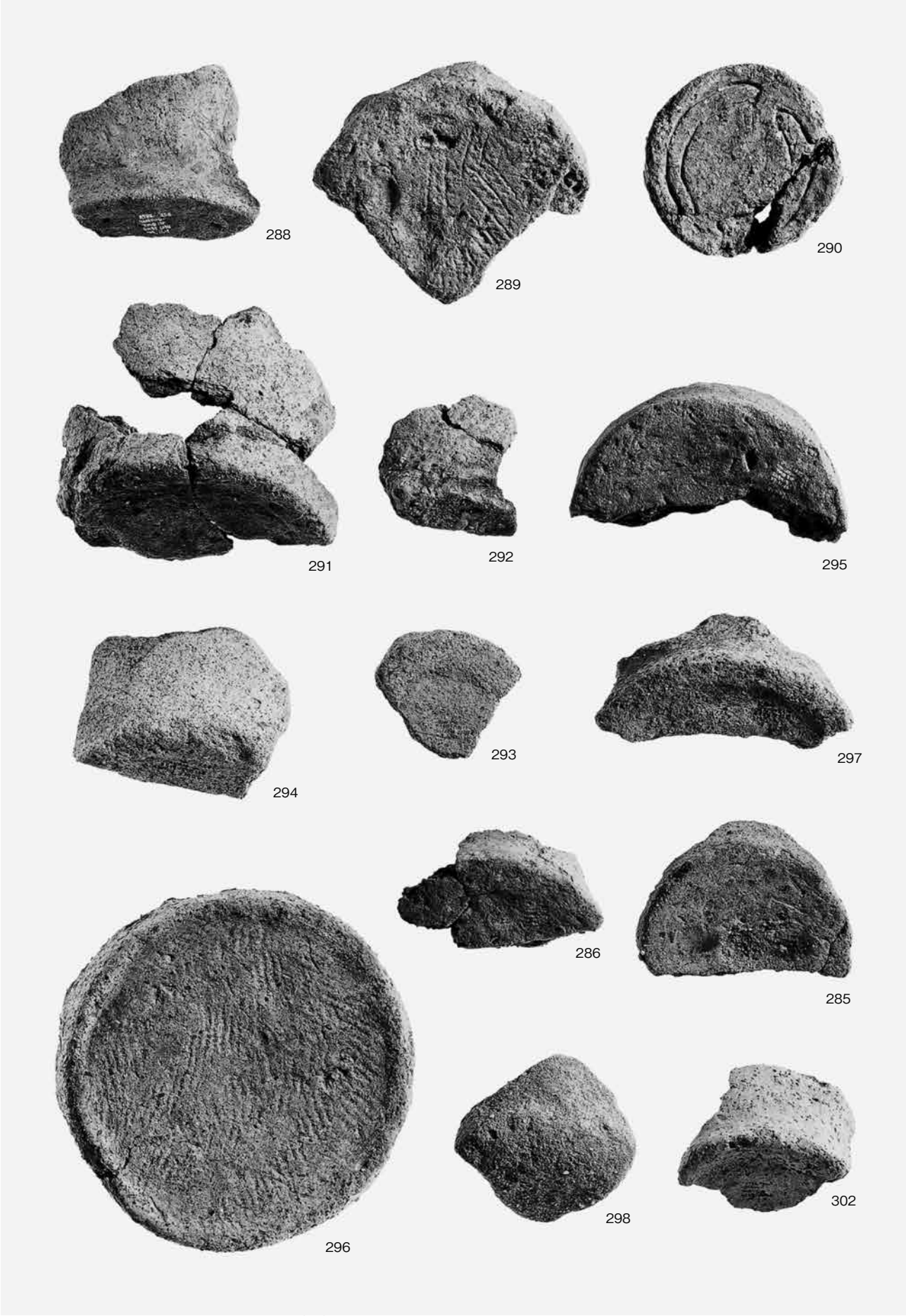
竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（８）



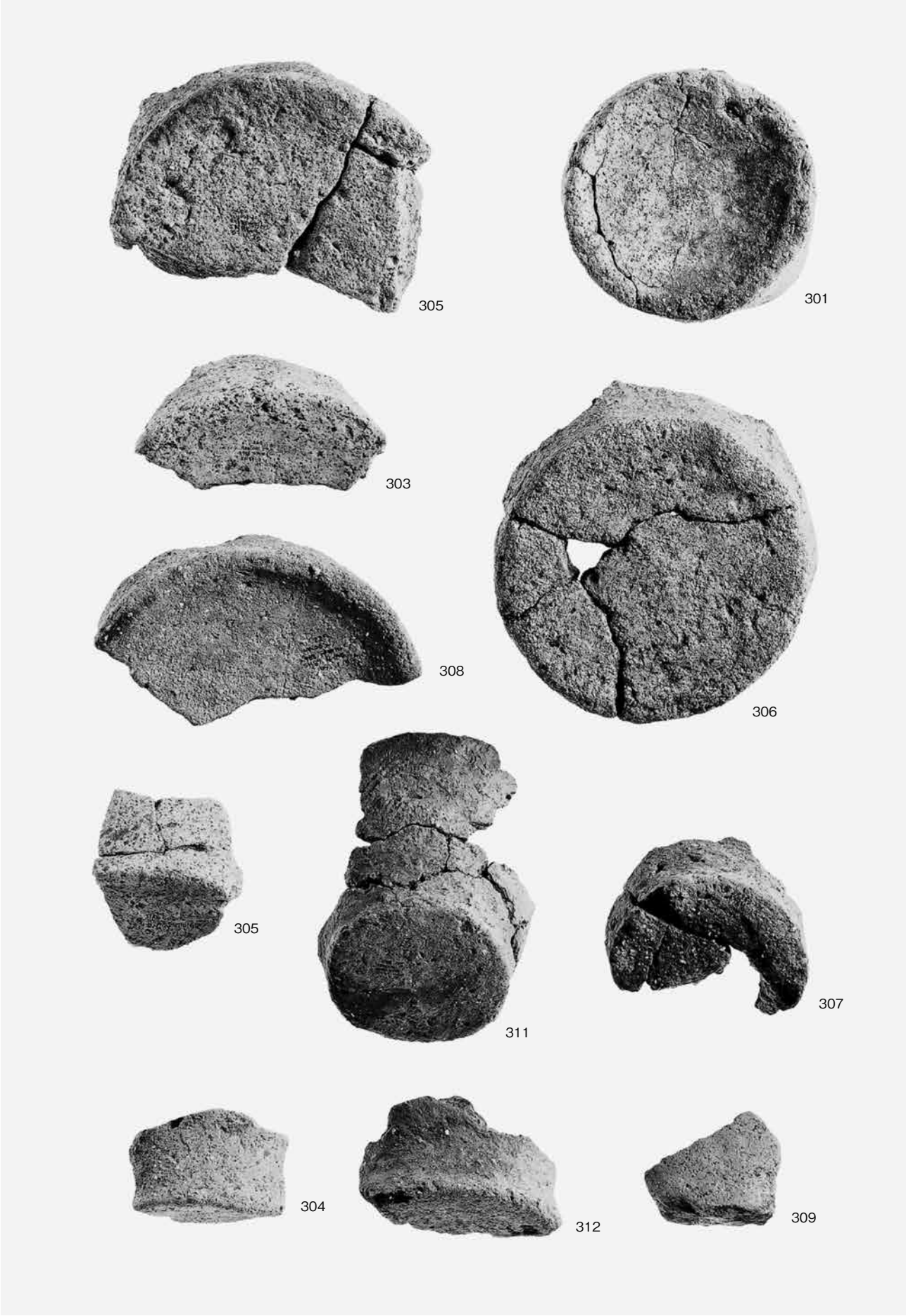
竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器（９）



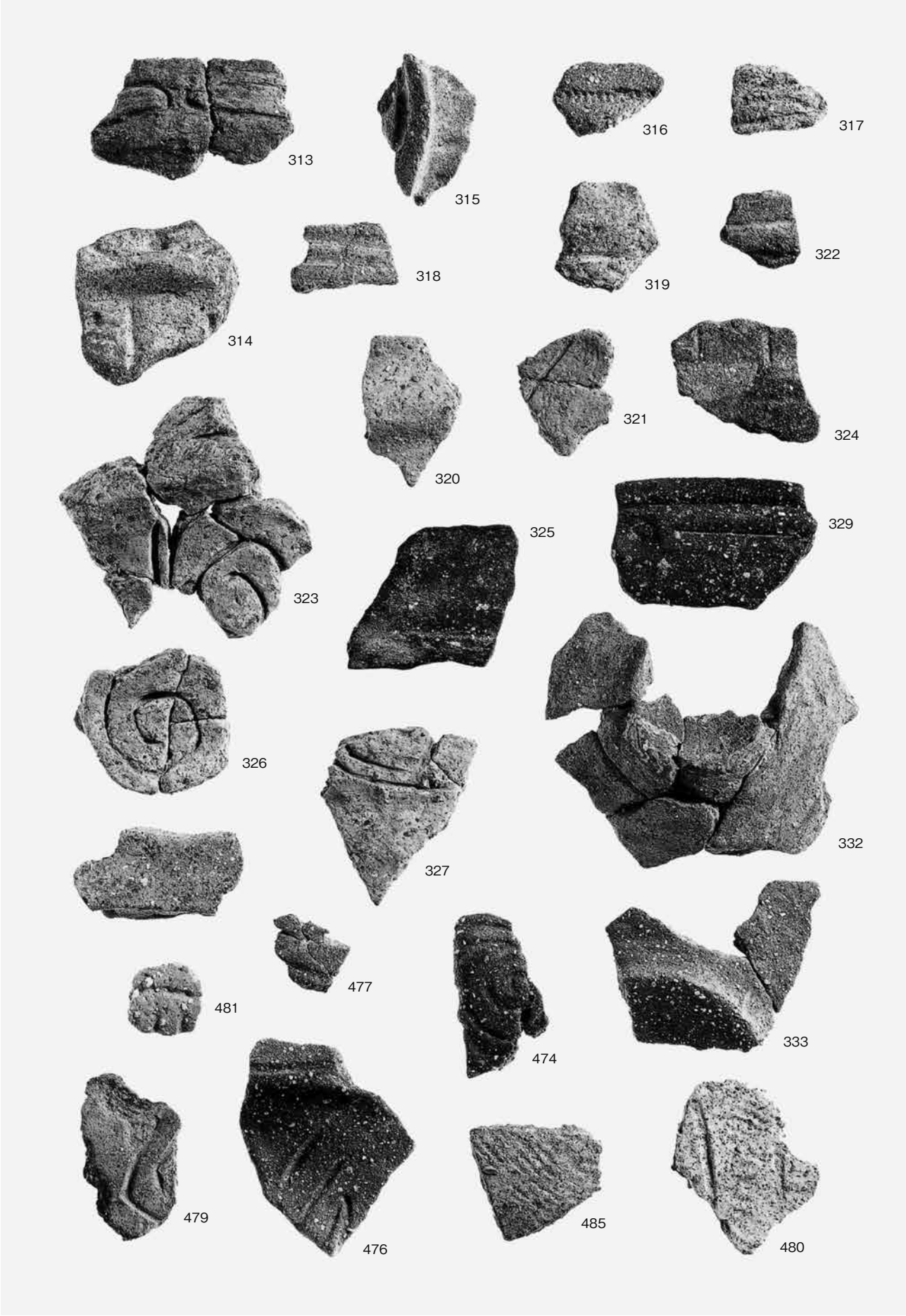
竪穴式住居跡ＳＨ78・85・89出土縄文土器



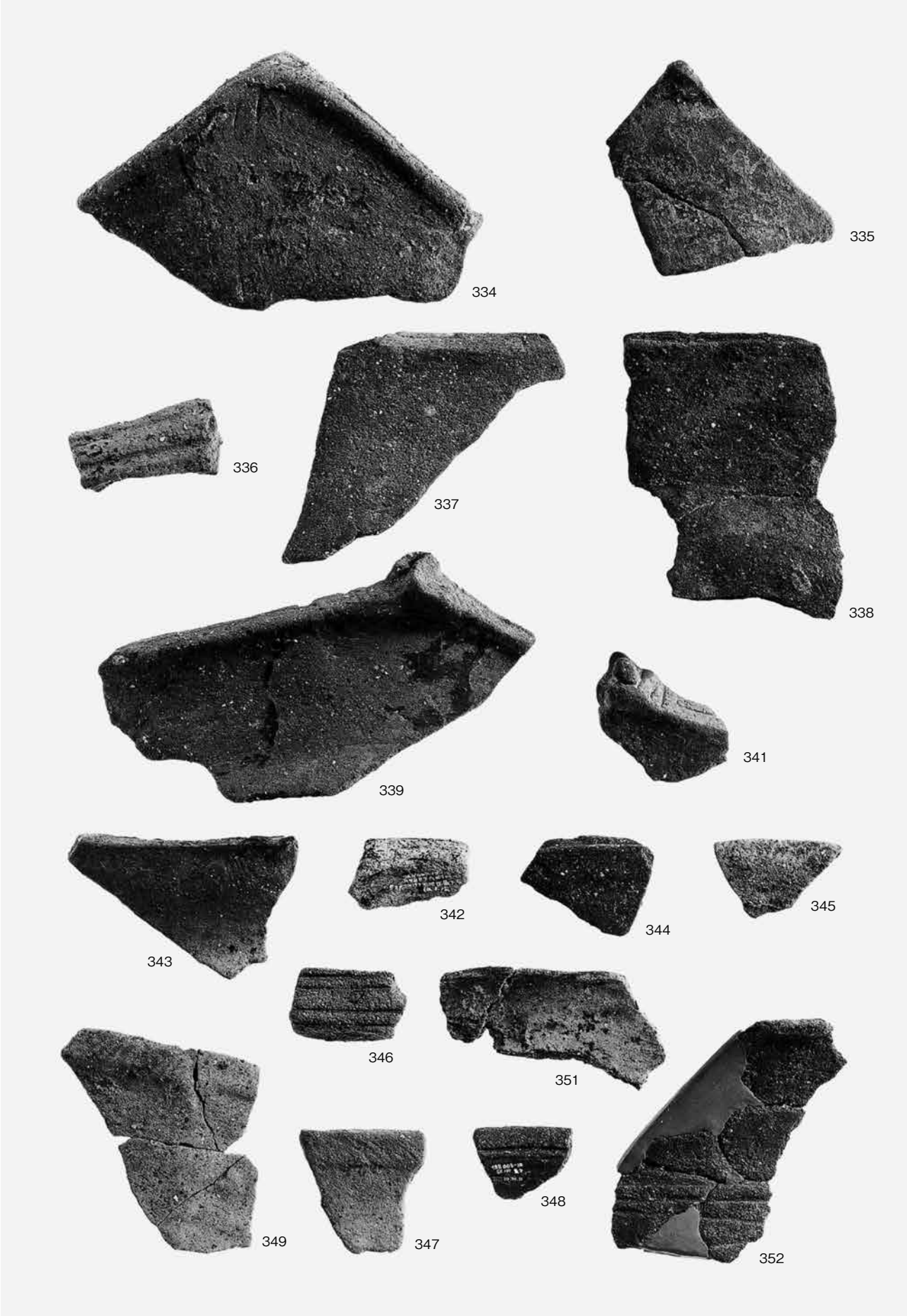
竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器底部（１）



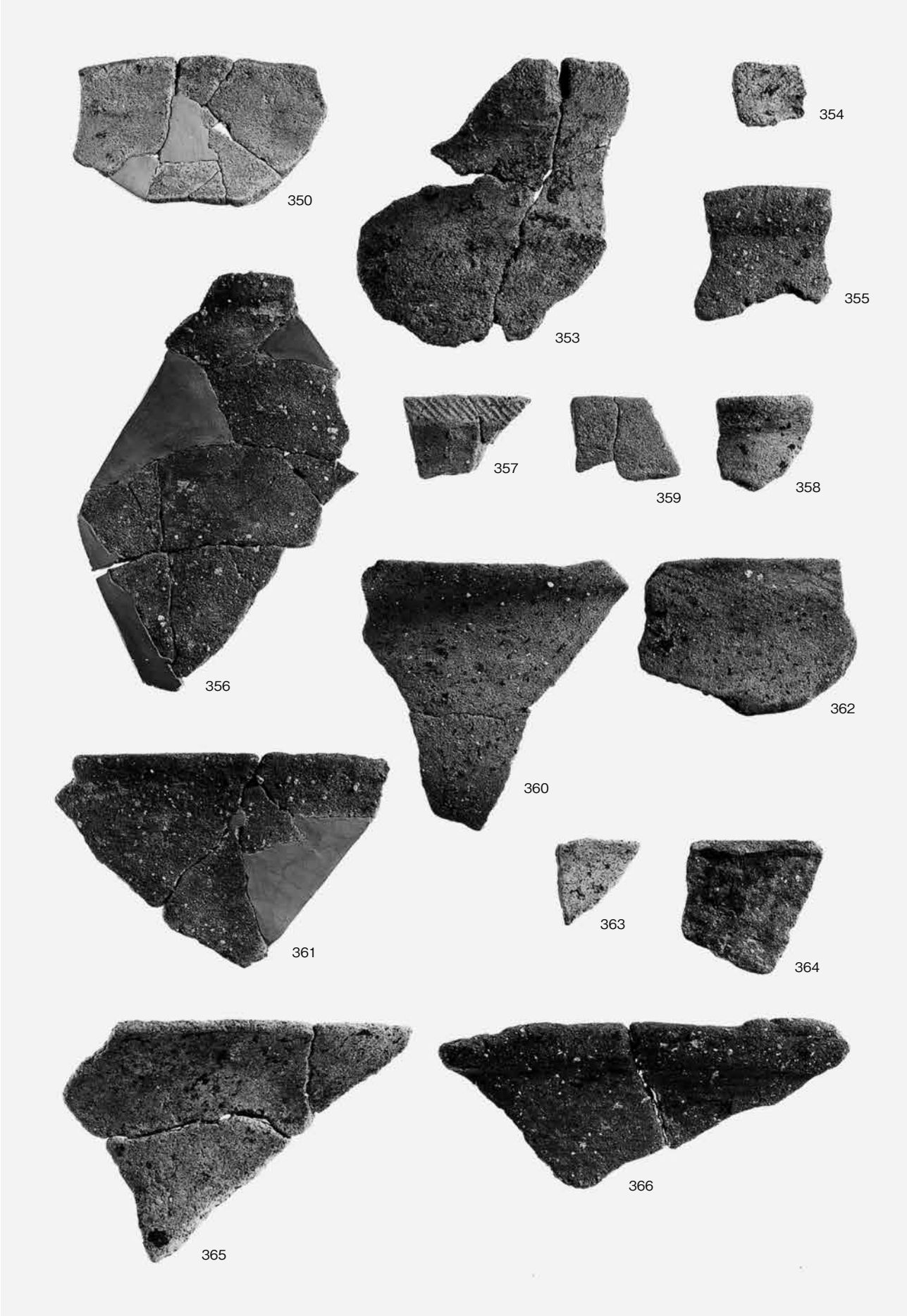
竪穴式住居跡ＳＨ89出土縄文土器底部（２）



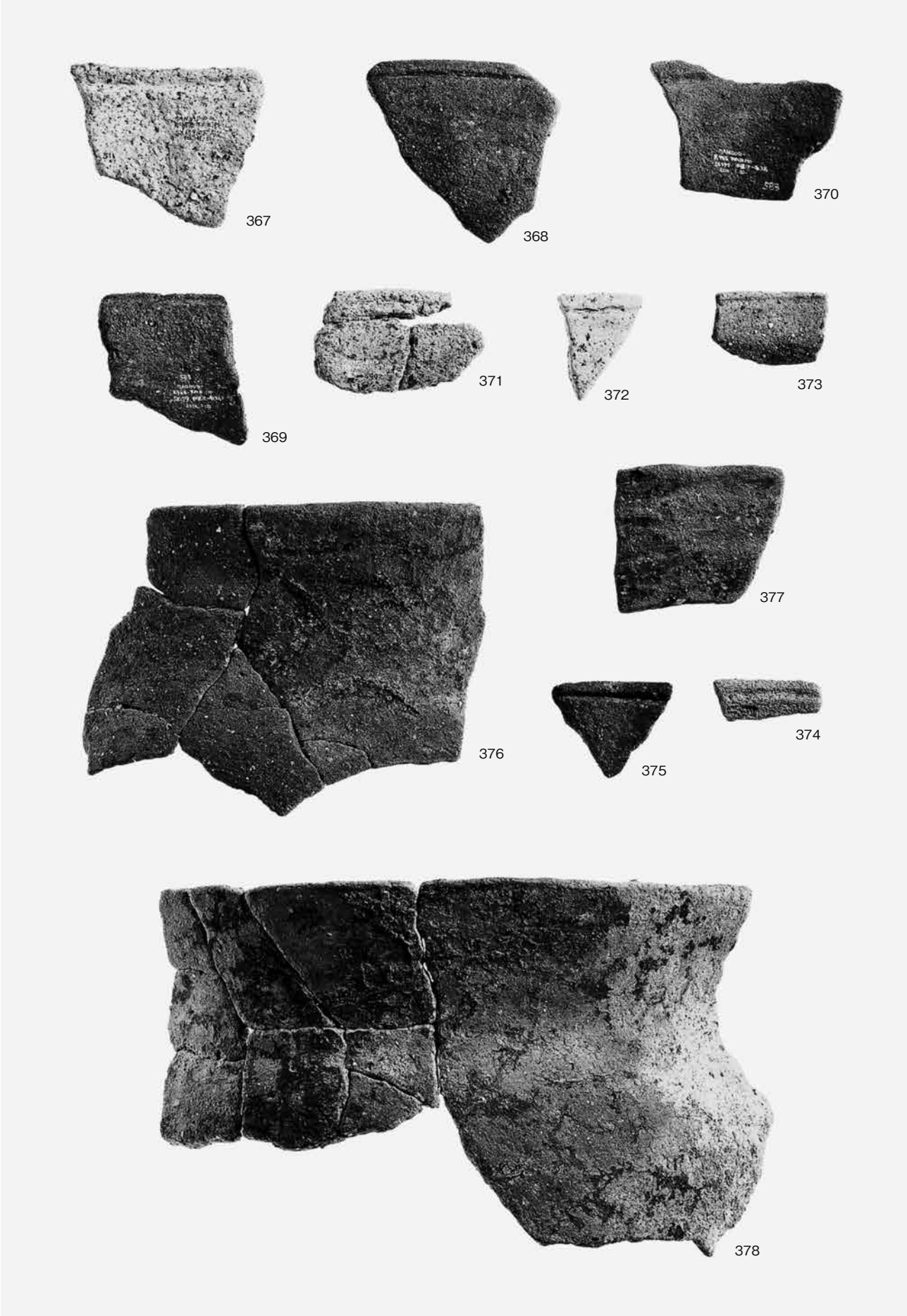
竪穴式住居跡ＳＨ85及び土坑出土縄文土器



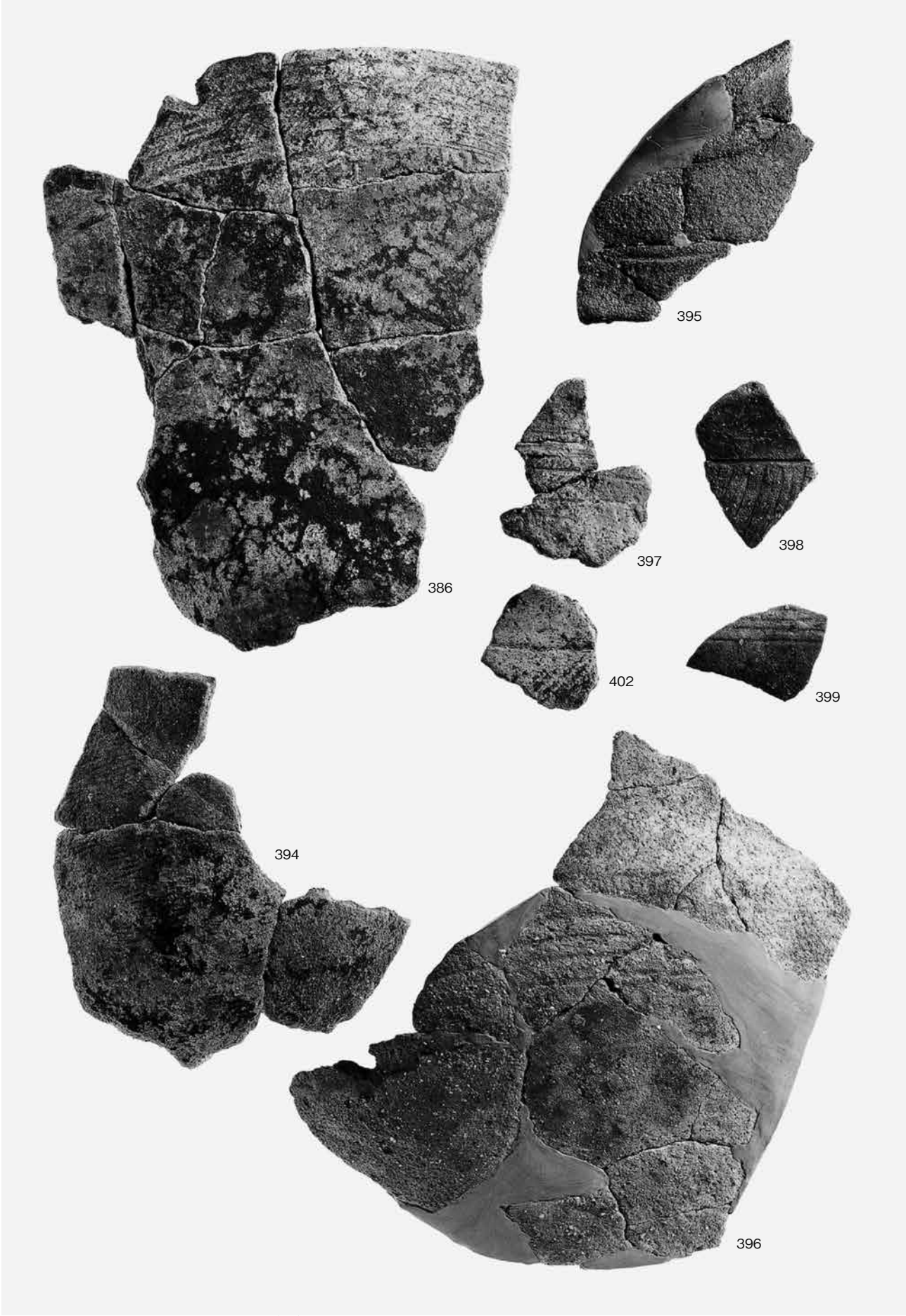
縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器（１）



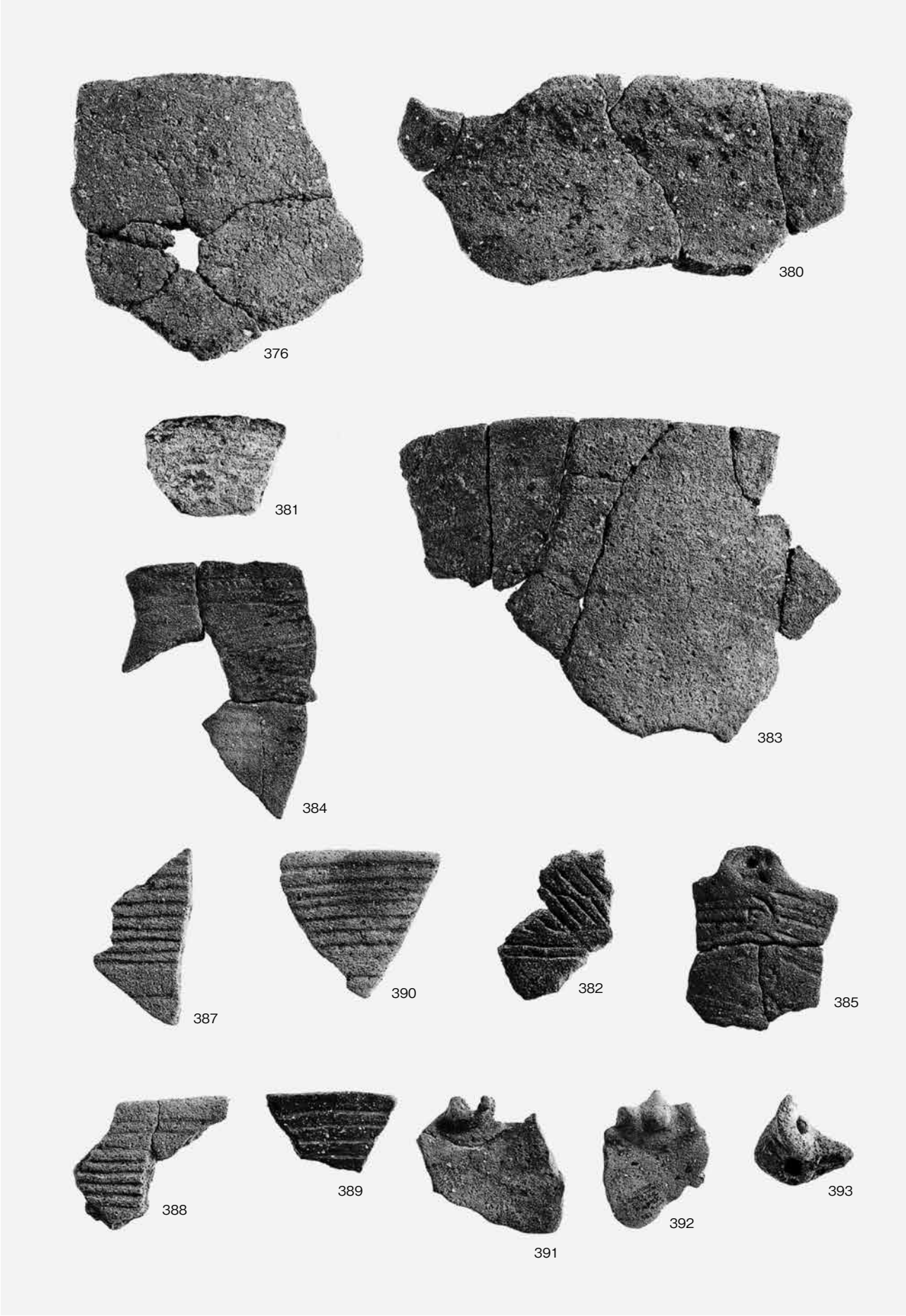
縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器（２）



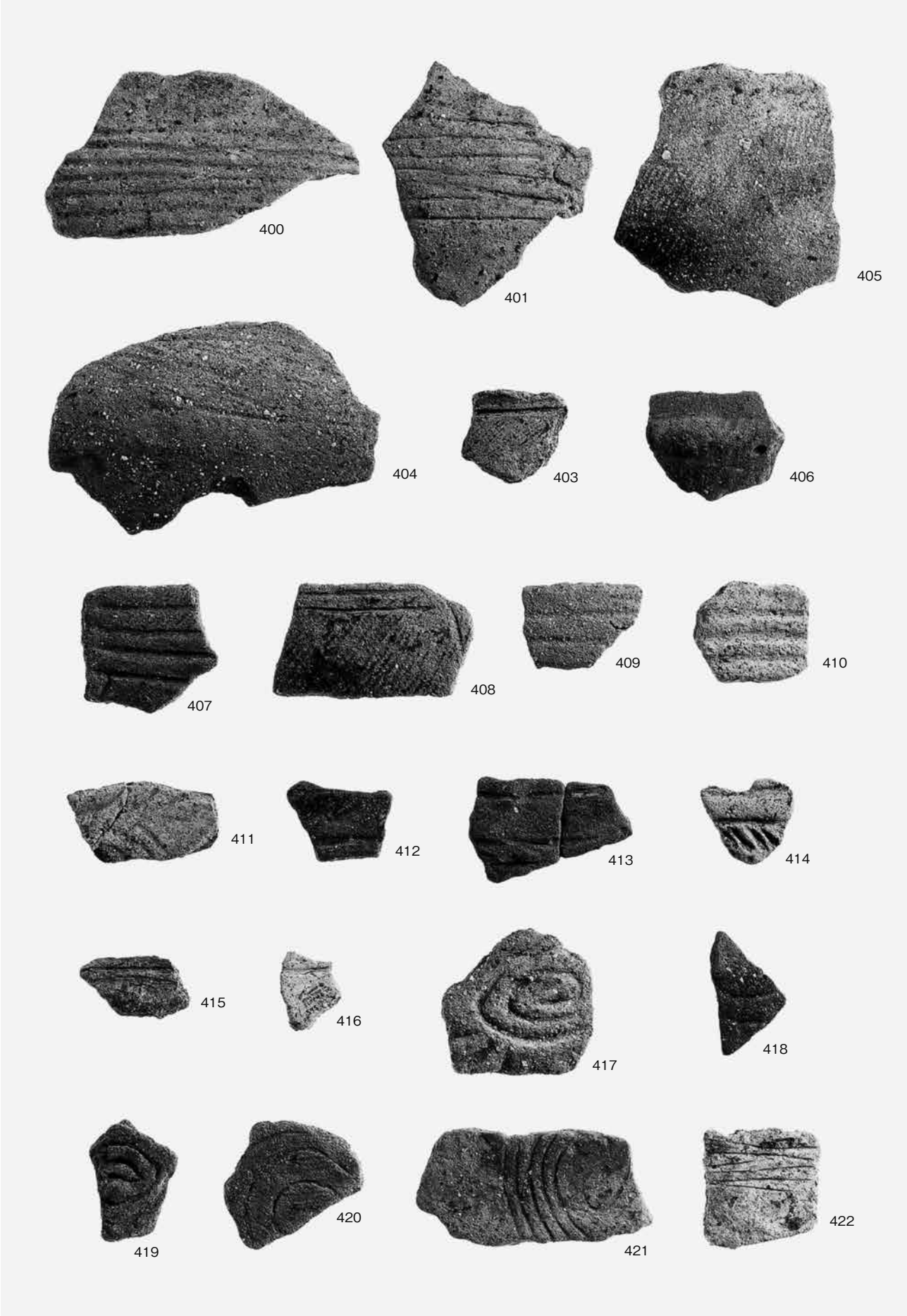
縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器（３）



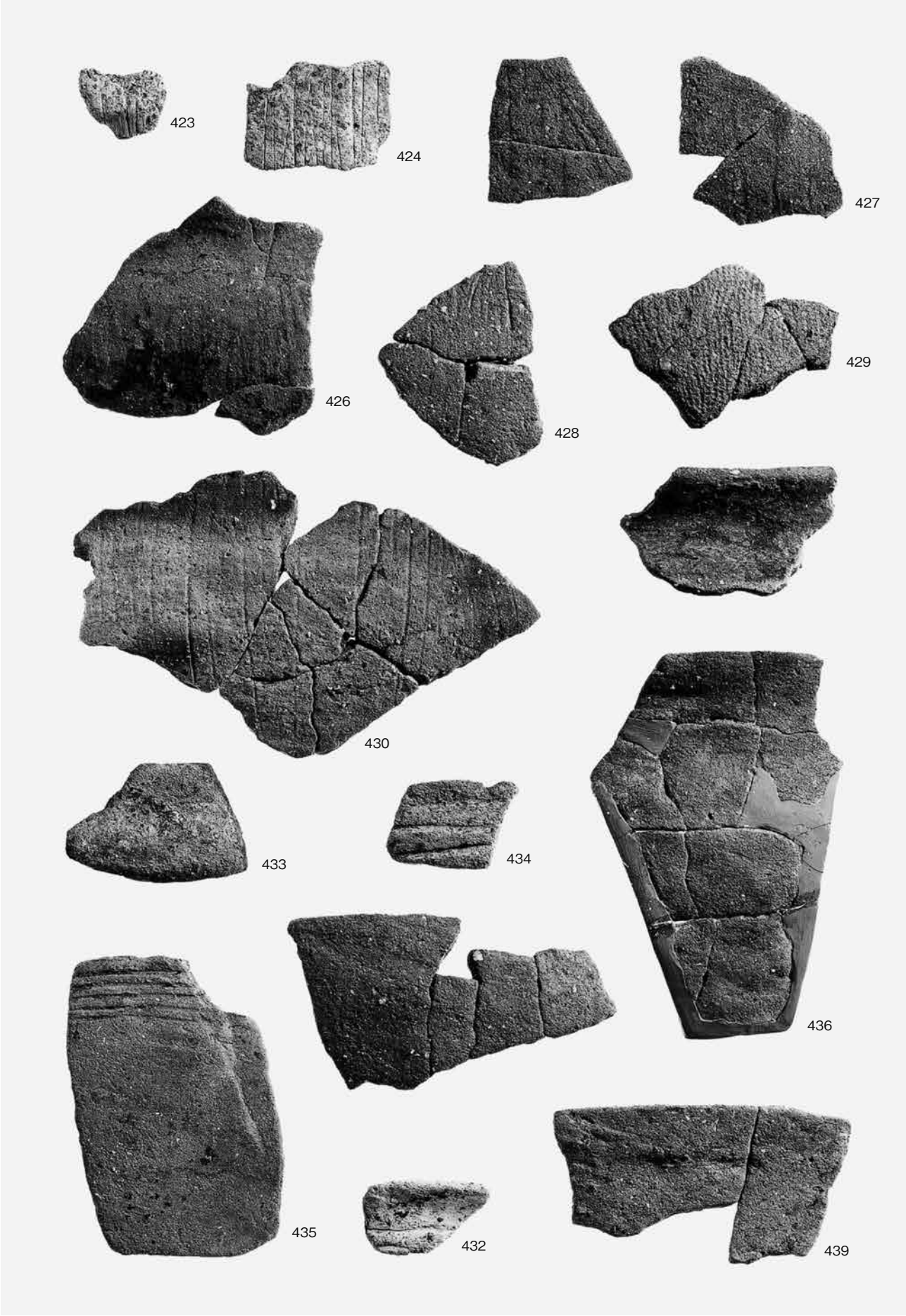
縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器（４）



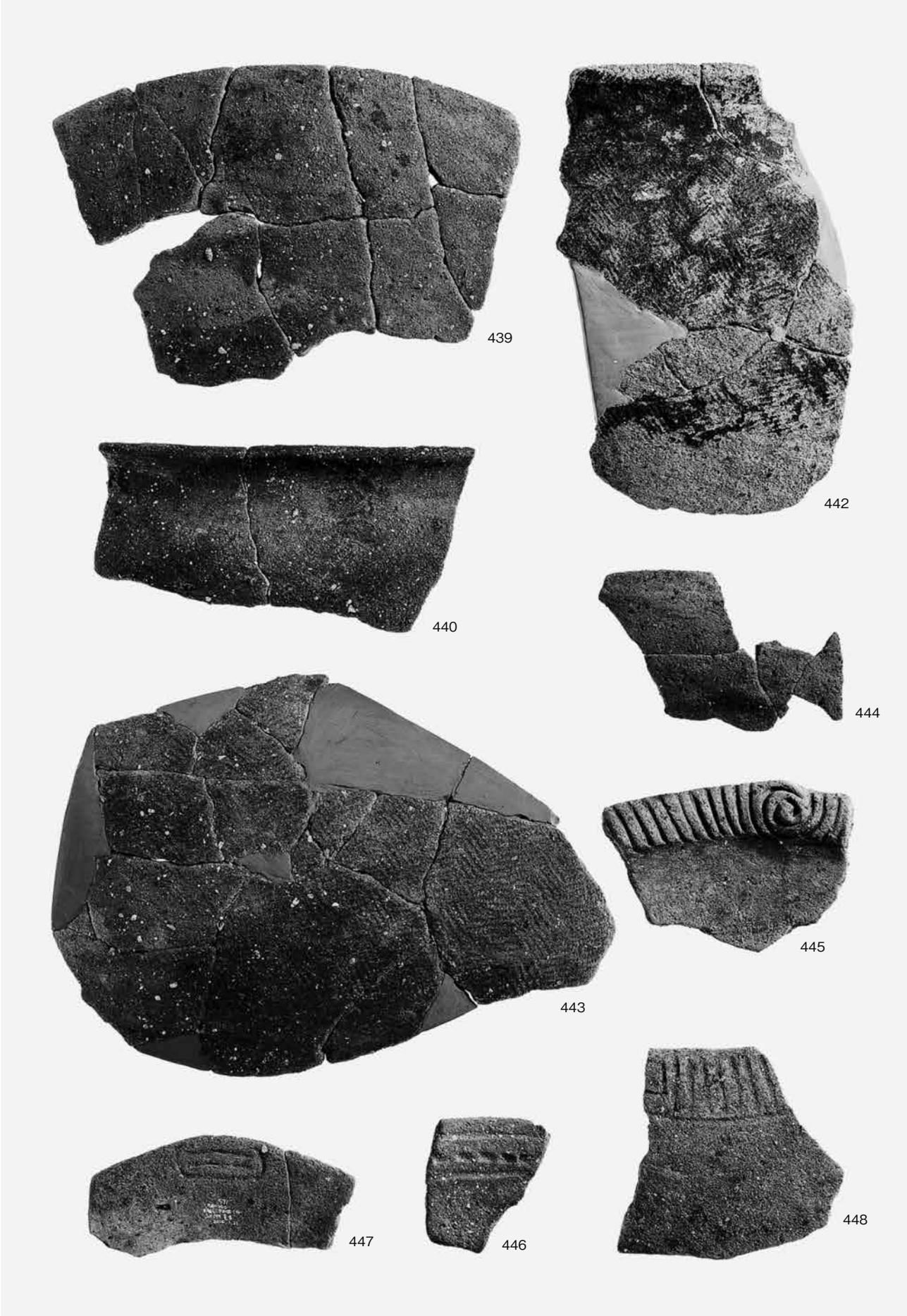
縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器（５）



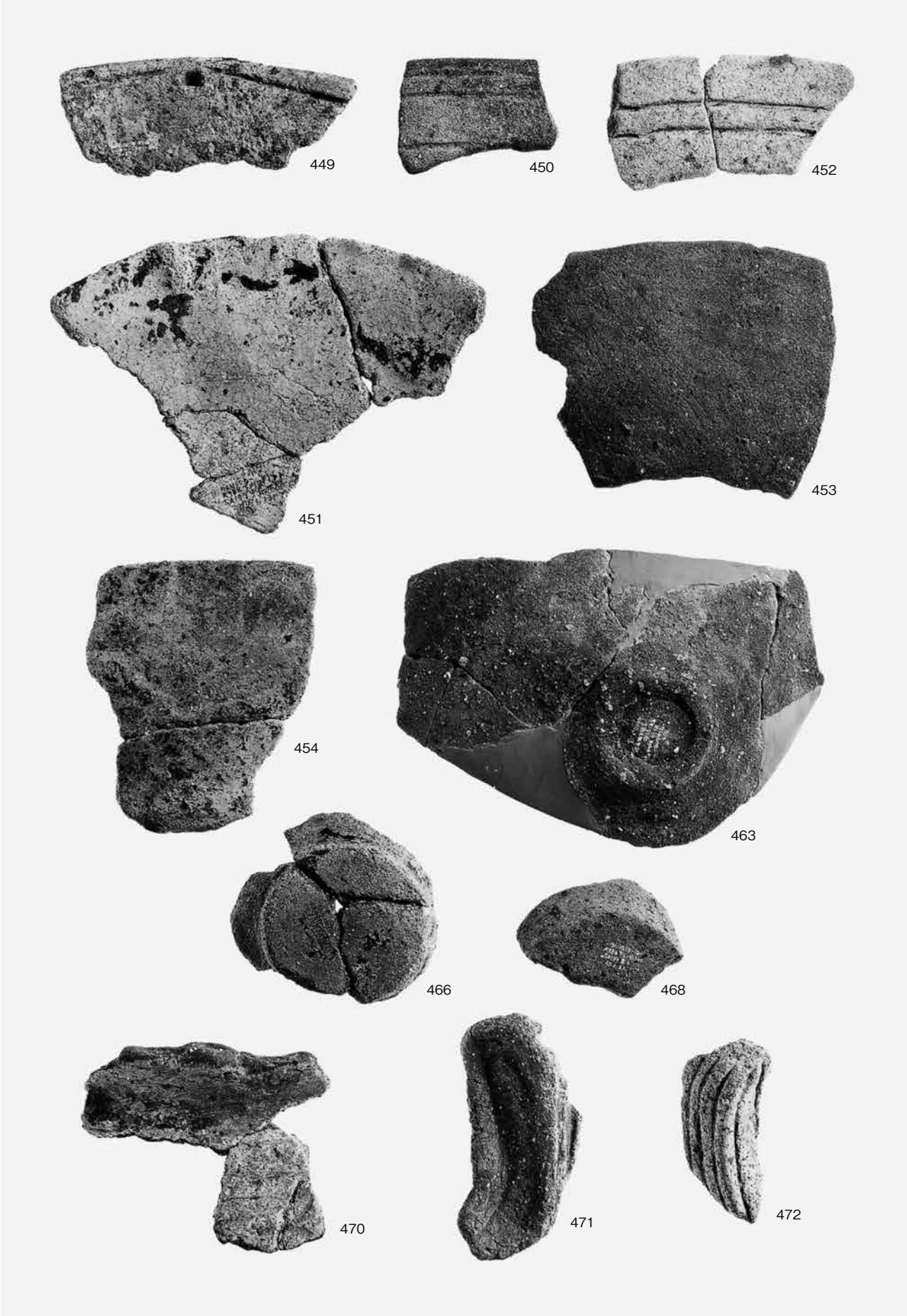
縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器（６）



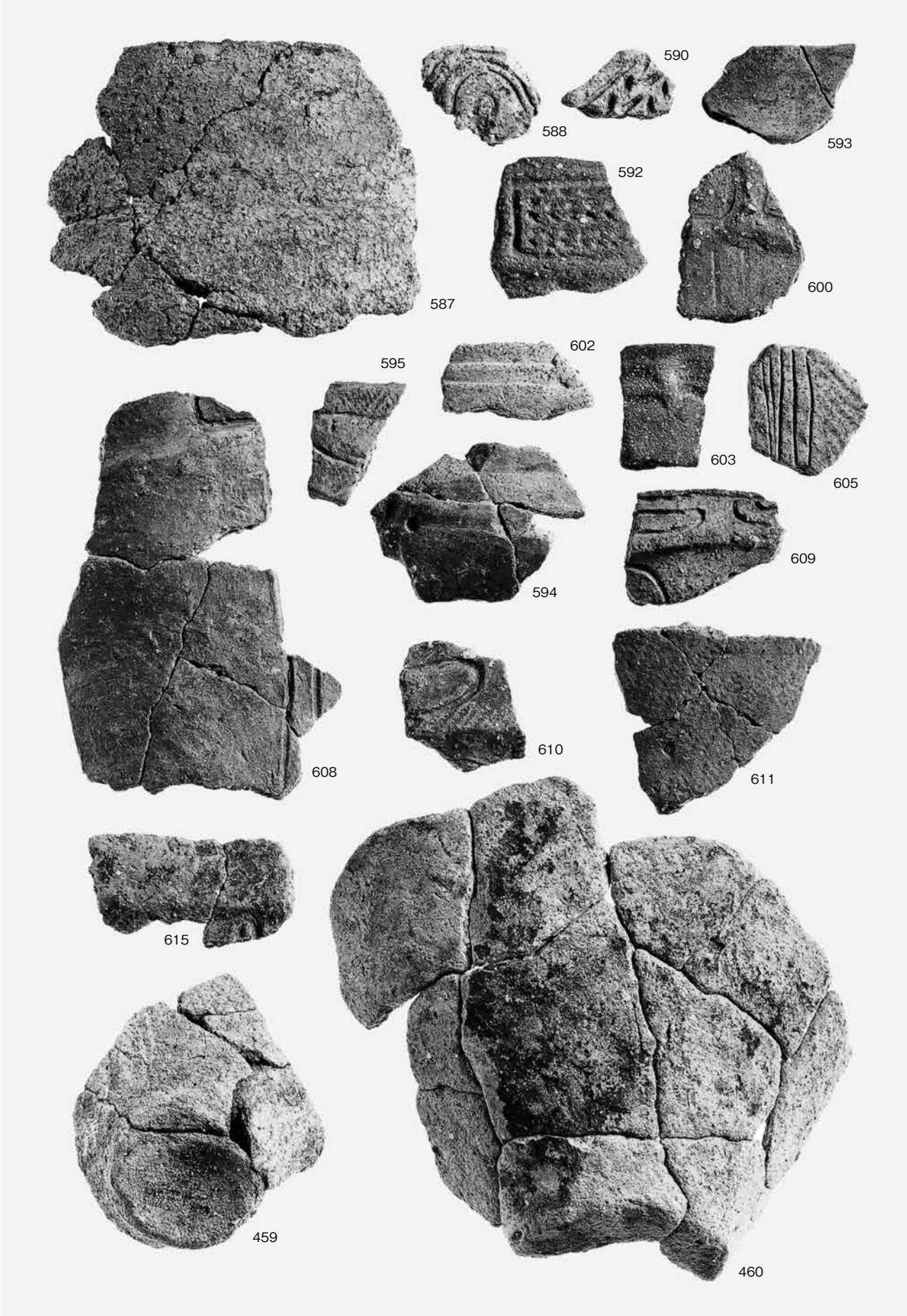
縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器（７）



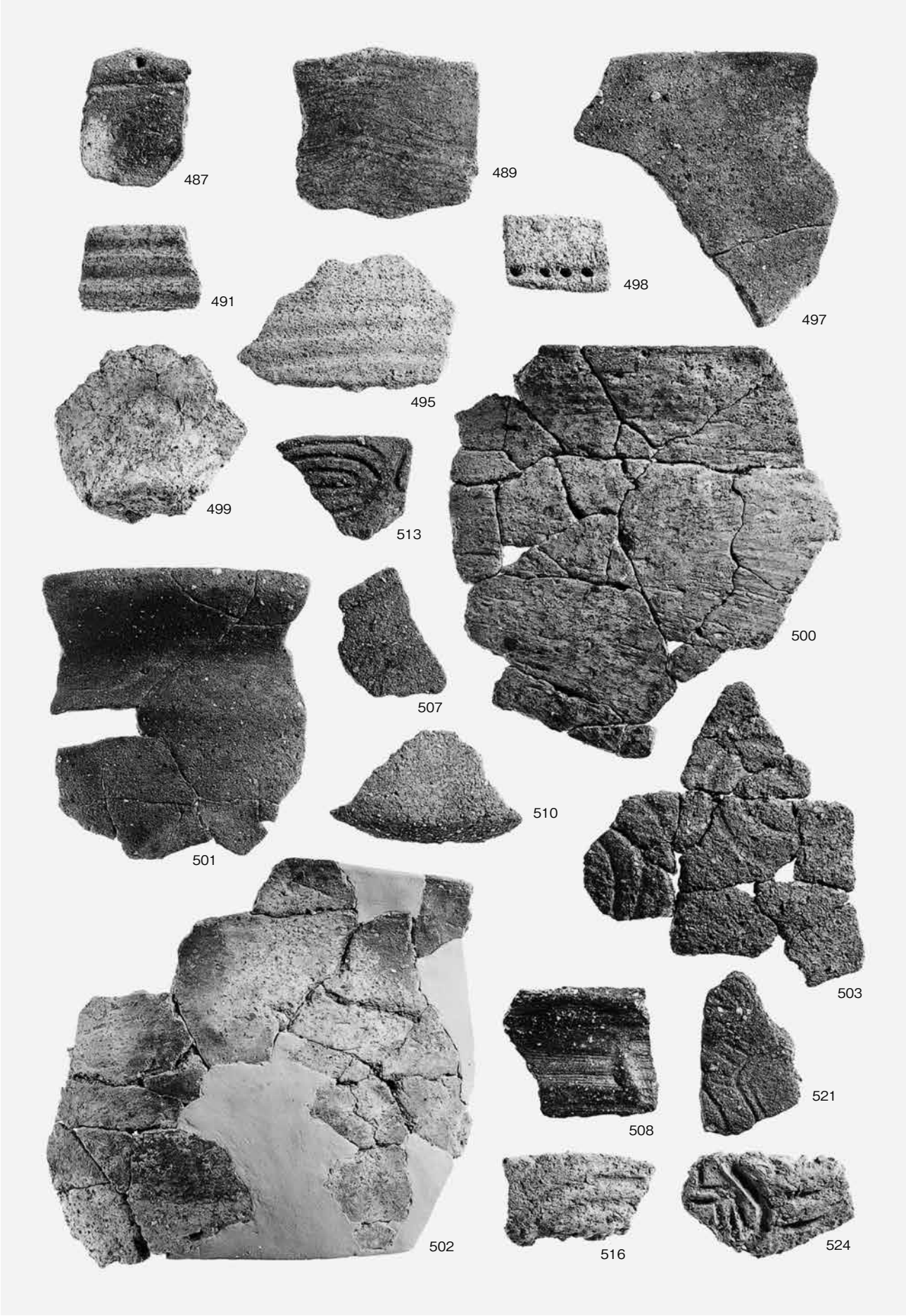
縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器（８）



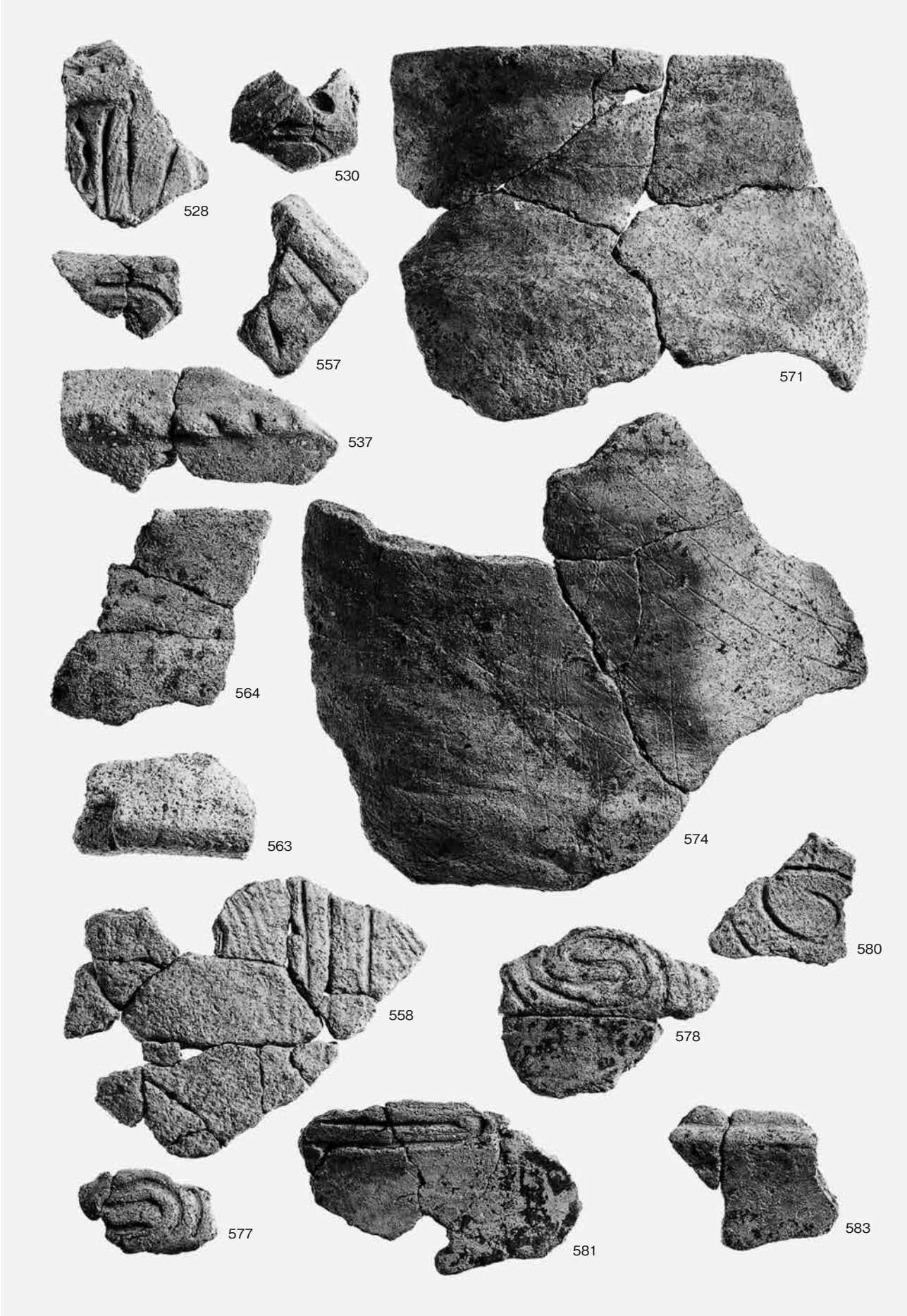
縄文時代の崖ＳＸ199出土縄文土器（９）



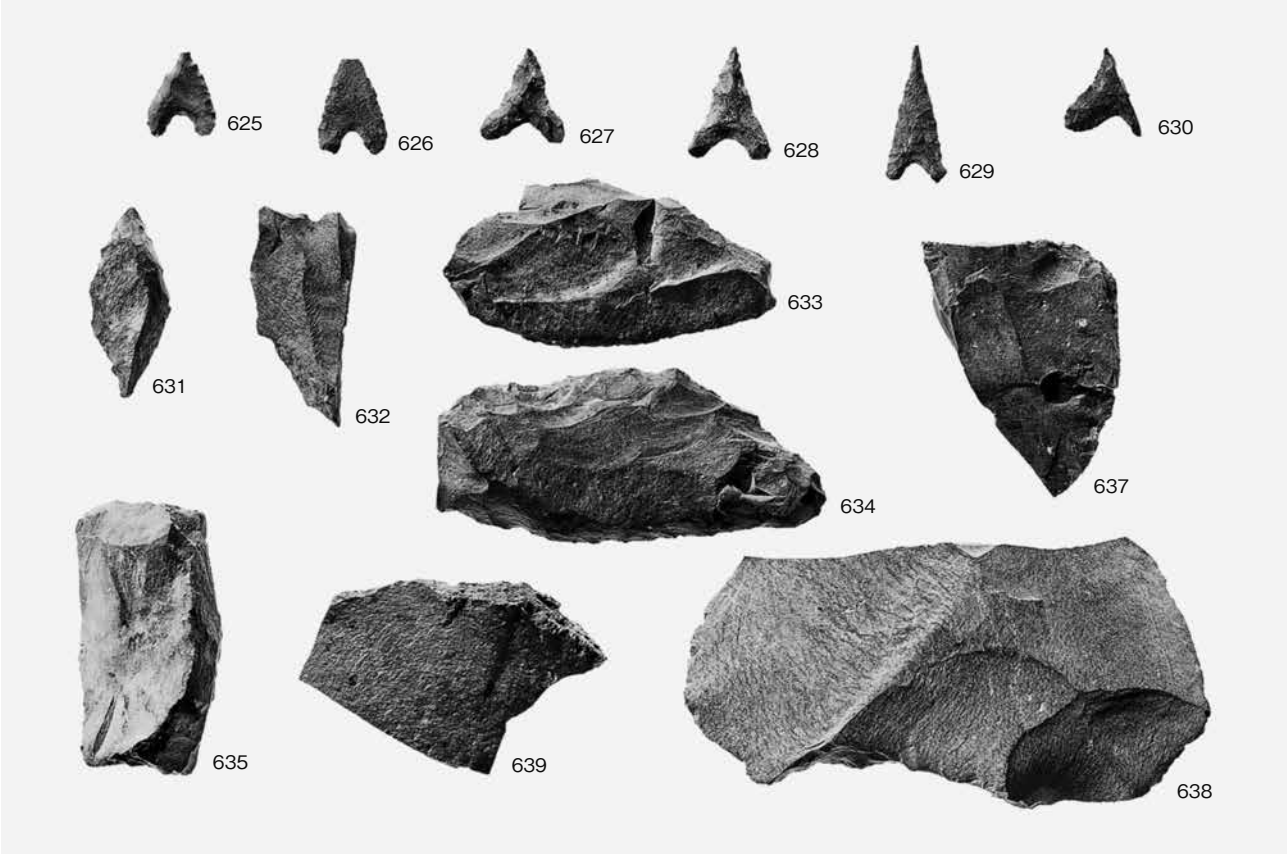
縄文時代の崖ＳＸ199及び柱跡出土縄文土器


487
489
497
491
498
495
499
513
500
507
501
510
503
521
508
502
516
524

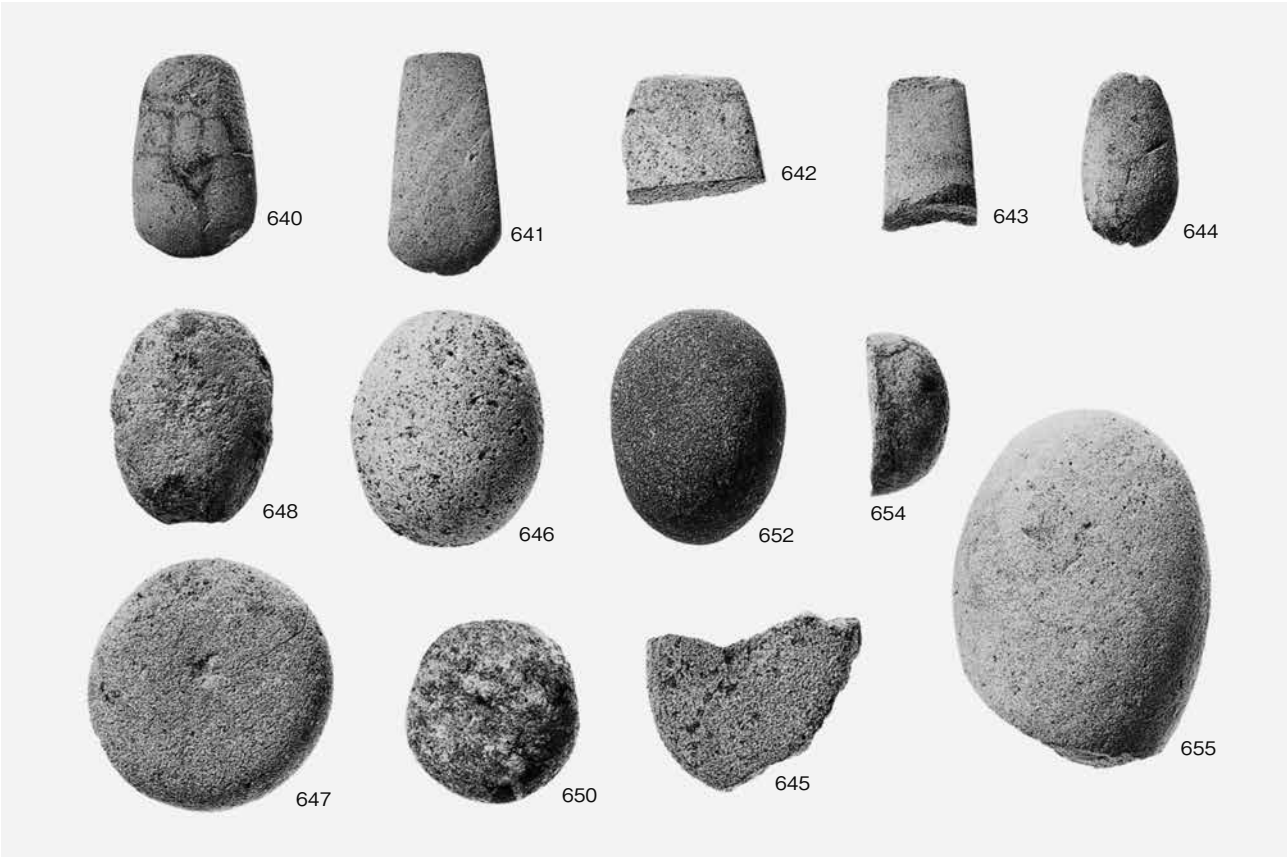
土坑出土縄文土器（1）



土坑出土縄文土器（２）



(1)打製石器



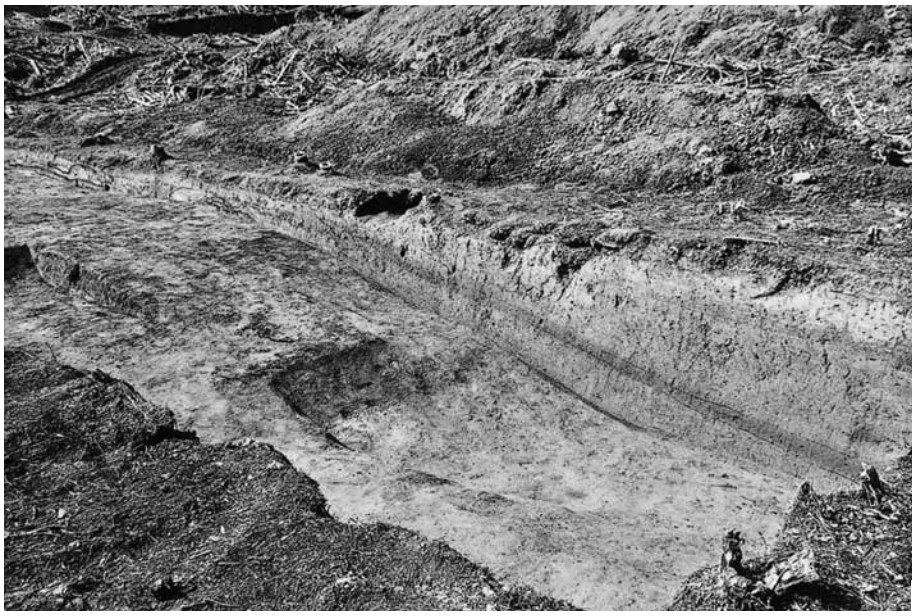
(2)石斧及び礫石器

(1)美濃山廃寺下層遺跡第８次調査地全景(上が北)

(2)美濃山廃寺下層遺跡第８次調査地全景(上が東)

(1)第１トレンチ検出状況(南から)

(2)第２トレンチ西壁

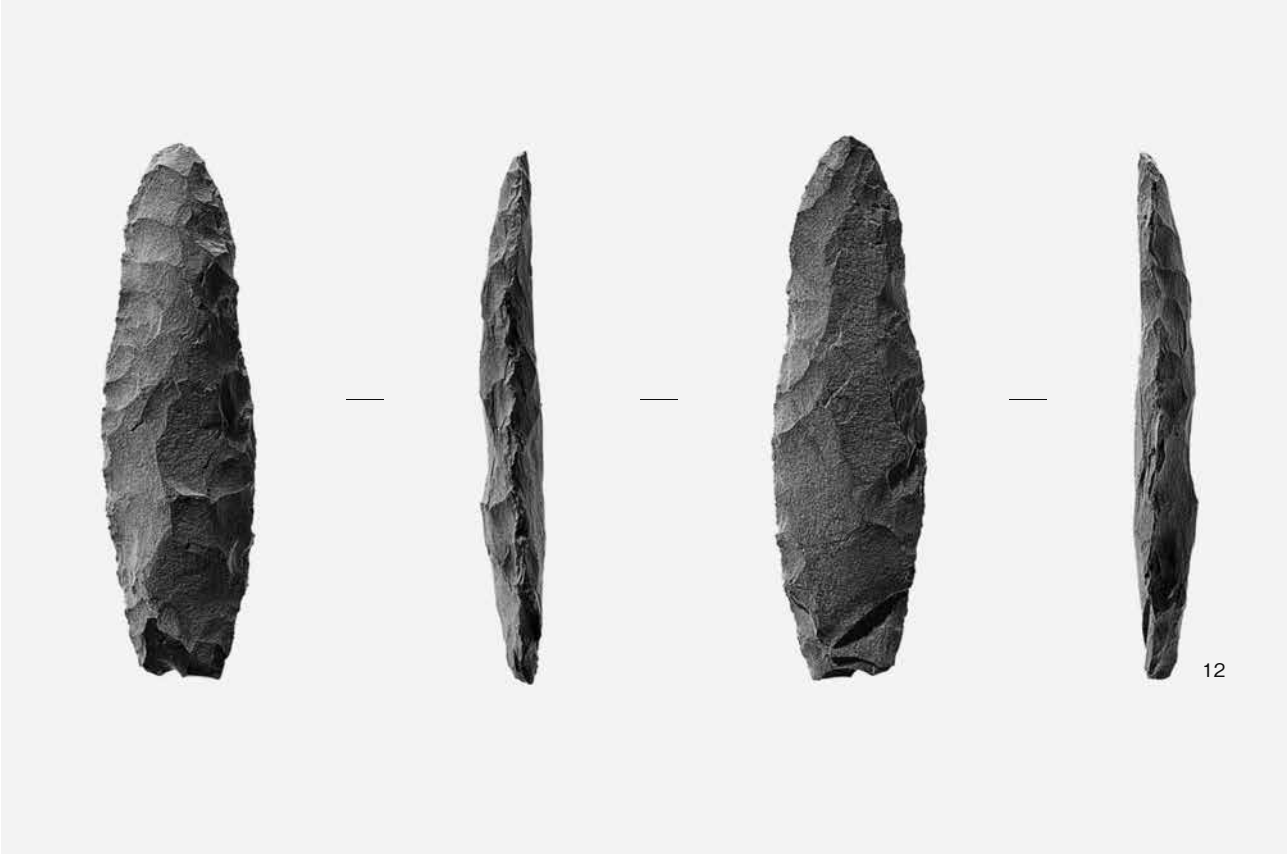


(3)第３トレンチ西壁

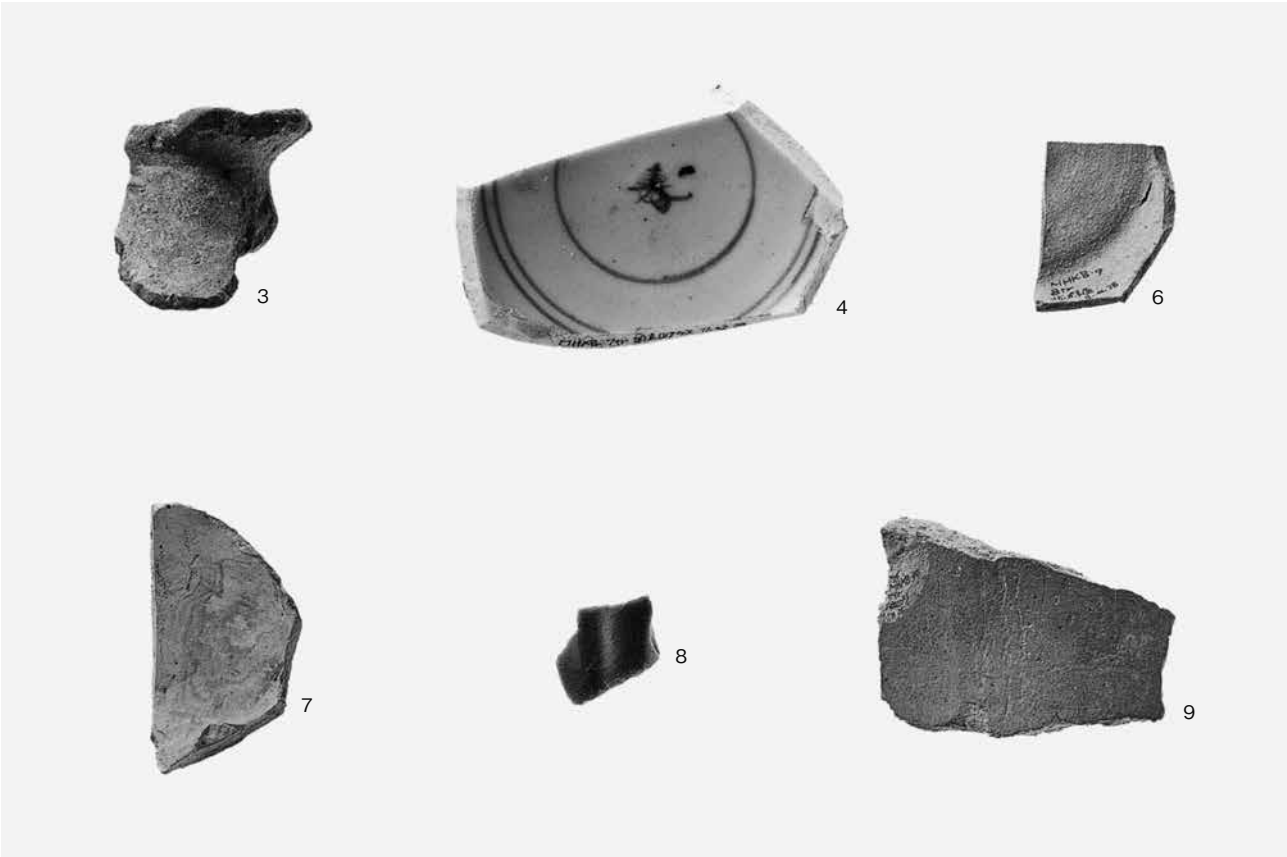
(1)第７トレンチ第Ⅱ層
　染付碗出土状況

(2)第７トレンチ落ち込み掘削状況
　（南から）

(3)第８トレンチ溝状遺構検出状況
　（西から）



(1)出土遺物１



(2)出土遺物２

報告書抄録

ふりがな	
書名	
副書名	
巻次	
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第148冊
編著者名	
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002　京都府向日市寺戸町南垣内40番の3　TEL075(933)3877
発行年月日	西暦2012年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°　′　″	°　′　″		㎡	
だいにそとかんじょうどうろかんけいいせきながおかきょうあとうきょうだいきゅうひゃくはちじゅうよん・きゅうひゃくはちじゅうはちじ・いがじいせき 京都第二環状道路関係遺跡　長岡京跡右京第984・988次・伊賀寺遺跡	ながおかきょうししもかいいんじいがじ 長岡京市下海印寺伊賀寺	26 206	37・38	34° 54′ 57″	135° 41′ 12″	20090090 ～ 20091013、20091022 ～ 20100122	870	道路建設
みのやまはいじかそういせきだいはちじ 美濃山廃寺下層遺跡第８次	やわたしみのやまふるでら 八幡市美濃山古寺	26 210	44	34° 50′ 44″	135° 43′ 15″	20011206 ～ 20110304	1，500	道路建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
京都第二環状道路関係遺跡 長岡京跡右京第984・988次・伊賀寺遺跡	集落跡 集落跡 集落跡	縄文 古墳 長岡京期	溝・竪穴式住居跡・土坑・柱穴・土壙・崖 溝・落ち込み状遺構 溝・掘立柱建物跡	縄文土器・石器・玉類 土師器・須恵器 土師器・須恵器	玉作り関係遺物
美濃山廃寺下層遺跡第８次	集落跡	縄文 弥生 奈良・平安 中・近世		石器 弥生土器・石器 土師器・須恵器・瓦 土師器・陶磁器	尖頭器

所収遺跡名	要　　約
京都第二環状道路関係遺跡 長岡京跡右京第984・988次・ 伊賀寺遺跡	今回の調査では長岡京期と古墳時代・縄文時代の遺構を検出した。長岡京期の当地は右京八条三坊十六町にあたり、東西方向の溝･柱穴を検出した。この溝は東で７度北に振り、長岡京の条坊計画と方位を異にする。周辺では同時期の掘立柱建物跡や溝などが確認されており、長岡京の条坊関連遺構もしくは、宅地を画する溝と想定できる。古墳時代の遺構としては、後期の溝と落ち込み状遺構を検出した。周辺の調査では同時期の竪穴式住居跡が多く検出されているが、今回の調査では集落に直接関連する遺構は検出できなかった。縄文時代では、中期の北白川Ｃ式、後期の中津～四ツ池式、北白川上層式３期、元住吉～宮滝式、晩期の滋賀里Ⅲ式の竪穴式住居跡や土坑、ピットを検出した。小泉川流域では近年多くの縄文集落が調査されており、集落の移動に関しての資料が蓄積されつつある。今回の調査では、特に後期前葉の崖ＳＸ199から北白川上層式３期の土器が大量に出土した。今までの調査では同時期の竪穴式住居跡は確認されておらず、周辺に竪穴式住居跡が分布しているものと判断され、伊賀寺縄文集落内の時期別の変遷を考える上で重要な知見を得た。
美濃山廃寺下層遺跡第８次	明確な遺構は検出できなかったが、縄文時代のポイントや弥生時代の土器及び石器の出土により美濃山廃寺下層遺跡の一端を明らかにできた。奈良～平安時代の遺物は、美濃山廃寺との関係でとらえ得る遺物である。

京都府遺跡調査報告集 第148冊

平成24年３月31日

発行　公益財団法人京都府埋蔵文化財
調査研究センター
〒617-0002　向日市寺戸町南垣内40番の３
Tel(075)933-3877(代)　Fax(075)922-1189
http://www.kyoto-maibun.jp/

印刷　三星商事印刷株式会社
〒604-0093　京都市中京区新町通竹屋町下ル
Tel(075)256-0961(代)　Fax(075)231-7141